

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第79集

いつ しき あお かい  
一色青海遺跡  
(考古編)

1998

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター





96Ca 区  
南側部分  
北より



96D 区  
NR06  
円窓付土器  
出土状況  
西より



台付き壺と炉石と炉縁石の関係



焼けた土器（焼失壁穴住居出土のもの）



穿孔された土器



弥生土器焼成復元

## 序

一色青海遺跡の所在する愛知県稲沢市と中島郡平和町は、濃尾平野のほぼ中央に位置する町であります。現在の当遺跡周辺は植木生産の盛んな地域であります、歴史的には稻作と河川を利用した生業とが密接に関わって育まれてきた地域といえます。

この一色青海遺跡は、日光川上流流域下水道浄化センター建設及び県道馬飼井堀線建設に伴う事前調査として、愛知県土木部より愛知県教育委員会を通じて委託を受け、調査を行って参りました。これまで当センターにおいて調査報告されている一色長畠遺跡と一連の遺跡と考えられるもので、今回の調査により、弥生時代の集落としてほぼ全体像が想定できるようになりました。本遺跡は新たな弥生時代像を考えていく上で欠かすことができない遺跡になるものと思われます。本書の調査成果が文化資料として広く活用され、また埋蔵文化財に関する一層の御理解を願う次第です。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたり、地元住民の方々をはじめ、関係者及び関係諸機関の御理解と御協力を頂きましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

平成10年8月

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター  
理事長 塩見 修哉

# 例　　言

1.本書は愛知県稲沢市儀長町および中島郡平和町須ヶ谷に所在する一色青海遺跡（「愛知県遺跡地図」（1）尾張地区による遺跡番号は09168、稲沢市遺跡番号は4-10）の発掘調査報告書である。

2.発掘調査は愛知県土木部が建設予定している日光川上流流域下水道浄化センター建設及び県道馬飼井堀線建設に伴う事前調査として愛知県土木部から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財團法人愛知県埋蔵文化財センターが実施した。

3.調査期間は平成5年5月～同9年3月で、整理期間は平成9年4月～同10年3月である。

4.発掘調査は高橋信明（本センター課長補佐・現愛知県教育委員会文化財課教育主事）、福岡晃彦（本センター課長補佐）、前田雅彦（本センター主査・現小牧市立北里小学校教頭）、水谷寛明（本センター主査・現一色町立佐久島小学校教諭）、池本正明（本センター調査研究員）、鈴木正貴（本センター調査研究員）、加藤博紀（本センター調査研究員）、藤山誠一（本センター調査研究員）、早野浩二（本センター調査研究員）が担当した。

また調査に参加頂いた方々は、以下の通りである。

浅野文善、飯野香代子、石黒美佐子、市川香津子、市橋久美子、伊藤とよ、稻垣美登里、井浪栄子、今井春義、今田利彦、岩田明美、岩田美季子、上田茂寿、上田利子、植村輝美、内藤洋子、内野知代子、奥田美由岐、小野清子、各務則子、垣見和昭、片岡健二、片野百合子、加藤悟子、鎌田智子、黒谷日佐子、小崎暢子、後藤榮次、後藤喜久江、五藤むつ子、小播すみ江、近藤洋子、酒井敏子、桜井乃布香、柴山香代子、柴山まさえ、新海澄子、杉田千代子、杉原利明、関田美千代、高野幸雄、竹川美知子、櫛橋豊子、田深多美子、堤陽子、東松道昭、徳永悟士、中村幸一、長屋猪子、西村澄子、野庭豊子、野々垣鉢美、橋口為義、羽田野明美、服部富子、服部美枝子、服部礼二、早川久子、林恭江、久田友子、日比芳子、平野加奈子、平野比芦子、平林八寿子、藤井美代子、松田典子、三輪美恵子、百瀬詔子、森清和、森本千歳、山崎久美子、山田由起夫、山田芳美、山之内なつ子、山本真紀子、雪松町子、渡辺康子

（五十音順・敬称略）

学生

浅野知之（東海大学）、岩間弘樹（三重大学）、内藤菜穂子（愛知学院大学）、梅林秀行（早稲田大学）、遠藤啓輔（奈良大学）、加賀智之（三重大学）、加藤優子（名古屋女子大学）、河合征治（三重大学）、櫻木耕史（名古屋工業大学）、新海洋規（名古屋経済大学）、田口雄一（花園大学）、富田智恵（豊田短期大学）、富永晶子（佛教大学）、中島新治（花園大学）、中村晋也（三重大学）、野村信生（日本大学）、堀田真理子（愛知淑徳大学）、山内富正（佛教大学）、吉兼千絵（朋大）、吉田由香（教賀女子短期大学）

（五十音順・敬称略）

5.調査・報告書作成に際して次の機関から御協力を得た。

愛知県教育委員会文化課、愛知県埋蔵文化財調査センター、愛知県土木部、稲沢市教育委員会、平和町教育委員会、守山市教育委員会、三重県埋蔵文化財センター、松阪市文化財センター

6.調査・報告書作成にあたっては次の方々の御教示、御協力を頂いた。記して感謝の意としたい。

愛甲昇寛、伊藤秋男、井上直夫、上村安生、大參義一、小林正史、鈴木元、高田康成、中村一郎、日榮智子、菱田昌美、日野幸治、深澤芳樹、福田昭、福田哲也、北條獻示、森泰通、山崎秀二

（五十音順・敬称略）

7.平成9年6月14日（土）・15日（日）には、財團法人愛知県埋蔵文化財センターにおいて一色青海遺跡検討会を行った。25名の参加者があり、貴重な御教示を賜った。記して感謝の意としたい。

赤澤徳明、浅井厚視、天野博之、石川日出志、石黒立人、伊藤淳史、小林正史、杉浦裕幸、鈴木敏則、鈴木とよ江、鈴木正貴、高橋幸仁、田口雄一、田中昌樹、永井宏幸、成瀬憲作、賛元洋、馬場伸一郎、早瀬賢、早野浩二、原田幹、深澤芳樹、宮越健司、森泰通、山内富正

（五十音順・敬称略）

8.報告書作成に関わる整理作業には藤山誠一があたり、八木佳素実（調査研究補助員）、永井智子（調査研究補助員）、玉作美智子（以下整理補助員）、中村たかみ、本多恵子、山本律子、山田有美子、田中和子、野川佳江、加藤豊子、平野みどり、柴田和恵、稻石純子（富山大学大学院）、全並美保子の協力を得た。

- 9.写真図版の撮影は遺構は各調査員が、遺物は深川進・小島英樹が主に行い、一部の弥生土器・石器を藤山が撮影した。
- 10.本書の編集は、考古編を藤山誠一、自然科学・考察編を鬼頭剛・堀本真美子が担当した。本書の執筆は目次と各章の文頭に記載している。
- 11.本書で使用している遺構略記号は以下の通りである。  
N R…旧河道、S A…槽、S E…井戸、S B…堅穴住居・掘立柱建物、  
S K…土坑、S D…溝、S U…土器集積、S X…方形土坑、S Z…方形周溝墓
- 12.本書で使用する遺構埋土等の色調については1989年度版『新版標準土色帳』小山正忠・竹原秀雄編著を参考に記述した。
- 13.調査区の座標は、建設省告示の国土座標第Ⅵ系に準拠する。
- 14.調査の実測図、写真等の記録は財團法人愛知県埋蔵文化財センターで保管している。  
〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方 802番24
- 15.調査による出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。  
〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方 802番24

## 目 次

1. 前言	藤山誠一	…1
2. 遺跡の概観	加藤博紀	…5
3. 調査の概要と基準層位 写真図版(遺構・遺物)	藤山誠一	…10 …21
4. 弥生時代の遺構	藤山誠一	…59
5. 弥生土器	藤山誠一	…110
6. 土製品類・古代の土器	八木佳素実	…200
7. 石製品	石黒立人・原田幹	…203
8. 木製品	樋上昇	…223
9. 中世以降の遺構	池本正明	…233
10. 中世以降の陶器類	池本正明	…240
11. 金属製品	鈴木正貴	…243
12. 弥生時代の遺構分布と変遷	藤山誠一	…245
遺構図版 1 ~ 11		…251

## 1. 前 言

藤山誠一

### (1) 位置(第1図)

一色青海遺跡は愛知県稲沢市儀長町及び中島郡平和町須ヶ谷に位置する遺跡で、名鉄尾西線上丸駅より東約2.1km、名鉄名古屋本線国府宮駅より南西約4.7kmの位置にある。西約900mには国道155号が北北東から南南西にはいる。

### (2) 調査に至る経緯と経過

(第2図・第1表)

愛知県土木部下水道課において計画された日光川上流域下水道浄化センター建設、愛知県土木部道路建設課で計画された県道馬飼井堀線建設に際し、その予定用地内に弥生時代の遺物散布地である「一色青海遺跡」(遺跡番号県09168、稲沢市4-10)が所在しており、事前に発掘調査し、記録保存する必要性が認められた。そのため平成4年度に愛知県埋蔵文化財調査センターでは調査計画を策定するための遺跡の試掘調査を行い、範囲の確認をした。この際試掘トレンチから多くの弥生土器・石器が確認された。このため、新下水道浄化センター建設、新県道建設に先立って発掘調査が計画され、愛知県土木部より愛知県教育委員会をとおして委託を受けた財團法人愛知県埋蔵文化財センターが平成5年5月から平成9年3月までの期間で、一色青海遺跡の発掘調査を実施した。調査にあたっては、面積も広く、事業地となる調査対象区域が分かれているため、第1表の通り調査を実施した。調査区は事業対象地内にある用水路・車両の侵入路・廃土置き場などの関係もあり、



第1図 遺跡位置図

第2図のようになった。調査面積は23,500 m<sup>2</sup>である。発掘調査終了後、平成9年度に出土遺物の整理作業、及び報告書作成を行った。

### (3) 調査方法

現地表面から表土のみをバッカ・ホウにより除去したのち、建設省告示によって定められた平面直角座標第1号系に準拠した5mグリッドを設定し、手掘りで包含層を掘削して遺構を検出する方法をとった。調査の進行上、基本的に遺構測量はヘリコプターによる航空写真測量を実施し、調査区全面の1/50基本平面図を作成したほか、重要部分については補助測量図を手測りにより実施した。

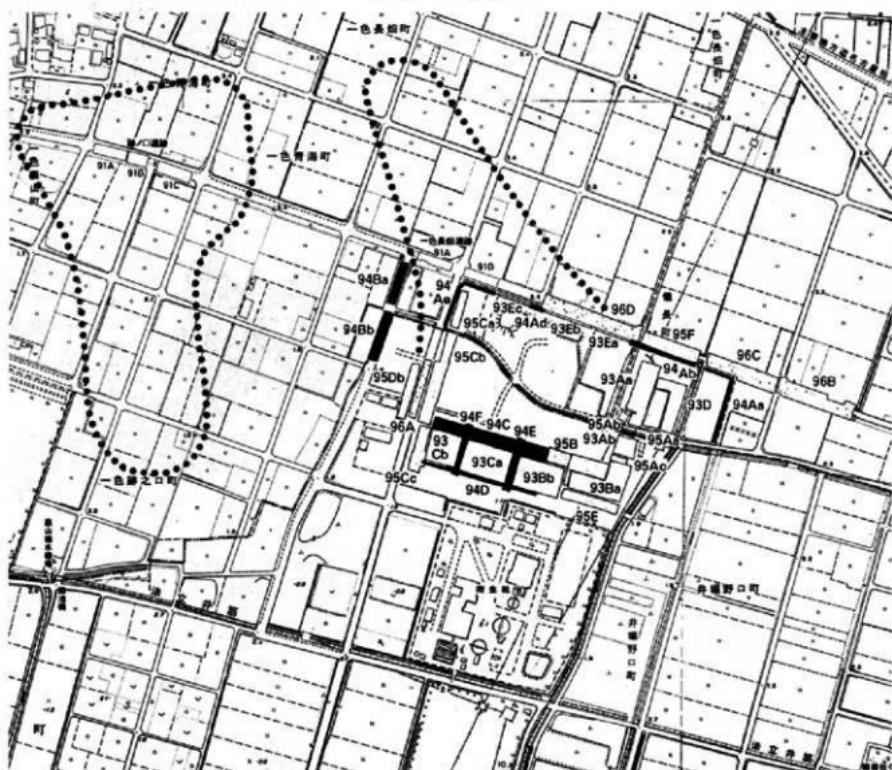
## 発掘調査

年度	実施地名	計画名	調査区	面積(ha)	調査割合(%)	月	監査者名
平成5年度	愛知県土木部下水道課	日光川工事流域下水道浄化センター	A	2,053.5	95.15	5月	西村
			B	3,200.0	99.00	5月	西村
			C	2,530.9	93.92	5月	西村
			D	2,050.9	91.94	5月	西村
			E	270.9	31.51	5月	西村
			F	736.9	44.95	5月	西村
			G	1,080.9	44.95	5月	西村
			H	1,480.9	46.98	5月	西村
			I	214.9	6.48	5月	西村
			J	352.9	12.12	5月	西村
			K	450.9	16.12	5月	西村
			L	750.9	25.93	5月	西村
			M	930.9	34.93	5月	西村
			N	2,120.9	56.97	5月	西村
			O	600.9	9.10	5月	西村
			P	600.96	9.62	5月	西村
			Q	800.96	9.53	5月	西村
			R	600.96	9.65	5月	西村
			S	1,000.96	12.97	5月	西村
			T	1,000.97	12.97	5月	西村
			U	1,000.97	12.97	5月	西村

整理·報告

調査年度	調査実施者	市	調査区/面積(ha)	調査期間(年月)	調査担当者
平成03年	東京都立水道局	多摩川上流域下木浦浄化センター	上島 18,300.974 - 98.3	3月1日～3月15日	○
平成04年	東京都立水道局	多摩川上流域下木浦浄化センター	上島 18,300.974 - 98.3	3月1日～3月15日	○
平成05年	東京都立水道局	多摩川上流域下木浦浄化センター	上島 18,300.974 - 98.3	3月1日～3月15日	○
平成06年	東京都立水道局	多摩川上流域下木浦浄化センター	上島 18,300.974 - 98.3	3月1日～3月15日	○

第1表 調査の工程



第2圖 檢查區位置圖 (1:5,000)



94Cb 区 遺構掘削



96B 区 旧河道跡の掘削



96D 区 旧河道（NR06）の掘削



95Ac 区 方形周溝基跡の掘削



94Ae 区 遺構掘削



96D 区 遺物の検出



95Ba 区 遺構の実測



96D 区 遺構土層断面の実測



熱残留地磁気測定の試料採取



竪穴住居埋土分析のための試料採取



93Aa区での現地説明会（93年12月）



遺物（弥生土器）の復元



遺物（弥生土器）の実測



遺物（弥生土器）の登録



遺物（木製品）の収載



遺物の写真撮影

## 2. 遺跡の概観

加藤博紀

### (1) 地理的環境

濃尾平野は木曾川により堆積された沖積平野であり、上流域より扇状地地帯、氾濫原地帯、三角州地帯という地形に分けられる。木曾川南側になる愛知県尾張地域では、かつての木曾川支流である数多くの小河川が流下し自然堤防と後背湿地を形成している。一色青海遺跡のある稲沢市は濃尾平野の氾濫原地帯のほぼ中央部に位置し、西を日光川、東を五条川に囲まれた中にあり、市の中心部を三宅川が蛇行しながら南流する。一色青海遺跡は日光川と三宅川の自然堤防に挟まれた後背湿地の中に位置する。この稲沢市周辺の自然堤防地帯はたび重なる河川の氾濫で肥沃な大地となり、全国でも有数の植木の産地として名をはせている。

### (2) 歴史的環境

#### 1. 弥生・古墳時代（第1図）

弥生時代の遺跡は、稲沢市北西部から美和町・甚目寺町・清州町北部にかけて標高25mに沿うように帶状に広がっている。この帶状の広がりの中に朝日遺跡などの著名な弥生時代の遺跡が含まれている。この弥生時代の遺跡の広がりと繩文海進高潮期以降の海浜性浜堤の広がりが対応していることがわかる。

海浜性浜堤とは、河川による自然堤防の延長方向と直交ないし斜交しているもので、濃尾平野には数列存在する。河川はこの浜堤を乗りこえるとき自らを著しく屈曲・蛇行させ流下している。そのうち海側から数えて二列目の浜堤（第二浜堤

）は、西は中島郡祖父江町から稲沢市片原一色・矢合・奥田付近を通り、東は西春日井郡清州町週間・朝日・阿原付近へと北西→南東方向に延びている。この第二浜堤の東側に朝日遺跡は立地している。西方向に目を移すと、廻間遺跡、土田遺跡、堀之内花ノ木遺跡そして一色青海遺跡へとつながっていく。他にも未調査ではあるが弥生時代の遺跡が第二浜堤上に広がっている。この遺跡の住人たちは、河川の氾濫から身を守っていくためにこの海浜性浜堤に好んで居住したことが想像される。

古墳時代に入ると、遺跡が稲沢市及びその周辺一帯に拡大していく。しかし稲沢市井之口町一帯および稲沢市目比町・南北麻績町・野崎町に囲まれた地域には全く存在しない。近世において新田開発されるまで両地域は湿地帯であり、当時も居住に適しない地域であったことがわかる。

#### 2. 中世（第2図）

本遺跡周辺地域の中世城館跡の中で、片原一色城・三宅城・矢合城・儀長城・井堀城は橋本伊賀守及びその一族が城主であったと伝えられる。橋本氏は定着した15世紀初めから加藤清正の招きで肥後に赴く16世紀末までこの地域を支配した。この橋本氏の5城について考えてみる。

片原一色城は、「片原一色村誌」によると応永年間この地域に定着した橋本宣都寺以降8代にわたって橋本氏に相伝された居城であるとしている。15世紀初めから橋本氏の本城として利用されたことがわかる。またその位置は光堂川を望むところ



第1図 周辺の弥生・古墳時代の遺跡と地形 (1:100,000)

アミカケと●は弥生時代、アミカケなしと○は古墳時代

1. 朝日遺跡 2. 五間遺跡 3. 土田遺跡 4. 堀之内花ノ木遺跡 5. 一色青海遺跡



第2図 周辺の中世城館跡  
(1:50,000)

アミカケは一色青海道跡

- A. 片原一色城
- B. 矢合城
- C. 備長城
- D. 井堀城
- E. 三宅城

にあり、その光童川を利用すれば、日光川を経て津島などへ行くことができた。

三宅城は、下三宅野口義一所藏文書によると片原一色城主橋本伊賀守道一の嫡子伊兵衛尉道正の居城であるとしている。城館と推定されている地域の南に「船附」という字名があり、三宅川を利用した交流が盛んであったことをうかがわせる。三宅川を下れば、織田信秀が居城とした勝幡城、さらに津島などへ行くことができた。

矢合城・儀長城・井堀城に関しては詳しい資料がない。城主に関しても矢合城主が橋本大膳（橋本伊賀守道一の弟）であることがわかるのみである。なお1993～94年度に実施された儀長正楽寺遺跡の発掘調査でも儀長城に関する遺構は確認できていない。しかし3城とも三宅川流域にあることから三宅川水系を利用する意図があることは想像できる。

以上から橋本氏が関わった5城には居城または軍事拠点という目的の他に、日光川・三宅川水系の利用という目的があるものと考えられる。

### (3) 地誌

本遺跡の所在する平和町須ヶ谷の旧名須賀垂（すかたり）の「須賀」とは、砂所が転じたもので、砂所は「砂の集ひ寄たる形」をさすとしている。このことからこの地域に洪水を防ぐことができるような砂地の高まりがあったことがうかがえよう。これは隣村の片原一色村を「此むら砂地」であると紹介していることからも砂地の高まりの存在がわかる。「須賀」がはたしてどのような環境の土地につけられた地名であるかを愛知県尾張地域に拡大して考えたゆきたい。

第1表のように『尾張国地名考』の中に紹介されている旧村名は12件存在した。これをみると旧中島郡・海東郡が8件を占めていることが分かる。この地域は木曾川支流の氾濫原地帯である。

旧中島郡・海東郡以外の「須賀」を含む旧村を考えてみると、愛智郡高須賀村は庄内川を挟んで海東郡鎌須賀村・長須賀村の対岸に、春日井郡須ヶ口村は海東郡鎌須賀村の北方の庄内川と五条川の合流点に、葉栗郡須賀村は木曾川沿いというように河川と密接な関係をもつ地点に位置している。

次に旧中島郡・海東郡内の小字についても「須賀」がつくものを明治17～18年にかけて調査された地籍帳から抜出した。この結果が第2表及び第3図である。両郡内には36件あり、21の旧村で見ることができた。土地利用状況に関しては、旧中島郡内で畑の面積が一番広く利用されていた小字は32件中17件に及んだ。これは比較的周囲より高いことをさすものと推測される。分布状況は、中島郡全体に広がるのに対し、海東郡は庄内川と旧佐屋川沿いにしか見られない。立地条件は日光川・三宅川などの蛇行する河川沿いあるいは河川に挟まれた地域に多く見られ、それ以外の地域には全く見ることができない。

以上から基本的に「須賀」を含む地名は、尾張においては河川が緩やかに蛇行するような氾濫原地帯の自然堤防に多くみられるものであることがわかる。また旧知多郡横須賀や旧桑名郡天ヶ須賀などのように海に面した地域に見られるものもあり、これは海によって築かれた砂丘状地形すなわち海浜性浜堤に立地するものと考えられる。水の被害が多い氾濫原や海岸部において砂の高まりは居住地として絶好の場所であったことであろう。「須賀」を含む地名周辺に人が住んだ痕跡があることは容易く想像される。

第1表 『尾張国地名考』中における「須賀」を含む旧村名

旧村名	旧郡	同書に紹介された特記事項	備考
1 高須賀村	愛智	正字は洲所。「こ」は「か」に変化。	
2 須ヶ口村	春日井	正字は洲所口。	
3 須賀村	葉栗	正字は洲所。「こ」は「か」に変化。	現在は岐阜県羽島市。
4 梅須賀村	中島	壳須可（めすか）という。	
5 菊安賀村	中島	旧名須賀村。「菊屋」は後の冠字。	
6 須賀谷村	中島	旧名須賀垂。垂（たり）は谷が転じたもの。	
7 須賀村	中島	堀津須賀と呼ぶ。長良川東堤の中で砂山の地。	現在は岐阜県羽島市。
8 鎌須賀村	海東	川間須賀むらが転じた。萱津川と萬場川の間の砂所か。	
9 蜂須賀村	海東	蓮池を埋めたことによる蓮須賀が転じた。	
10 須賀村	海東	北一色村の北。	
11 長須賀村	※海東	長い砂所か。	
12 横須賀村	知多		

\*枝村および「○○新田」は除外した。

\*表記は『尾張国地名考』にしたがう。



第3図 旧中島郡・旧海東郡内の「須賀」を含む地名図

(1 : 20,000)

- 1 ~ 11 … 旧村名
- a ~ u … 旧小字名

第2表 旧中島郡・海東郡内の「須賀」を含む旧小字名（「須ヶ」含む）

	旧小字	旧郡	旧村名	現市町村	旧小字	旧郡	旧村名	現市町村
a 須ヶ口		中島	稲葉村	稲沢市	n 須賀乗り	中島	二俣村	中島郡祖父江町
b 高須賀		中島	島村	稲沢市	o 高須賀	中島	甲新田	中島郡祖父江町
子須賀					須賀北			
c 高須賀		中島	治郎丸村	稲沢市	p 須賀	中島	天池村	稲沢市
d 子須賀		中島	子生和村	稲沢市	q 力安賀道	中島	富田方村	一宮市
e 高須賀		中島	稲鳥村	稲沢市	r 須ヶ北			
f 須ヶ越		中島	大塚村	稲沢市	須ヶ西			
g 戸安賀道		中島	開明村	尾西市	須ヶ崎			
h 須ヶ先		中島	新聞村	中島郡平和町	須ヶ東			
i 須ヶ越		中島	梅須賀村	稲沢市	須ヶ山	中島	一宮村	一宮市
j 高須賀		中島	上祖父江	尾西市	須ヶ連			
k 須賀					高須賀西			
須賀東		中島	明地村	尾西市	高須賀北			
須賀前					高須賀			
l 下須賀		中島	西五城村	尾西市	s 西高須賀	海東	二ツ寺村	海部郡美和町
須賀前					東高須賀			
高須賀					t 須ヶ脇	海東	向島村	津島市
m 須賀脇		中島	野田村	中島郡祖父江町	須賀割	海東	西善太新田	海部郡佐屋町

\*地名表記及び順序は地籍帳にしたがう。

\*開明村・・・明治11年12月28日野附村と小原村合併

\*新聞村・・・明治11年12月28日九郷村と鶴尾村合併

\*明地村・・・明治11年12月28日阿古井村と吉藤村合併

<追記>『尾張国地名考』によると「何国にても須賀と一色とはかならず並びてある地名」で、「一色」の語源の一説に入沙處が転じたものとしており、実際に平和町須ヶ谷に隣接して稲沢市片原一色が存在する。しかし「一色」という地名は河川とは関係が薄い山間部にも多数あり、必ず一緒に登場するものでもなかった。語源の他説にあった「初めて居敷(みしき)を定め家屋を立てる」すなわち支村というような意味であると考えてここでは取り上げなかった。

#### 参考文献

- 森勇一 1992 「朝日遺跡およびその周辺地域の地質と古環境」「愛知県埋蔵文化財センター調査報 告書第31集 朝日遺跡II」
- 「新修稲沢市史 本文編」1990
- 「新修稲沢市史 資料編四 地誌上」1988
- 「新修稲沢市史 資料編五 地誌下」1988
- 「平和町誌」1982
- 「佐織町史 通史編」1988
- 「愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第68集 儀長正楽寺遺跡」1996
- 「張州史料 尾張国地名考 改定版」1986

### 3. 調査の概要と基準層位

藤山誠一

#### (1) 調査の概要（第1図）

遺構の時期としては大きく弥生時代中期後葉（四線文期・高藏期）と鎌倉時代～戦国時代にかけての2時期に分けられる。弥生時代中期後葉の主な遺構としては堅穴住居94棟、掘立柱建物6棟、櫛1基、方形周溝墓25基、井戸1基、溝32条、土坑多数、旧河道9条が検出され、居住域と墓域の関係と変遷を考えることが可能な集落遺跡といえる。鎌倉時代～戦国時代にかけての主な遺構は、方形土壙238基、土坑3基を検出しており、集落域から外れた中世の後背湿地の状況を考える上で、良好な遺構群と思われる。その他古代の遺構として古墳時代前期前半の土坑1基、中世以前の櫛1基を確認している。

また調査区により地形的なまとまりがあるのと同時にその地形を反映した遺構構成をもつ5つの調査区にわけることが可能である。

北調査区…93E a～93E c・94A a～94A d・95F・96B～96Dのちょうど県道馬飼井堀線の調査に伴う部分である。弥生時代中期後葉の北西から南東方向に検出される旧河道とその間の微高地に営まれる居住域が交互にみられるのが特徴的な調査区である。

東調査区…93A a区・93A b区・93B a区・93D区・95A a区～95A c区・95B a区・95B c区・95E区の西に高く東に低い南北にのびる微高地部分にあたる調査区で、弥生時代中期後葉において堅穴住居や土坑などからなる居住域から、方形周溝墓からなる墓域に変遷するのが特徴である。

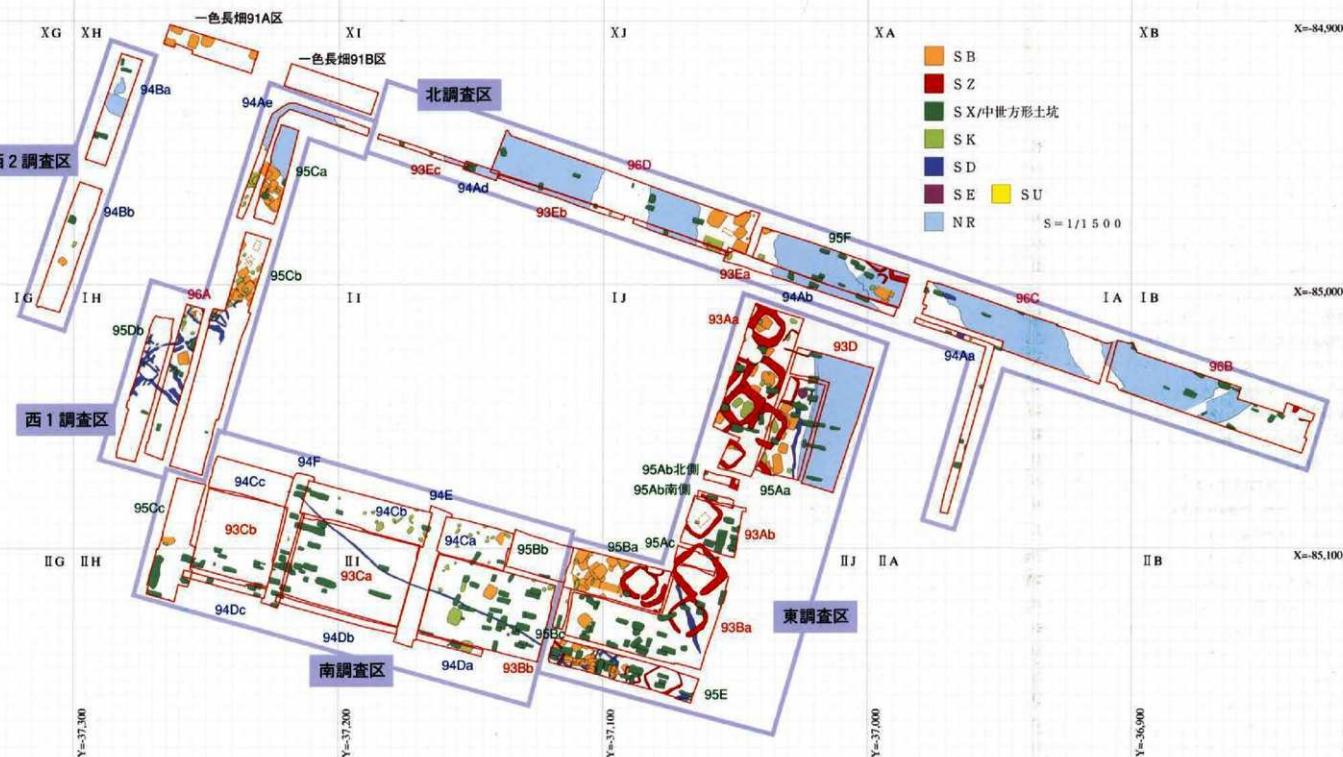
南調査区…93B b区・93C a区・93C b区・94C a区～94C c区・94D a区～94D c区・94E区・94F区・95C c区で、全体的に東西にのびる微高地の南側縁辺にあたる調査区である。東西に広く中世の方形土壙が検出された部分で、弥生時代中期後葉の遺構群はその北側の93B b区・94C a区・94C b区に集中している。

西1調査区…93A e区・95C a区・95C b区・95D b区・96A区で北にある旧河道とその南側自然堤防の微高地部分にあたる調査区で、微高地部分が弥生時代中期後葉の居住域となり、その南側の縁辺部では遺構が希薄となる。

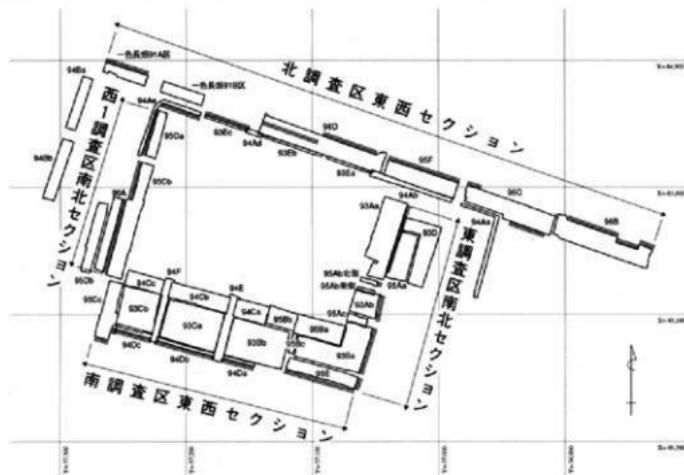
西2調査区…94B a区・94B b区で、西1調査区の微高地の西にのびた部分にあたる調査区で、弥生時代中期後葉の居住域が広がる。

遺物では弥生時代中期後葉の遺構に伴う多くの弥生土器、土製品、石製品、木製品、骨角製品と中世の陶磁器、錢貨、鉄資料、木製品が出土した。弥生時代の遺物としては、堅穴住居、方形周溝墓、土坑、旧河道などに伴うまとまった土器が出土し、遺構の変遷や土器の交流などを考える上で貴重な資料と思われる。石製品では居住域を中心に出土しており、石製品製作に伴う未成品や剥片、加工工具と考えられるものがみられる。居住域にともなう石材もできる限り採取した。木製品では旧河道に伴うものが中心で、未成品や多量の自然木とともに出土し、木製品の製作と周辺の環境を考える根拠を提供している。また土坑などに伴う資料として多くの種子資料、骨貝資料を採取しており、

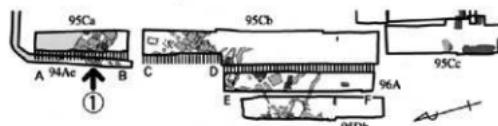
第1図 一色青海遺跡 遺構全体図



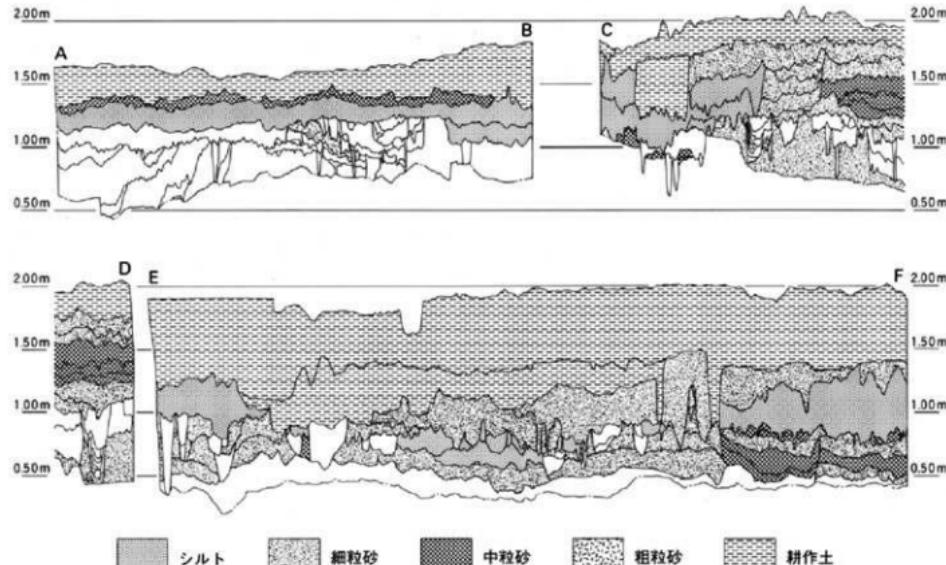
第1図 一色青海遺跡遺構全体図 (1:1,500)



第2図 土層堆積図の位置 (1:4,000)



## 西1 調査区土層図配置 S=1/2000



第3図 西1調査区土層堆積図(1:400、水平距離と標高の比は1:10)

当時の食料や生活環境を考える上で貴重な資料と思われる。中世の遺物としては量的に多くないが、方形土坑に伴う陶磁器などが出土し、造構の時期幅を考えることが可能である。

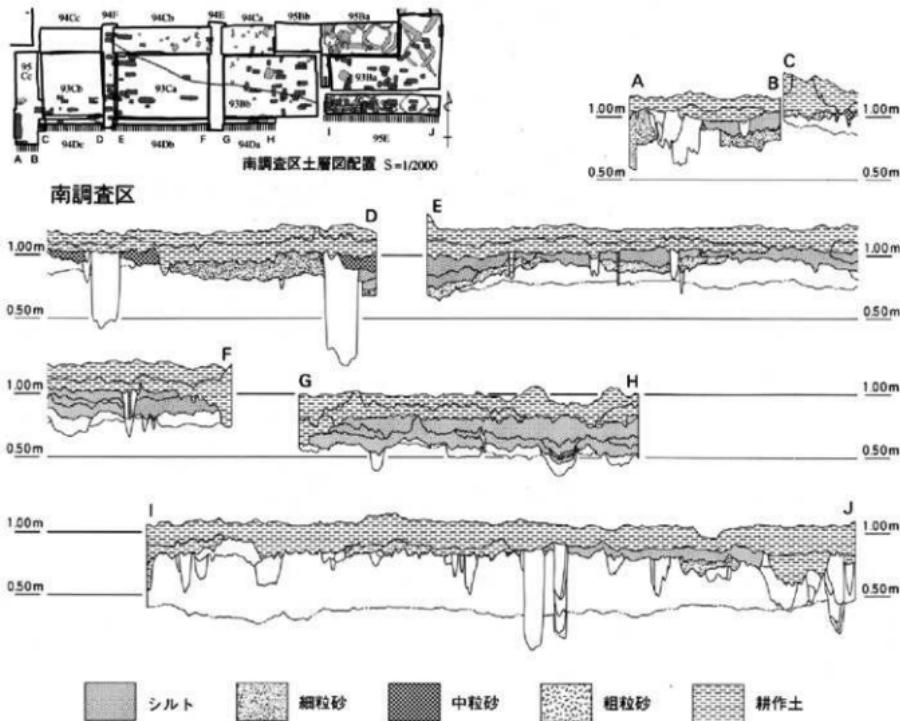
また直接造構には伴わないが、古代の須恵器、中世の鉄資料、近世の加工円盤などの資料も少量出土した。

## (2) 基準層位（第2図～第7図）

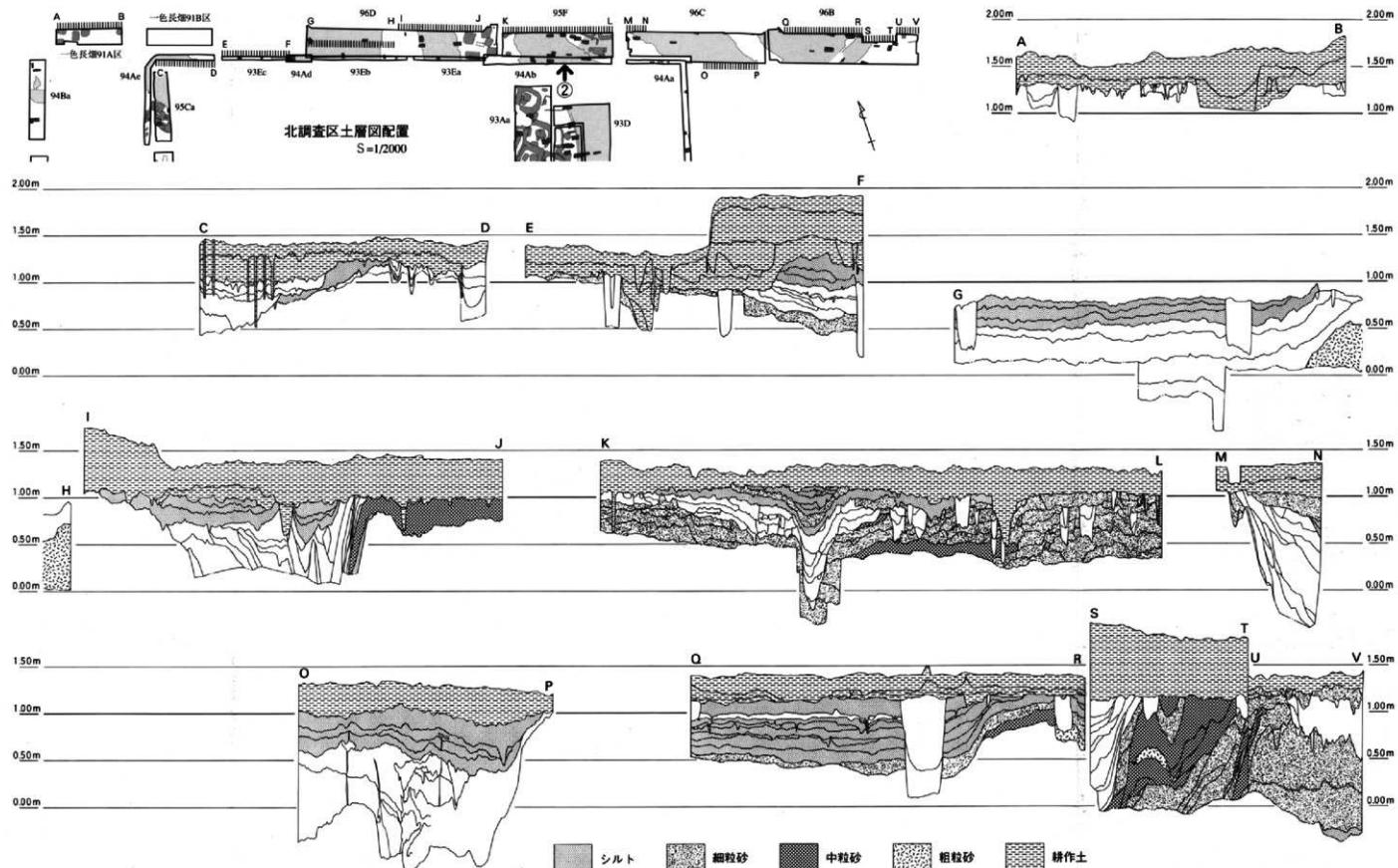
現在の一色青海遺跡は標高1.00m～1.70mの微高地上に位置しており、基本的には北から南に緩

やかに下る地形となっている。調査区は事業の対象地であると同時に現代の区画にも大きく制約されており、調査前が水田である部分と畑地であった部分などではかなり地形が改変されている。

本遺跡の調査は東西に広く行われているが、集落の中心部分の調査は行なわれておらず、遺跡の中心より外れた周辺を調査している。調査を行った部分は東西南北に1周するような配置になっており、不完全であるが東西南北の各セクションをつなげた（第2図）。北調査区・東調査区・南調査区・西I調査区について述べる。



第4図 南調査区土層堆積図(1:400、水平距離と標高の比は1:10)



第5図 北調査区土層堆積図 (1:400、水平距離と標高の比は1:10)

#### a. 北調査区（第5図、第7図土層②）

北調査区としているのは、西は当センターで調査報告されている一色長畠遺跡91 A区から東の96 B区の450mにわたる部分で、現在の植木畑を除くと標高は1.40m程度東西の比高差がほとんどない。

表土からの堆積では、0.3m～0.5m程の耕作土を除去すると中世の堆積と思われる腐植質な10YR3/1 黒褐色シルト（砂粒が肉眼で見えず、粘土粒が出来る）層が10～20cm堆積している部分がある。その腐植質なシルト層下には弥生時代にさかのぼる旧河道が顯れることが多く、中世に至るまでその部分が凹みとして残存していたことが推定できる。一方腐植質なシルト層のない部分は、後世の耕作などにより削平されているのか、もともと堆積しなかったのかわからないが、現在の耕作土直下の面が弥生時代の遺構面となり、弥生時代の微高地とはほぼ一致する。遺構面下の堆積は余り確認できていないが95 F区の部分（第5図K～L）では微高地の部分から旧河道のある部分へと層厚10cm程の細粒砂（砂粒が肉眼で見えず、触るとさらさらしている）層がやや傾斜をもって数層堆積しており、その間に比較的粒度の粗い中粒砂（砂粒は肉眼で見えないが、触るとややざらつく）層が入っている。旧河道はその堆積の凹みを流れおり、北調査区は旧河道の流れる谷とその間に挟まれた微高地が交互に残る環境が推定され、弥生時代以後の堆積は微高地を削り、谷を埋めていく過程と言える。

#### b. 東調査区（第6図）

東調査区は遺跡の東側にある93 A a区・93 D区・95 A a区から95 E区にいたる南北約150mの調査区で、現地表で北から南に緩やかに傾斜するが、東調査区中央の93 A b区と93 B a区がわずかにピークになって95 E区にかけてやや下がって

いる。また調査区の西側は全体に高く東側が大きく下がる谷地形となっている。東調査区の土層断面は東側の微高地部分のものになるが、93 A a区では耕作土下に弥生時代から中世の遺構が同一面において検出できる。弥生時代においては2.5Y4/2暗灰黄色細粒砂層を挟んで2時期の遺構が確認できる。下部の層々は確認していないが、この南北の土層では細粒砂層の起伏に応じて低い部分にシルト層がレンズ状に堆積しており、南側の低い95 E区では中粒砂層上から遺構が確認できる。

#### c. 南調査区（第4図）

南調査区は95 C c区から95 B b区・93 B b区にいたる東西約150mの調査区で、ここでは遺跡の南側の状況を見るため95 E区まで含めて考える。

現地表面においては1.00m～1.30mの間にあり、やや東に低くなる傾向があるがほぼ平坦な地形である。中世の方形土坑は現在の耕作土直下において検出でき、弥生時代の谷を埋めているシルトや細粒砂層がその基盤となっている。弥生時代の遺構面については95 C c区・94 D b区・95 E区において高まりがみられるが、遺跡の北西からのびる尾根状の微高地にある95 E区を除いて遺構は希薄である。

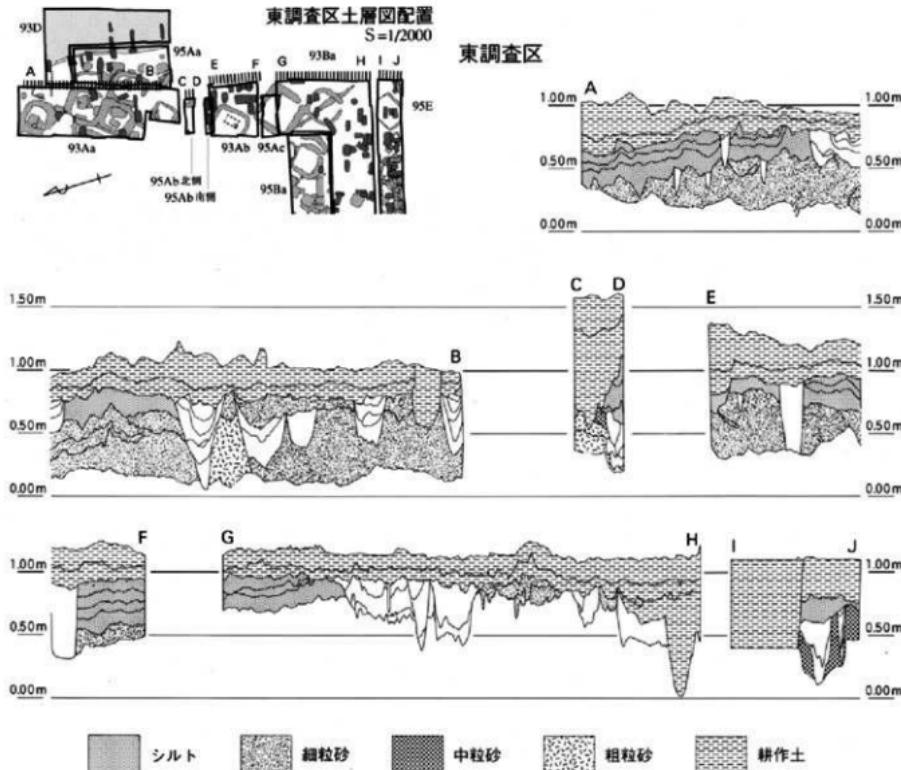
#### d. 西1調査区（第3図、第7図土層①）

94 A e区・95 C a区から95 C b区・96 D区・95 D b区にいたる南北145m程の調査区で、現地表面では南側で畑に利用されたと道路下にあったことから南側で標高2mと北の95 C a区より0.5m程高く残っていた。

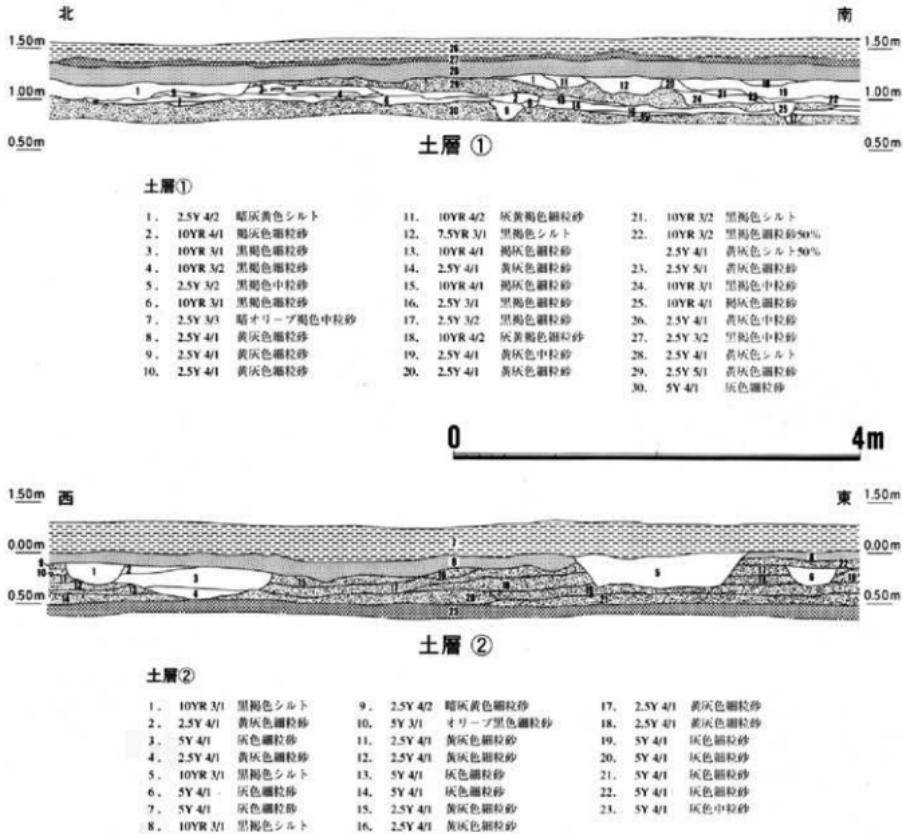
土層断面は南調査区の中央を南北に横断しており、現地表面から0.5mから深いところで1.4m程度で弥生時代の遺構面が確認された。弥生時代の遺構面は現在の起伏とは異なり、より北寄りに

微高地のある堆積状況が確認できた。95C a区の北側には弥生時代の旧河道と思われる北に傾斜する堆積が確認され、その南側に形成されている微高地には竪穴住居などの遺構が多数確認された。南側は96A区北側から次第に下がっていき、遺構も希薄となる。遺構面より下部の土層についてはあまり確認できていないが、弥生時代の遺構のある基盤は何層もの細粒砂層の堆積の上にあり、南

側では傾斜して堆積する細粒砂層の凹みにシルトや中粒砂層が挟まれて交互に堆積している。弥生時代の遺構面上には黒褐色シルト層が10~20cm堆積しており、遺物包含層となっている。弥生時代以降ではレンズ状の堆積とは異なり、後世の大規模な擾乱が及ぶ土層が堆積しており、上部での遺構は確認できなかった。



第6図 東調査区土層堆積図 (1:400、水平距離と標高の比は1:10)



第7図 基本層序（第3図矢印①・第5図矢印②部分、1:50）



一色青海道路のイメージ（弥生時代）

# 写真図版





(左)  
96B区  
西侧部分  
東より



(右)  
96B区  
木製品出土状況  
(櫂?)  
南から



96C区  
NR03  
壹他出土状況  
北から



96C区  
NR03  
流木・遺物  
出土状況  
西より





96D区  
東側部分  
住居集中区  
完掘状況  
南西より



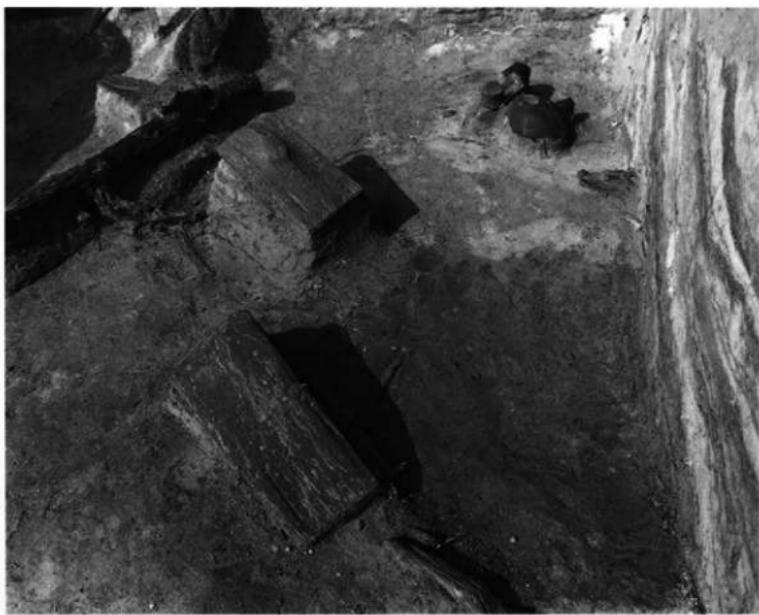
96D区  
SB09  
完掘状況  
南より



96D区  
SB09  
炉出土状況  
南より



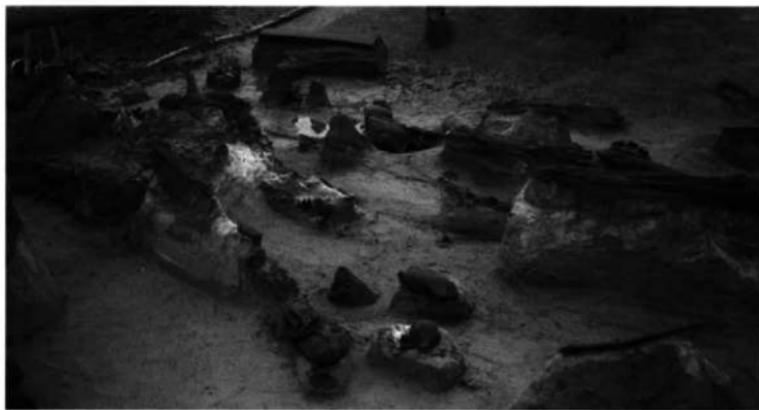
96D区  
NR06  
完掘状況  
南西より



96D区  
NR06  
木製品出土状況  
北より



96D 区  
NR06  
遺物出土状況  
西より



96D 区  
NR06  
遺物出土状況  
南西より



96D 区  
NR06  
遺物出土状況  
東より

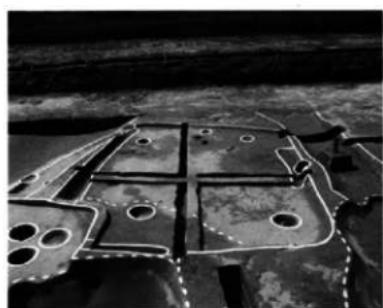


93Aa区  
全景  
北より



93Aa区  
SK11  
南より





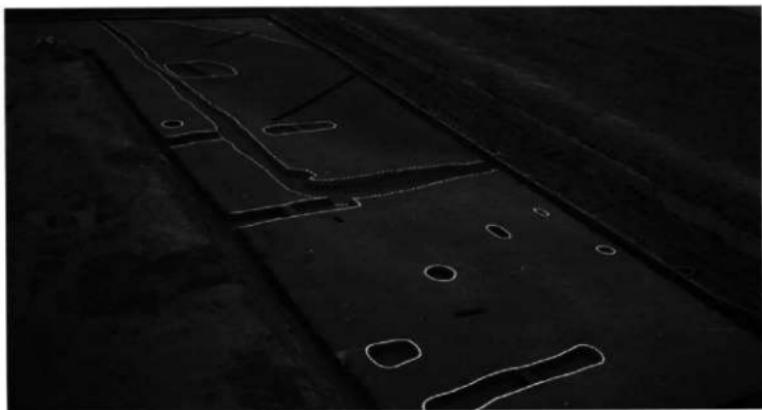
(左)  
95Aa 区  
SB17  
東より

(右)  
95Aa 区  
SE01  
南より



(左)  
95Aa 区  
SE01  
遺物出土状況  
東より

(右)  
95Aa 区  
SB22  
セクション  
ベルト  
南より



93D 区  
全景  
南より



93Ab 区  
SZ17・SB102  
北より



93Ba 区  
SZ21 西溝  
南より



95Ba 区  
SZ19・20  
完掘状況  
南より



(左)  
95Ba 区  
SZ20b 北溝  
遺物出土状況  
南より



(右)  
95Ba 区  
SZ20b 西溝  
遺物出土状況  
北より



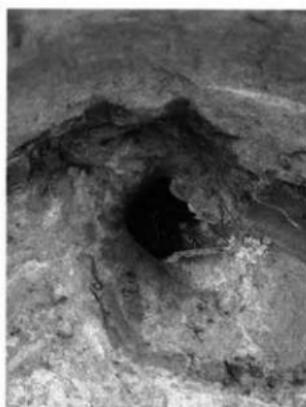
95E 区  
SZ23・24  
東より



95Ca 区  
南側部分  
95Cb 区  
全景  
北より



95Ca 区  
NR08 1面  
遺物出土状況  
西より



(左)  
95E区  
SX131  
セクションベルト  
南より

(右)  
95E区  
SX124  
漆製品出土状況  
西より



93Ca・Cb区  
全景  
西より



93Bb区  
SX159  
東より



93Bb区  
SX161  
南より



93Bb区  
全景  
北より



94Ca 区  
東側部分  
北より



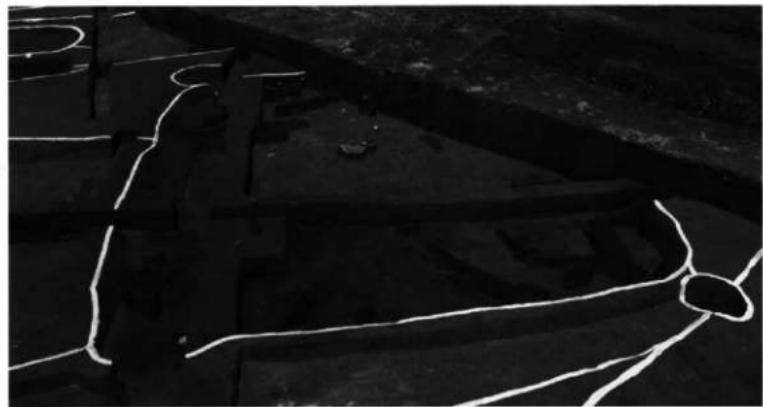
94F 区  
SK65  
遺物出土状況  
西より



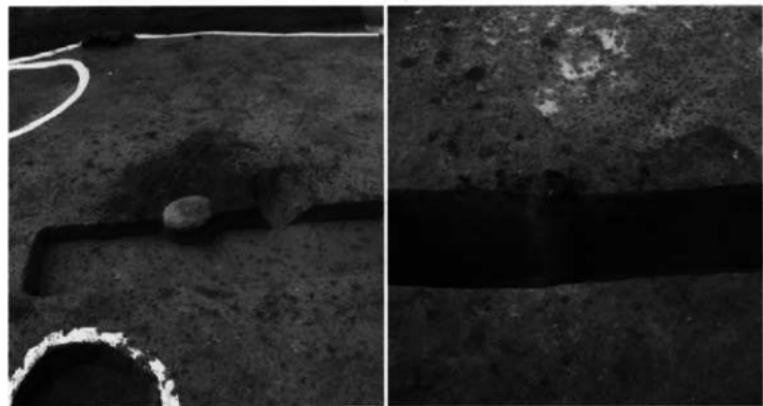
95Ca 区  
南側部分  
北より



95Ca 区  
SB68  
完掘状況  
東より



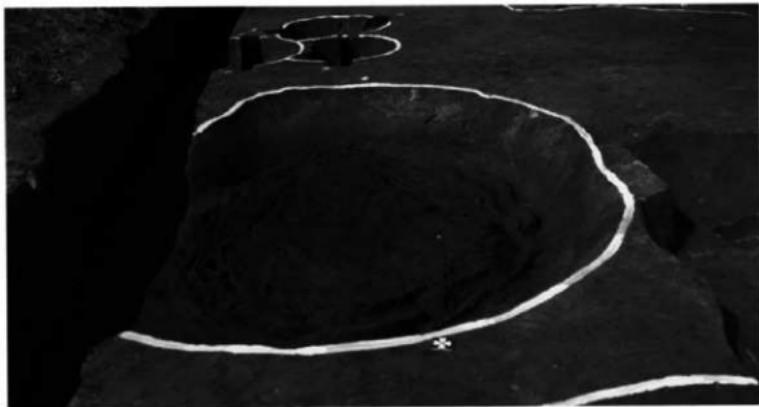
95Ca 区  
SB73  
遺物出土状況  
西より



(左)  
95Ca 区  
SB68  
地床炉出土状況  
東より

(右)  
95Ca 区  
SB73  
地床炉出土状況  
東より





96A 区  
SK93  
完掘状況  
南から



(左)  
96A 区  
全景  
南から

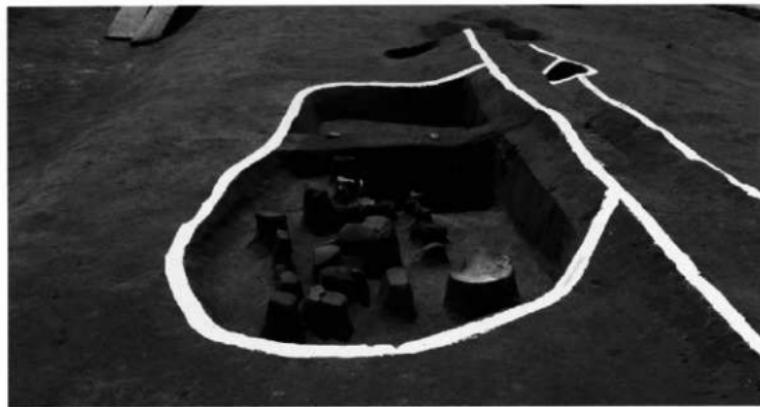
(右)  
95Db 区  
全景  
北より



94B区  
全景  
南より



94Bb区  
SB94  
東より



94Bb区  
SK96  
北より



769



782



784

769. 細頸壺 C  
782. 細頸壺 A か B

784. 細頸壺 C  
781. 細頸壺 D

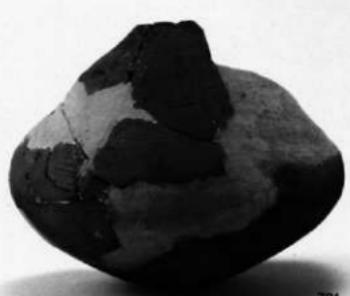


779



780

779.780 細頸壺 C



781



787



789



788

787. 太頸壺 A 788. 太頸壺 B 789. 太頸壺 C  
803. 太頸鉢 A



803



796



796.

796. 太頸短頸壺 C  
(丸窓土器)



811

811. 壺 B



808

808. 壺 A



793. 太頸短頸壺 A



805

805. 有孔深鉢



807

807. 台付深鉢 B



810

810. 麋 A



813. 麋 F



820

820. 麋 G



814

814. 麋 H ?



45. 細頸壺 A か B



42. 細頸壺 D



47. 太頸壺 A

50. 太頸短頸壺 D

49. 太頸短頸壺 D



57. 壺 E

深鉢 A





1. 短頸壺 C、体部上半にヘラ描き沈線文



82. 太頸壺 A



89. 太頸短頸壺 F



95. 壺 B



96. 壺 C



5



99. 壺 H ?



310. 細頸壺 C

280. 壺 E



316. 舟 B



322. SB73 炉台土器、壺



301. 壺 D



317. 太頸短頸壺 F



272. 太頸壺 H



985. 太頸壺 G



19

19. 太頸短頸壺 G



386



651. 太頸壺 D



637. 大型鉢 B



626. 無頸壺 A



681. 細頸壺 B



689. 細頸壺 A



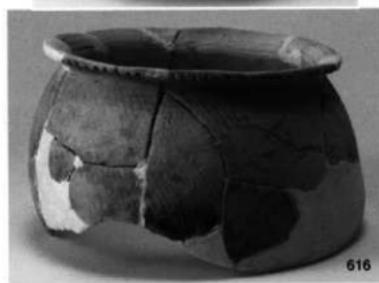
688. 細頸壺 D



845. 細頸壺 A



615. 壺 F



616. 壺 F



558 細頸壺 D



574. 壺 D



559. 細頸壺 D



571. 大型鉢 A



647. 細頸壺 C (台付)



650. 太頸短頸壺 D



875. 細頸壺 C



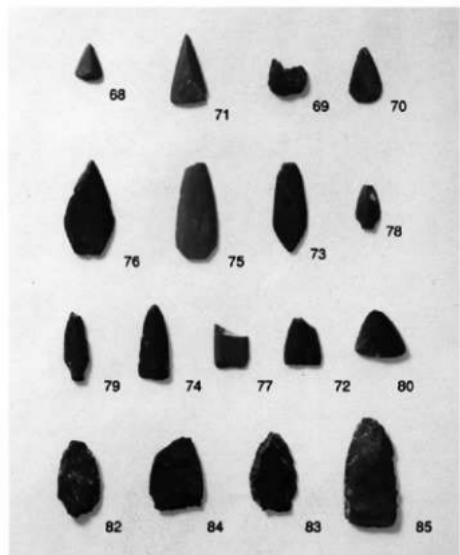
877. 細頸壺 C



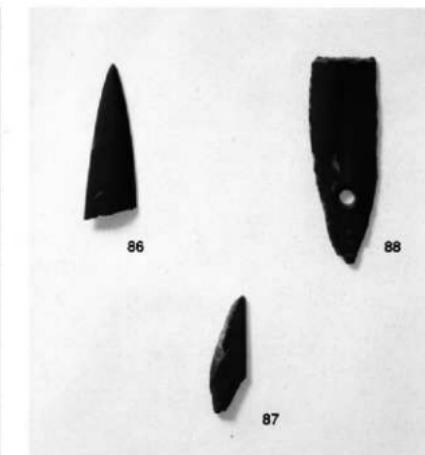
886. 壺 H



880. 大型鉢 B



68～79. 磨製石錐、80～82～85. 磨製石錐未製品

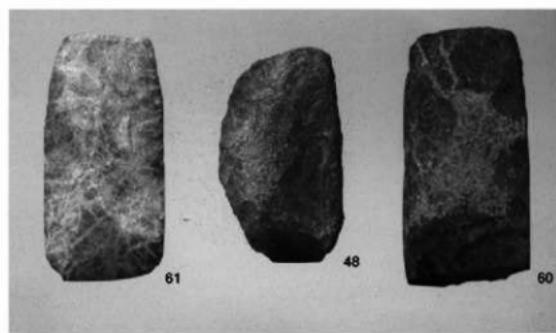


86～88. 磨製石劍

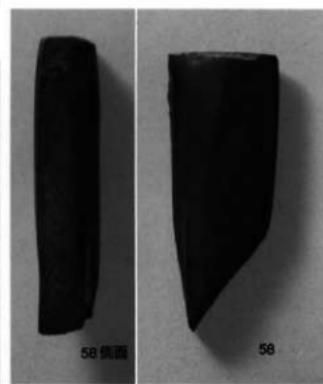
62～67.  
磨製柱状片刃石斧



49～57・59. 磨製偏平片刃石斧



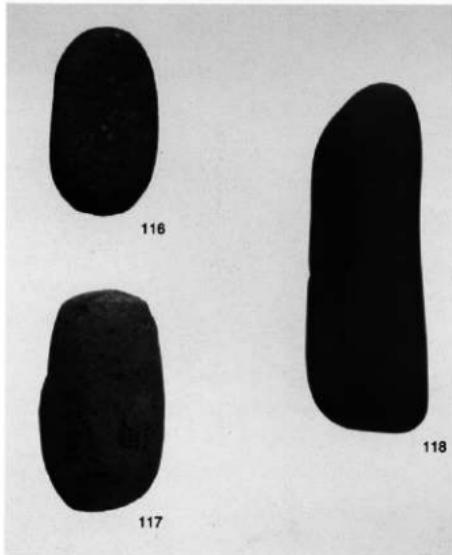
48・60・61. 磨製偏平片刃石斧



58. 磨製柱状片刃石斧



43～45. 磨製両刃石斧  
93. 磨製石斧から敲打具  
への転用品



46・47. 磨製両刃石斧



116～118. 叩き石

89. 磨製石斧未製品



81. 磨製石錐未製品

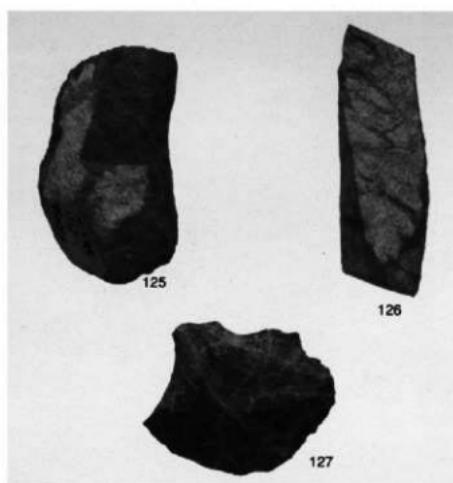


95・96. 敲打具





97



125

126

127

125～127.  
磨製石器の未製品  
・測片、全てハイアロ  
クラスタイル

97. 磨製石器未製品、石材はハイアロクラスタイル

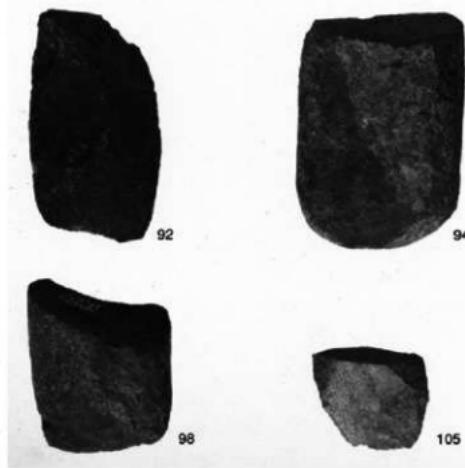


128

104



128・104



92

94

96

105



99

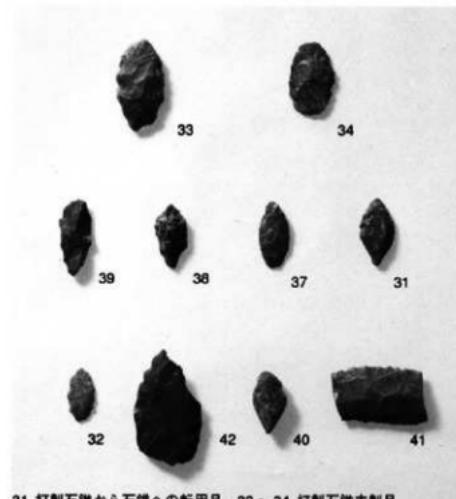


100

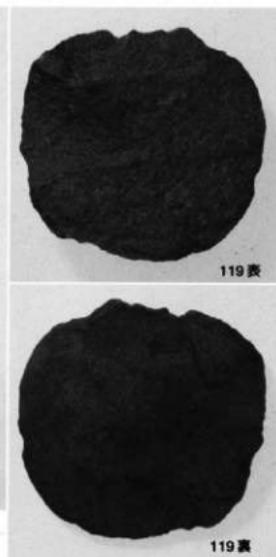
104・128. 下呂石石核、接合する（下）

92・98～100. 磨製石斧未製品、105. 下呂石石片

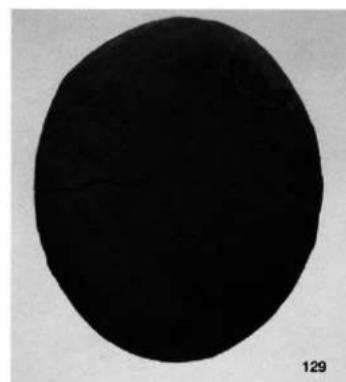
94. 磨製石斧未製品から敲打具への転用品



31. 打製石錐から石錐への転用品、32～34. 打製石錐未製品  
37～40. 打製石錐、41. 打製石小刀、42. 打製尖頭器



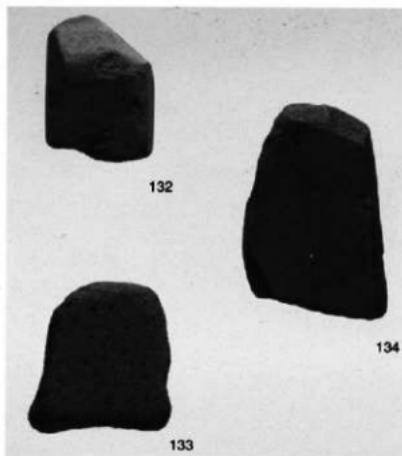
119. 粗製剥片石器



129. 炉石(上面)

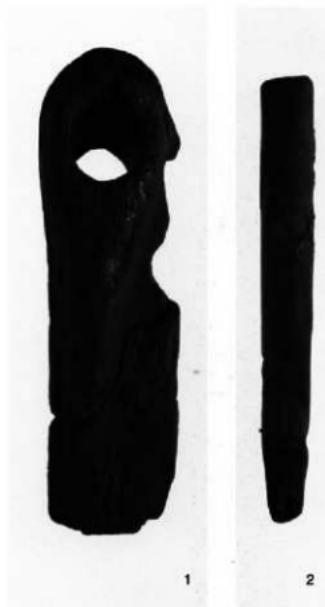


130. 炉錠石(上面)、132～134. 無溝砥石



131. 管玉

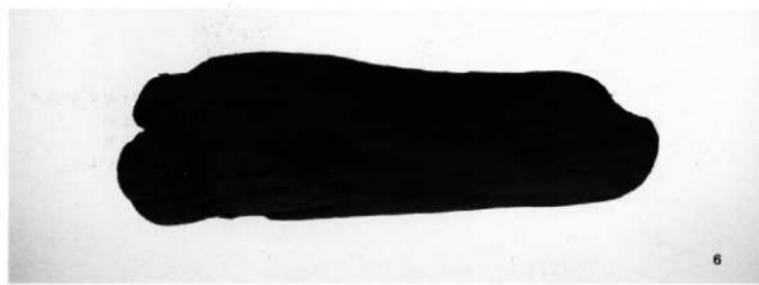
骨錐



1

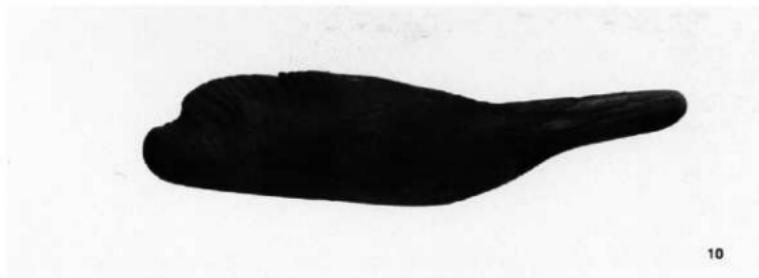
2

1. 直柄鉤頭  
2. 錐直柄  
3. 広頭未製品



6

6. 梯子



10

10. 約子未製品？



11



16



20



18

11. 痢矛柄末製品  
16. 棍  
20. 棍  
18. 加工板



9

9. 把手



12



17



19



12. 棒  
17. 棒  
19. 棒  
21 21. 板材



13 13. 用途不明品



22裏



22表



22.下駄  
24.曲物蓋



23



26



23.曲物側板  
26.漆桶  
27.火切り臼  
31.加工板



31

## 4. 弥生時代の遺構

藤山誠一

### (1) 穴住居

(第1図～第18図、第1表・第2表)

穴住居 穴住居としたのは94棟で、遺物や家屋の焼失した炭化材が出土したものはもちろんあるが、やや大型の平面方形で掘り方断面が平底のもの、幅10～20cm、深さ数cm程の細い溝に囲まれたものについても穴住居として分類した。そのため大小さまざまなものがあり、すべてが住いとしての家屋とは限らないし、遺物がほとんど出土しないものも多數あった。

分 布 穴住居は北調査区にある95 F区5棟・96 D区5棟、東調査区にある93 A a区8棟・95 A a区9棟・95 B a区22棟・95 B c区1棟・95 E区13棟、南調査区にある94 C a区1棟・93 B b区1棟・95 C c区1棟、西1・2調査区にある95 C a区11棟・95 C b区15棟・96 A区2棟・94 B b区1棟で、弥生時代の微高地が残存していた部分に多数検出されている。これは見掛けの分布であって、本来は発掘調査を行い、弥生時代の遺構が検出された部分においては重なるように建てられたものと思われる。そうした中で穴住居が希薄と思われるのは94 A e区から96 D区、96 B区・96 C区・94 A a区、93 C a区南側・93 C b区南側・94 D c区・95 C c区・94 D b区、95 C b区南側・95 D b区・96 A区の4つの地域においては、弥生時代においても低い部分にあたり住居が少なかったと思われる。しかしS B 65のように遺跡の南側においても穴住居が検出される可能性があり、遺

跡の南側においても密集はしないものの散在する形で存在した可能性は高い。

平面形態 平面形態がある程度判明するものは、方形3棟、隅丸方形18棟、隅丸長方形13棟、胴張長方形3棟とやや方形のものが多い。平面形態の違いは時期差や系統差、居住者の階層差などを反映したものと思われ、一色青海遺跡では方形の住居の後に長方形の住居が建てられ重複する場合に限られるので、住居形態の時間的変化が反映しているものと考えられる。

穴住居の柱穴 住居の屋根を支えた支柱穴の配置についてであるが、満足に4本ずつ一定のパターンで検出されたものは存在しておらず、調査段階での不備はあるものの不明瞭といったほうが良い。また穴住居内において検出されたピット数には0個から12個まで幅広いが、S B 23やS B 66のように比較的大型の住居において多数のピットが検出される傾向があり、また相対的に平面方形の住居より長方形の住居が大型でピット数が多い。しかしピットの深さについてはS B 09で検出された35cmのものが最も深く、中心は深さ15cm前後にある。またS B 18・S B 21・S B 28などの住居では、壁際や壁溝の内部に検出されるピットがある。住居内を周囲するものはないが、径5cm～15cm程で深さも5cm～10cm程と小さいものである。

壁 溝 いわゆる穴住居の周溝と呼ばれるも

のであるが幅は5cm～30cm程と幅がある。深さについては5cm～10cm前後である。壁溝としての痕跡では壁溝の埋土部分がやや粘質であるものが多く、S B 22住居土層断面において東辺の壁板が壁溝から倒れた状態で50cm程残存していた点が確認された。壁溝は全周するもの（S B 02・S B 13・S B 68など）と部分的に巡るもの（S B 06・S B 07・S B 23・S B 82など）がある。部分的に巡るものでは住居の南側を中心に巡るものが多く、また壁溝が2重や3重で巡るものについては住居が拡張されたり、縮小された建て替えの痕跡と考えられ、S B 09で2回、S B 73で1回の建て替えがみられる。S B 09では縮小されたようにもみえるが、残存していた炉の位置からは2回拡張建て替えされたものと考えられ、S B 73も拡張建て替えが行なわれた。

炉の形態と位置　あまり残存していた例は多くないが、地床炉8棟、地床炉+炉石2棟、地床炉+炉台土器1棟、石置炉+炉台土器1棟がみられ、石置炉に炉台土器が伴う例が確認された初例で、炉縁石と炉台土器・炉石が伴うことを実証したものである。炉縁石は地床炉の住居内側に置かれ、炉台土器・炉石は地床炉の中央付近で据えられていた。地床炉の断面を断ち割ったものの観察からすれば、炉石などを据える分の深さだけ掘り込むものもあるが、炉の検出状況からすると使用中の炉は床面から高い位置で平坦かやや盛り上げたところを火床としていたものと思われる。1つ興味深い炉は、S B 73の地床炉に炉台土器をおいたもので炉台土器の住居内側を40cm程掘り凹めた痕跡が残っていた。埋土に炭粒が多く含まれていたことからすると灰のかき取りや炉の下部からの湿気の上昇による毛管現象を防ぐための所作とも考えられるものである。炉の位置では住居中央に設けられるものが3例、やや偏在するもの6例、壁際にあるもの2例で、方角では南に偏在して設けられ

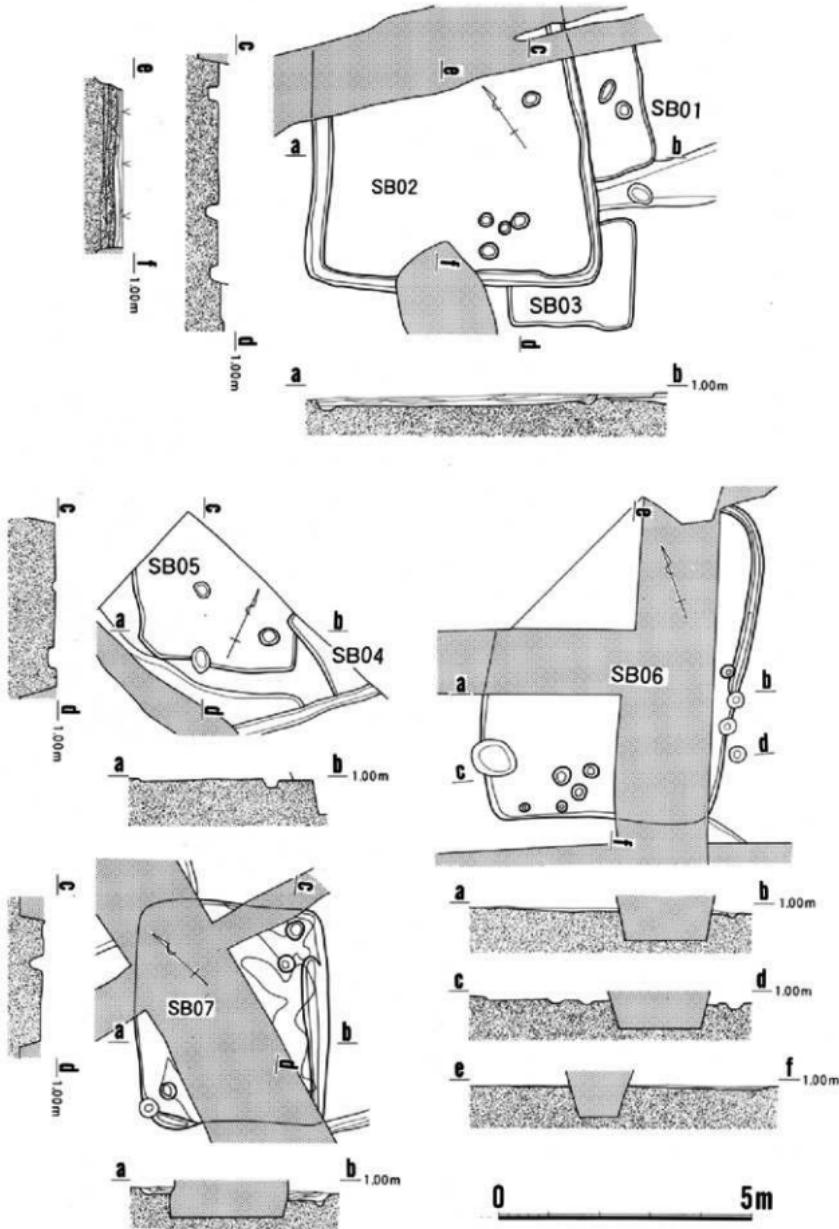
るもののが6例と多い。

床面標高　残存している住居床面の高さは相対的に当時の地表面の高さを反映している可能性もあるが、一色青海遺跡では93A a区で見つかっている竪穴住居のものが標高0.40m～0.64mと最も低く、その他の調査区の竪穴住居が標高0.70m～1.00mであるに比べるとかなり低い。床面の高さについては相対的に地下水位の低い微高地の高い部分で深い竪穴住居を造ることを示す興味深い例である。

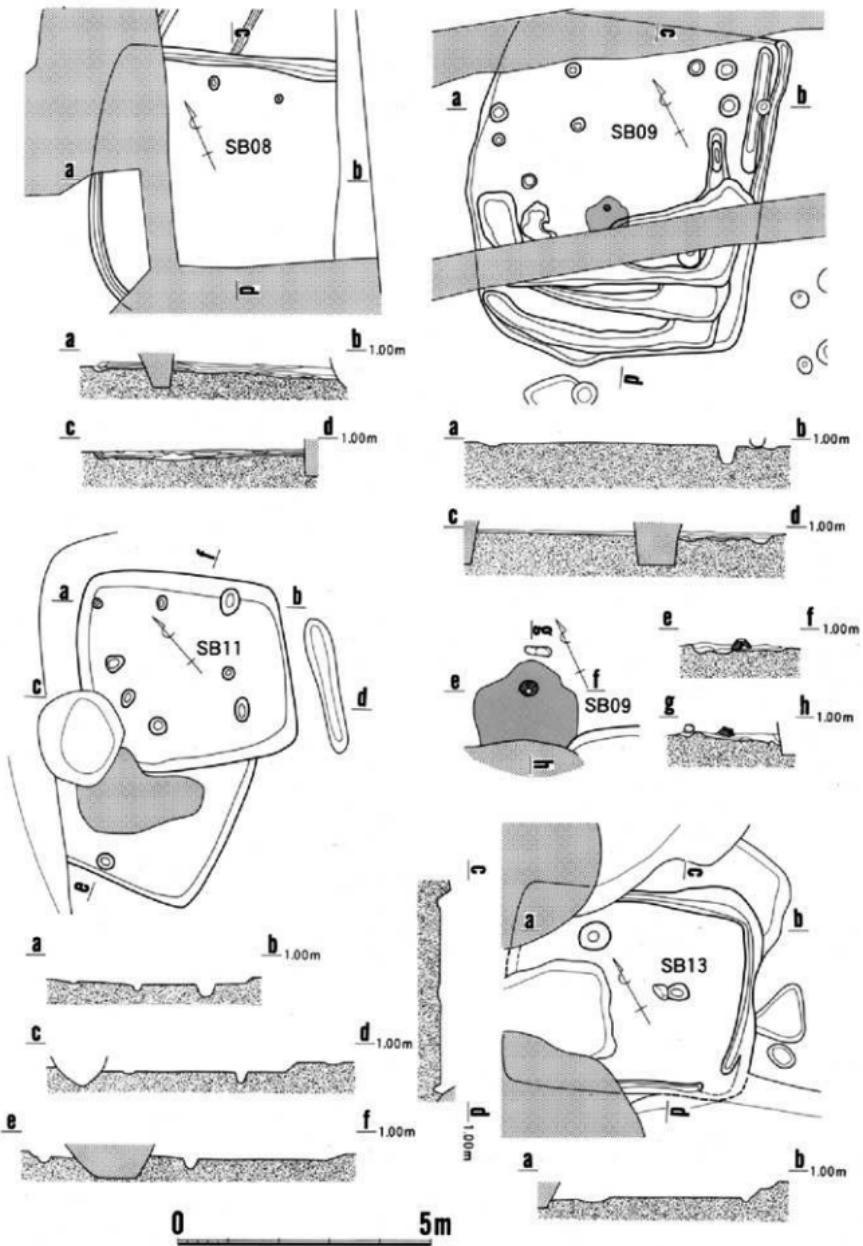
焼失住居　今回の調査では確実に焼失住居として検出・記録できたものが8棟ある。どの焼失住居においても炭化した材が放射状になっている部分があり、壁板や屋根の垂木が倒れた痕跡を示すものと言える。炭化した材には板状のものと棒（枝）状のものがあり、S B 73のように板状の材が壁際から内側に倒れるように検出されるものとS B 68・S B 69などのように棒状の炭化材がやや散乱して内側に放射状にみられるものに分かれる。また炭化材の出土する位置においてもS B 69のように床面から20cm～30cm程浮いて出土するものとS B 02・S B 68・S B 73のように床面近くにおいて出土する場合がある。炭化材は針葉樹・スギ属、広葉樹のコナラ亜属・アカガシ亜属・コナラ・クリなどがあるが、一つの住居においても一様ではなく、さまざまな部材が使用・混ざって出土していることを伺わせるものである。

S U 01は明確な遺構を確認できなかったが、炭化材が土器とともに検出されていることから焼失住居の可能性がある。

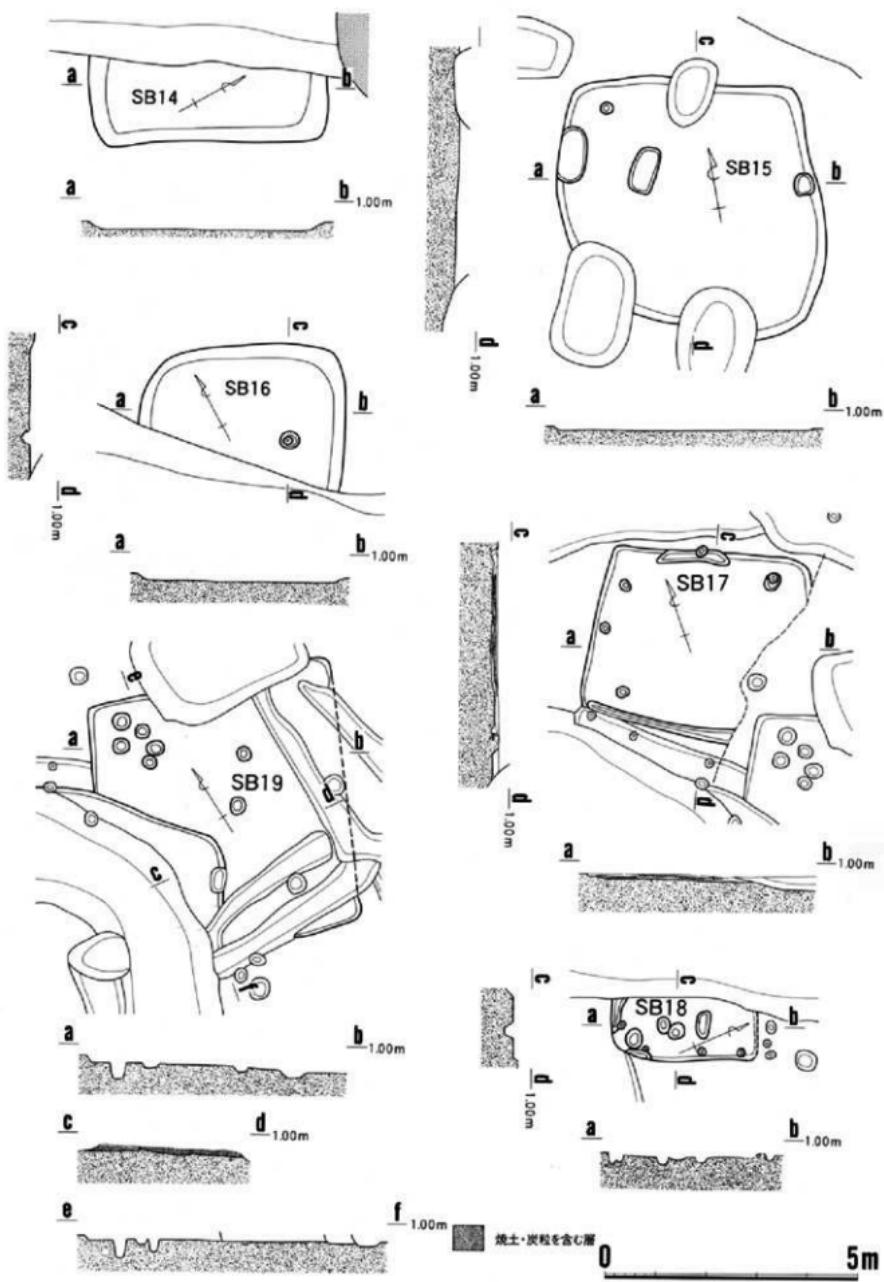
出土遺物　焼失住居では床面直上から多くの鉢生土器がまとめて出土しており、当遺跡の基準資料になるものと思われる。



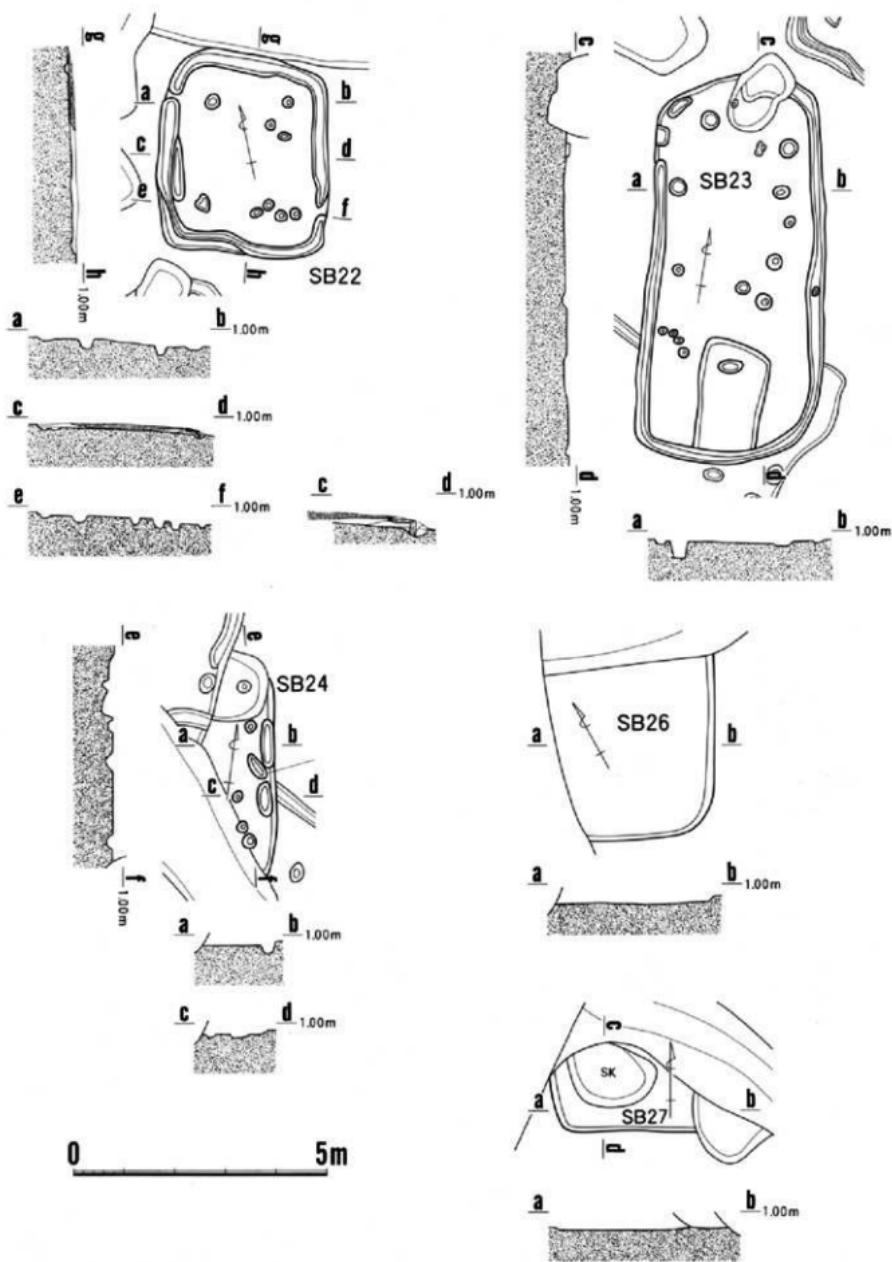
第1図 暮穴住居実測図1 (1:100)



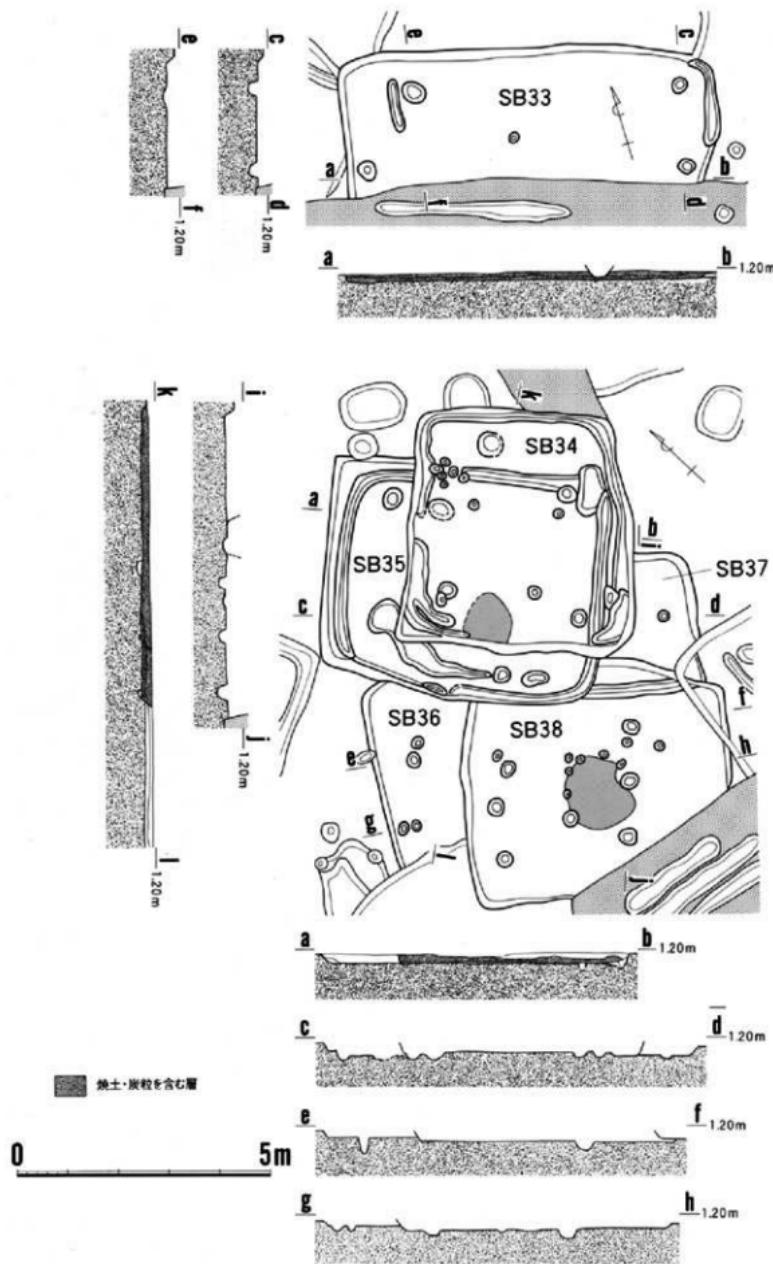
第2図 積穴住居実測図2 (1:100、SB09 地床炉は1:40)



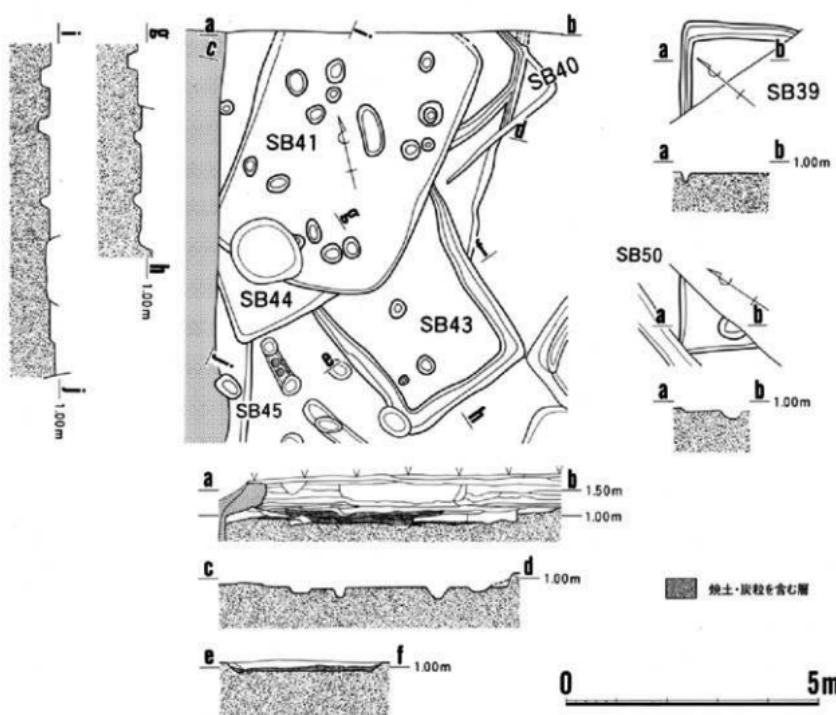
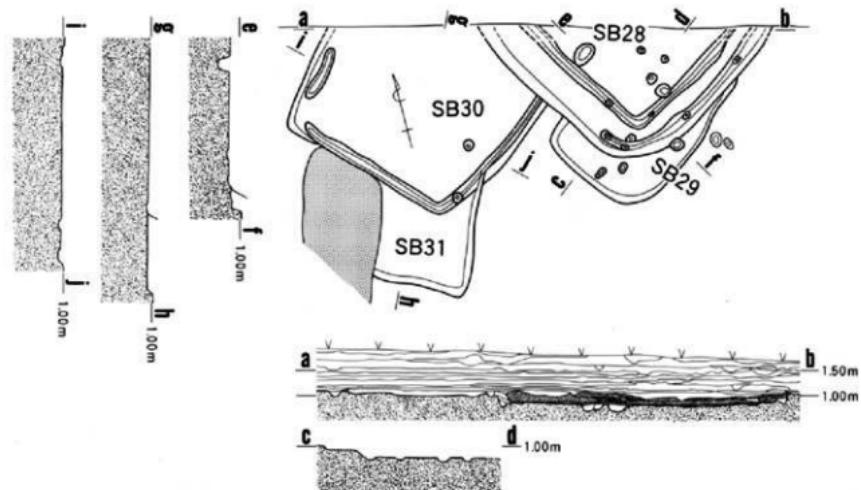
第3図 積穴住居実測図3 (1:100)



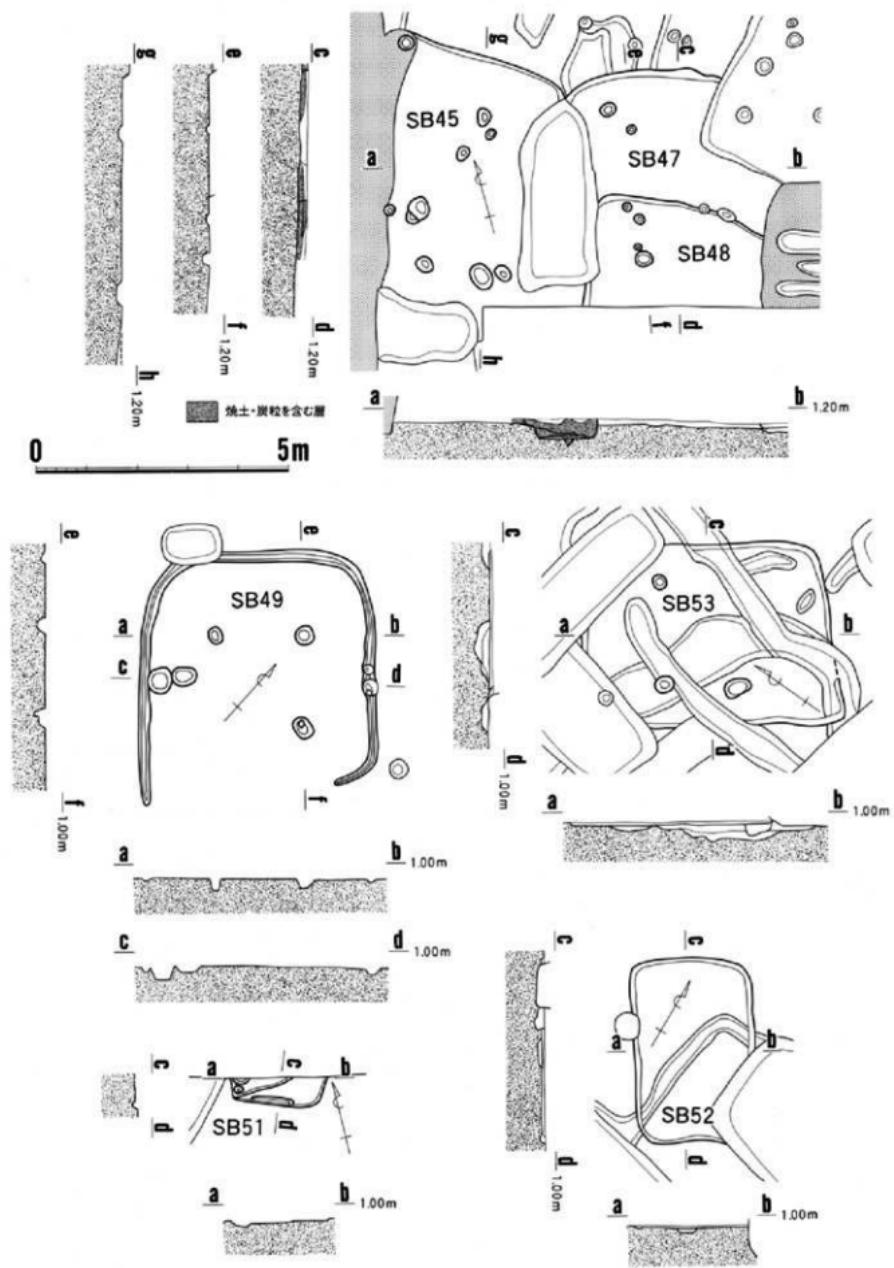
第4図 桝穴住居実測図4 (1:100, SB22土層断面c-dは1:40)



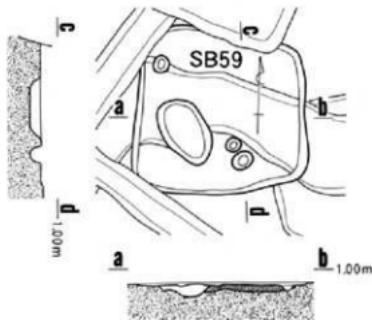
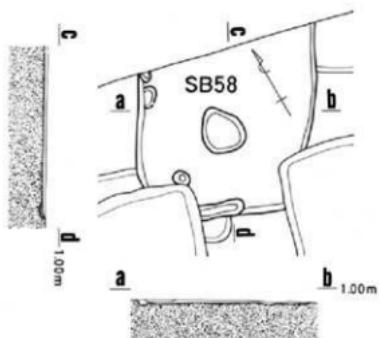
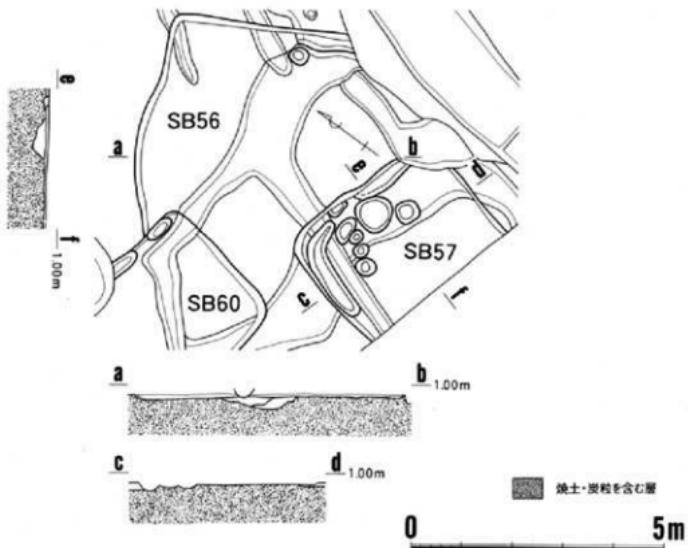
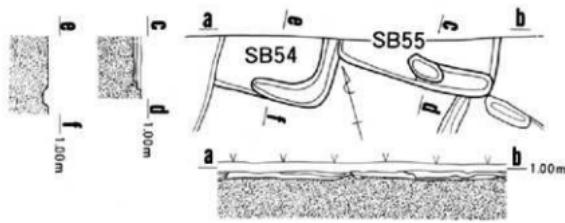
第5図 暮穴住居実測図5 (1:100)



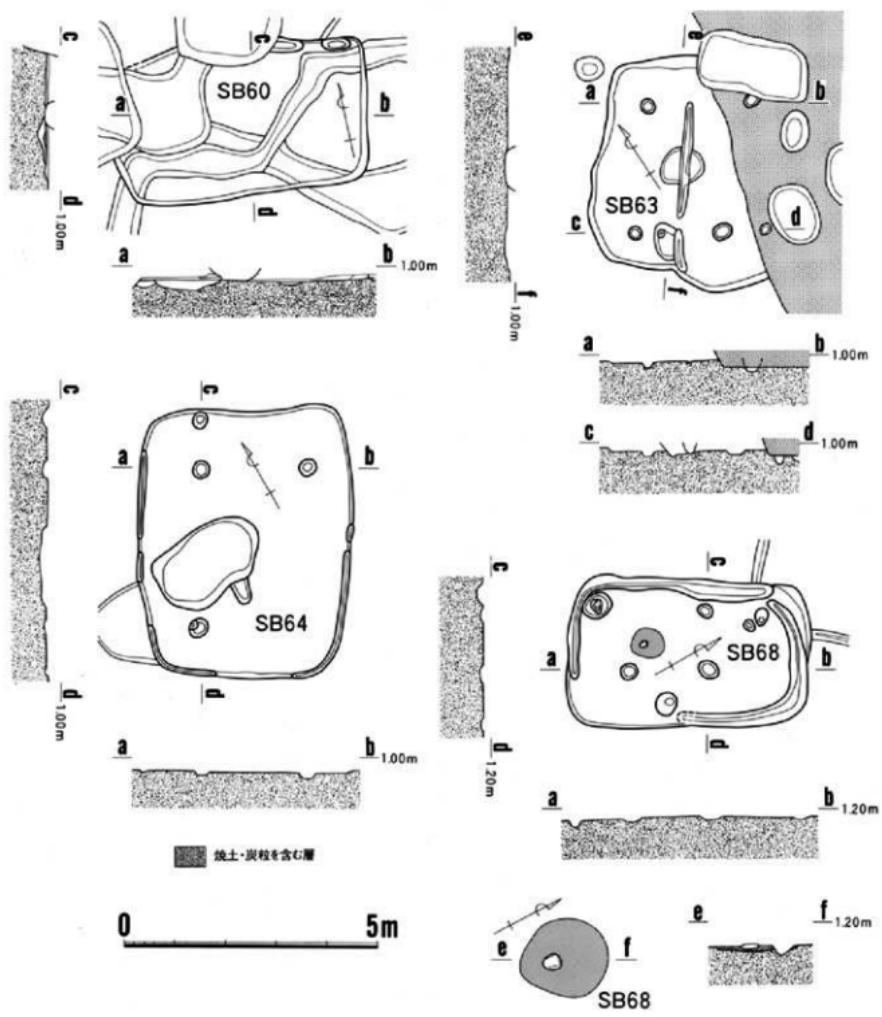
第6図 穂穴住居実測図6 (1:100)



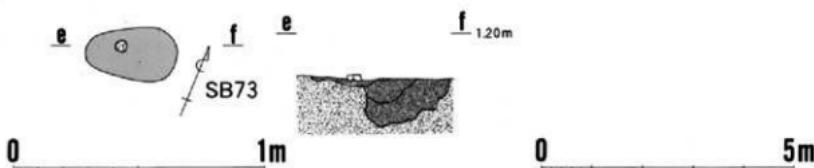
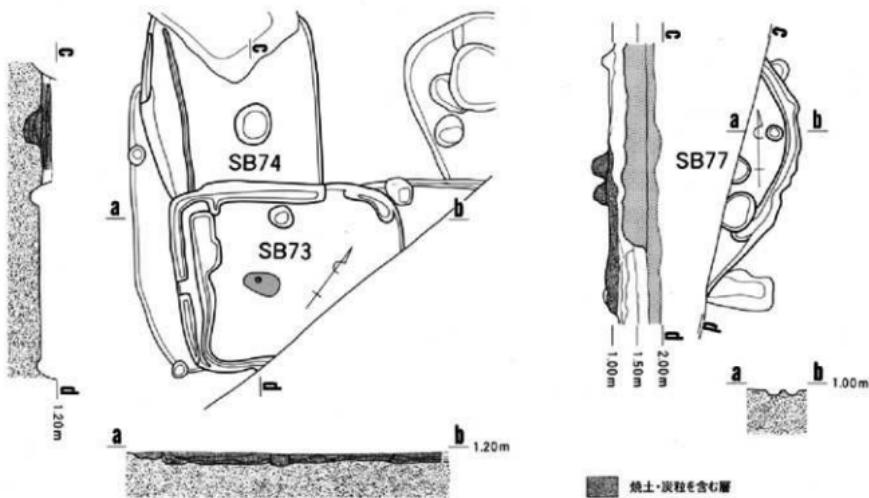
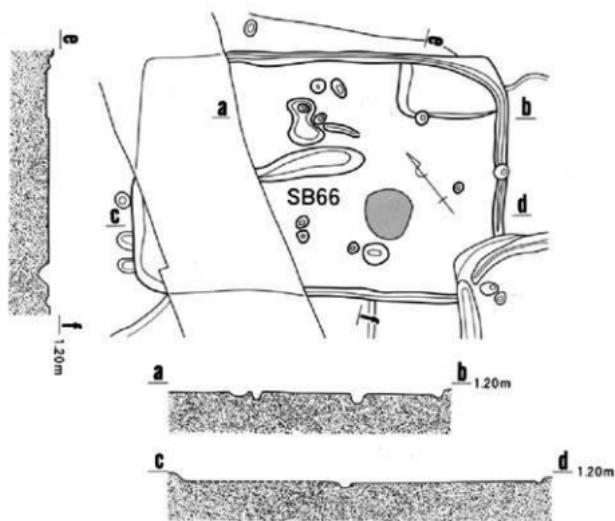
第7図 穂穴住居実測図7 (1:100)



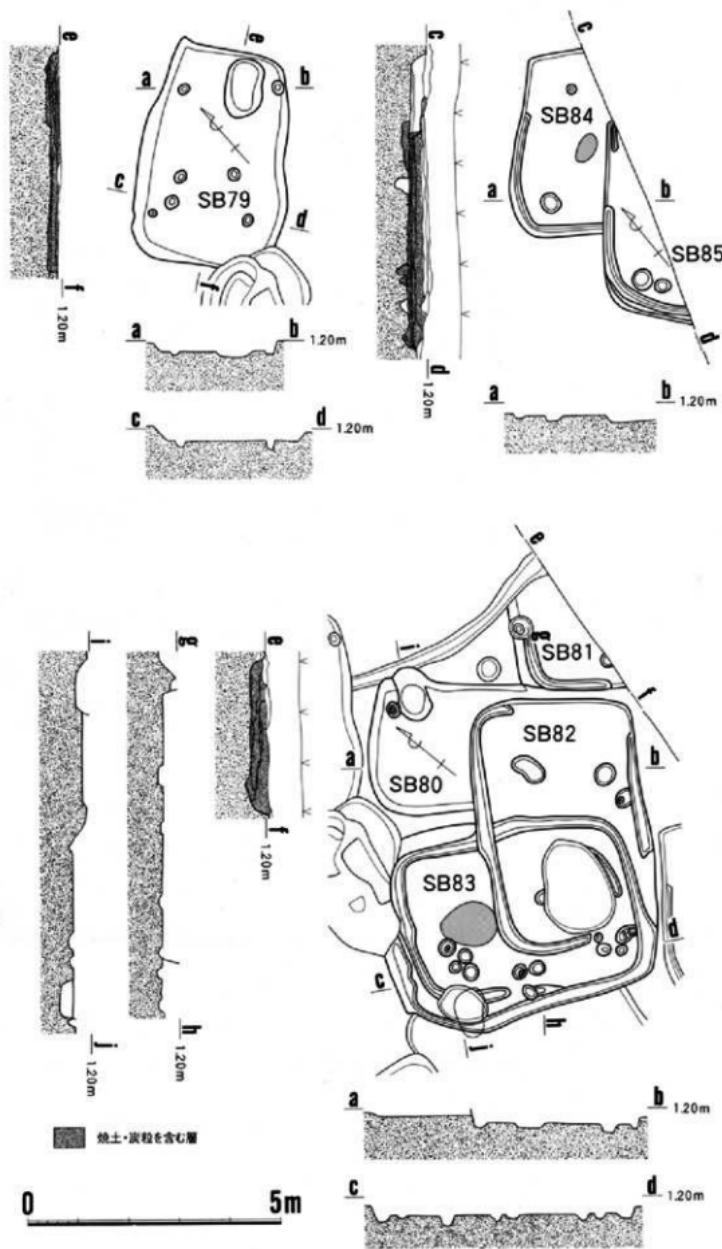
第8図 桧穴住居実測図8 (1:100)



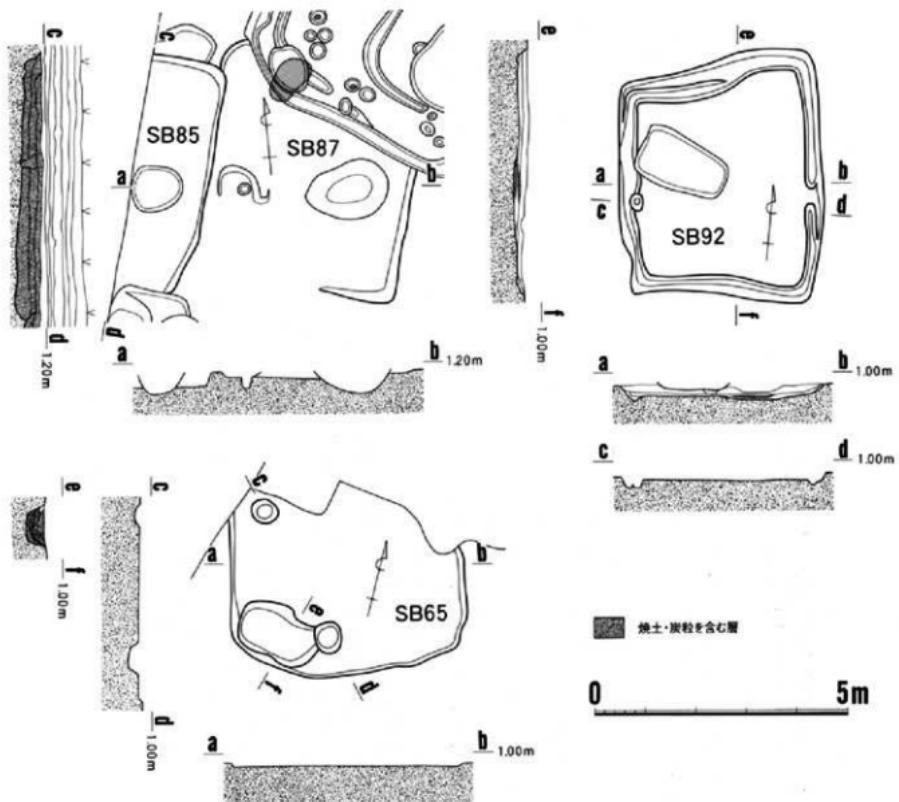
第9図 暮穴住居実測図9 (1:100、SB68地床炉は1:40)



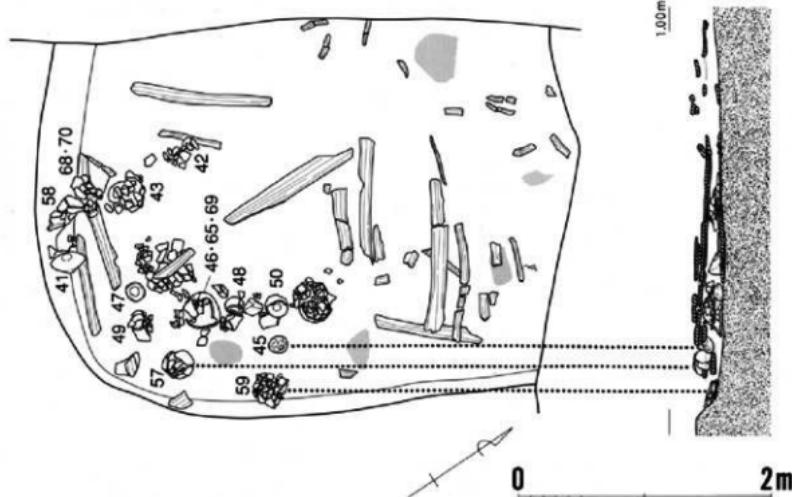
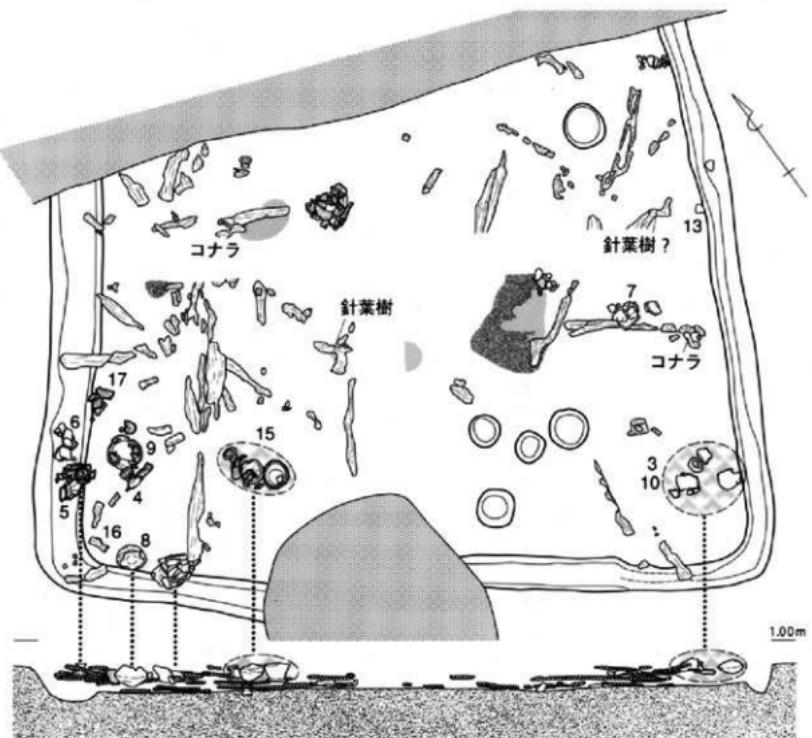
第10図 整穴住居実測図 10 (1:100、SB73 地床炉は 1:40)



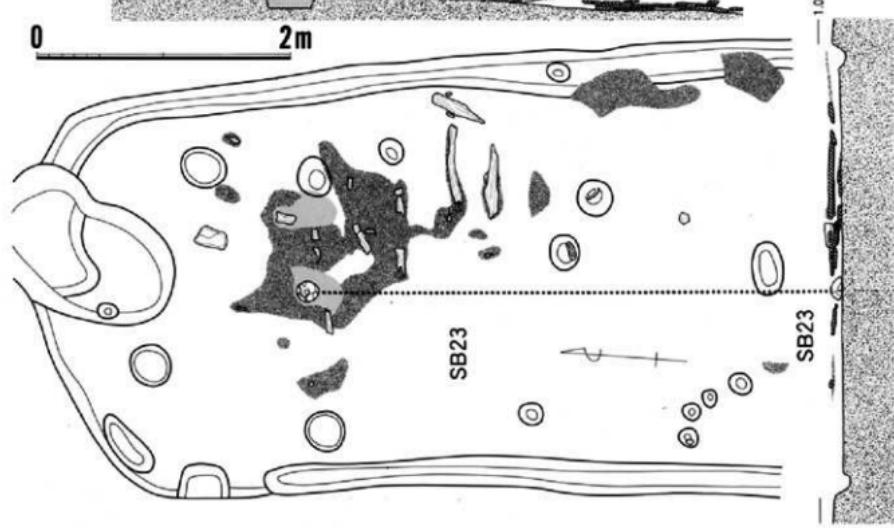
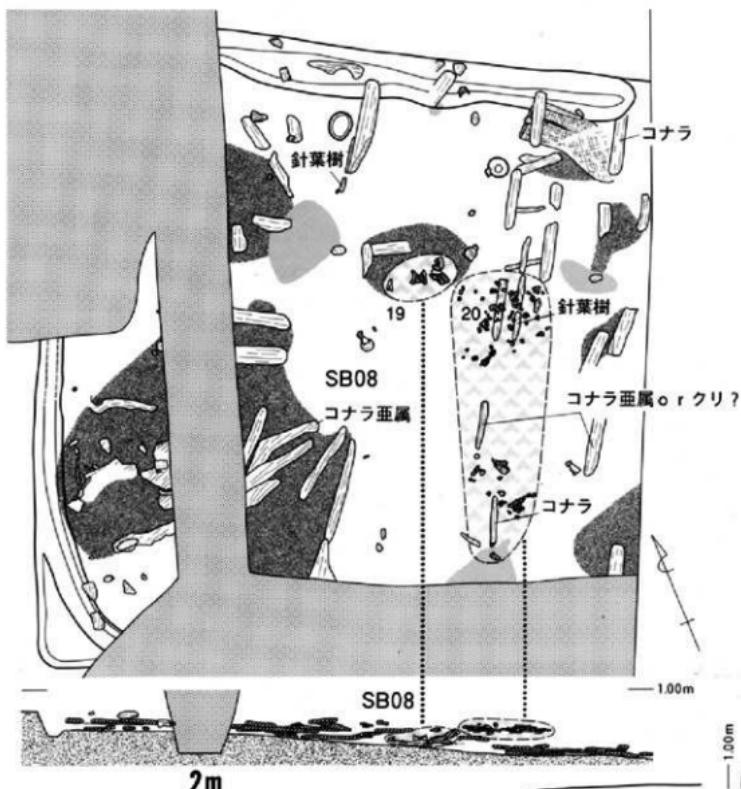
第11図 穂穴住居実測図11 (1:100)



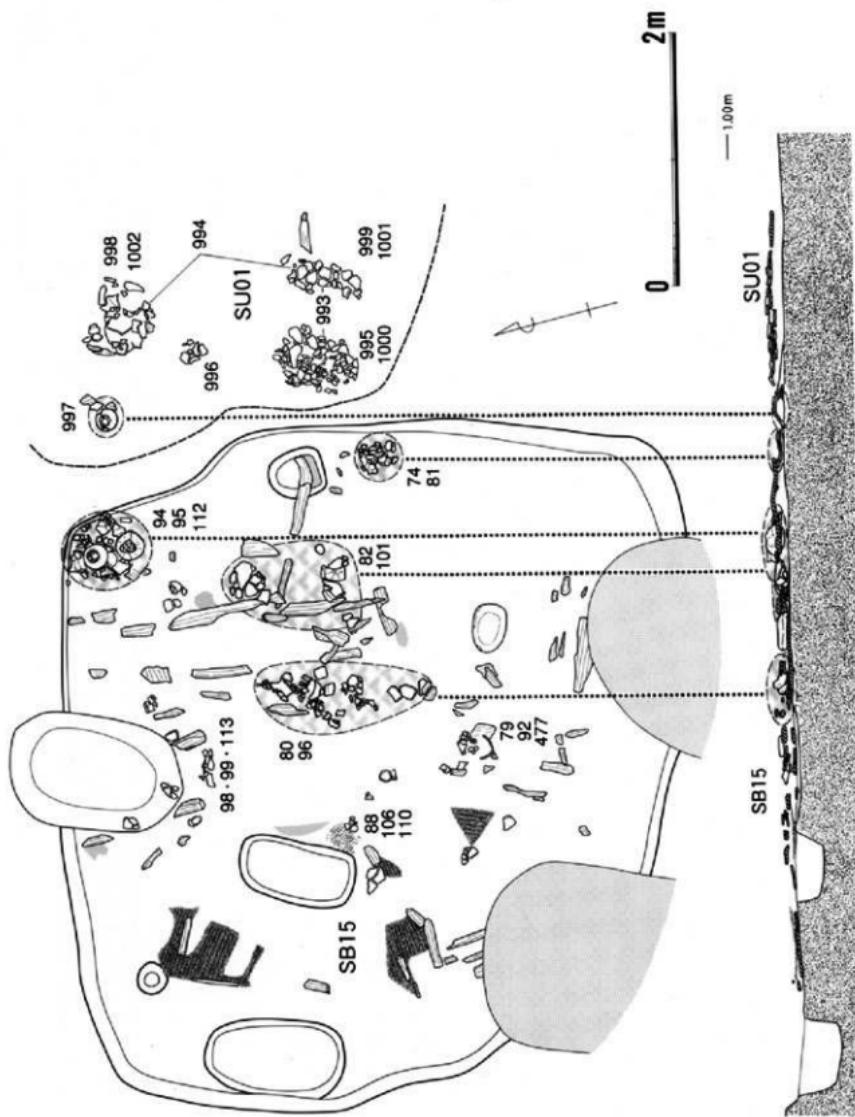
第12図 積穴住居実測図12 (1:100)



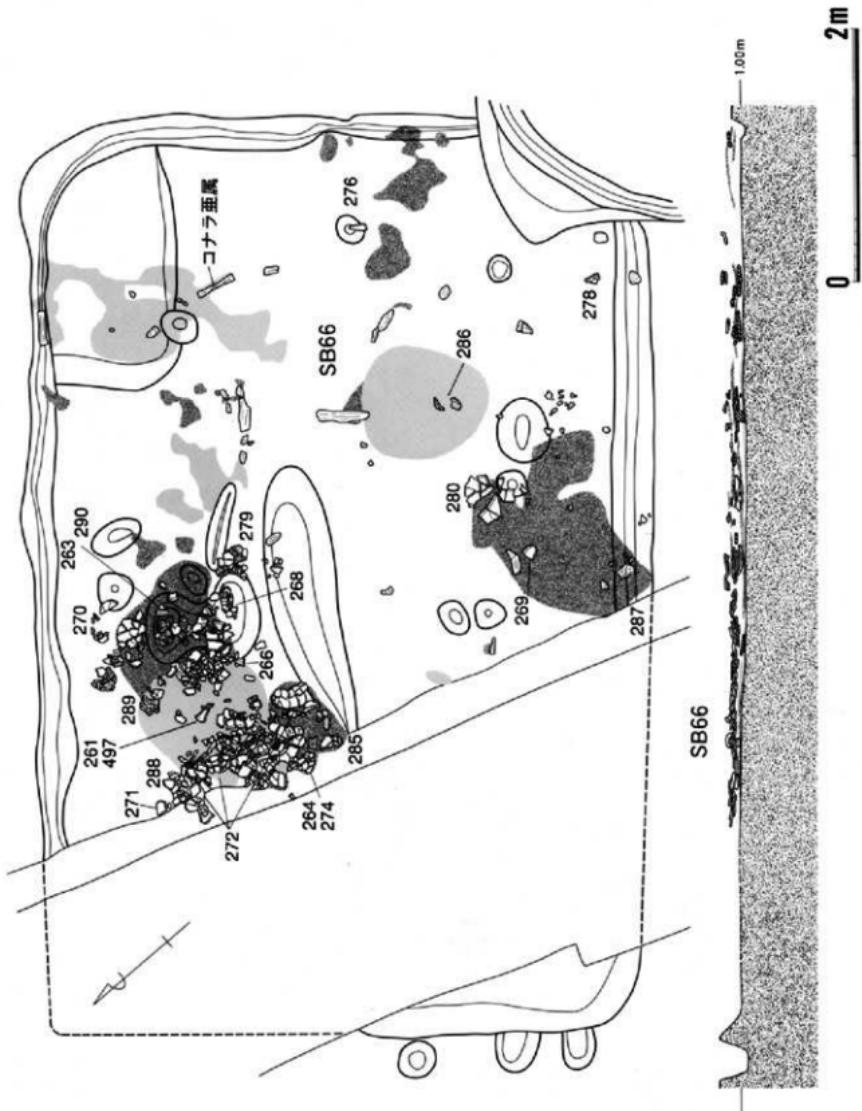
第13図 燃失窓穴住居遺物出土状況図1 (1:40)



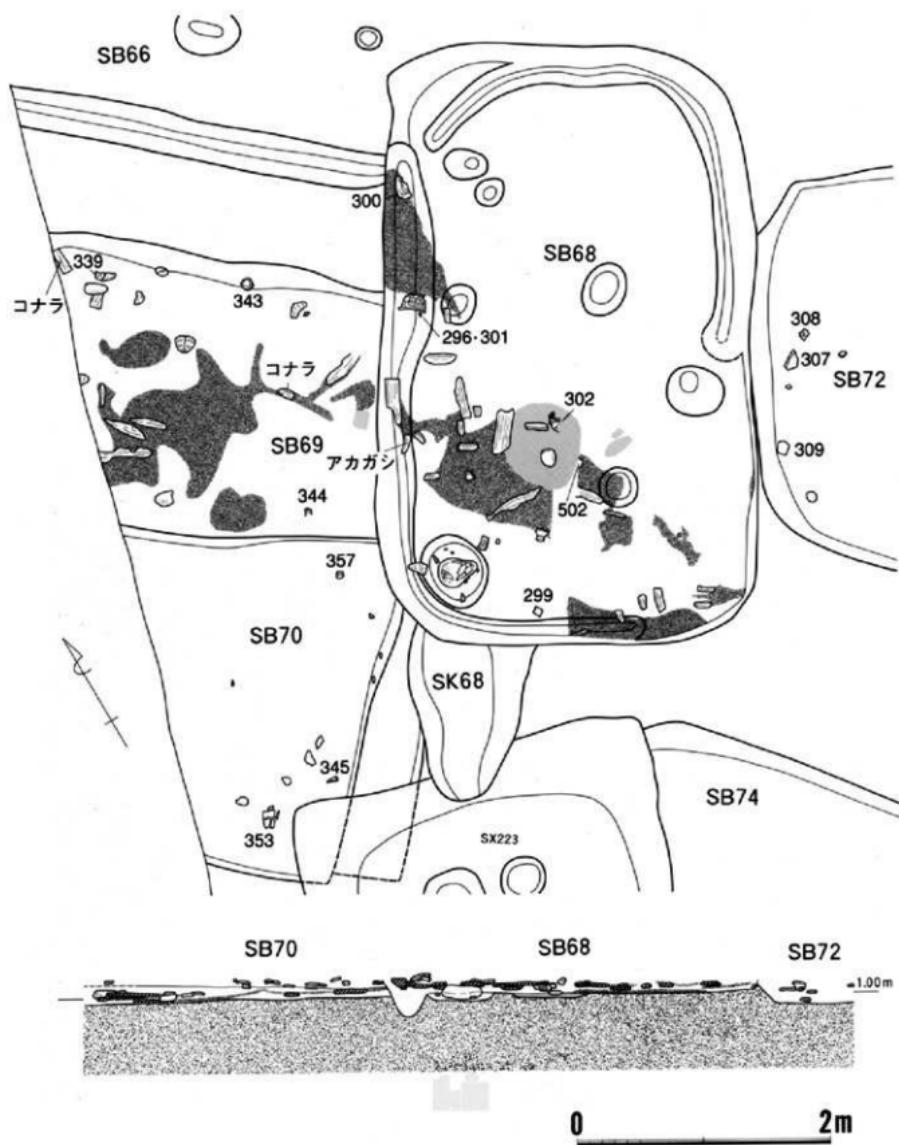
第14図 焼失窓穴住居遺物出土状況図2 (1:40)



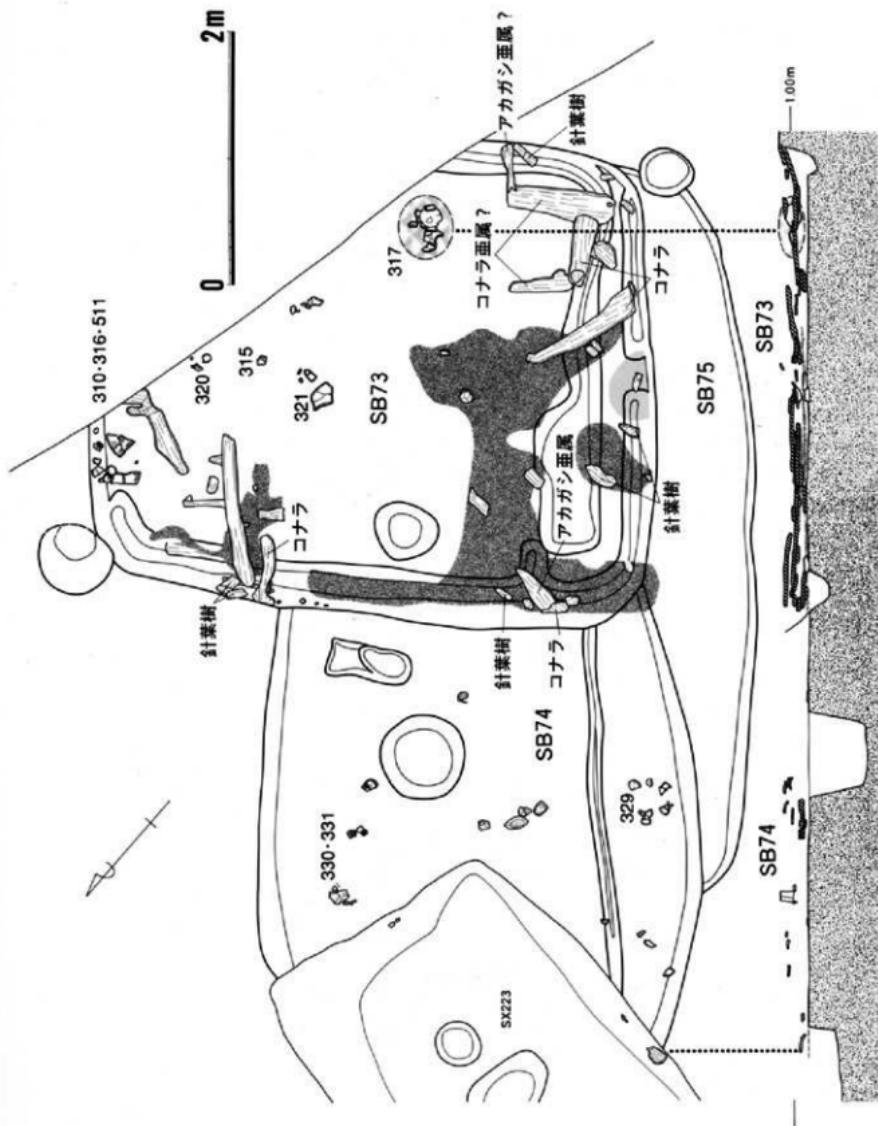
第15図 燒失窯穴住居遺物出土状況図3(1:40)



第16図 焼失竪穴住居遺物出土状況図4 (1:40)



第17図 焼失竪穴住居遺物出土状況図5(1:40)



第18図 焼失竪穴住居遺物出土状況図6(1:40)

新規番号	年度	引連接番号	平面形	柱径	柱高	梁高	梁幅	梁間距	柱穴の深さ(深い順、cm)	柱穴の形状、位置	備考(特徴など)
SB.01	94F	SB.04	方柱	(1.3)	(7.53)	(3.1)	(26.7)	0.29	0.95	2	1.5
SB.02	94F	SB.03	方柱	(1.3)	(5.85)	(3.5)	(26.7)	0.24	0.95	2	1.5
SB.03	94F	SB.05	方柱	(1.3)	2.50	5.6	1.2	7.70	2	2	
SB.04	94F	SB.02A	方柱	(1.3)	(1.93)	(0.75)	(1.5)	0.14	0.93	2	1.5
SB.05	94F	SB.04	方柱	(1.3)	(0.75)	(1.5)	0.14	0.93	2	1.5	
SB.06	94F	SB.03	方柱	(1.3)	(0.75)	(1.5)	0.14	0.93	2	1.5	
SB.07	94D	SB.03	方柱	(1.3)	4.35	3.20	1.5	0.10	0.93	2	1.5
SB.08	94D	SB.02	方柱	(1.3)	(6.15)	(6.75)	(24.5)	0.33	0.61	2	1.5
SB.09	94D	SB.02	方柱	(1.3)	6.95	5.80	40.3	0.21	0.90	2	1.5
SB.10	94D	SK.03引柱	不規則	(1.4)	(1.05)	(1.4)	0.11	-	2	2	
SB.11	94A	SB.02	方柱	(1.3)	4.20	4.00	1.8	0.24	0.45	2	1.5
SB.12	94A	SB.06	方柱	(1.3)	(0.85)	(1.8)	0.13	0.55	2	1.5	
SB.13	94A	SB.06	方柱	(1.3)	(4.9)	(4.10)	(20.1)	0.35	0.45	2	1.5
SB.14	94A	SB.04	方柱	(1.3)	4.70	(1.70)	(8.0)	0.29	0.40	2	1.5
SB.15	94A	SB.04	方柱	(1.3)	5.55	4.90	2.2	0.16	0.49	2	1.5
SB.16	94A	SB.03	方柱	(1.3)	4.10	(2.80)	(11.5)	0.16	0.45	2	1.5
SB.17	94A	SB.02	方柱	(1.3)	4.00	(2.55)	(1.5)	0.21	0.37	2	1.5
SB.18	94A	SB.07	方柱	(1.3)	(0.80)	(0.80)	(0.80)	0.11	0.25	2	1.5
SB.19	94A	SB.04	方柱	(1.3)	(0.80)	(1.80)	0.11	0.25	2	1.5	
SB.20	94A	SB.06	方柱	(1.3)	(0.80)	(1.80)	0.11	0.25	2	1.5	
SB.21	94A	SB.06	方柱	(1.3)	(0.80)	(1.80)	0.11	0.25	2	1.5	
SB.22	94A	SB.06	方柱	(1.3)	(0.80)	(1.80)	0.11	0.25	2	1.5	
SB.23	94A	SB.10	方柱	(1.3)	7.75	3.65	2.8	0.11	0.82	2	1.5
SB.24	94A	SB.10	方柱	(1.3)	(4.95)	(1.45)	(5.7)	0.11	0.82	2	1.5
SB.25	94A	SB.10	方柱	(1.3)	(3.25)	(1.25)	(2.0)	0.10	0.78	2	1.5
SB.26	94A	SB.10	方柱	(1.3)	(3.25)	(1.25)	(2.0)	0.10	0.78	2	1.5
SB.27	94A	SB.01	方柱	(1.3)	(2.85)	(1.75)	(5.0)	0.07	0.64	2	1.5
SB.28	94A	SB.12	方柱	(1.3)	(2.85)	(1.75)	(5.0)	0.07	0.64	2	1.5
SB.29	94A	SB.18	方柱	(1.3)	(3.40)	(2.40)	(8.4)	0.10	0.92	2	1.5
SB.30	94B	SB.17	方柱	(1.3)	(3.40)	(2.40)	(8.4)	0.12	0.92	2	1.5
SB.31	94B	SB.19	方柱	(1.3)	(3.55)	(1.95)	(4.4)	0.12	0.92	2	1.5
SB.32	94B	SB.19	方柱	(1.3)	(3.55)	(1.95)	(4.4)	0.16	0.91	2	1.5
SB.33	94B	SB.11	方柱	(1.3)	(2.80)	(2.0)	(21.0)	0.22	0.77	2	1.5
SB.34	94B	SB.06	方柱	(1.3)	4.85	4.55	22.1	0.27	0.90	2	1.5
SB.35	94B	SB.05	方柱	(1.3)	5.70	4.85	27.6	0.31	0.85	2	1.5
SB.36	94B	SB.13	方柱	(1.3)	(1.75)	(2.10)	(7.9)	0.16	0.96	2	1.5
SB.37	94B	SB.10	方柱	(1.3)	(3.80)	(1.80)	(5.3)	0.18	0.83	2	1.5
SB.38	94B	SB.14	方柱	(1.3)	5.35	4.80	25.7	0.31	0.89	2	1.5
SB.39	94B	SB.14	方柱	(1.3)	(3.80)	(1.80)	(5.3)	0.18	0.83	2	1.5
SB.40	94B	SB.20	方柱	(1.3)	(3.20)	(1.65)	(4.5)	0.08	0.76	2	1.5
SB.41	94B	SB.01	方柱	(1.3)	(5.65)	4.15	(21.4)	0.14	0.82	2	1.5
SB.42	94B	SB.02	方柱	(1.3)	(3.25)	(1.05)	(4.6)	0.16	0.91	2	1.5
SB.43	94B	SB.09	方柱	(1.3)	(5.65)	3.05	(1.1)	0.14	0.89	2	1.5
SB.44	94B	SB.07	方柱	(1.3)	(2.80)	(2.80)	(4.4)	0.17	0.96	2	1.5
SB.45	94B	SB.08	方柱	(1.3)	(4.85)	(0.75)	(3.6)	0.17	0.92	2	1.5
SB.46	94B	SB.05	方柱	(1.3)	(2.80)	(2.80)	(4.4)	0.17	0.96	2	1.5
SB.47	94B	SB.04	方柱	(1.3)	(4.85)	(2.80)	(4.4)	0.17	0.95	2	1.5
SB.48	94B	SB.04	方柱	(1.3)	(4.85)	(2.80)	(4.4)	0.17	0.95	2	1.5
SB.49	94B	SB.04	方柱	(1.3)	(4.85)	(2.80)	(4.4)	0.18	0.91	2	1.5
SB.50	94B	SB.05	方柱	(1.3)	(4.85)	(2.80)	(4.4)	0.18	0.91	2	1.5

第1表 墓穴住居一覧

新造番号	年月	平面形状	戸番	階数	面積	床面積	床さき	床面積	壁際の窓（深さm）	柱穴の深さ（深い順、m）	柱の位置	備考（特徴など）
SH-41	99.6	SH-15	15	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-42	99.6	SH-16	16	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-43	99.6	SH-17	17	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-44	99.6	SH-18	18	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-45	99.6	SH-19	19	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-46	99.6	SH-20	20	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-47	99.6	SH-21	21	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-48	99.6	SH-22	22	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-49	99.6	SH-23	23	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-50	99.6	SH-24	24	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-51	99.6	SH-25	25	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-52	99.6	SH-26	26	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-53	99.6	SH-27	27	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-54	99.6	SH-28	28	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-55	99.6	SH-29	29	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-56	99.6	SH-30	30	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-57	99.6	SH-31	31	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-58	99.6	SH-32	32	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-59	99.6	SH-33	33	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-60	99.6	SH-34	34	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-61	99.6	SH-35	35	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-62	99.6	SH-36	36	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-63	99.6	SH-37	37	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-64	99.6	SH-38	38	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-65	99.6	SH-39	39	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-66	99.6	SK-21	21	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-67	99.6	SK-22	22	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-68	99.6	SK-23	23	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-69	99.6	SK-24	24	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-70	99.6	SK-25	25	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-71	99.6	SK-26	26	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-72	99.6	SK-27	27	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-73	99.6	SK-28	28	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-74	99.6	SK-29	29	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-75	99.6	SK-30	30	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-76	99.6	SK-31	31	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-77	99.6	SK-32	32	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-78	99.6	SK-33	33	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-79	99.6	SK-34	34	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-80	99.6	SK-35	35	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-81	99.6	SK-36	36	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-82	99.6	SK-37	37	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-83	99.6	SK-38	38	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-84	99.6	SK-39	39	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-85	99.6	SK-40	40	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-86	99.6	SK-41	41	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-87	99.6	SK-42	42	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-88	99.6	SK-43	43	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-89	99.6	SK-44	44	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-90	99.6	SK-45	45	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-91	99.6	SK-46	46	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-92	99.6	SK-47	47	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-93	99.6	SK-48	48	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		
SH-94	99.6	SK-49	49	2F	77.0	60.52	(1.0)	0.75	0.67	0.7		

第2表 積穴住居一覧

## (2) 据立柱建物

(第19図・第3表)

**掘立柱建物** 柱穴が一定の間隔で方形列状に並ぶものを分類しており、桁行2間×梁行1間のものが2(1)棟、桁行3間×梁行1間のものが1棟、桁行4間×梁行1間のものが1棟、桁行3間×梁行2間のものが1棟ある。面積は $4.2\text{ m}^2 \sim 14.4\text{ m}^2$ で、小型の建物である。

分 布 北調査区の96 D区で1棟、東調査区の93 A b区で1棟、西I調査区の95 C b区で3棟、同96 A区で1棟検出されている。96 D区の他は比較的堅穴住居とは分布が重ならない部分の微高地に占地しているのが特徴である。

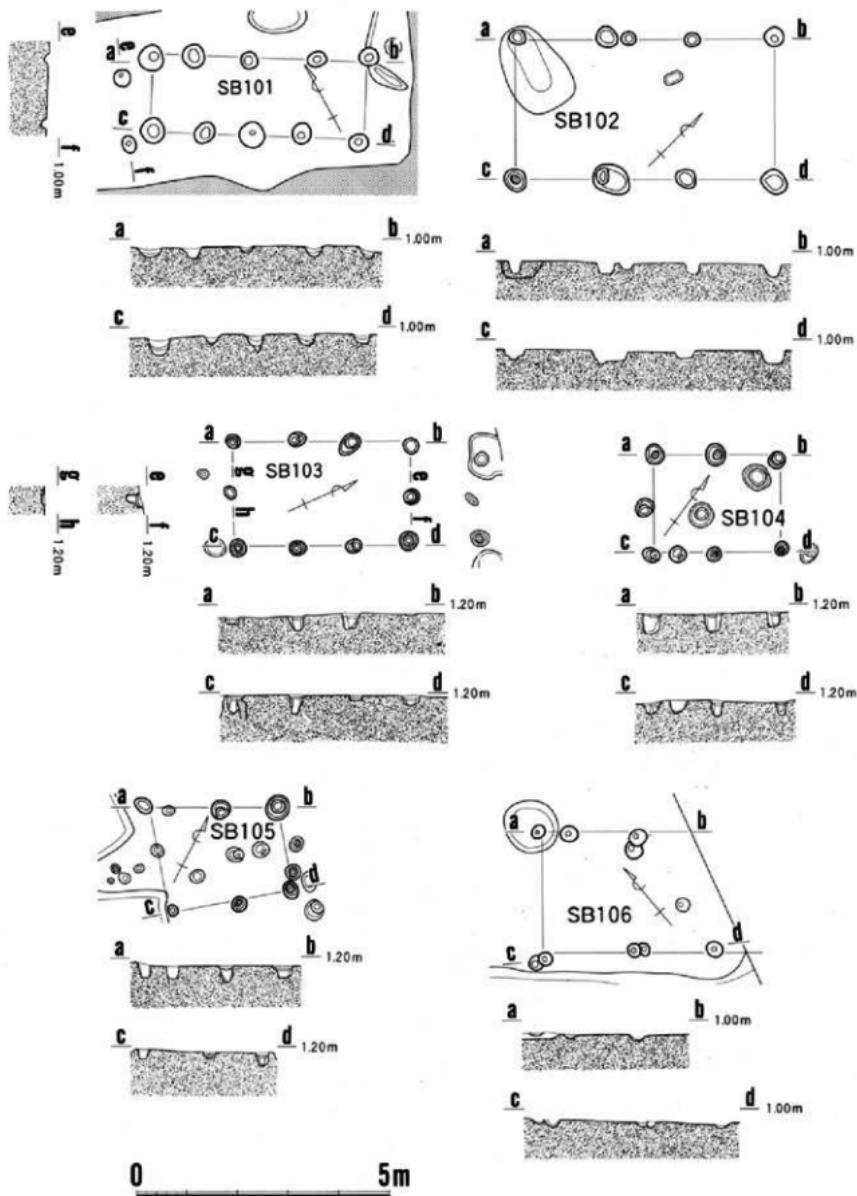
柱間 術行の柱間1間1.1m～1.3m程でS.B.

106のみ1間1.70mある。また梁行の柱間は1.65m~2.30mでS B 102のみ2.80mあるが、全て高床建物と思われる。

柱 穴 柱穴の径はSB 101やSB 102で長径50cmを越えるものが数個みられるが、基本的には長径でも20cm~40cm、深さ20cm~30cmのものである。柱穴の深さについては5cm~42cmまで幅があり、1つの建物においても30cm以上の深さの差があるもの(SB 103)がある。柱材が残っていたものはないが、柱跡痕が残っていた建物の観察から、ほぼ柱穴に合わせた径15cm~30cmの柱材が使われた状況が推定できる。

建物方位 N-59° - W ~ N-60° - E の間にあるが  
まとまりはない。

第3表 挖立柱建物一覧



第19図 掘立柱建物実測図 (1:100)

### (3) 方形周溝墓

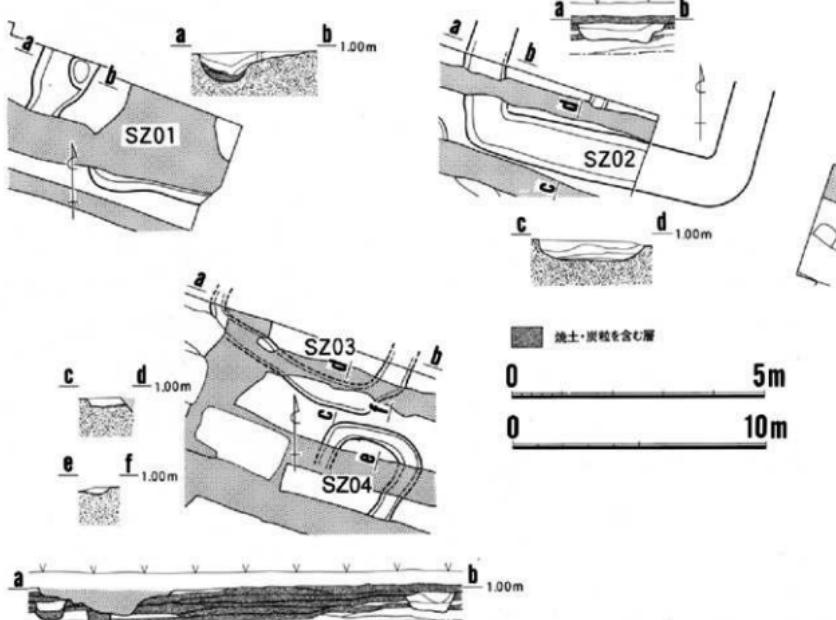
(第20図～第28図、第4表・第5表)

方形周溝墓 弥生時代の墓と考えているが、内部主体などは墳丘上部が削平されているため確認できていない。ここでは幅0.5m～3.0m、深さ1.7mまでの溝が方形状に独立して巡るものを分類している。方形の一隅が途切れるものがある。25基を確認した。

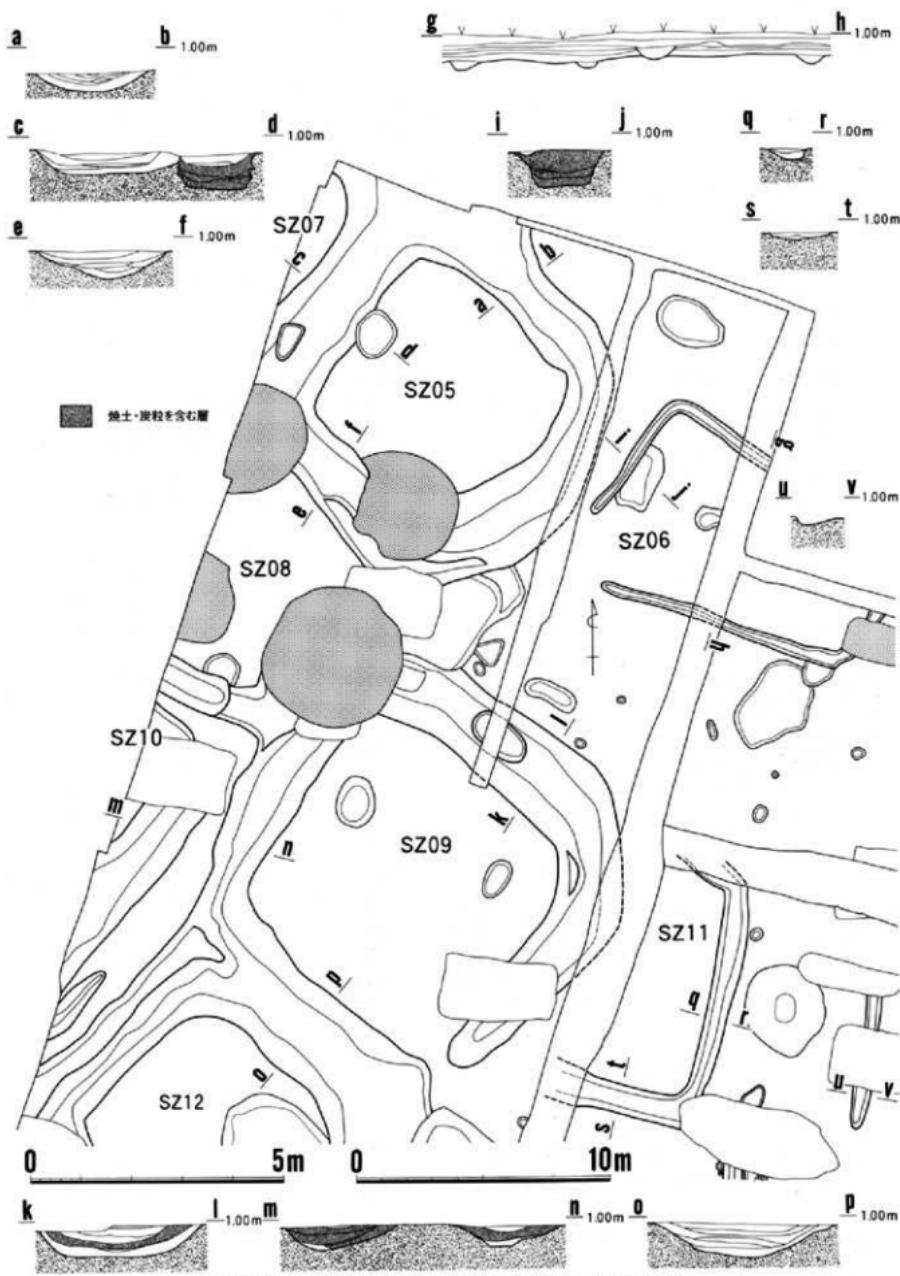
分布 方形周溝墓は北調査区の96B区1基、95F区3基と東調査区の93Aa区・93Ab区・95Aa～95Ac区・93D区・93Ba区・95Ba区・95E区のはば全範囲で21基検出されており、一色青海遺跡の東縁部南北にのびる微高地上に偏って分布している。

方位 方形周溝墓の方位(溝の方位)についてはN45°～W前後のもの(SZ05～SZ10・SZ12～SZ18・SZ20a～SZ23・SZ25)とN10°～E前後のもの(SZ01～SZ03・SZ11・SZ19・SZ24)の2つに分かれる。後者のSZ11・SZ19は前者の方形周溝墓より重複関係で古く、方位の異なる方形周溝墓が同時に営まれないとすると2段階の時期が存在するものと考えられる。

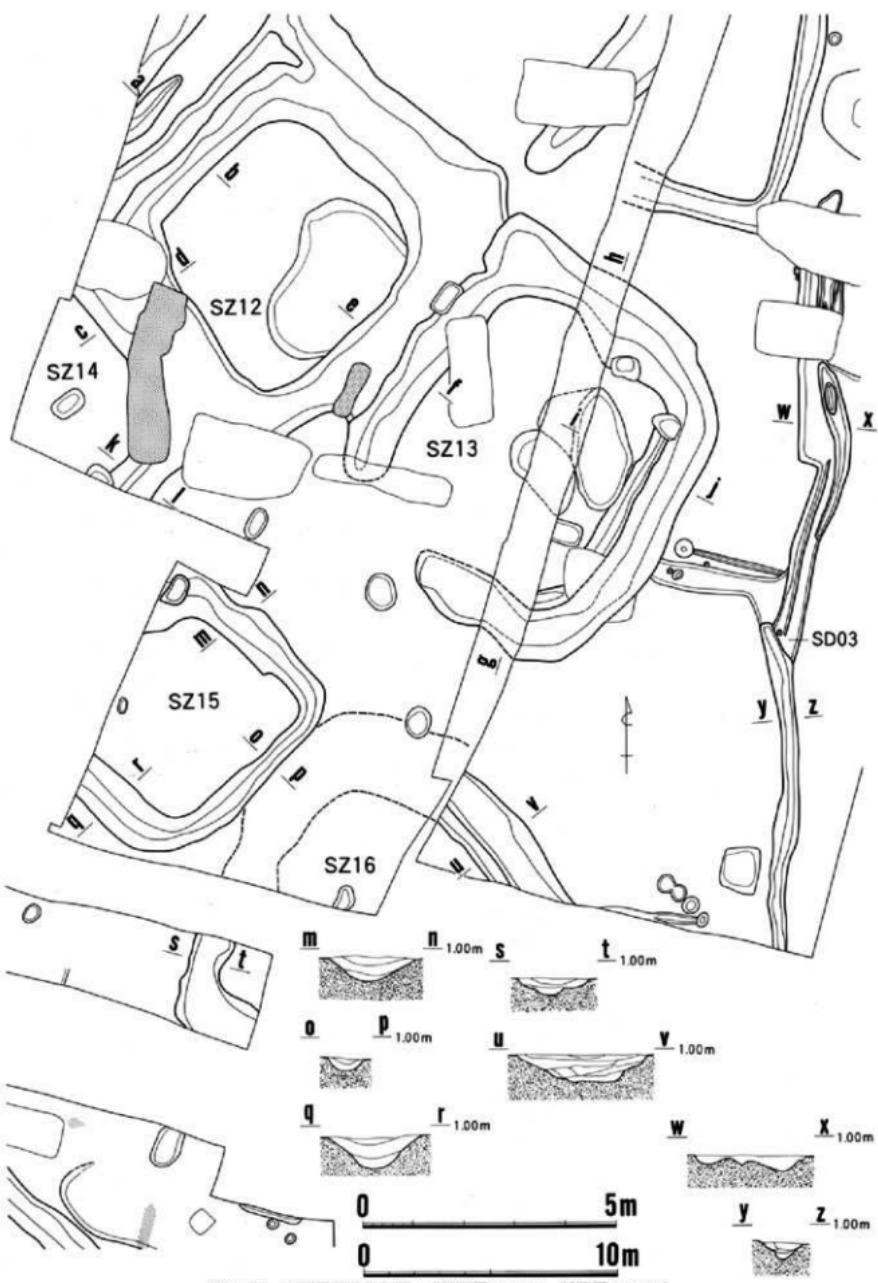
平面形態 方形周溝墓の溝の巡り方であるが基本的には正方形に近い方形状に巡るが、SZ13・SZ23は長方形状に溝が巡り、SZ13は南北12.5m、東西8.40mと明確に長方形プランをしている。またSZ06・SZ24は長台形状に溝が巡る。SZ



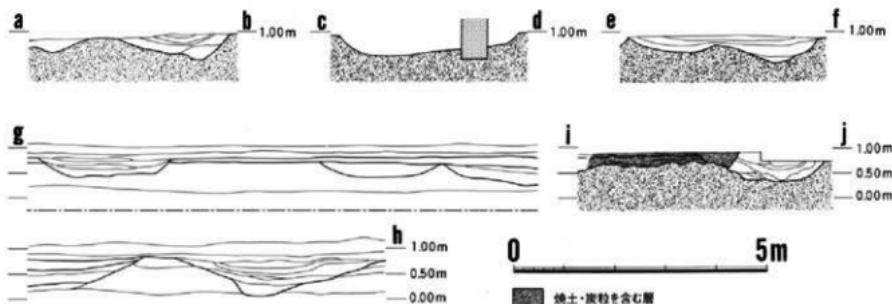
第20図 方形周溝墓実測図1 (平面図1:200、断面図1:100)



第21図 方形周溝墓実測図2(平面図1:200、断面図1:100)



第22図 方形周溝墓実測図3 (平面図1:200、断面図1:100)



第23図 方形周溝墓実測図4 (1:100)

24については西溝中央から西に枝分かれする溝があることから方形周溝墓とは異なる可能性もある。

また全体がある程度判明しているものについて、溝のコーナーが途切れる部分を1カ所もつもの(S Z 09・S Z 13・S Z 17・S Z 18・S Z 20 a・S Z 21・S Z 24)と溝の途切れる部分を2カ所もつもの(S Z 20 b)、溝が完全に全周するもの(S Z 05・S Z 12)がある。本来の姿は最も多数確認されている溝が1カ所途切れるものであるかもしれない。拡張されたと考えられる方形周溝墓S Z 20 a・S Z 20 bでは、拡張される前のS Z 20 aでは南隅が1カ所途切れるだけであったのが、拡張された後のS Z 20 bでは東隅と南隅の2カ所が途切れていたようである。溝の途切れる部分については南隅が5基(S Z 09・S Z 18・S Z 20 a・S Z 21・S Z 24)と多く、西隅が2基(S Z 06・S Z 13)、北隅が1基(S Z 17)である。

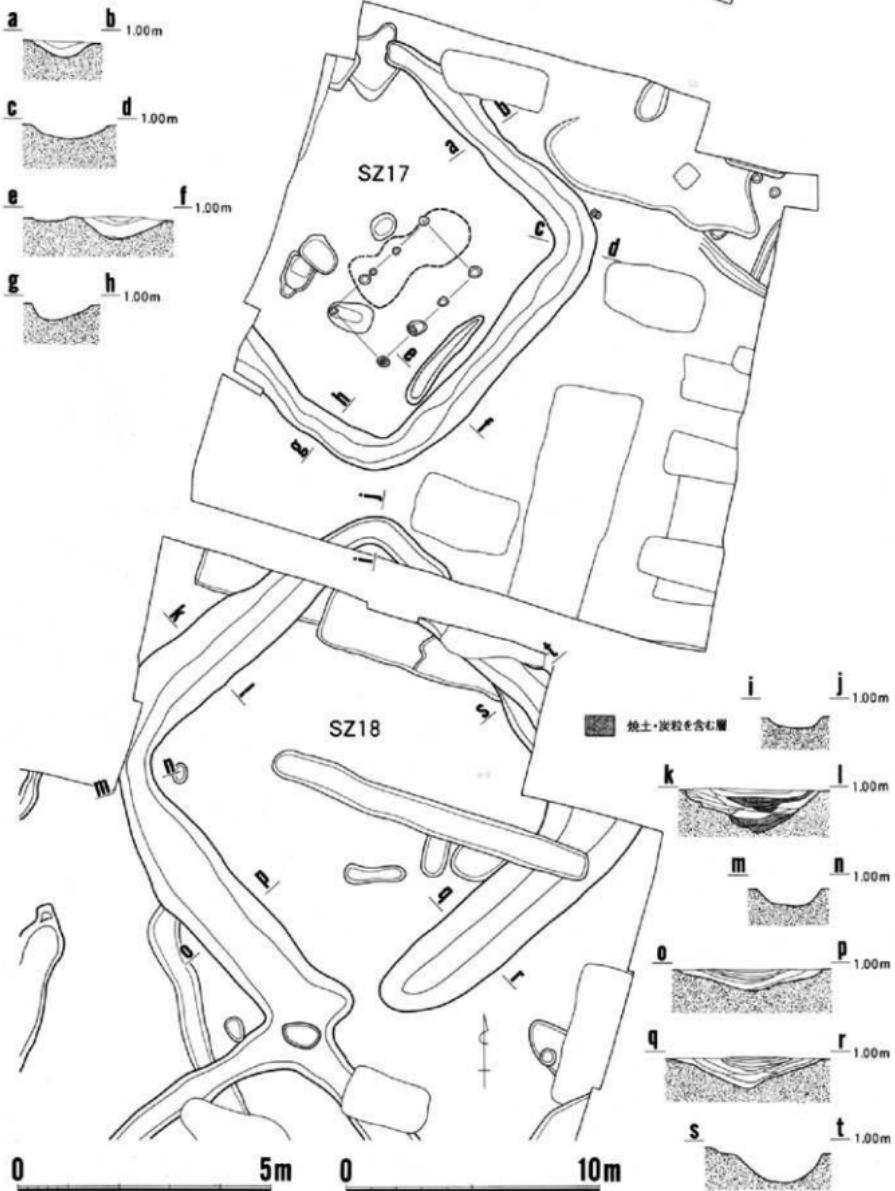
溝の断面と埋土 溝の断面は丸底状のものが基本であるが、本来はもう少し溝が細く立ち上がりが急なものであった可能性が高いが、溝断面が断面V字の薬研掘り状のものを推定できるものはなかった。

溝の埋土 溝の断面は数層から10層以上の堆積のあるものもあり、ほとんどの溝ではほぼ水平レンズ状に堆

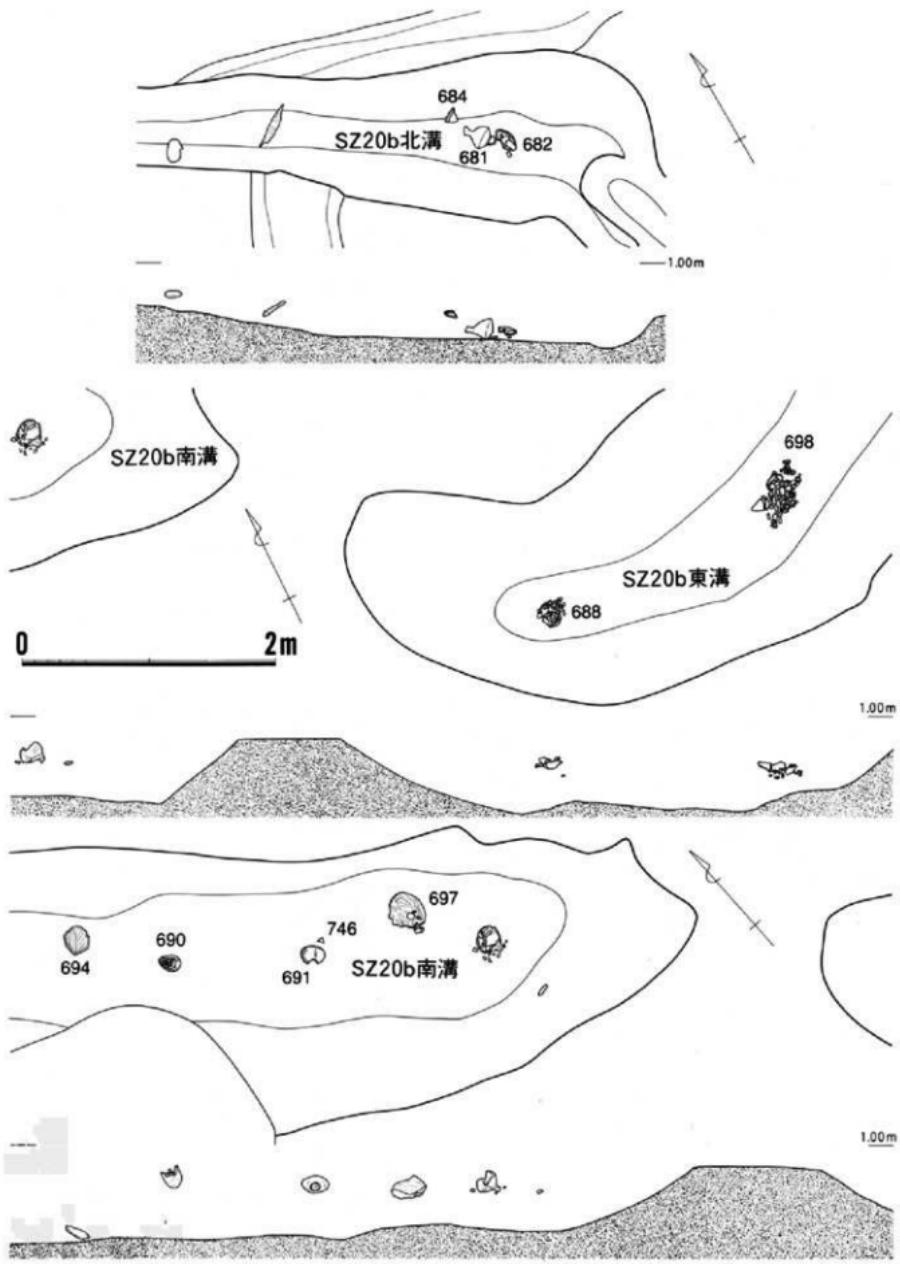
積している。S Z 01 西溝・S Z 05 南溝・S Z 20 a 東溝では一部埴丘側からの盛り土の崩落が観察できる。炭粒を含む層はあるが、あまり顕著なものはない。

遺物の出土状況 S Z 05・S Z 09・S Z 08・S Z 12・S Z 17・S Z 20 b・S Z 21などにおいて比較的完形に近い状態に復元できるものがまとまって出土しているが、溝から20cm~50cm浮いた状態で出土しているものがほとんどある。S Z 20 b 北溝・南溝の一部の土器は溝の底直上の位置から出土した。遺物の出土位置について規則性は認められないが、受口口縁の細頸壺Cが少なく内湾口縁の細頸壺D・大型の平底甕が比較的多く出土している。

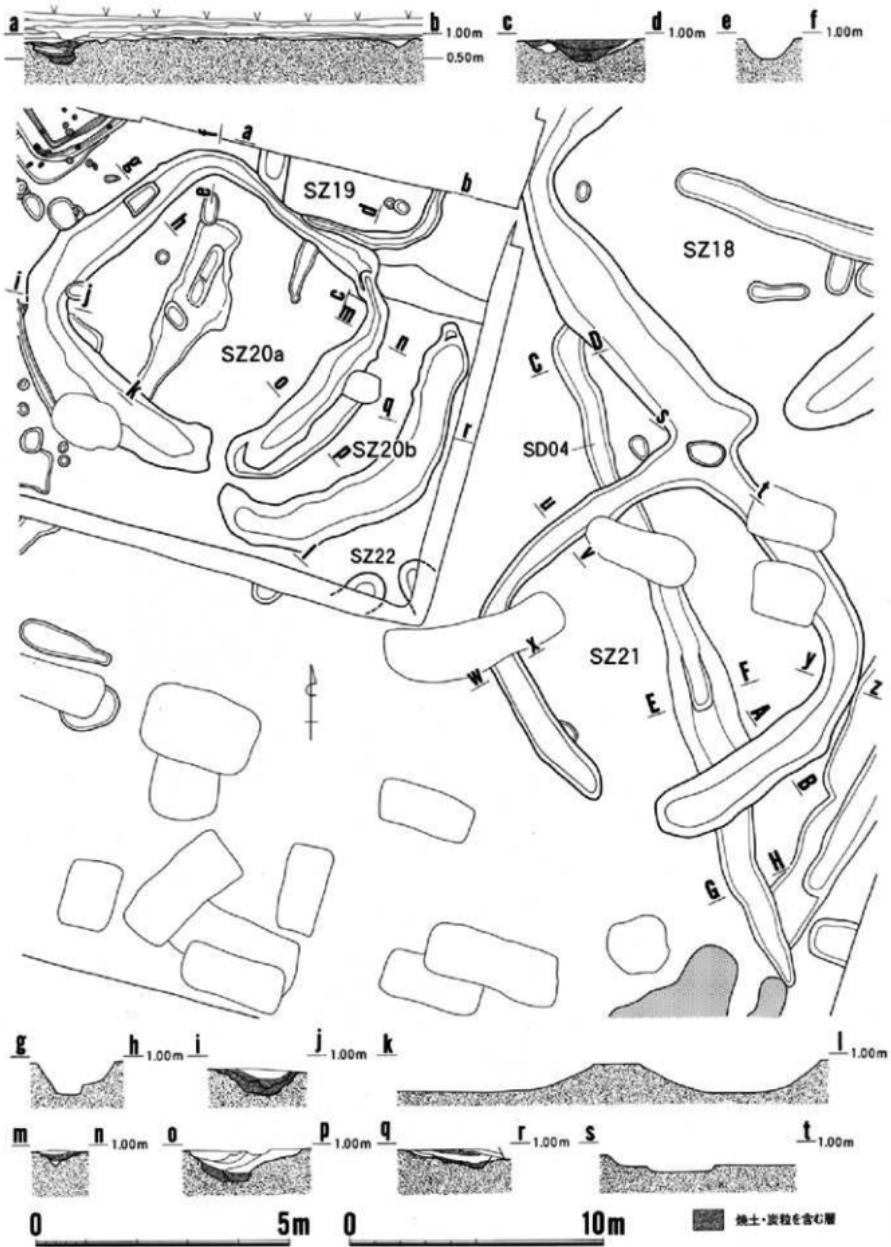
S Z 13 東溝溝底からベンガラが径10cm程の範囲で薄く残存していた。



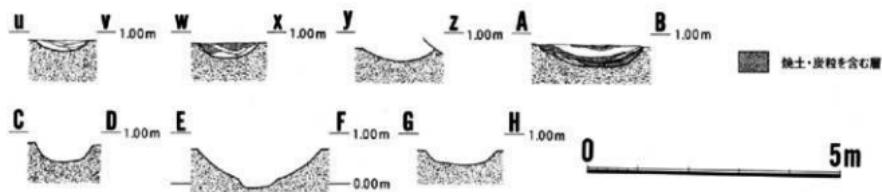
第24図 方形周溝基柵測図5(平面図1:200、断面図1:100)



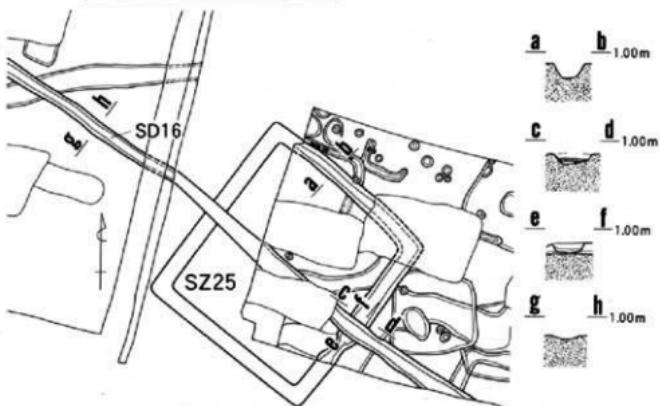
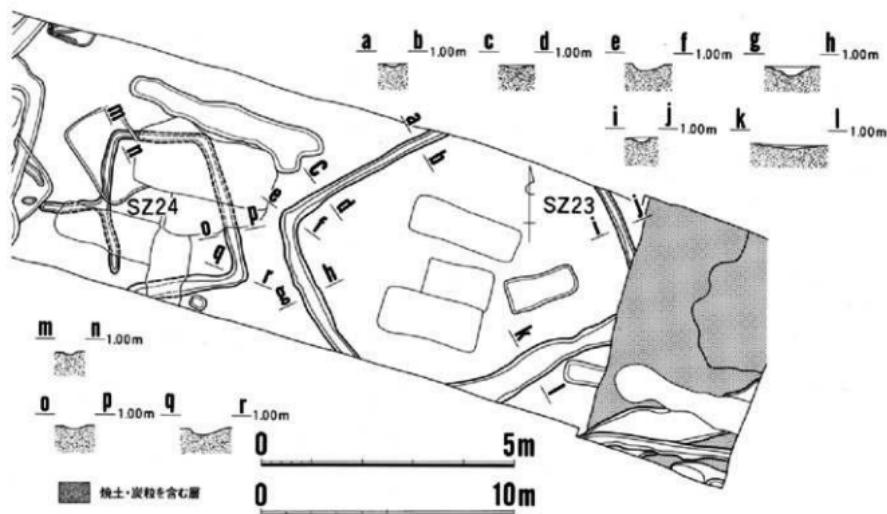
第25図 方形周溝墓 S Z 20 b 遺物出土状況図 (1:40)



第26図 方形周溝墓実測図6 (平面図1:200、断面図1:100)



第27図 方形周溝墓実測図5 (1:100)



第28図 方形周溝墓実測図8 (平面図1:200、断面図1:100)

断面構成	調査区	II1構造	方位	渦断面形態	長径(m)・薄 の厚さ(m)	短径(m)・辺 の長さ(m)	底の深さ(m)	備考
SZ_01	96B	SZA	(N-78-W)	/	(7.45)	(3.50)	/	
SZ_01西端	96B	SD01A	N-30-E	丸底?	2.20	(2.60)	0.59	
SZ_01西端	96B	SZA西端	SD01A	丸底?	2.20	/	0.59	
SZ_01東端	96B	SZA東端	渦査区外					
SZ_01南端	96B	SD02	N-78-W	丸底?	0.65	(5.00)	(0.18)	
SZ_01南端	96B	SZA南端	SD02	丸底?	0.65	/	(0.18)	
SZ_01北端	96B	SZA北端	渦査区外					
SZ_02	95F	SZA	(N-76-W)	/	(7.00)	(2.55)	/	
SZ_02西端	95F	SZA西端	SD16	平底	1.75	(3.10)	0.38	
SZ_02西端	95F	SD16	N-	平底				
SZ_02東端	95F	SZA東端	渦査区外					
SZ_02南端	95F	SZA南端	SD16	平底	2.10	(5.85)	0.43	
SZ_02北端	95F	SZA北端	渦査区外					
SZ_03東南西端	95F	SD14	N-51~75-W	平底 丸底	1.00~0.65	9.20	0.40~0.18	
SZ_04西北東端	95F	SD15	N-不定	丸底	0.50	(6.55)	0.13	
SZ_05	95Aa	SZ_01	N-43-E	/	11.10	10.45	/	Ⅲ式 c 段階
SZ_05西端	95Aa	SZ_01西端	/	平底	2.85	/	0.60~0.39	
SZ_05東端	95Aa	SZ_01東端	/	丸底	3.20	/	0.53~0.37	
SZ_05南端	95Aa	SZ_01南端	/	丸底	2.55	/	0.56	
SZ_05北端	95Aa	SZ_01北端	/	平底	2.55	/	0.40~0.27	
SZ_06西北端	95Aa	SD01	N-39-E~54-W	丸底	0.45	8.60	0.17	Ⅱ式
SZ_07	95Aa	SZC	(N-39-E)	/	(6.20)	(3.75)		
SZ_07西端	95Aa	SZC西端	渦査不明					
SZ_07東端	95Aa	SZC東端	SZ01西端?	平底	2.85	/	0.60~0.39	
SZ_07南端	95Aa	SZC南端	渦査区外					
SZ_07北端	95Aa	SZC北端	SZ01北端?	小明	不明	/	不明	
SZ_08	95Aa	SZD	(N-75-E)	/	10.40	(6.50)	/	Ⅲ式 a 段階
SZ_08西端	95Aa	SZD西端	渦査区外					
SZ_08東端	95Aa	SZD東端	渦査不明	小明	不明	/	不明	
SZ_08南端	95Aa	SZD南端	SD004B	丸底	1.60	/	0.37	
SZ_08北端	95Aa	SD04B	N-65-W	丸底	1.60	(2.80)	0.37	
SZ_08北端	95Aa	SZD北端	SZ01南端?	丸底	2.55	/	0.56	
SZ_09	95Aa	SZ_02	N-40-E	/	13.90	13.25	/	Ⅱ式
SZ_09西端	95Aa	SZ_02西端	/	平底	2.75	/	0.43	
SZ_09東端	95Aa	SZ_02東端	/	平底	2.40	/	0.68~0.48	
SZ_09南端	95Aa	SZ_02南端	/	丸底	3.60	/	0.66~0.47	
SZ_09北端	95Aa	SZ_02北端	/	平底	3.30	/	0.68	
SZ_10	95Aa	SZA	(N-44-E)	/	(8.70)	(2.80)	/	Ⅲ式 c 段階
SZ_10西端	95Aa	SZA西端	渦査区外					
SZ_10東端	95Aa	SZA東端	SD02	丸底	2.30	/	0.59~0.46	
SZ_10南端	95Aa	SZA南端	渦査区外					
SZ_10北端	95Aa	SZA北端	SD02	不明	(1.20)	/	不明	
SZ_10東端	95Aa	SD02	N-50-W~44-E	丸底	2.30	9.55	0.59~0.46	
SZ_11	95Aa	SZA	(N-12-E)	/	(9.80)	(4.35)	/	Ⅱ式
SZ_11西端	95Aa	SZA西端	渦査区外					
SZ_11東端	95Aa	SZA東端	SD03	半球?	0.75	8.45	0.22	
SZ_11南端	95Aa	SZA南端	SD03	半球?	1.25	(4.00)	0.19	
SZ_11北端	95Aa	SZA北端	SD03	半球?	0.95	(3.40)	0.09	
SZ_11北東南端	95Aa	SD03	N-	半球?				
SZ_12	95Aa	SZ_03	N-45-E	/	11.70	10.50	/	Ⅲ式 a 段階
SZ_12西端	95Aa	SZ_03西端	/	丸底	2.20	/	0.59	
SZ_12東端	95Aa	SD05	N-43-E	丸底	1.95	(1.85)	0.55	
SZ_12東端	95Aa	SZ_03東端	/	丸底	1.70	/	0.33	
SZ_12南端	95Aa	SZ_03南端	/	半球?	3.45	/	0.37	
SZ_12北端	95Aa	SZ_03北端	/	丸底	3.60	/	0.66~0.47	
SZ_13	95Aa	SZ_04	N-39-E	/	12.50	(8.40)	/	Ⅲ式 a 段階
SZ_13	95Aa	SZB	(N-27-E)	/	12.55	(4.05)	/	
SZ_13西端	95Aa	SZ_04西端	/	丸底	2.05	/	0.50	
SZ_13西端	95Aa	SZ_04西端	95Aa(SZD04)	丸底				
SZ_13東端	95Aa	SZ_04東端	95Aa(SD02)	丸底				
SZ_13東端	95Aa	SZB東端	SD02	半球?	3.10	10.05	0.59	
SZ_13南端	95Aa	SZ_04南端	/	丸底	2.30	/	0.40~0.25	
SZ_13南端	95Aa	SZB南端	SD02	半球?	2.40	(1.30)	0.57	
SZ_13北端	95Aa	SZ_04北端	/	半球?	2.00	/	0.49	
SZ_13北端	95Aa	SZB北端	SD02	半球?	3.20	(5.35)	0.42	
SZ_13北東南端	95Aa	SD02	N-	半球?				
SZ_14	95Aa	SZB	(N-43-E)	/	(7.80)	(7.00)	/	
SZ_14西端	95Aa	SZB西端	渦査区外					
SZ_14東端	95Aa	SZB東端	SD05	丸底	1.95	(1.85)	0.55	
SZ_14南端	95Aa	SZB南端	渦査区外					
SZ_14北端	95Aa	SZB北端	SZ03南端?	丸底				
SZ_15	95Aa	SZ_05	N-43-E	/	8.80	(7.60)	/	Ⅲ式 a 段階
SZ_15西端	95Aa	SZ_05西端	渦査区外					
SZ_15東端	95Aa	SZ_05東端	/	丸底	1.30	/	0.50~0.25	
SZ_15南端	95Aa	SZ_05南端	/	丸底	1.90	/	0.65~0.54	
SZ_15北端	95Aa	SZ_05北端	/	丸底	1.70	/	0.48	

第4表 方形周溝墓一覧1

第5表 方形周溝墓一覽2

(4) 溝（第22図・第25図・第26図・第29図～第31図、第6表）

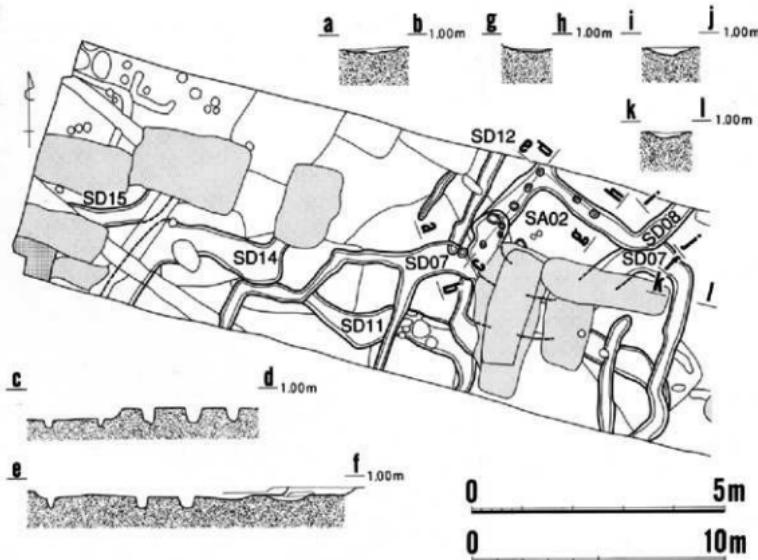
**溝** 人為的に掘られたと考えられるものを分類しているが、集落を区画すると思われるもの4条と集落の南側縁辺部に集中して見いだされるものを27条取りあげた。前者は幅が0.3m～2.4m、深さも0.2m～0.7mと幅がある比較的明確な溝であるが、後者は幅が0.2m～1.5m、深さ0.05m～0.30mとやや細く、形態的にも不明瞭な部分がある。95E区では前者の溝の後SD16が掘られている。

**分 布** 溝は集落の外部を区画すると思われるSD03・SD04・SD15・SD16と集落の南側縁辺部の微高地にそって重複して検出されるものに分かれる。後者の溝は95E区（SD06～SD14）と95C b区・96D区・95D b区（SD17

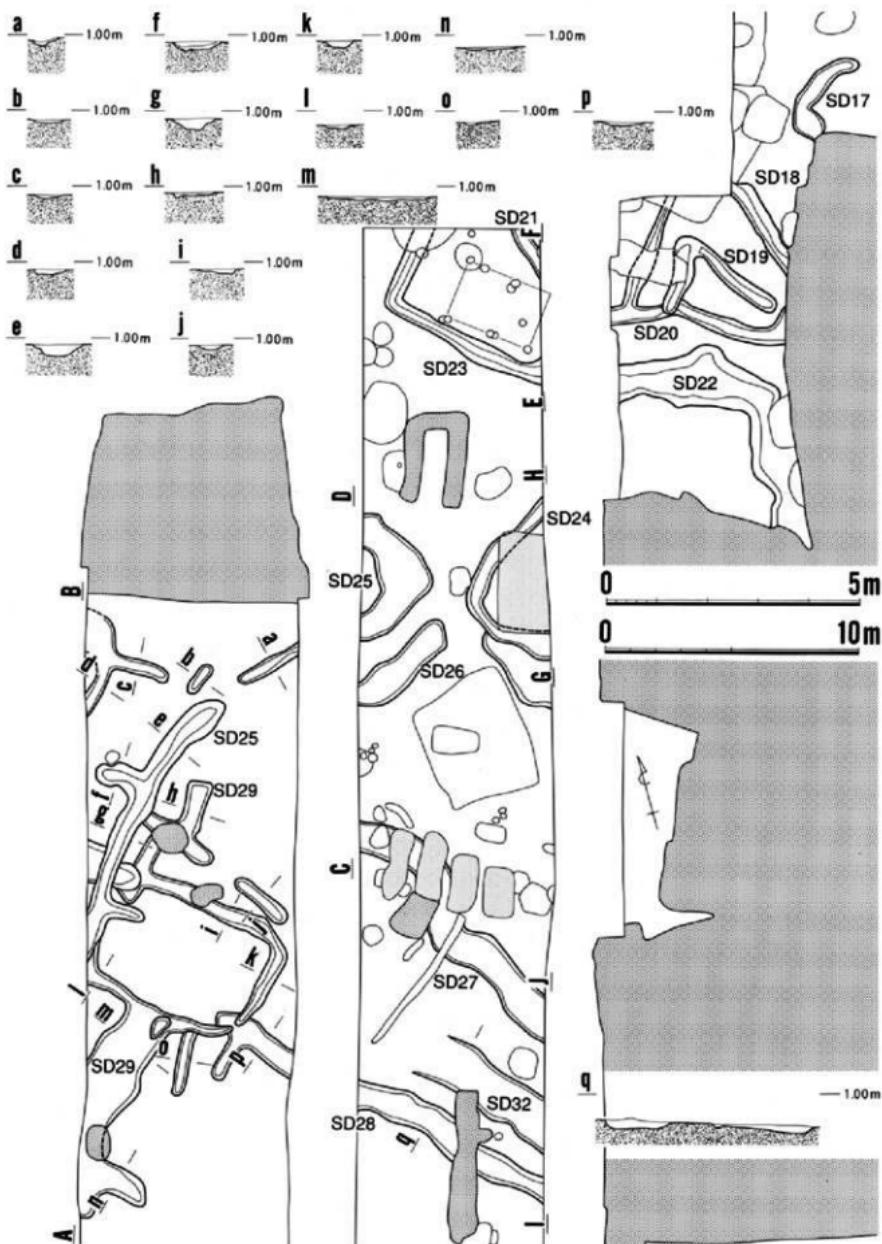
～SD32）の2調査区で検出されているが、本来は南調査区においても広く存在したものと思われる。

**通り方** 溝は基本的に全て微高地の縁辺部を等高線に沿って流れているが、SD04のみやや地形の起伏とは異なる方向をもって流れている。SD03・SD04・SD15・SD16はほぼ直線状に流れ、その他のSD06～SD14・SD17～SD32は直角に曲がって方形状に巡るもの（SD28）や鍵状に巡るもの（SD18・SD24など）、枝分かれして流れるもの（SD12・SD24など）などが重複して交差するように検出された。

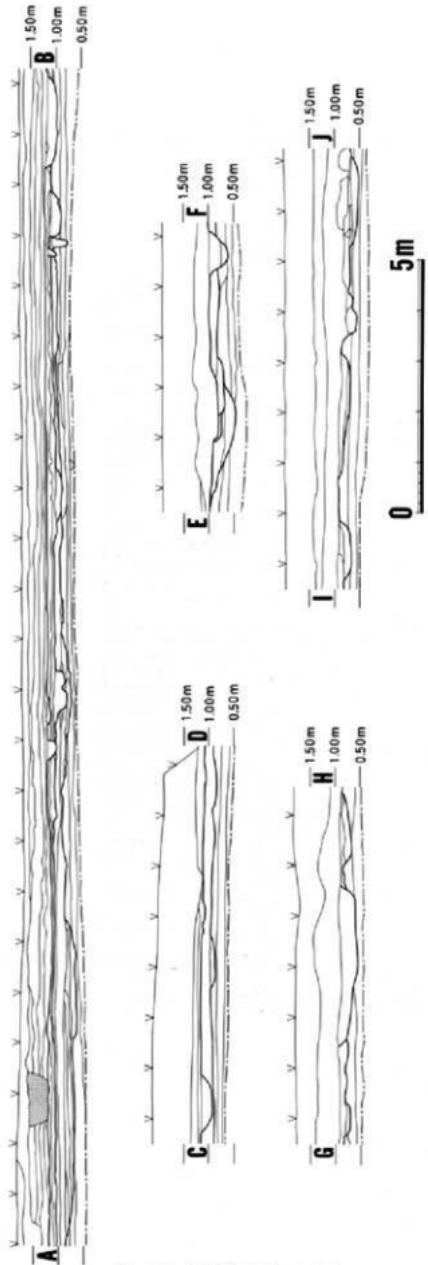
**埋土と断面** 埋土はシルト～細粒砂の單一層で埋まっているものが多く、比較的短期間に埋まつことを示しているものと思われるが、SD16やSD24の一部分では2層からなる堆積が残存してい



第29図 溝実測図1（平面図1:200、断面図1:100）



第30図 溝実測図2 (平面図1:200、断面図1:100)



第31図 溝実測図3 (1:100)

た。

断面は溝の上部がかなり削平されているものと思われるが、基本的には丸底の断面形態になるものと思われる。また残存している部分ではあるがSD 03やSD 04では底の深さに20cm~30cm程度差がある部分があり、区画溝と考えられる溝については必ずしも一方向に流れていなかったように思われる。

その他の溝についてはほぼ地形に沿って流れしており、ある程度水の流れがあったものと思われる。溝に伴う構 SD 07に伴うものとしてSA 02がある。SA 02は径30cm前後、深さ20cm~30cmの柱穴が7個南にひらく鍵状に並ぶもので北西から南東は2.7m、北東から南西は3.6mある。0.8m~1.0mの間隔で柱穴が並び、溝の方向と同一であるので溝に伴う構と考えられる。

**出土状況** 区画溝としたSD 03・SD 04・SD 15・SD 16からは少量土器が出土するが、その他の溝についてはほとんど出土しなかった。

新造橋 No	調査区	旧造橋No	流路の方向	断面形態	幅(m)	確認した長さ(m)	深さ	備考
SD 01 95C	SD 01		N-E	平底	0.60	(5.30)	0.14	～Ⅱ式
SD 02 94Aa	SD 06		N-20-E	丸底	3.30	(1.90)	0.67	
SD 03 95Aa	SD 04・SD 06		N-09-E	平底	2.20~0.60	(30.10)	0.34~0.08	Ⅲ式 a段階
SD 04 93Ba	SD 03		N-18-W	丸底	2.55	(27.65)	0.76~0.15	Ⅲ式
SD 05 95E	SD 29A		N-76-E	平底	1.95	(7.55)	0.23	
SD 06 95E	SD 28A		N-83-W	丸底	0.65	(6.10)	0.44	
SD 06 95E	SD 10		N-不記	丸底	1.60~0.70	(14.40)	0.23	
SD 06 95E	SD 16		N-76-E	平底	1.30	(2.75)	0.12	
SD 07 95E	SD 19		N-不記	平底	0.60	(9.45)	0.15	
SD 07 95E	SD 14		N-54-W, 48-E	平底	0.85	(6.70)	0.16	
SD 08 95E	SD 15		N-41-E	平底	1.05	(3.15)	0.19	
SD 09 95E	SD 12		N-03~28-E	丸底	0.70	(4.75)	0.26	
SD 09 95E	SD 11		N-64-W	平底	1.25	(2.95)	0.31	
SD 09 95E	SD 13		N-					
SD 10 95E	SD 25		N-不記	平底	1.05~0.45	(3.50)	0.14	
SD 10 95E	SD 20		N-不記	平底	0.85	(7.55)	0.26	
SD 11 95E	SD 26B		N-					
SD 12 95E	SD 29B		N-25-E	平底	0.55	(4.50)	0.15	
SD 13 95E	SD 18		N-20-E	平底	0.70~0.30	(4.00)	0.17	
SD 13 95E	SD 21		N-不記,-72-W	平底	1.90~0.65	(8.65)	(0.20)	
SD 14 95E	SD 23		N-	平底				
SD 15 95E	SD 24		N-83-E	平底	2.65	(3.65)	0.08	
SD 16 93Bb	SD 02		N-65-W	丸底	0.80	(47.15)	0.20~0.07	
93Ca	SD 02		N-50-W	丸底	0.70	(41.25)	0.17	
93Cb	SD 06		N-46-W	丸底	0.45	(11.00)	(0.08)	
94F	SD 02		N-71-W	丸底	0.40	(7.25)	0.08	
94F	SD 01A		N-46-W	平底	0.45	(1.75)	0.13	
94F	SD 01B		N-68-W	丸底	0.35	(1.15)	0.04	
95E	SD 02		N-44-E	平底	0.65	(10.00)	0.20	Ⅲ式 a段階
SD 17 95Cb	SK 74		不定記	平底	(3.65)	0.75	(0.25)	
SD 18 95Cb	SD 01		N-17-W	丸底	0.85	(4.10)	0.32~0.13	(Ⅲ式)
SD 19 95Cb	SD 03		N-35-W,-33-E	丸底	0.65	6.95	0.33~0.13	
SD 20 95Cb	SD 05		N-37-E, 53-83-W	丸底	0.70	(7.05)	0.16	Ⅱ式
SD 21 96A	SD 04		N-16-W	平底	0.60	(2.30)	0.24	
SD 22 95Cb	SD 06		N-77-W,-05-E	丸底, 平底	(1.80)	(11.85)	0.17	
SD 23 96A	SD 11		N-46-W,-42-E	丸底	0.85	(8.35)	0.31~0.07	
SD 24 96A	SD 06		N-74-W~63-E	平底	1.10~0.50	(9.30)	0.13	
95Db	SD 04		N-76-E	丸底V	0.50	(2.85)	0.17	
95Db	SD 05		N-35~57-E能	丸底	1.00~0.85	(12.20)	0.25	
SD 25 96A	SD 10		N-22-W,-56-E	平底	2.10~0.70	(6.15)	0.13	
SD 26 96A	SD 09		N-65-E	平底	1.45	(4.65)	0.25	
SD 27 96A	SD 08		N-58-W~N	平底	1.60~1.20	(11.60)	0.24	
SD 27 95Dd	SD 09		N-41-W,-46-E	平底	0.90~0.55	(5.55)	0.09	
SD 28 96A	SD 02		N-59~43-W	平底	1.40~0.80	(8.30)	0.20	Ⅱ式
95Dd	SD 08		N-不記	平底, 丸底	2.05~0.55	(34.90)	0.19~0.03	
95Dd	SD08A1区側		N-48-W	平底	6.40	4.80	/	
95Dd	SD08A北流		N-51-W	平底	0.75	6.70	0.11	
95Dd	SD08A東流		N-45-E	丸底	0.55	3.20	0.18	
95Dd	SD08A南流		不明	平底	不明	1.50~1.10	~0.9	
95Dd	SD08A南流		N-49-W	平底	0.60	6.15	0.10	
95Dd	SD08B		N-27-E	丸底	0.55	2.65	0.08	
95Dd	SD08C E.		N-50-E	平底	2.05	(4.50)	0.10	
95Dd	SD08C F.		N-42-W	平底	1.10	(2.35)	0.08	
95Dd	SD08D		N-53-W	平底	1.55~1.10	(2.55)	0.19	
95Dd	SD08E F.		N-41-W	平底	0.75	(3.10)	0.03	
95Dd	SD08E G.		N-32-E	平底	0.80	2.20	0.11	
SD 29 95Dd	SD 08		N-45-E	平底	0.65	(1.45)	0.06	
SD 30 95Dd	SD 06A		N-14~44-E,-60	丸底	0.60	(6.40)	0.11	
SD 31 95Dd	SD 07		N-34-W	丸底	0.55	2.55	0.10	
SD 32 96A	SD 05		N-42-W	平底	1.95	(6.10)	0.16	

第6表 溝一覧

#### (4) 井戸（第32図・第7表）

**井 戸** 円形大型のロート状丸底の土坑状のもので深さが遺構面から1.51mあり、-0.86mまで掘り込まれていた。9月初めの井戸内の湯水面が-0.65mであったので、十分に井戸として機能したのではないかと思われた。このSE01のみ分類した。

**分 布** 井戸は東調査区の95A a区の微高地上で検出された。

**埋 土** シルトから中粒砂が交互に堆積している。3層上面で土器と自然流木を、4層上面において自然流木と一部の建築材がまとまって出土した。土坑の上面は中世以前の複曲構造を持つ腐植土層があり込み、弥生時代以後中世に至るまで凹みとして残存していたものと思われる。井戸の周りには、径15cm程、深さ10cm程のピット群がめぐり、井戸の上屋を支えていたのかもしれない。柱痕跡は見つかなかった。

#### (4) 土坑

（第33図～第35図、第7表・第8表）

**土 坑** 長径がほぼ1m以上になる大型の土坑を96基分類し取り上げる。平面形態は円形・椭円形・長椭円形・方形・長方形と不整形なものがあり、断面形態ではロート状丸底・丸底・平底の主に3形態に分類できる。したがって形態は平面形態と断面形態の組み合わせた分類で18類になる。

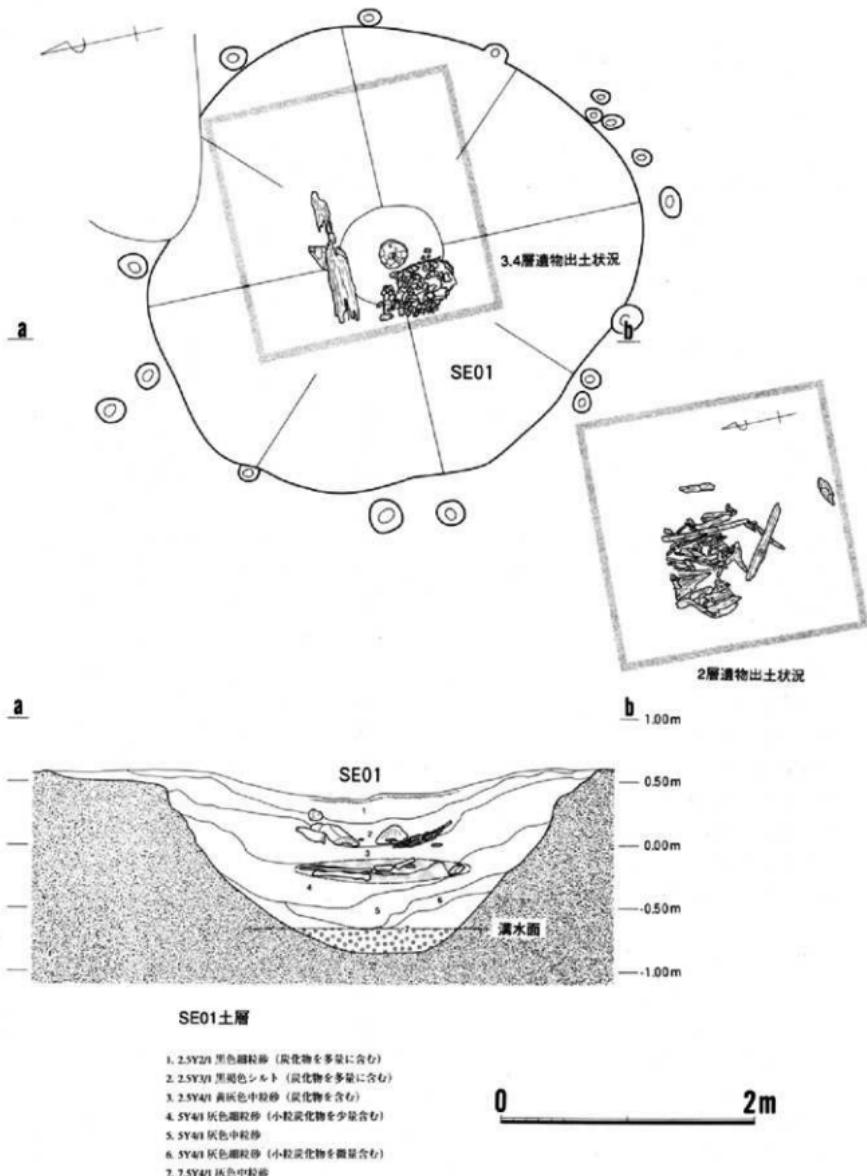
**分 布** 大型土坑の分布はほぼ居住域の分布に対応するといってよいと思われるが、堅穴住居が検出されている範囲より広い範囲で検出されており、土坑の大型のものは堅穴住居より深く掘られるため遺構の残る可能性が高いことを反映している。調査区では北調査区の94 A a区1基・95 F区2基・94 A b区1基・96 D区（93 E a区）3基・93 E b区1基、東調査区の93 A a区10基・95 A a区4基・93 A b区1基・95 B a区6基、南調査区

の93 B b区8基・94 C a区11基・94 D a区1基・94 C b区16基・94 F区1基・95 C c区1基、西1調査区の95 C a区3基・94 A e区7基・95 C b区12基・96 A区7基、西2調査区の94 B b区1基があり、堅穴住居があまり検出されていない南調査区の北側において多く検出されている点が興味深い。また95 E区において堅穴住居があるものの土坑がない点や東調査区の微高地にある93 A b区や93 B a区においてはほとんど検出されていない点も大型土坑の性格の一端を示しているように思われる。

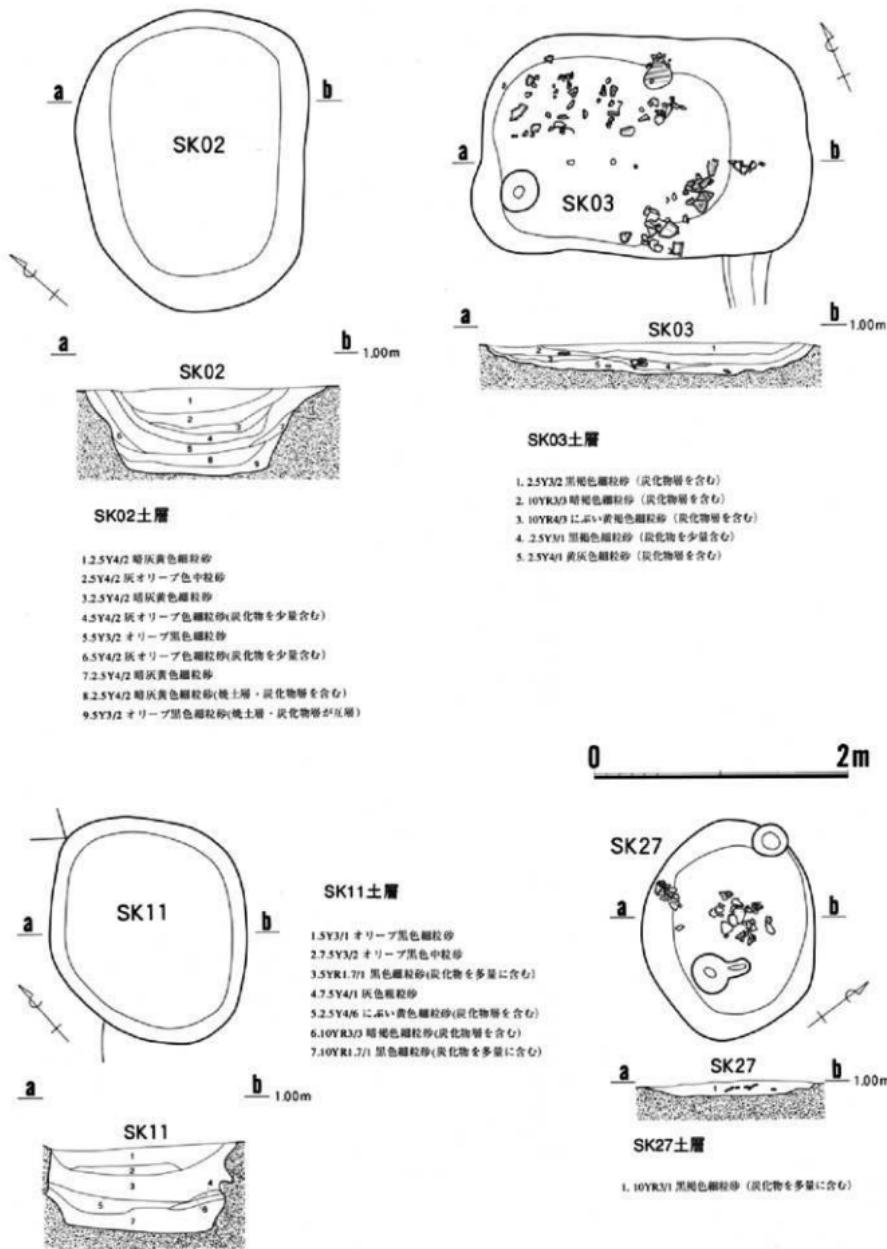
**形 態** 先述した分類に合わせると円形丸底5基、円形平底3基、椭円形ロート状丸底1基、椭円形丸底14基、椭円形平底23基、長椭円形平底1基、方形平底4基、長方形丸底4基、長方形平底13基、不定形丸底2基、不定形平底12基、不明15基（内丸底3基・平底10基）となり、大型のためか椭円形や長方形の土坑が多く、断面形態も比較的平底状になるものが多い。

**埋 土** 深さが20cm内外の浅い土坑（上部を削られて浅いものが多いと思われる）は單一の埋土によって埋まっているものもあるが、比較的深いものに関しては数層から30層程の土層が確認できる。これらの大型で深い土坑は炭層や焼土層が互層に堆積するものが多くみられ、尾張地域で調査されている阿弥陀寺遺跡などにおいても多数確認されている。土坑中の炭層や焼土層からは多くの魚類や鳥類の骨や穀類などの種子、炭化材が多数含まれている。またSK 89やSK 93では炭層や焼土層はないものの腐植物層があり、その前後の層から昆虫が多数検出されている。

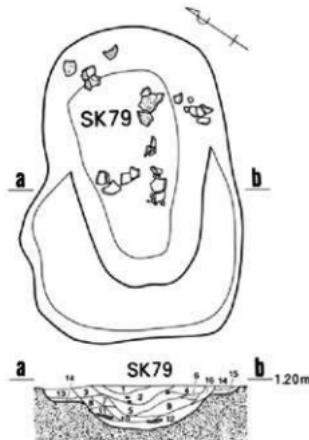
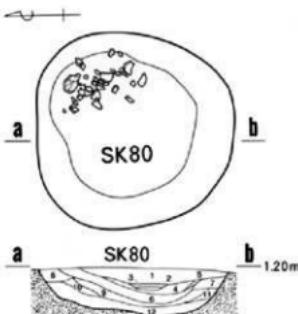
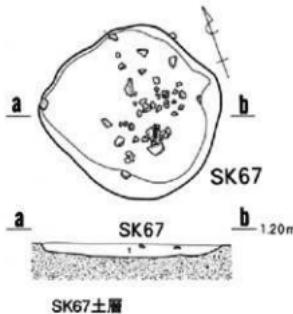
**出土状況** まとまった土器が出土する土坑（SK 30・SK 31など）とほとんど出土しない土坑（SK 02・SK 89・SK 93など）とがあり、多くの土器が出土する土坑では土坑の底面近くに検出されるものと、底から数十cm浮いた位置で外から流れ込むような形で出土するものがある。



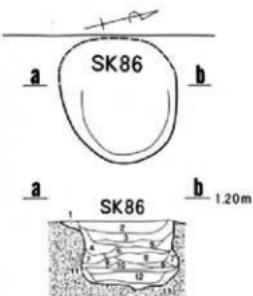
第32図 井戸遺物出土状況図 (1:40)



第33図 土坑遺物出土状況図1 (1:40)

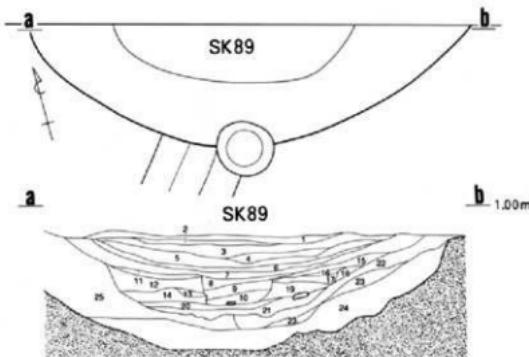


第34図 土坑遺物出土状況図2 (1:40)



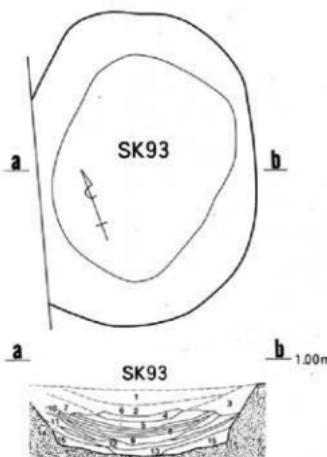
SK86土層

1. 2SY3/2 黒褐色細粒砂（炭化物を含む）
2. 10YR2/2 黑褐色細粒砂（炭化物を含む）
3. 10YR6/2 灰褐色中粒砂（焼土粒を含む）
4. 10YR2/3 黑褐色細粒砂
5. 10YR2/3 黑褐色細粒砂
6. 2.5Y4/2 暗灰褐色細粒砂
7. 10YR5/1 暗褐色中粒砂
8. 10YR2/2 黑褐色細粒砂（炭化物を含む）
9. 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂（地土）
10. 10YR1.7/1 黑色細粒砂（炭化物を含む）
11. 10YR3/1 黑褐色細粒砂
12. 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂（地土）
13. 2.5Y4/2 暗灰褐色細粒砂（炭化物を含む）



SK89土層

1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト
2. 2SY3/1 黒褐色シルト
3. 5Y4/1 灰色シルト
4. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト
5. 5Y4/1 暗色シルト（炭化物を多量に含む）
6. 7.5Y4/1 灰色シルト
7. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト（腐食物を多量に含む）
8. 2SY3/1 黑褐色シルト（腐食物を多量に含む）
9. 5Y3/1 オリーブ黒色細粒砂（腐食物を多量に含む）
10. 2SY3/1 黑褐色細粒砂（腐食物を多量に含む）
11. 5Y3/1 オリーブ黑色シルト（腐食物を少量含む）
12. 2SY4/1 黄褐色シルト
13. 2SY4/1 黑褐色シルト（腐食物を含む）
14. SY3/1 オリーブ黒色細粒砂
15. 2SY4/1 黄褐色中粒砂
16. 2SY4/1 黄褐色シルト
17. 2SY4/1 黄褐色中粒砂
18. SY4/1 灰色シルト
19. 2.5Y3/1 黒褐色シルト（腐食物を含む）
20. 2SY3/1 黄褐色シルト
21. 5Y3/1 黑色シルト（腐食物を含む）
22. 2SY6/1 黄褐色細粒砂・堆積砂の互層
23. 2SY4/1 黄褐色細粒砂
24. 2SY3/1 黄褐色中粒砂（焼土粒を含む）
25. 2SY4/1 黄褐色細粒砂
26. 2SY4/1 黄褐色細粒砂（腐食物を含む）



SK93土層

1. SY3/1 黑褐色シルト
2. 2SY3/2 黑褐色シルト
3. 2SY3/2 黑褐色細粒砂
4. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト
5. SYW1 黄褐色シルトとの互層
5. SY2/1 黑色シルト
- 2SYW1 黄褐色シルトとの互層（炭化物を含む）
6. 5Y3/1 灰色シルト
7. 3Y2/1 黑色シルト（腐食物を含む）
8. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト（炭化物を少量含む）
9. 5Y2/1 黑色シルト（炭化物を含む）
10. 7.5Y4/1 灰色シルト（炭化物層との互層）
11. 7.5Y5/1 灰色中粒砂
12. 7.5Y5/1 灰色シルト
13. 7.5Y4/1 灰色シルト（炭化物を少量含む）
14. 7.5Y5/1 灰色細粒砂
15. 5Y4/1 灰色細粒砂（炭化物を少量含む）

第35図 土坑遺物出土状況図3 (1:40)

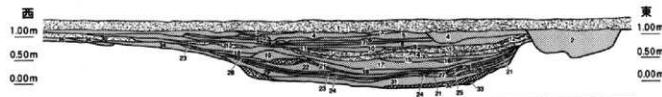
新造 機No	調査 区No	旧造構 面形態	断面形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	備考
SE 01	95Aa	SK 10	円形	丸底	3.65	3.20	1.51 Ⅲ式
SK 01	94Aa	SK 22	不定形	平底	1.25	1.05	0.09
SK 02	95F	SK 14	椭円形	平底	2.40	1.80	0.75
SK 03	95F	SK 06	長方形	平底	2.60	1.75	0.32 Ⅲ式 c 段階
SK 04	96D	SK 101	長方形	平底	1.00	0.90	0.19
SK 05	96D	SK 104	円形	平底	0.90	0.80	0.50
SK 06	94Ab	SK 44	長方形	平底	2.90	2.35	0.10 Ⅲ式 a 段階
SK 07	93Ea	SD 03	N-07-E	平底	5.70	(1.90)	0.12 Ⅲ式 b 段階 ~ Ⅲ式 c 段階
	93Ea	SK 03	不明		(2.75)	(1.30)	0.30
	96D	SX 01	方形?	平底	7.50	(3.55)	0.45
SK 08	93Eb	SK 07	椭円形	平底	1.45	1.05	0.06
SK 09	93Aa	SK 10	椭円形	平底	2.80	1.85	0.21
SK 10	93Aa	SK 09	椭円形	平底	2.65	1.60	0.68 Ⅲ式
SK 11	93Aa	SK 23	椭円形	平底	1.95	1.55	(0.68) Ⅲ式 c 段階
SK 12	93Aa	SK 18	不明?	丸底?	不明	5.50	0.317 Ⅲ式
SK 13	93Aa	SK 10	椭円形	平底	1.40	0.90	0.14 Ⅰ式 b 段階
SK 14	93Aa	SK 106	長方形	平底	2.40	1.50	0.53 Ⅰ式 b 段階
SK 15	93Aa	SK 107	椭円形	丸底	2.40	1.55	0.25
SK 16	93Aa	SK 102	長方形	平底	4.20	2.60	0.21
SK 17	93Aa	SK 27	不定形?	平底	6.60	(4.55)	0.57 Ⅰ式 b 段階
SK 18	93Aa	SK 29	不明?	平底?	(4.15)	(0.20)	(0.40)
	95Aa	SK 17	椭円形	平底?	4.85	2.45	0.68 Ⅰ式 b 段階
SK 19	93Aa	SK 28A	不明	平底	(2.45)	(0.90)	(0.59)
SK 20	95Aa	SK 01B	長方形	平底	1.90	1.55	0.31
SK 21	95Aa	SB 11	不明	/	(5.50)	(2.55)	0.24
	95Aa	SK 03	不明	平底			
SK 22	93Aa	SK 101	不明?	平底	(1.75)	(1.00)	0.05
SK 23	93Ab	SK 13	長方形?	丸底	1.80	1.20	0.37
SK 24	95Ba	SD 08	N-32-W	平底	1.25	(1.30)	0.31
SK 25	95Ba	SK 15	椭円形	平底?	1.05	0.85	0.27
SK 26	95Ba	SK 07	長方形	平底	2.50	0.90	0.16 Ⅰ式 b 段階
SK 27	95Ba	SK 21	椭円形	平底	1.75	1.35	0.19 Ⅲ式
SK 28	95Ba	SK 25	不定形?	丸底	1.30	0.72	0.80
SK 29	95Ba	SK 97	長方形?	平底	3.70	1.45	0.79 Ⅲ式
SK 30	93Bb	SK 01	不明?	丸底?	(2.50)	(1.80)	0.23 Ⅰ式 b 段階
SK 31	93Bb	SK 03	円形	丸底	1.50	1.50	0.28 Ⅰ式 b 段階
SK 32	93Bb	SK 05	椭円形	平底	1.40	0.85	0.08
SK 33	94Cn	SK 01	長方形	平底	2.25	1.20	0.26 Ⅲ式 a 段階
SK 34	94Cn	SK 14	方形?	平底	1.10	0.90	0.06
SK 35	94Cn	SK 08	椭円形	丸底	1.70	0.90	0.40 Ⅲ式
SK 36	94Cn	SK 10	不定形?	平底	1.50	1.25	0.14
SK 37	94Cn	SK 09	椭円形	丸底	1.10	0.80	0.58
SK 38	94Cn	SK 16	椭円形	丸底	1.55	0.90	0.55
SK 39	94Cn	SK 22	椭円形	平底	(1.10)	0.95	0.08
SK 40	94Cn	SK 41	椭円形	平底	0.17	0.14	0.18
SK 41	94Cn	SK 47	方形?	平底?	1.35	1.25	0.27 Ⅲ式?
SK 42	94Cn	SK 48	椭円形	平底	2.45	1.00	0.21 Ⅲ式?
SK 43	94Cn	SK 38	椭円形	丸底	1.35	0.80	0.15
SK 44	93Bb	SK 53	不定形?	平底	1.00	0.90	0.08
SK 45	93Bb	SK 52	不定形?	平底	2.10	1.75	0.05
SK 46	93Bb	SK 51	円形	平底	0.80	0.70	0.04
SK 47	93Bb	SK 50	不定形?	平底	1.65	1.40	0.19
SK 48	93Bb	SK 41	不明?	丸底	(5.00)	(1.50)	(1.29)
	94Da	SK 02	不明	平底	(4.55)	(2.35)	0.52
SK 49	94Cn	SK 09	長方形	平底	(2.30)	1.10	0.36 Ⅰ式 b 段階
SK 50	94Cn	SK 11	椭円形	丸底	(1.80)	1.50	0.46 Ⅲ式 ~ Ⅲ式 a 段階
SK 51	94Cn	SK 06	不明	丸底	(0.80)	(0.25)	0.15 Ⅰ式 ~ Ⅱ式
SK 52	94Cn	SK 07	長方形?	平底	1.75	(0.80)	0.30
SK 53	94Cn	SK 15	椭方形?	平底	2.25	1.15	0.45
SK 54	94Cn	SK 16	椭円形	丸底?	1.70	0.70	0.29
SK 55	94Cn	SK 18	長方形	平底	2.80	1.60	0.11 Ⅲ式?
SK 56	94Cn	SK 26	椭円形	平底	3.30	0.80	0.24 Ⅲ式
SK 57	94Cn	SK 29	椭円形	丸底	2.20	1.15	0.47 Ⅲ式 a 段階 ~ Ⅲ式 b 段階
SK 58	94Cn	SK 44	不定形?	平底	3.40	2.70	0.16 Ⅲ式
SK 59	94Cn	SK 56	長方形	丸底	1.35	0.80	0.25
SK 60	94Cn	SK 53	椭円形	平底	1.65	0.90	0.23 Ⅲ式
SK 61	94Cn	SK 54	椭円形	丸底	(0.75)	0.55	0.10
SK 62	94Cn	SK 59	椭円形	平底	(1.30)	1.20	0.09 Ⅰ式 b 段階
SK 63	94Cn	SK 76	長方形	丸底	1.90	0.80	0.30 Ⅲ式
SK 64	94Cn	SK 66	椭円形	丸底	1.00	0.75	0.14 Ⅲ式 a 段階

第7表 井戸・土坑一覧1

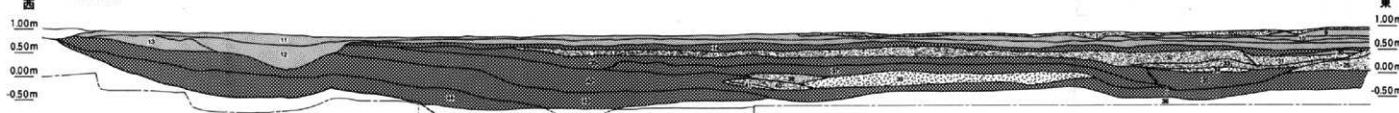
新渡 橋No	調査 区 No	II) 造構 SK	平面形態	断面形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	備考
SK 65	94F	SK 12	不明	平底	(1.40)	(0.85)	0.06	II式
SK 66	95Cc	SK 10	長方形	平底	1.70	1.00	0.48	
SK 67	95Ca	SK 05	不定形	平底	1.45	1.35	0.13	II式
SK 68	95Ca	SK 09	長方形?	丸底	(1.95)	1.20	0.18	II式~
SK 69	95Ca	SK 18	円形	丸底	0.70	0.70	0.54	
SK 70	94Ac	SK 23	橢円形	丸底	(1.00)	0.75	0.32	II式~
SK 71	94Ac	SK 29	不定形	平底	(2.75)	(2.25)	(0.19)	
SK 72	94Ac	SK 29	不明	平底	4.50	(4.30)	0.29	
SK 73	94Ac	SK 28	不明	平底?	(3.65)	(1.70)	(0.38)	
SK 74	94Ac	SK 27	不明	平底?	(1.90)	(0.75)	(0.11)	
SK 75	94Ac	SK 03	橢円形	平底	1.95	0.95	0.22	III式 a段階
SK 76	94Ac	SK 01	不定形	平底	2.45	1.25	0.10	II式~ III式
SK 77	95Cb	SK 09	橢円形	平底	1.50	1.05	0.23	II式~
SK 78	95Cb	SK 04	不明	平底	(2.55)	(1.35)	0.48	I式~ II式
SK 79	95Cb	SK 12A	不定形	丸底	2.50	1.55	0.45	II式
SK 80	95Cb	SK 52	円形	丸底?	1.60	1.55	0.37	II式
SK 81	95Cb	SK 137	橢円形	平底	1.90	1.40	0.51	II式
SK 82	95Cb	SK 138	橢円形	平底	0.95	0.07	(0.00)	
SK 83	95Cb	SK 07	橢円形	丸底	3.10	1.55	0.74	
SK 84	95Cb	SK 64	長?方形?	平底	(1.30)	(1.00)	(0.15)	
SK 85	95Cb	SK 05	橢円形	丸底	1.65	1.15	0.49	II式
SK 86	95Cb	SK 10	橢円形?	平底	(1.00)	0.90	0.54	II式
SK 87	95Cb	SK 134	不明	平底	(2.40)	(0.65)	(0.67)	
SK 88	95Cb	SK 08	方形	平底	1.80	1.60	0.36	II式
SK 89	96A	SK 32	円形?	平底	(2.85)	(0.95)	(0.71)	(II式~)
SK 90	96A	SK 28	橢円形	B-1状丸底	0.90	0.80	(0.32)	
SK 91	96A	SK 26	円形?	丸底	1.20	(0.50)	0.28	II式~ III式
SK 92	96A	SK 27	円形	丸底	0.75	(0.65)	0.26	
SK 93	96A	SK 25	橢円形	平底	2.40	1.90	0.57	
SK 94	96A	SK 23	方形?	平底	(1.65)	(0.95)	0.12	
SK 95	96A	SK 22	橢円形	丸底	1.55	1.15	0.21	
SK 96	94Bb	SK 23	長方形	平底	2.40	(1.20)	0.24	III式 b段階

第8表 井戸・土坑一覧2

NR01



NR03



NR03 土層

1. 2.5Y3/2 黑褐色細粒砂 一部で2.5Y6/2 黄褐色細粒砂を含む	10. SY5/2 淡オーリーブ色シルト	19. 2.5Y6/1 黄褐色中粒砂	28. 2.5Y5/1 黄褐色細粒砂	37. 2.5Y5/2 喀灰黄色中粒砂 (有機物を含む)	41. 2.5Y4/1 黄褐色粗粒砂 (有機物を少量含む)
2. 2.5Y4/1 黄灰色シルト	11. SY5/1 黄灰色シルト (灰化物の堆積を含む)	20. 2.5Y6/1 黄褐色中粒砂	29. 2.5Y3/2 黑褐色細粒砂	38. 2.5Y4/1 黄褐色細粒砂 (有機物を含む)	42. 2.5Y4/1 黄褐色中粒砂 (有機物を含む)
3. 2.5Y4/1 黄灰色シルト	12. SY5/1 黄灰色シルト	21. 2.5Y5/1 黄灰色シルト	30. 2.5Y4/2 喀灰黄色シルト (一部灰化物を含む)	39. 2.5Y6/1 黄褐色粗粒砂 (有機物を含む)	43. 2.5Y4/1 黄褐色中粒砂 10YR4/1 黄褐色中粒砂 の互層
4. 2.5Y4/1 黄灰色シルト	13. 2.5Y3/1 黑褐色シルト	22. SY5/1 淡オーリーブ色細粒砂	31. 2.5Y4/1 黄褐色細粒砂	40. 2.5Y4/1 黄褐色中粒砂 (有機物を含む)	44. 2.5Y4/1 黄褐色中粒砂 (有機物を少量含む)
5. 2.5Y4/1 黄灰色シルト (灰化物を含む)	14. 2.5Y6/1 黄褐色中粒砂	23. SY5/1 黄褐色中粒砂	32. 2.5Y4/1 黄褐色細粒砂		
6. 2.5Y5/1 黄灰色中粒砂	15. 2.5Y3/2 黄灰色シルト (有機物・流水を含む)	24. SY5/2 淡オーリーブ色中粒砂	33. 2.5Y3/1 黄褐色細粒砂		
7. 2.5Y3/1 黑褐色シルト	16. 2.5Y4/1 黄灰色シルト (有機物を含む)	25. 2.5Y5/1 黄褐色細粒砂	34. 2.5Y4/1 黑褐色中粒砂		
8. 2.5Y4/1 黄灰色シルト	17. 5Y4/1 黄灰色細粒砂 (有機物を含む)	26. 2.5Y3/1 黄褐色細粒砂	35. 2.5Y4/2 黑褐色中粒砂		
9. 2.5Y2/1 黑色シルト	18. 2.5Y5/1 黄灰色細粒砂	27. 2.5Y4/2 喀灰黄色細粒砂 (有機物を含む)	36. 2.5Y4/2 喀灰黄色粗粒砂 (有機物を含む)		

第36図 旧河道土壌断面図(1:80)

## NR04



## NR04 土層

1. 2.5Y4/3	オリーブ褐色細粒砂 (耕作土)	12. 2.5Y5/2	暗灰黄色細粒砂	23. 2.5Y4/2	暗灰黄色細粒砂 (炭化物を少量含む)	34. 5Y4/1	灰色細粒砂	45. 2.5Y4/1	黄灰色シルト (炭化物を少量含む)	56. 5Y4/1	灰色細粒砂
2. 7.5Y4/1	灰色細粒砂	13. 10YR3/1	黑褐色シルト (炭化物を少量含む)	24. 10YR3/1	黒褐色細粒砂 (炭化物を多量含む)	35. 10YR4/2	灰黃褐色シルト	46. 5Y3/1	オリーブ黒色シルト (炭化物を少量含む)	57. 5Y4/1	灰色細粒砂
3. 5Y4/1	灰色細粒砂	14. 2.5Y5/2	暗灰黄色細粒砂 (炭化物を少量含む)	25. 2.5Y5/1	黃灰色細粒砂 (炭化物を少量含む)	36. 2.5Y5/3	黃褐色シルト	47. 5Y3/1	オリーブ黒色シルト (炭化物を少量含む)	58. 2.5Y4/2	暗灰黄色シルト
4. 7.5Y4/1	灰色細粒砂	15. 2.5Y3/2	黑褐色細粒砂 (炭化物を多量含む)	26. 2.5Y4/2	暗灰黄色細粒砂 (炭化物を含む)	37. 2.5Y4/2	暗灰黄色シルト	48. 5Y3/1	オリーブ黑色細粒砂	59. 5Y4/1	灰色細粒砂
5. 5Y4/1	灰色細粒砂 (炭化物を多量含む)	16. 2.5Y3/1	黑褐色細粒砂	27. 2.5Y4/2	暗灰黄色細粒砂	38. 2.5Y5/2	暗灰黄色シルト	49. 2.5Y4/1	黃灰色細粒砂 (炭化物を含む)	60. 5Y4/1	灰色細粒砂
6. 5Y4/1	灰色細粒砂	17. 2.5Y4/2	暗灰黄色細粒砂	28. 2.5Y4/1	黃灰色細粒砂 (炭化物を含む)	39. 2.5Y4/1	黃灰色シルト	50. 5Y3/1	オリーブ黑色細粒砂 (炭化物を少量含む)	61. 5Y4/1	灰色細粒砂
7. 2.5Y5/1	黃灰色細粒砂 (炭化物を含む)	18. 2.5Y4/2	暗灰黄色細粒砂	29. 2.5Y4/2	黑褐色細粒砂	40. 10YR3/1	黑褐色シルト	51. 2.5Y4/1	黃灰褐色細粒砂 (炭化物を含む)	62. 5Y4/1	灰白色中粒砂
8. 2.5Y4/2	暗灰黄色細粒砂	19. 2.5Y5/2	暗灰黄色細粒砂	30. 2.5Y4/1	黃灰色細粒砂	41. 2.5Y3/2	黑褐色細粒砂	52. 5Y3/1	灰色細粒砂	63. 5Y3/1	オリーブ褐色シルト (炭化物を少量含む)
9. 2.5Y6/1	黃灰色細粒砂	20. 10YR3/2	黑褐色シルト	31. 2.5Y3/2	黑褐色細粒砂	42. 2.5Y4/2	暗灰黄色細粒砂	53. 2.5Y4/1	黃灰色細粒砂 (炭化物を少量含む)	64. 5Y3/1	オリーブ黑色細粒砂
10. 5Y4/1	灰色細粒砂	21. 2.5Y4/2	暗灰黄色細粒砂	32. 2.5Y4/1	黃灰色細粒砂	43. 2.5Y4/1	黃灰色細粒砂	54. 5Y3/1	灰色中粒砂	10YR3/1	黑褐色シルト
11. 10YR3/1	黑褐色シルト	22. 2.5Y4/2	暗灰黄色細粒砂 (炭化物を含む)	33. 5Y5/1	灰色細粒砂	44. 2.5Y4/1	黃灰色細粒砂 (炭化物を多量含む)	55. 5Y4/1	灰色細粒砂		(炭化物を少量含む)のラミナ

## NR06



## NR06 土層

1. 2.5Y5/1	黃灰色細粒砂	9. 5Y4/1	灰色シルトとY4/2	灰オリーブ色細粒砂の互層	16. 2.5Y5/1	黃灰色細粒砂と2.5Y5/3 黃褐色細粒砂の互層	23. 2.5Y6/1	黃灰色粗粒砂と2.5Y3/2 黑褐色シルトの斑土	31. 2.5Y5/2	暗灰黄色細粒砂 (下層に腐食物層を含む)
2. 2.5Y3/2	黑褐色シルト (炭化物を含む)	(下層に腐食物層を含む)	10. 2.5Y5/2	黃褐色細粒砂	17. 2.5Y4/2	暗灰黄色細粒砂	24. 2.5Y6/2	灰黃褐色粗粒砂	32. 2.5Y6/1	黃灰色中粒砂
3. 2.5Y4/2	暗灰黄色シルト	11. 2.5Y5/2	暗灰黄色細粒砂	18. 2.5Y6/2	灰黃褐色粗粒砂	25. 2.5Y4/2	暗灰黄色細粒砂 (下層に腐食物層を含む)	33. 2.5Y6/1	黃灰色中粒砂 (下層に腐食物層を含む)	
4. 2.5Y4/1	黃灰色シルト	12. 2.5Y6/1	黃灰色中粒砂と2.5Y3/1	黑褐色シルトの互層	19. 2.5Y3/2	黑褐色シルトと2.5Y5/1 黄灰色細粒砂の互層	26. 2.5Y5/1	黃灰色細粒砂と2.5Y6/1 黄灰色中粒砂の互層	34. 5Y7/1	灰白色中粒砂
5. 5Y4/1	黃色シルトと5Y7/1	灰白色中粒砂の斑土	13. 2.5Y6/1	黃灰色粗粒砂 (噴砂)	20. 2.5Y3/2	黑褐色シルト	27. 2.5Y5/1	黃灰色細粒砂 (下層に腐食物層を含む)	35. 5Y5/1	オリーブ色シルト (貝殻を含む)
6. 2.5Y6/1	黃灰色中粒砂	14. 2.5Y6/1	黃灰色中粒砂	21. 2.5Y3/1	黑褐色細粒砂	28. 2.5Y5/1	黃灰色中粒砂	36. 5Y7/2	灰白色粗粒砂と10YR4/1 灰褐色シルトの斑土	
7. 5Y4/1	灰色シルトと5Y5/1	灰白色細粒砂の互層	15. 2.5Y5/3	黃褐色細粒砂	22. 2.5Y4/2	暗灰黄色中粒砂	29. 2.5Y6/1	黃灰色細粒砂と2.5Y3/2 暗灰黄色細粒砂の互層	37. N5/0	灰色シルト
8. 2.5Y6/1	黃褐色粗粒砂 (噴砂)						30. 2.5Y6/1	黃灰色中粒砂		

## NR08



## NR08 土層

1. 2.5Y4/1	黃灰色中粒砂 (表土)	11. 2.5Y4/1	黃褐色細粒砂 (炭化物を含む)	21. 2.5Y5/1	黃灰色細粒砂	31. 10YR4/2	灰黃褐色細粒砂	41. 2.5Y4/2	暗灰黄色シルト
2. 2.5Y3/2	黑褐色中粒砂	12. 7.5Y3/1	黑褐色シルト	22. 10YR3/1	黑褐色中粒砂 (炭化物を多量含む)	32. 2.5Y4/1	黃灰色細粒砂	42. 2.5Y4/1	黃灰色粗粒砂 (炭化物を含む)
3. 2.5Y4/1	黃灰色シルト	13. 10YR4/2	灰黃褐色細粒砂	23. 10YR4/1	褐黃褐色細粒砂 (炭化物を多量含む)	33. 10YR4/1	褐黃褐色細粒砂 (炭化物を含む)	43. 2.5Y4/1	黃灰色粗粒砂 (炭化物を含む)
4. 2.5Y3/1	黑褐色中粒砂 (炭化物を含む)	14. 2.5Y4/1	黃灰色中粒砂	24. 2.5Y5/1	黃褐色細粒砂	34. 10YR3/1	黑褐色細粒砂	44. 2.5Y5/1	黃灰色粗粒砂
5. 2.5Y4/2	暗灰黄色中粒砂	15. 10YR4/2	黃黃褐色細粒砂 (炭化物を含む)	25. 10YR4/1	褐黃褐色細粒砂	35. 10YR3/2	黑褐色細粒砂	45. 2.5Y3/2	オリーブ黑色シルト
6. 10YR4/1	褐褐色中粒砂	16. 2.5Y4/1	黃黃褐色細粒砂 (炭化物を含む)	26. 2.5Y4/1	黃褐色細粒砂	36. 2.5Y3/2	黑褐色中粒砂	46. 2.5Y3/2	黑褐色シルト (炭化物を含む)
7. 10YR3/1	黑褐色中粒砂	17. 10YR4/2	灰黃褐色シルト (炭化物を多量含む)	27. 2.5Y3/2	黑褐色細粒砂	37. 10YR3/1	黑褐色細粒砂 (炭化物層を含む)	47. 2.5Y4/1	黃灰色粗粒砂 (炭化物層を含む)
8. 10YR3/1	黑褐色細粒砂 (炭化物を含む)	18. 2.5Y4/1	黃灰色細粒砂	28. 10YR4/1	褐黃褐色細粒砂	38. 2.5Y4/1	黃褐色細粒砂	48. 5Y4/1	灰色シルト (炭化物を少量含む)
9. 10YR4/1	褐褐色細粒砂	19. 10YR3/1	黑褐色シルト (炭化物を含む)	29. 10YR4/1	褐黃褐色細粒砂	39. 2.5Y4/1	黃褐色細粒砂	49. 2.5Y4/1	黃灰色粗粒砂 (炭化物を含む)
10. 10YR4/2	灰黃褐色細粒砂	20. 2.5Y4/2	暗灰黄色シルト (炭化物を含む)	30. 2.5Y3/1	黑褐色細粒砂	40. 2.5Y3/2	暗オーリーブ褐色中粒砂	50. 5Y4/1	灰色シルト (炭化物層を含む)

第37回 旧河道土層断面図2 (1:80)

## (5) 旧河道

(第36図～第39図、第9表)

**旧河道** ここで分類したものは人為的な掘削ではなく、自然の流水によると思われる溝を9条取り上げた。

**分 布** 北調査区を南北に横断する旧河道を7条（NR 01～NR 07）と西1調査区で1条（NR 08）、西2調査区で1条（NR 09）が検出されている。主に北西から南東に流れるもの（NR 03・NR 04・NR 09）と北東から南西に流れるもの（NR 05・NR 06・NR 07）、南東から北西に流れるもの（NR 02・NR 08）、南北から北東に流れるもの（NR 01）の4タイプに分かれ、旧河道の流れは一定の方向性を持っていない。95F区を北北西から南南西に流れるNR 04のみ95A a区・93D区において河道の続きが確認されている。

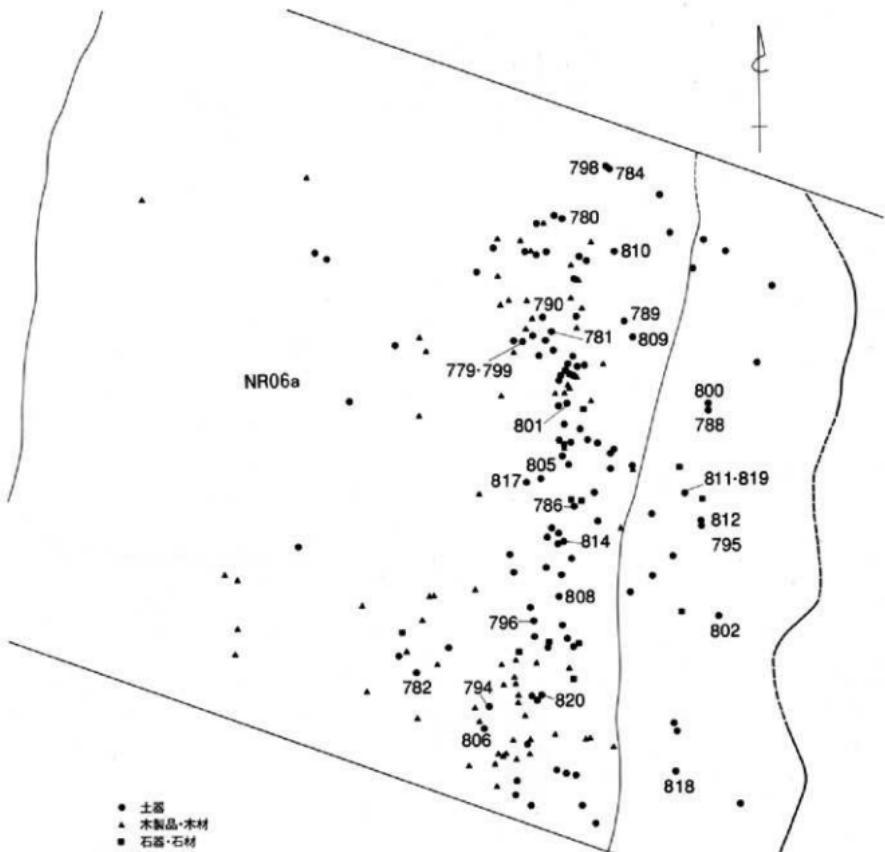
**断面形態** 旧河道の底面は全て丸底で、必ずしも旧河道の横断面を直角に捉えていないが、河道の立ち上がりが左右均等のもの（NR 01・NR 06 a）と左右の立ち上がりのどちらかがやや不均衡なもの（NR 03・NR 04・NR 08）があり、後者の緩やかの立ち上がりの方は旧河道のポイントバーの部分にあたるものと思われる。NR 03東側にはポイントバーにみられるスクロールバーとそれに伴

う凹みが観察された。またNR 06中央は河道を埋めた土層が大きく盛り上がっており、河道下部土層の砂層が液状化・流動化した結果、水平な堆積が崩れたものと思われる。NR 08南側の北への傾斜が強くなる部分があるのも、河道下部土層の砂層が液状化・流動化した結果水平な堆積が崩れたことが原因にあると思われる。95Ca区SB66で調査した堅穴住居床面の熱残留地磁気測定結果にある地磁気の揺れはこの現象を反映したものであろう。NR 06は埋まつた後再び小規模な河道が流れるようであり、下層河道をNR 06 a、上層河道をNR 06 bとした。

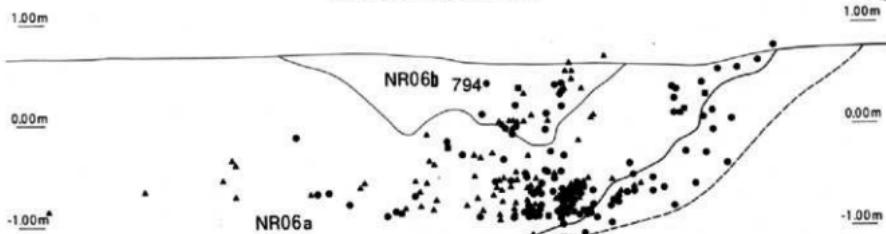
**埋 土** シルトが卓越したNR 01・NR 04・NR 08と砂が卓越したNR 03・NR 06に分かれる。前者はシルトが数層堆積した間にシルトが2～3層挟まれるような堆積をしており、後者はシルト・細粒砂と中粒砂・粗粒砂の層が互層になって堆積しており、後者の方が急速に堆積したこと示しているかも知れない。遺物がまとまって出土しているのは、NR 06 a下層やNR 08の1面がある。NR 08の1面直上の炭層の堆積は当時の生活面が残っている可能性がある。NR 06 aに伴う遺物は河道東側の方から斜方に出土するものが多く、高地にある居住域から流れ込んだ可能性が高い。

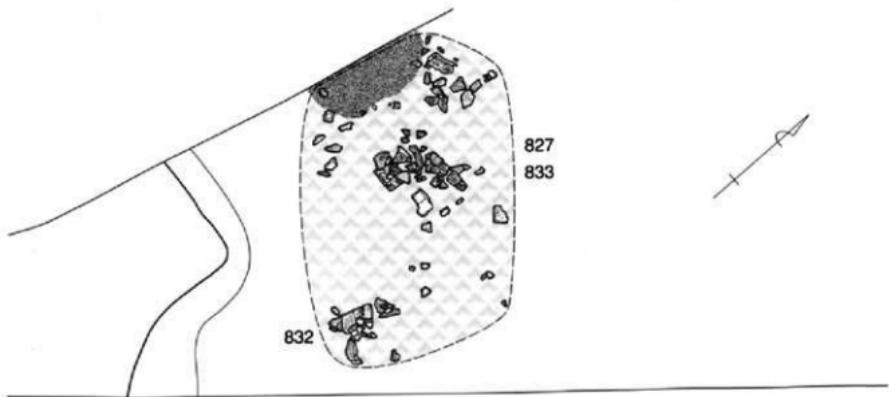
新遺構No	調査区	旧遺構No	流路の方位	断面形態	幅(m)	確認した長さ(m)	深さ(m)	備考(時期など)
NR 01	96a	NR 02	N-58-E	丸底	9.30	(19.50)	1.28	南西→北東
NR 02	96B	NR 01	N-7-E	丸底	(24.00)	(27.00)	(0.73)	I式 a段階～II式
	96C	NR 01	N-12-W	丸底	(4.40)	(8.70)	(0.25)	南東→北西
NR 03	96C	NR 02	N-52-W	丸底	32.80	(50.00)	(1.71)	I式 a段階、北北西→南南西
NR 04	93D	NR 01	N-27-W	丸底	17.35	(26.10)	不明	II式
	94Aa	NR 01	N-51-E	丸底	(2.60)	(7.45)	0.14	北北西→南南西
	94Ab	NR 01	N-14-W	丸底	12.50	(6.20)	0.34	
	95F	NR 01	N-39-W	丸底	27.0	(21.05)	1.01	
NR 05	95F	NR 02	N-30-W	丸底	(1.35)	(8.40)	(0.14)	I式 a段階、洪水によるスクロールバー
NR 06a	96D	NR 01 下層	N-06-E	丸底	19.80	(14.15)	(1.87)	I式 a段階、北→南
NR 06b	96D	NR 01 上層	N-06-E	丸底				II式 b段階～III式 c段階、北→南
NR 07	93Ec	NR 01	N-07-W	丸底	不明	(1.55)	0.53	北北東→南南西
	96D	NR 02	N-23-E	丸底	55.0	(14.40)	(0.87)	
NR 08	AE	NR 01	N-49-W	丸底	24.00	(2.20)	0.33	II式、南東→北西
	95Ca	SD 03	N-42-E	丸底	(16.15)	(8.85)	(1.02)	
NR 09	94Ba	NR 01	N-69-W	丸底	7.25	(7.65)	0.54	北北西→南東南

第9表 旧河道一覧



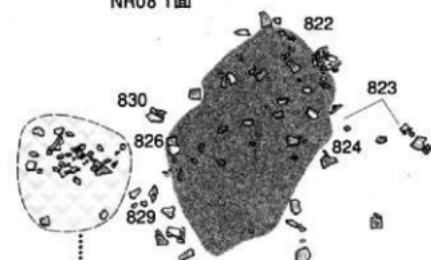
第38図 旧河道N R 06 a・b 出土状況図1 (1:100、  
出土断面図の水平距離と標高の比は1:2、出土断面図  
実線は96 D区南壁土層より)





0 2m

NR08 1面



825

NR08 1面

1.00m

第39図 旧河道N R 08 1面遺物出土状況図 (1:40)

## 5. 弥生土器

藤山誠一

### (1) 弥生土器の整理について

#### a. 弥生土器の選別について

一色青海遺跡ではコンテナ約700箱の弥生土器が出土している。弥生土器の整理に関しては、出土した土器の種類と量を分析し、遺跡・個々の遺構についての時間的、文化的な調査検討・報告することを目的としている。

そのため出土した全ての資料について接合・復元を行い、立体的に形の復元が出来るもの、土器の口縁部・底部（長径3cm以上の破片、実測可能なものの、特徴による分類可能なもの）と文様付き壺体部（長径5cm以上の破片、特徴的な破片）（C1類）を抽出した。その段階で抽出しなかった破片（C2類）はコンテナ200箱分にあたる。

抽出された遺物の中で更に弥生時代の遺構として取り上げた遺構出土のものとそれ以外の遺構・包含層出土のもの（C1類）に分け、遺構出土のものについては実測作業を進めた（B類）。

実測作業では、竪穴住居出土のものについてはほとんど実測など資料化を行い、方形周溝墓、溝、旧河道についてはその遺構の時期などを確認するために立体的に復元できるもの・特徴のある破片を実測した。残る土坑出土の資料については遺構の時期などを確認するためなどに必要な資料を中心抽出した後、出土資料の多い遺構から実測作業を行った。包含層出土の資料についてはほとんど実測など資料化を行えなかった。今後の課題として残る。

#### b. 報告について

先述した目的と方法から弥生土器の図化を行ったものが第15図～第63図である。遺構の分類ごとに実測図は4分の1、拓本付き実測図は3分の1になっている。ここでは実測図に合わせた遺物個々の記述を行うべきとも考えられるが、土器の資料化を優先して行い、また先述の目的を果たすため、まず遺構出土の弥生土器について分類を行い、遺構間での出土器種・土器形態の構成について分析し、遺構出土の弥生土器について時期区分を行う。続いて時期ごとの土器の器種構成や個々の土器の形態変化などについて述べ、分析することによって報告とする。尚、実測図に対応する個々の分類・特徴などについては一覧表である第3表～第13表を参照していただきたい。

### (2) 弥生土器の分類（第1図～第5図）

ここでは遺構出土の弥生土器について分類を行うが、まず弥生土器の調整・文様について分類し、続いて形態である器形について分類を行う。

#### a. 調整の分類

調整を6つに分ける。

N.ナデ…器壁表面に土器胎土中の砂礫粒の移動痕跡がないもの、不明瞭なもの。指頭・指腹によると思われるもので、やや不明瞭な凹凸をもって認識されるもの。

N.a.タテナデ…壺頸部内面・壺体部内面に多くみられる。指頭・皮革などを利用したもの。下から

上への器壁調整が主体的、段位に帯状の凹凸が形成される。

N b. ヨコナデ…口縁部内面・脚台部などに施される。皮革などを利用したもの。土器に対して横方向の平行移動が確認され、上下には帯状の凹凸が形成される。ある程度の回転台の使用が想定されるものもある。

N e. 平ナデ…壺などの頸部・体部外面にみられる。凹凸はほとんどみられない。

N f. 板ナデ…壺・壺体部の内外面に見られるもので原体によるナデの始まりが直線状の停止、器面に原体幅部分の凹みをもって認識されるもの、ハケとは調整面に残る条線の有無により異なる。

N F. 指オサエ…器壁表面の移動を伴わない円形・楕円形状の凹みとして認識されるもので、体部内面などに顯著にみられる。外面からの調整による内面当てとの区分は難しくそれらを含む。時に爪痕が残され、指頭状のもの、拳状のものがある。H. ハケ…木材などの板小口を使ったものと考えられているもの、木材の年輪の冬季硬質部分が器壁表面に断面階段状の平行した条線として認識される。ハケ原体の単位がわかるはずであるが、調整の重複により不明瞭な場合が多い。原体の材の種類や使用状況などにより表れ方が異なる。大きく2種に分類する。

H A. 太ハケ…ハケの年輪の冬期硬質部が当たる凹部である条が年輪の夏期軟質部のあたる凸部である条間より幅広なもの。

H B. 細ハケ…ハケの条が条間より細いもの。

J. 条痕…いわゆる条痕文で、器壁表面の凹部が深い荒々しい感じになる。二枚貝の側縁を使用したと思われる貝条痕と細い棒を束ねた櫛状原体を用いたと思われる櫛条痕がある。

J S. 貝条痕…条間が丸い断面を持つ器壁表面として認識されるもの。

J X. 櫛条痕…条間に平坦な部分を残すもので、深

鉢形土器の口縁部に施される指突文の観察では断面円形・楕円形をした径1.5mm前後の細い棒状のものを3~7本束ねた櫛状のものの先端部分を使用したと推定されるもの。刺突文の穴底に植物質痕が確認できる。

T. タタキ…器壁の表面に平行にはしる直線の凹みにより認識され、壺・壺の体部外面にみられる。内面には指オサエを伴うことが多い。板状工具の平坦面にある直線の凹凸が表れたもので、器体に対してヨコからナナメ方向に凹みである条がはしる。

T A. 三角タタキ…凹みである条の断面が三角形状のもの。

T B. 台形タタキ…凹みである条の断面が台形状のもの。

K. ケズリ…器体表面の砂礫粒の移動痕跡により認識されるもので、壺体部下半の外面上に施されるケズリの断面は2~3cm幅の平坦面をもつが、壺体部下半の内面にあるケズリ断面は丸い溝状に認められる。主に器壁表面が比較的乾燥した状態で調整される場合と余った粘土を掻き取る場合がある。

M. ミガキ…器体表面に残る幅1~8mm程の滑らかで光沢のある浅く長い凹みとして認識される。器体表面を押圧して施しているものと思われる。調整の最後に施される場合が多い。調整の範囲によりMA. 帯状(充填を含めない)・MB. 部分(充填を含めない)・MC. 全面の3つにわかれる。

M a. タテミガキ…瓶方向のミガキで壺体部下半・鉢体部内外面・高坏内外面にみられる。

M b. ヨコミガキ…横方向のミガキで壺体部下半・高坏内外面などにみられる。充填ミガキなどもこの一種であるがここでは区別している。

充填ミガキ…壺体部上半の外面上に帯状として施されるもの。文様的効果が想定される。

ミガキ文様…ミガキの1単位が独立して施される

もので、暗文的効果が想定される。壺体部上半の外面に斜格子文などで描かれる。いわゆる「磨消線文」とよばれるミガキ直線文や暗文風のミガキ斜格子文などがある。

#### b. 文様の分類

土器の装飾をする方法としては何らかの工具による線刻文や粘土を貼り付ける浮文、ベンガラなど赤彩による彩色・彩文の3つの方法がある。一色青海遺跡出土の弥生土器では現在確認できるかぎりでは線刻文がほとんどで、浮文も比較的多くみられる。彩色や彩文は少数の土器で確認できるのみである。

#### 1) 線刻文

土器に残されている文様から想定される施文原体の形状について分類し、統いて文様の種類を分類する。

#### ○施文原体

文様から想定される施文原体の形状を8類に分ける。

P. 指…基本的にはヨコナデによる施文を想定しており、基本的に器体に対して横方向の施文になる。凹線文の原体に相当する。

Q. 竹管…竹のような断面円形の管状のものを想定しており、径1~2cmの円形や半円形の線状凹みとして認識される。文様を刻んで施文する場合を推定している。描いて施文する場合も存在すると思われるが、今回は櫛の描いて施文する場合に含んでいる。また刻んで施文する場合には半裁した管を使う場合と管のまま使う場合がある。いわゆる竹管文・爪形文の原体に相当する。

S. 貝殻…貝殻の側縁のような波状になったものを想定しており、貝殻側縁が器体に当たった長さ1~3cmの波線や器体表面に残された文様の波状凹凸がある断面として認識される。前者の文様を刻んで施文する場合がほとんどであるが、後者の描いて施文する場合もある。貝殻文の原体に相当

する。

V. 石・ヘラ…施文部分がやや丸みをもった平坦なものを想定しており、器体表面に残る幅1~8mm程度の滑らかで光沢のある浅く長い凹みとして認識される。器体表面を押圧して施文しているものと思われる。調整の最後に施される場合が多い。ミガキ調整と同様のもので、暗文・磨り消し線文・充填ミガキなどの原体に相当する。

W. ヘラ(棒状)…櫛よりやや太い1本の棒状のものを想定しており、単独の長い線状の凹みとして認識できる。櫛と同じように描いて施文する場合と刻んで施文する場合が推定できる。いわゆる沈線文の原体に相当する。

X. 櫛…細い棒状のものを2~20本束ねたものを想定しており、長さ1~3cmの線状凹みや条間の平坦面が残る断面をもつ複数集まつた長い線状凹みとして認識される。それぞれ文様を刻んで施文する場合と描いて施文する場合が推定される。いわゆる櫛描文の原体に相当する。櫛はさらに4類に細分される。

X I . 櫛 I 種…文様から線の凹みなどの間隔がほぼ一定のもので、硬度のある木・竹等の小片の先端を細かく削ったようなもの(櫛 I 種A)と柔軟ならざる程度の植物の枝茎を緊密に束ねたもの(櫛 I 種B)がある。櫛 I 種Bの原体は管状のものと棒状のものがある。

X II . 櫛II種…管状・棒状の原体を2~5本一定の間隔で束ね、さらにその束ねたものを2~4束一定の間隔を保って束ねたもので原体にはやや弾力がある。これまで複合櫛描文と呼ばれていたものの原体に相当する。壺体部上半の直線文や波状文によくみられる。

X III . 櫛III種…1本が比較的細くまれにこれが交差するササラ状、またはホウキ状の形状が想定されるもので、いわゆる三河系の壺体部にみられる。

Y. 摘紐…植物質のものを摑った絆状のものを想定しており、器体表面に残された摑紐の摑り圧痕として認識される。文様を刻んで(回転させる)施文する場合が推定できる。圓文の原体に相当する。

Z. 不明・その他…原体の形狀が分類できないもの。その他のもの。

○文様

1. 直線文…器体に対して横方向の直線状の文様で、1本のみの場合もあるが、平行して複数の単位で施文されることが多い。
2. 波状文…器体に対して横方向の上下に振幅する波状の文様で、直線文と同様に平行して複数の単位で施文されることもある。
3. 縱状文…器体に対して横方向の直線状の文様で、一定間隔で原体を止めた横方向のスダレ状に認識される。
4. 山形文…器体に対して横方向の上下に振幅する山形波状の文様で、上下の振幅に角があるもの。
5. 斜格子文…格子の斜めに傾いたもので、施文時の斜め線の前後によって左上り斜め線が先行する左斜格子文(5α)と右上り斜め線が先行する右斜格子文(5β)の2類に分かれる。
6. 羽状文…斜線文が互い違いに施されるもので、器体に対して横方向に施されるものが多い。羽の開く向きにより右向きに開く左羽状文(6α)と左向きに開く右羽状文(6β)の2類に分かれる。
7. 斜線文…斜めの直線状に見える文様で、器体に対して横方向に施されるものが多い。左上がり斜線文(7α)と右上がり斜線文(7β)に分かれる。
8. はね上げ文…器体に対して下から上に施文原体をやや高速に移動させ、文様の終わりで原体を止めないで描く文様で、縦方向でやや左右の斜めに振った状態になる。
9. 弧状文…半円の円弧状に文様が描かれるもので、円弧の弧部が上にくる横方向に施文される。
10. 扇形文…原体をコンパス状に用いて描くもので、扇形の文様が横方向に単体で並ぶ。
11. 流水文…器体に対して縦方向に左右に蛇行して描かれるもので、波状文の波が大きくなつたものの、横方向に描かれるものがある。
12. 鋸齒文…三角形文を横や縦方向に並べたもので、三角の部分を沈線などで充填する充填鋸齒文もある。
13. 垂下文…直線文や波状文を器体に対して縦方向に描くもので、横方向の直線文や波状文を施文する前後に描かれる。
14. 付加文A(複数原体)…直線文などに直線文とは異なる原体によって付け加えられる文様。
15. 付加文B(同一原体)…直線文などに直線文と同じ原体によって付け加えられる文様。
16. C字刻み…器体に対して横方向に右開きの半截の円形文として認識される。半截した竹管状のものや爪型文と同様のものである。
17. D字刻み…器体に対して横方向に左開きの半截の円形文として認識される。
18. 円形刻み…竹管状の原体によって円形に刻まれたもの。
19. タテ刻み…櫛やハケ状の原体によって上下縦に刻みを入れたもの、タテ刻みを器体に対して横方向帶状に施文したものが多い。
20. ナナメ刻み…タテ刻みが斜めになったもので、左上りナナメ刻み(20α)と右上りナナメ刻み(20β)に分かれる。
21. 羽状刻み…左右のナナメ刻みが上下に重なつて羽状文風になったもの。横方向帶状に施される。
22. ヨコ刻み…タテ刻みが90度回転したもの。
23. 点刻み(口縁端部が主)…棒状の原体を刺突したもので、横方向帶状に展開したものが多い。
24. 回転文(充填・帯状・部分・全面)…原体をコンパス状に回転して施文するもので、扇形文以外の文様。
25. その他…1~24以外の文様。

2) G. 浮文・・・貼り付ける粘土の形状により3類に分ける。

G A. 棒状浮文…比較的短い粘土紐を貼付けるもの。無文のもの(G A  $\alpha$ )と上面に刻みをいれるもの(G A  $\beta$ )がある。

G B. 円形浮文…円形ボタン状の粘土を貼り付けていたもので、上面が比較的扁平なもの(G B  $\alpha$ )、上面に円形刻みが施されるもの(G B  $\beta$ )、上面が円錐形山形になるもの(G B  $\gamma$ )に分かれる。

G C. 带状浮文…帯状、突帯状に器体を全周する形で粘土紐を貼付けるもので、断面三角形・丸いものの(G C  $\alpha$ )、断面台形のもの(G C  $\beta$ )、上面に刻みなどを施文するもの(G C  $\gamma$ )に分かれる。

G D. その他浮文…その他の形態の粘土を貼り付けたもの。

3) 彩色・・・ベンガラによる赤彩が認められた。  
c. 器形の分類(第1図-第5図)

一色青海道跡出土の弥生土器には壺・高杯・鉢・深鉢・菱形の土器があり、それぞれを分類した。

1) 壺・・・先ず機能の差とも考えられる頸部の太さによって細頸壺と太頸壺に2分類し、さらに頸部の長さにより太頸壺を2形式に大別した。また壺底部の形態を4類に分類する(第1図)。

a類…底部が体部から突出するもので、体部下半を全面ミガキ調整するもの。

b類…底部が体部から突出するもので、体部下半を部分ミガキ・帯状ミガキ調整するもの。

c類…底部が体部から突出するもので、体部下半にミガキ調整が確認できないもの、ハケ調整などでおわるもの。

d類…底部が体部から突出しない平底のもの、体部下半はハケ調整でおわるものが多い。

e類…脚台の付くもの。脚台は横ナブ調整されるものが多い。

細頸壺(第1図)・・・頸部の細い壺の一群をまとめる。

細頸壺A…口縁部が斜め上方にやや外反してひらく受口細頸壺で、口縁端部を内折させる。口縁端面は上方からやや内面側に面をもつ。頸部には沈線直線文・櫛描直線文・兼状文・円形浮文などを巡らす。体部はやや下膨れの球状形態で、体部上半に櫛描文帯が数単位巡り、体部下半には横ミガキによるミガキ帯があるものが多い。底部はやや突出する形態となる。

細頸壺B…直口細頸壺で、口縁端部はそのままおわる。体部・底部の形態は細頸壺Aに類似する。

また細頸壺A・Bは頸部と口縁部の形態から4類に分かれる。

1類…頸部の括れ部が柱状部分をもって口縁部が外反して立ち上がるもの。口縁端面が斜め上方にある。

2類…頸部の括れ部で柱状部分を持たずに屈曲して口縁部に至るもの。口縁端面が上方にある。

3類…2類と同様であるが、頸部から口縁部の立ち上がりが短くなったもの。

4類…体部から口縁部に明瞭な屈曲部をもって口縁部が立ち上がるもの。

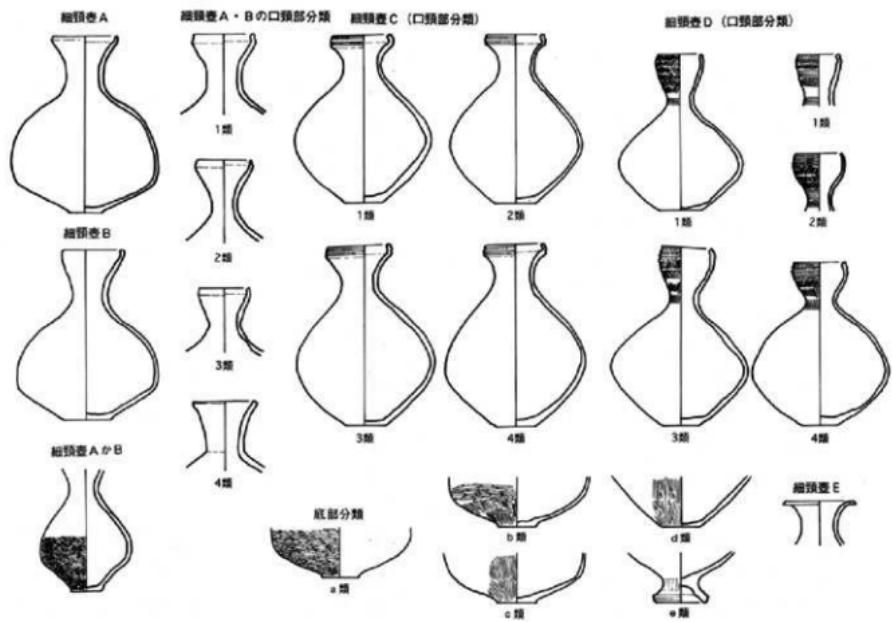
細頸壺C…口縁部が外反してひらく受口細頸壺で、口縁端部を内接させた外面に凹線文が巡る。口縁端面は上方からやや内面側に面をもつ。頸部には沈線直線文を2~5条巡らすものがあるが、無文のものが多い。体部は綫長の断面そろばん玉形をした形態になる。体部に文様はなく、ハケ調整がそのまま残る。底部は扁平で突出していない。

口縁部と頸部の形態から4類に分ける。

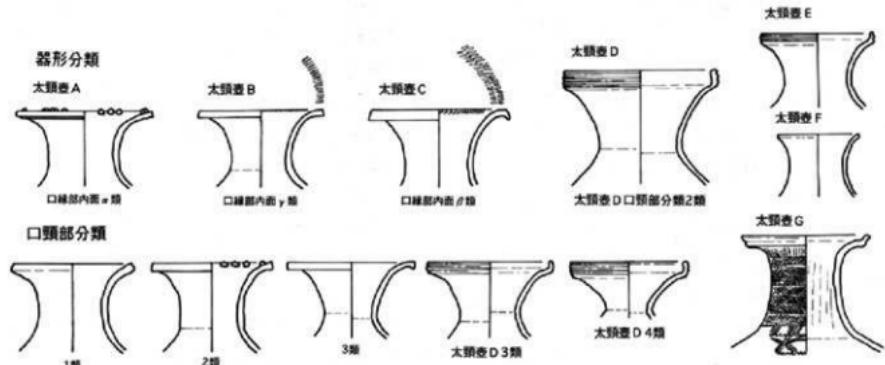
1類…体部から頸部への移行部分より上の頸部中央で緩やかに曲がるもので、体部最大径が比較的高い位置にある断面綫長のソロバン玉形の体部形状をもつ。

2類…口縁部の外反が1類にくらべて強くなつたもので、頸部の抉れの位置がやや下がる。

3類…2類の頸部の抉れの位置がほぼ体部から頸部



第1図 細頸壺の器形分類



第2図 太頸壺の器形分類

への移行部分にかかるもので、口縁部が体部から直にひらく形状になる。

4類…3類の頸部から口縁部の立ち上がりが短くなったもので、体部の形状も1類～3類と異なり体部最大径が体部中央より下がった断面下膨れの形状になる。

細頸壺D…口縁部が内湾してひらく内湾口縁細頸壺で、口縁端部外面に凹線文が巡る。口縁端面は上方からやや内面側に面をもつ。口縁部の凹線文下の頸部には櫛描文や櫛刻みが巡る。体部は横長の断面そろばん玉形をした形状で、体部上半に櫛描文帯がある。体部下半はタテハケによる調整が主体で、タテケズリの痕跡を残すものがある。

口縁部と頸部の形態から4類に分類する。

1類…頸部の括れ部から口縁が緩く内湾してひらくもので、相対的に口縁部から頸部までの長さが長く口縁端部外面の凹線文帯が2～3条巡る。口縁部の文様帯は櫛による刻みが数段巡るものや櫛刻みと櫛描直線文が交互に数段巡るもので、頸部括れ部の文様と口縁部文様との境に無文の部分が一定幅存在するもの。

2類…口縁が1類に比べて強く内湾してひらくもので、口縁部断面が内湾して膨らみをもつ形態に変化して口縁部から頸部の文様帯が4帯以上あるもの。体部形態・文様構成などは変化しない。

3類…口縁が2類にくらべて強く内湾してひらくもので、口縁部から頸部の長さも短くなる。体部の形態などは変わらないが、体部上半の文様で櫛描波状文が増加する。

4類…口縁が3類にくらべて更に強く内湾してひらくもので、口縁部から頸部の長さもより短くなる。体部の形態は断面横長のソロバン形が上下に膨らみをもつ不整形な感じになる。体部上半の文様帯数が減少し、2類同様櫛描波状文の比率が高い。

細頸壺E…口縁部が大きく外反してひらく広口細

頭壺で、体部の形状がわかるものが出土していない。

太頸壺（第2図・第3図）…頸部の太い壺の一群をまとめる。さらに頸部が長い太頸壺と頸部の短い太頸短頸壺にわける。体部の形状がわかるものは出土していない。また太頸壺、太頸短頸壺の口縁部内面の文様を $\alpha$ 類…浮文が付くもの、 $\beta$ 類…複帯の櫛描文、 $\gamma$ 類…単帯の櫛描文の3つに分類した。

太頸壺を口縁部の形態によりA～G類に分ける。太頸壺A…口縁部が大きく外反してひらく広口太頸壺で、口縁端部がそのままおわるもの。外面斜め上方に端面をもつ。

太頸壺B…口縁部が大きく外反してひらく広口太頸壺で、口縁端部がやや肥厚するもの。外面斜め上方に端面をもつ。

太頸壺C…口縁部が大きく外反してひらく広口太頸壺で、口縁端部がやや肥厚し、下端が垂下するもの。外面斜め上方に端面をもつ。

太頸壺A～Cは頸部と口縁部の形態から4類に分類する。

1類…体部から頸部への移行部分より上の頸部中央で緩やかに曲がるもの。

2類…口縁部の外反が1類にくらべて強くなったもので、頸部の抉れの位置がやや下がり、頸部に柱状の部分があるもの。

3類…2類の頸部の抉れの位置がほぼ体部から頸部への移行部分にかかるもので、口縁部が体部から直にひらく形状になる。

太頸壺D…口縁部が外反してひらく受口太頸壺で、口縁端部を内接させた外面に凹線文が巡る。口縁端面は上方からやや内面側に面をもつ。頸部から体部上半に櫛描文帯が施される。底部は扁平で突出していない。全体を復元できるものはないが、大型の断面そろばん形の体部形状になるものである。

**太頸壺E**…太頸壺Dの口縁部ほど大きく外反しない受口太頸壺で、やや小振りの口縁部になる。

**太頸壺D・E**も頸部と口縁部の形態から4類に分ける。

**1類**…体部から頸部への移行部分より上の頸部中央で緩やかに曲がるもの。太頸壺Eの口頸部形態にみられる。

**2類**…口縁部の外反が1類にくらべて強くなつたもので、頸部の抉れの位置がやや下がり、頸部に柱状の部分があるもの。

**3類・2類**の頸部の抉れの位置がほぼ体部から頸部への移行部分にかかるもので、口縁部が体部から直にひらく形状になる。

**4類**…頸部から口縁の開きが3類にくらべて強くなる一方で、口縁部の外半は緩やかになり口縁がまっすぐ斜め上方にのびる形状になる。

**太頸壺F**…口縁部がほとんど外反しないでひらく直口太頸壺で、頸部に沈線直線文・ヘラ刻み・円形浮文などの施文がある。

**太頸壺G**…大きく外反してひらく受口口縁をもつ広口太頸壺で、頸部が突出する断面山形の形態になる。底部は突出する。体部上半はササラ状の櫛Ⅲ種により羽状文や垂下直線文から派生している垂下山形などが施される。体部下半はヨコミガキが施される。

**太頸短頸壺A**…口縁部が斜め上方にや外反してひらく直口太頸壺で、口縁端部はそのままおわる。口縁端部の形態により2類に分かれる。頸部には沈線直線文・櫛描直線文・波状文・竹管刻み・円形浮文などを巡らす。体部はやや下彫れの球状形態で、体部上半に櫛描文帯が数単位巡り、体部下半には横ミガキによるミガキ帯のあるものが多い。底部はやや突出する形状となる。

また太頸短頸壺AとDも頸部と口縁部の形態から3類に分ける。

**1類**…体部から頸部への移行部分より上の頸部中

央で緩やかに曲がるもの。

**2類**…口縁部の頸部からの立ち上がりが短くなり、頸部から体部の広がりが不明瞭なもの。

**3類**…口縁部の外反が1類にくらべて強くなつたもので、頸部の抉れの位置がやや下がり、頸部の抉れの位置がほぼ体部から頸部への移行部分にかかるもので、口縁部が体部から直にひらく形状になる。

**太頸短頸壺B**…太頸短頸壺Aの頸部がやや短くなった直口太頸壺で、外面をナデやハケ調整のみでおわるもの。体部の形態から断面球形の1類と断面下彫れ状の2類に分けられる。

**太頸短頸壺C**…太頸短頸壺Bの形態に体部上半に焼成前穿孔を施した円窓付壺。

**太頸短頸壺D**…太頸壺Aの短頸化したものであるが、形態的には太頸短頸壺Hに類似する折衷形態のもので、体部上半に櫛描直線文や波状文などが施文される。

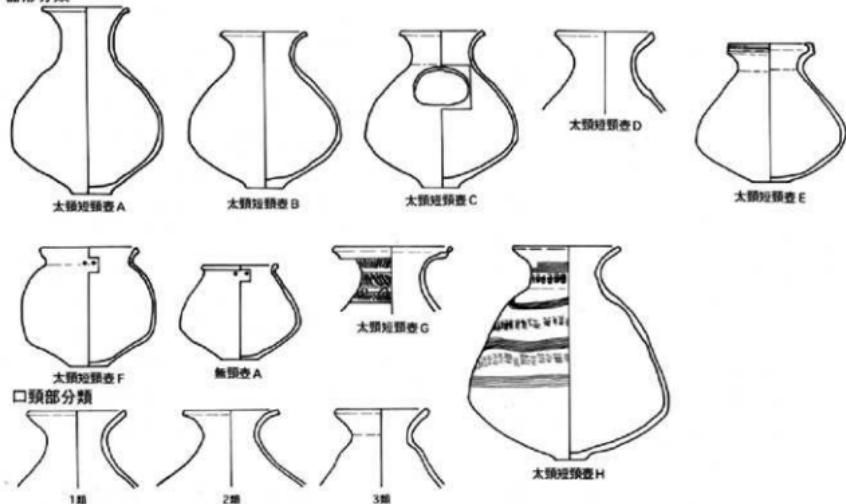
**太頸短頸壺E**…頸部に2個1対の穿孔がある有蓋太頸直口壺で、体部が断面下彫れの形態のものと体部が断面ソロバン玉形に近いやや腰高のものに分かれる。体部下半にヨコミガキのあるものがある。

**太頸短頸壺F**…太頸壺Dの頸部を短くした形状の小型の受口太頸短頸壺。

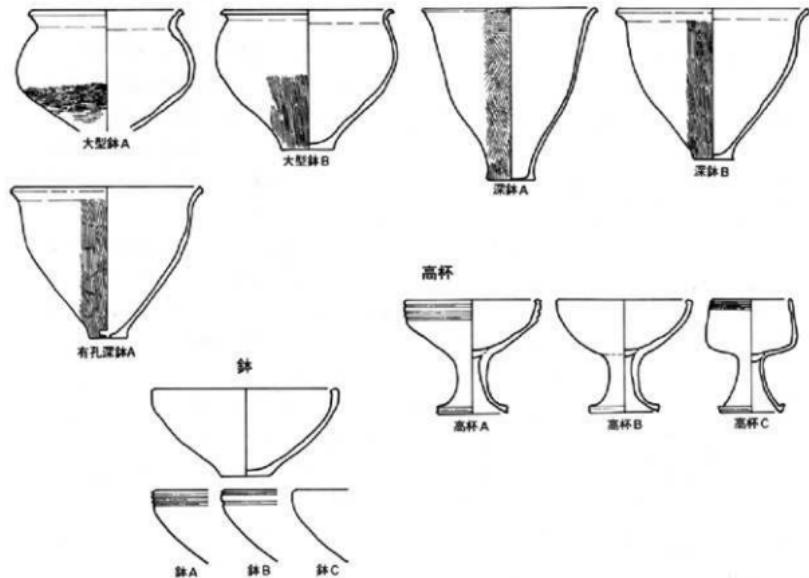
**太頸短頸壺G**…太頸壺Gの頸部が短くなつたもので、全体を復元できるものはないが頸部から体部上半にかけて沈線文による斜格子文などが施される。斜格子文間は横ミガキされる。受口口縁のものをいれている。

**太頸短頸壺H**…頸部が短く大きく外反してひらく広口太頸壺で頸部から体部上半にかけて、櫛Ⅲ種による櫛描直線文や波状文などがみられる。体部下半にはヨコミガキが施される。体部は断面下彫れ状で肩部が張り、底部が突出する。単純な広口のものと受口のものがあるが、今回は区別でき

器形分類



第3図 太頸短頸壺・無頸壺の器形分類



第4図 大型鉢・深鉢・鉢・高杯の器形分類

おらず、ここでは広口のもののみをいれている。  
無頸壺A（第3図）・・・明瞭な頸部がなく、縁帶状の口縁になるもの。口縁部下に2個1対の穿孔がある、有蓋のもの。体部は太頭短頭壺Eの形状に類似する。

2) 高杯（第4図）・・・口縁部形態から3形態に分かれる。脚部は高脚で杯部との境は粘土充填技法によるものである。

高杯A・・・やや丸い鉢状の杯部口縁部をもち口縁部外面に凹線文を施すもの。

高杯B・・・ほぼ直線的に広がる杯部から口縁部が受口状に立ち上がるるもの。

高杯C・・・コップ状の杯部をもつもので、口縁部はやや内湾しつつもまっすぐ上に立ち上がる。

3) 鉢（第4図）・・・ボウル状の形のものがある。どの形態もミガキ調整のされるものがある。外面口縁部の文様により3つに分類する。

鉢A・・・外面口縁部に凹線文が3条めぐるもの。

鉢B・・・外面口縁部に凹線文が間を空けて2条めぐるもの。

鉢C・・・備文文や無文のもの。

4) 大型鉢（第4図）・・・壺形のもので、口縁部径に対して器高が低いもの。

大型鉢A・・・大型鉢で体部下半が横ミガキ調整される精製のもの。

大型鉢B・・・壺の大型扁平化したもので、外面にタキ調整があり、内面体部下半には縦ケズリ調整がされるもの。外面体部上半には竹管による円形刻みが施されるものがある。

5) 深鉢（第4図）・・・口縁部径が最も大きいもので、頸部の括れが不明瞭なもの。平底がほとんどであるが脚台付きもある。

深鉢A・・・櫛条痕による外面調整によって代表されるもの。口縁部内面に櫛右上に斜め刻みがめぐる。内面は横ナデ調整である。

深鉢B・・・口縁部がやや外反して屈曲する形態の深

鉢で、外面縦ハケ、内面ナデによる調整のもの。平底のものと脚台付きのものがある。

有孔深鉢A・・・深鉢Bの形態のもので、底部に焼成前穿孔の施されたもの。調整などは深鉢Bと同様。

6) 壺（第5図）・・・頸部の括れがあり、口縁部と体部の2カ所で径が大きくなるもので、断面くの字状口縁で体部上半が外側に張る壺A～壺Gと体部中位から上半のやや低い部分が外側に張る壺H・壺Iがある。それぞれの形態に脚台付きの壺と平底壺があり、a類…平底、b類…脚台の内面上部に底部充填のための粘土が突出するもの、c類…上げ底、d類…低脚のもの、e類…高脚のもの、f類…柱状部のある高脚のものの6タイプに分かれる。

壺A・・・外面に縦ハケ、内面の体部上半をナデ調整するもの。

壺B・・・外面に縦ハケ、内面体部上半にハケ調整されるもの。内面の体部下半はナデ調整が多い。

壺C・・・外面の体部上半で体部下半の縦ハケ調整が左上り斜めハケ調整になるもの。

壺D・・・外面縦ハケ調整の前後にタタキ調整が加えられるもの。内面はハケ調整された後体部下半から中ほどにかけて縦ケズリされるものが多い。

壺E・・・外面ハケ調整の後、体部上半に横ハケ調整を施すもので、内面は体部上半を中心にナデ調整される。

壺F・・・壺Eの内面体部上半がハケ調整されたもので、体部下半は下から上へ縦ケズリが施される。

壺G・・・体部外面の縦ハケの前後にタタキ調整が施されるもので、内面は体部にハケ調整がされた後体部下半に縦ケズリがほどこされる。

壺H・・・いわゆる近江系壺とされている一群で口縁部を内折させる受口口縁の形態をとる。体部内面はナデ調整が基本であるが、ケズリ調整されるものもある。体部上半のハケによる刻みや波状文の要素は特徴的である。

甕 I …いわゆる知多・三河系の体部内外面を平ナデ調整するもの。

また、甕口縁部・頸部・体部最大径部の関係から口頸部を4類に分類する。

1類…頸部から口縁部が断面鈍角に外反するもので、口縁端部径が体部最大径と同じか小さいもの。

2類…頸部から口縁部が断面鈍角に外反するもので、口縁端部径が体部最大径より大きいもの。

3類…頸部から口縁部が断面直角か鋭角に外反するもので、口縁端部径が体部最大径と同じか小さいもの。

4類…頸部から口縁部が断面直角か鋭角に外反するもので、口縁端部径が体部最大径より大きいもの。

(3) 器形組成の変遷

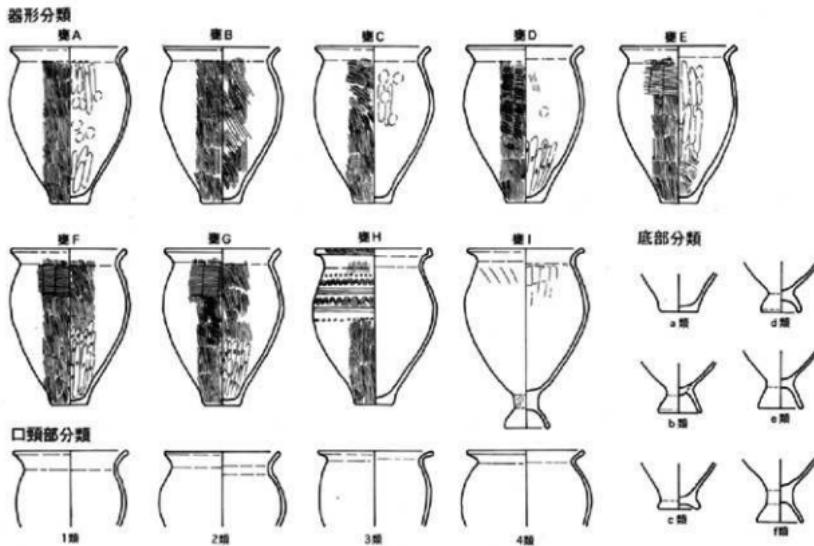
a. 各調査区の器形組成

一色青海遺跡では竪穴住居や方形周溝墓、溝、旧河道、土坑など比較的まとまった量の出土した遺構が多く、調査により遺構の重複関係などから時間的前後関係を考えることが可能な遺構が多い。また先述したように調査区の位置が大きく東西南北に分かれ、それぞれの調査区で地形的特徴と遺構の特徴が対応する。そこで前節まで述べた器形分類にしたがって主な遺構ごとの器形組成と各器形の形態的特徴の組み合わせを明らかにし、調査区ごとに土器組成におけるグループの存在を検討したものが第1表である(第1表の数字と文字は各分類を、記号は量比を示している〔○は存在する、◎は多く存在する〕)。

以下各調査区ごとの特徴を述べる。

1) 北調査区

細頸甕A~D、太頸甕A~D、太頸短頸甕A~



第5図 甕の器形分類

C・G、壺底部形態a類～d類、大型鉢A、鉢A・C、深鉢A・B、有孔深鉢A、壺A～H、壺底部形態a類～e類がある。

器形組成や器形ごとの形態的特徴からは、細頸壺・太頸壺において口頭部形態1類・2類のみであること、太頸壺内面口縁部文様帶が $\alpha$ 類～ $\gamma$ 類があるが $\alpha$ 類・ $\beta$ 類が多いこと、壺底部形態a類・b類が多いこと、有孔深鉢A・深鉢Bがあること、壺A～Hがそれぞれ一定量存在すること、壺口頭部形態1類～2類が主体であること、壺底部形態a類が多いもののb類・d類・e類も一定量存在すること、などがあげられる。

## 2) 東調査区

細頸壺A～E、太頸壺A～F、太頸短頸壺A・B・D～H、無頸壺A、壺底部形態a類～e類、高杯C、大型鉢A・B、鉢A～C、深鉢A・B、壺A～I、壺底部形態a類～f類がある。

東調査区では細頸壺・太頸壺の口頭部形態、太頸壺内面口縁部文様帶、大形鉢Bの存在、壺の組成、壺の口頭部形態、壺の底部形態の要素において2群に分かれる。この2群については基本的に東調査区の遺構変遷と対応するもので、それぞれ東堅穴住居群と東方形周溝墓群とよぶ。

東堅穴住居群出土土器の特徴は、細頸壺・太頸壺口頭部形態1類・2類が主体であること、太頸壺内面口縁部文様帶で $\beta$ 類が多いこと、壺底部形態a類・b類があるもののc類・d類が多いこと、深鉢Bがあること、壺A～Hが多いこと、壺の口頭部形態4類が一定量あるものの1類・2類が多いこと、壺底部形態a類が多いもののb類・d類・e類が比較的多いこと、などがある。

東方形周溝墓群出土土器の特徴は、細頸壺・太頸壺口頭部形態3類・4類が主体であること、太頸壺内面口縁部文様帶で $\gamma$ 類が主体であること、壺底部形態a類・b類は少なくc類～e類が多いこと、壺D・F・Gが多いこと、壺口頭部形態2類・

4類が多いこと、壺底部形態a類が多く、d類・e類が少ないと、などがある。

## 3) 南調査区

南調査区の遺構については比較的まとまりのある3遺構のみ取り上げている。

細頸壺B・C、太頸短頸壺B・C、壺底部形態d類、高杯B、深鉢A・B、壺A・C～G、壺底部形態a類がある。

器形組成と器形ごとの形態的特徴では、細頸壺の口頭部形態が1・2類であること、深鉢Bがあること、壺A・C～Gがそれぞれ一定量存在すること、壺底部形態a類が多いこと、などがある。

## 4) 西1・2調査区

遺構などのまとまりとして西1調査区と西2調査区は比較的まとまりがあるので一緒に扱った。

細頸壺A～E、太頸壺A～D・G、太頸短頸壺A・B・D・F・H、壺底部形態a類～d類、大型鉢A・B、鉢A・B、深鉢A・B、壺A～G・I、壺底部形態a類・c類～f類がある。

器形組成と器形ごとの形態的特徴では、細頸壺・太頸壺口頭部形態2類・3類が主体であること、太頸壺内面口縁部文様帶で $\beta$ 類が多いこと、壺底部形態a類・b類は少なくc類・d類が多いこと、大型鉢Bがあること、深鉢Bがあること、壺A～Gがそれぞれ一定量であること、壺口頭部形態の2類・4類が多いこと、壺底部形態a類が主体的でe類も一定量であること、などがある。

以上各調査区ごとの器形組成や各器形の形態的特徴を検討すると北調査区の一群、東堅穴住居群、東方形周溝墓群、南調査区の一群、西調査区の一群の7群に分けられる。この中で類似した一群であるのは北調査区の一群と東堅穴住居群、量的には少ないが南調査区の一群が類似し、東方形周溝墓群はこれらとは明らかに器形組成・各器形の形態的特徴において異なる一群で、西調査区の一群はその中間的特徴をもつ一群といえる。

第1章 物生主義の構成 1

### b. 器形組成からの3時期区分

遺構出土のものに関しては遺跡の時期区分についてはその基礎となる時期区分は遺構の重複による前後関係や遺構の位置における相対的前後関係によっている部分が大きい。

前節で分かれた弥生土器の大きな3群はおおまかには時期差を想定できるものと言え、東調査区における2群については遺構の重複関係から東竪穴住居群が古く、東方形周溝墓群が新しいものである。よって各弥生土器群の時間的推移は北調査区の一群・東竪穴住居群・南調査区の一群が古く、次に西調査区の一群、最も新しい一群として東方形周溝墓群となる。しかし細かな器形組成の変化や各器形の形態変化の併行関係をみていくと前後する弥生土器群の間には重複する部分があり、それらの特徴の変遷と遺構の重複関係を重視して検討したのが第2表である（第2表の数字と文字は各分類を、記号は量比を示している〔○は存在する、◎は多く存在する〕）。この表においては前節で検討した3群の時間的推移をもとに一色青海I式～一色青海III式の3時期の弥生土器群に分け、さらに各器形の形態的特徴の変化をもとにI式を2段階、III式を3段階に分類した。そこで各段階における各器形の形態的特徴の変化を述べ、その後全体の変遷についてその特徴を述べる。

### （4）各器形の形態的特徴の変化

#### （第6図～第13図・第2表）

今回の調査によって出土した弥生土器は先述したように細頸壺・太頸壺・太頸短頸壺・無頸壺・高杯・鉢・大型鉢・深鉢・甕に分類しており、分類した各器形の出土量と頻度は大きく偏っている。出土量・頻度とも少ない器形については細かな変化をおいていくことは不可能で、ここでは出土量・頻度とも比較的多く、時期区分の中心になっている細頸壺・太頸壺・甕の3器形についてまず

述べ、その他の器形については3器形の形態変化に沿った共伴関係から形態変化を述べる。

#### a. 細頸壺（第6図）

細頸壺はA～Eまであり、細頸壺Eは破片のみしかなく少量で、全体を復元できるものがない。ここでは細頸壺A～Dについて述べる。

細頸壺A～Dは一色青海I式から一色青海III式まで出土量においてやや消長が見られるもののほぼ全段階にわたり存在する。

#### 一色青海I式

##### a段階

細頸壺A・Bが細頸壺C・Dより多く組成するものと思われ、このことはこの段階における遺構出土の壺底部形態a類・b類がc類・d類より多いという傾向からもいえる。I式を通じていえることであるが、口縁部の判明するものはないが出土例の多い細頸壺とは別に細身で外面部下半をヨコミガキする精製の器形を含む。

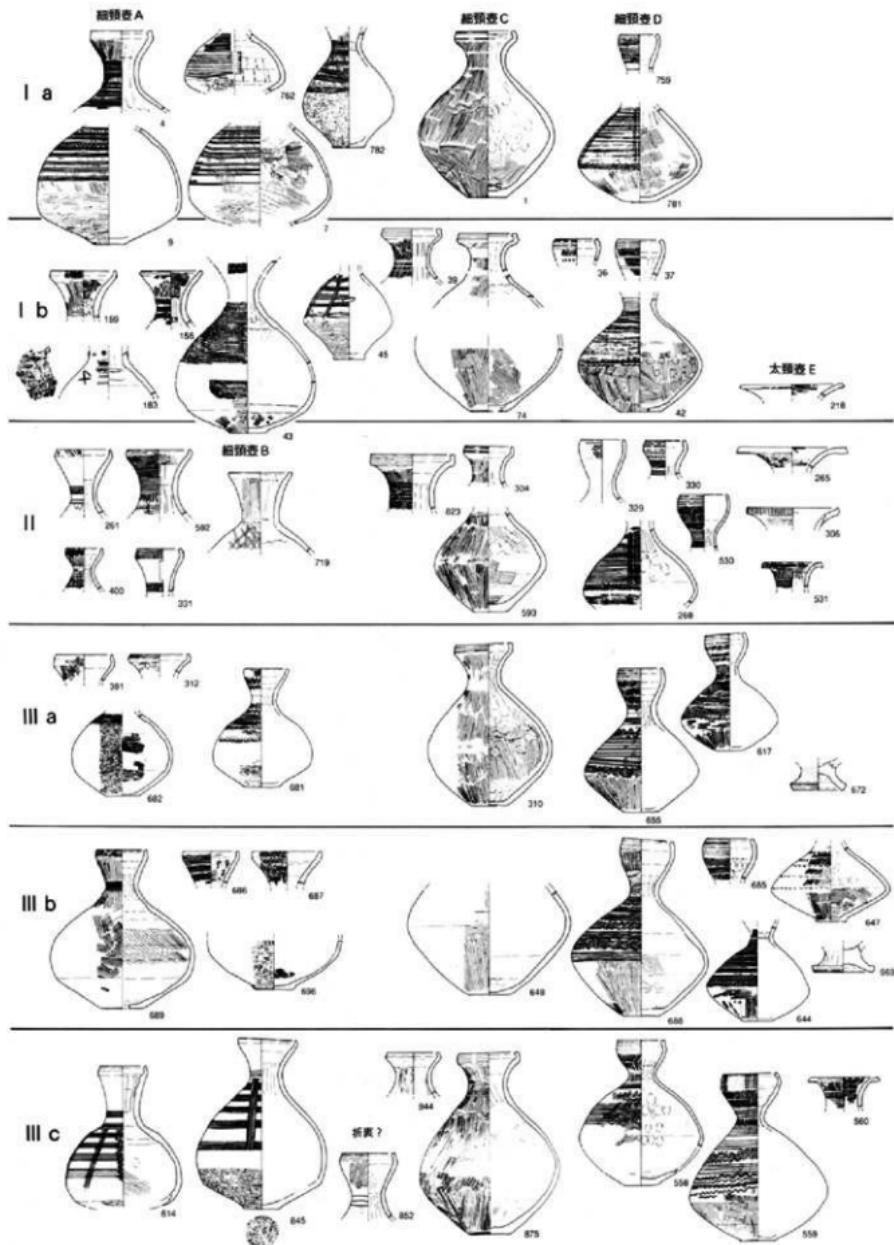
細頸壺A・Bでは口頭部1類と2類のものがあり1類が主体的である。細頸壺C・Dでは1類のもののみで構成される。文様ではどの器形においても櫛I種・櫛II種による直線文が主体であるが、細頸壺A・Bにおいて全段階から続く体部上半の磨り消し線文と呼ばれるヨコミガキ暗文直線文のみられたものがある。また外面部上半に櫛I種山形文が2～3帯あるものはb段階にも続く特徴である。細頸壺Dの体部上半の文様は上部に直線文が通り、最下段に波状文が1帯あるものがほとんどで、この傾向は一色青海II式まで続く。

##### b段階

a段階から続く特徴も多いが、細頸壺の組成において細頸壺C・Dが量的に細頸壺A・Bより多くの傾向がある。このことは壺底部形態においてc類・d類が増加し、d類が主体的である傾向からもこのことを示唆する。

形態的特徴については細頸壺A・Bにおいて口

第2表 弥生土器の相成2



第6図 細頸壺の変遷 (1:8)

頸部形態1類から2類に主体が移ること、細頸壺C・Dにおいて口頭部形態1類に加えて2類が現れることがあげられる。

#### 一色青海II式

細頸壺の組成についてはI式b段階と同様な傾向にある。II式においては細頸壺Eが比較的みられる。

形態的特徴については細頸壺A・Bにおいて口頭部形態1類がほとんど無くなり、3類・4類が加わる。主体は2類であるが、細頸壺Bの口縁部形態で口縁端面の向きがI式の外面斜め上方から上方に変化する。

#### 一色青海III式

細頸壺の組成において細頸壺A・Bが少なくなり、細頸壺Dが増加する。III式の遺構は方形周溝墓が主であり、堅穴住居・土坑出土の組成に比べて方形周溝墓出土のものでは明らかに細頸壺Dが多い傾向にある。この傾向がIV式の特徴かどうかは今後の課題として残る。

#### a段階

堅穴住居出土のものでは細頸壺Cが多いが方形周溝墓では細頸壺Dが多い。細頸壺A・Bは少ないと確実に伴う。

形態的特徴では口頭部形態がほぼ3類のみになる。細頸壺A・Bでは、細頸壺Aの口縁部の受口が小さく不明瞭になり、細頸壺Bとの区分があいまいになった感がある。II式に比べてより短く外反する口縁部形態になり、口頭部文様に波状文が増える。細頸壺Cは3類の口縁部が体部から強く外反する形態に変化する。細頸壺Dでは口頭部形態2類があらわれ、口縁部が短くなり、口縁部上端の凹線文が多条化する。頭部の文様が輪描筆状文が主体になる。体部上半の文様の中に波状文と直線文が交互に繰り返し描かれるものが多くなる。輪描文の最下段の文様には波状文が描かれる。

#### b段階

a段階と細頸壺の組成及び、形態的特徴においてほとんど変化ないが、細頸壺Dの体部上半の文様帶で輪描波状文と直線文が交互に繰り返し描かれるものが多くなり、それらのものの中に輪描文の最下段に直線文を描くものがあらわれる。

明確な共伴例がないが細頸壺Cは口頭部形態3類のものが伴うものと思われる(SZ 17)。

#### c段階

細頸壺C・Dにおいて大きな形態変化がある段階で、細頸壺の組成では細頸壺C・Dの共伴例がなく、不明瞭であるが細頸壺A・Bは確実に伴うようである。細頸壺C・Dでは、口頭部形態が4類に変化し、口縁部が短く体部が下膨れ状の形態になる。852は細頸壺Aと細頸壺Dの折衷型であろうか。

#### b.太頸壺(第7図)

太頸壺はA~Gまであるが、一色青海遺跡の中で型式変化を追えるのは太頸壺A~Eで、太頸壺Gは一色青海遺跡においては客体的存在であることからその他の器形の部分で述べる。太頸壺Fについては少量であることから出土のある段階で述べる。

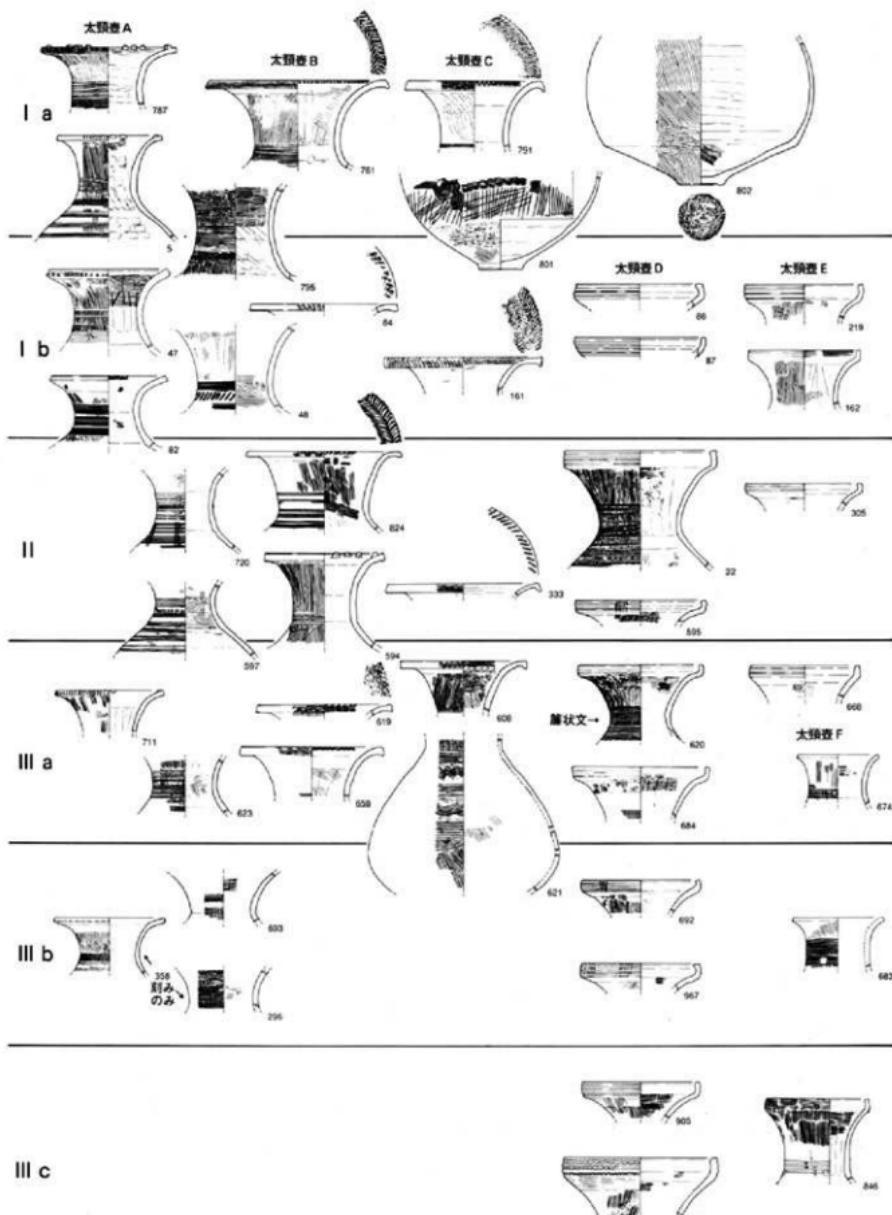
太頸壺における器形組成においては、一色青海III式a段階までは比較的多く見られるが、III式b段階以後は少くなり、ほぼ太頸壺Dのみとなる。

#### 一色青海I式

#### a段階

太頸広口壺の太頸壺A~Cが主体で太頸壺D・Eは全体を復元できるものが多く、存在しても少ないものと思われる。

太頸壺の形態的特徴では口頭部形態1類が主体であるが、2類も併存する。内面口縁部文様帶は円形浮文をつける $\alpha$ 類が多く、 $\beta$ 類も一定量ある。体部形態は全体を復元できるものが多く不明であるが、破片などの資料からは体部最大径が体部中位にある比較的腰高のものと体部下位にある下膨



第7図 太頸壺の変遷 (1:8)

れ状のものがある。壺底部形態では少量a類～c類が存在するものと思われるが、基本的にはd類である。

#### b段階

太頸広口壺の太頸壺A～Cがa段階に続き主体であるが、太頸壺D・Eが比較的見られるようになる。太頸壺D・Eでは太頸壺Eの形態が多いように思われる。

太頸壺A～Cでは、口頭部形態1類と2類があるが、2類が多くなる。内面口縁部文様帶はa類～γ類まで存在するがβ類が多い。体部形態や底部形態はa段階と大きな変化はないように思われる。太頸壺D・Eでは太頸壺Dは小片しかなく不明であるが、太頸壺Eは口頭部形態1類のみである。壺底部形態はd類である。

#### 一色青海II式

太頸広口壺である太頸壺A～Cと太頸受口壺である太頸壺D・Eがほぼ同じ比率で出土するようになる。

口頭部形態はどの器形も1類が残るもの2類のものが多くなる。頭部の文様帶が頭部より上の口縁部にまで及ぶのもこの段階の特徴である。太頸壺A～Cの内面口縁部文様帶はa類～γ類まで存在するがβ類が多い。

体部形態、底部形態はあまり変化がないように思われる。

#### 一色青海III式

##### a段階

太頸壺A～Cの頭部が細くなり、細頸壺Eとの区分が不明瞭になり、やや減少傾向になる。太頸壺全体の組成の中ではII式と同様の傾向にあるが、太頸壺Fがこの段階から少量見られる。

太頸壺などの器形も頭部が細くなり口縁部が大きく外反して開く口頭部形態3類に変化する。太頸壺A～Cの内面口縁部文様帶はβ類が残るものγ類が多くなる。頭部文様帶はII式に比べて下

がり頭部の部分のみ描かれるものが多くなる。全体が分かることは存在しない。体部などの形状は変化しないものと思われるが、直線文を持つ壺ではI式に比べて文様間の間隔が広くなつたように思われる。

##### b段階

太頸壺の頭部がより細くなり、特に太頸壺DとEの区別は困難になり、太頸壺Eはなくなる。太頸壺はa段階に比べると全体的に少なくなり、太頸壺A～Cがより少なくなる傾向にある。太頸壺Fは少量存在する。

形態的には太頸壺DがS Z 2 0 b底と上層で口頭部形態3類から4類に変化するのを一つの画期としている。太頸壺A～Cの内面口縁部文様帶はほとんどγ類になる。太頸壺の頭部に備I種左上がりナメ刻みがある帶状浮文が浮文を伴わない刻みのみになる。口縁部であるが全体に小ぶりのものが多くなる。

##### c段階

一色青海遺跡ではこの段階の大頸壺A～Cは不明瞭で、太頸壺Dのみが見られる。太頸壺は一層少なくなる傾向にある。太頸壺Dの口頭部形態は4類である。この段階には凹線文を伴わない太頸受口壺もみられ、口頭部形態は細頸壺A・Bの1類に類似する。

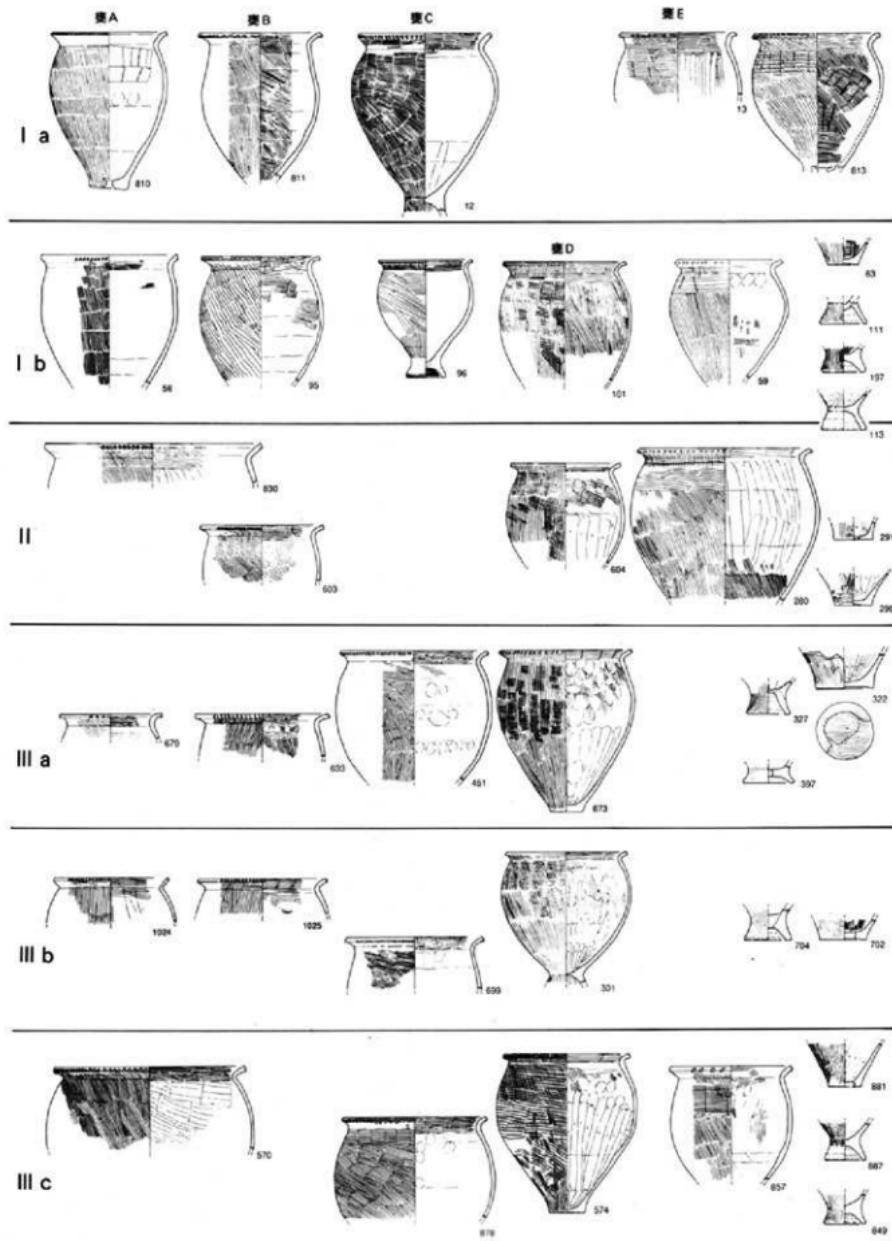
#### c. 壺(第8図・第9図)

壺は壺A～Iの器形に分かれる。壺D・H・Iはやや遅れて現れるが、その他の器形は消長があるものの全段階を通じて存在する。

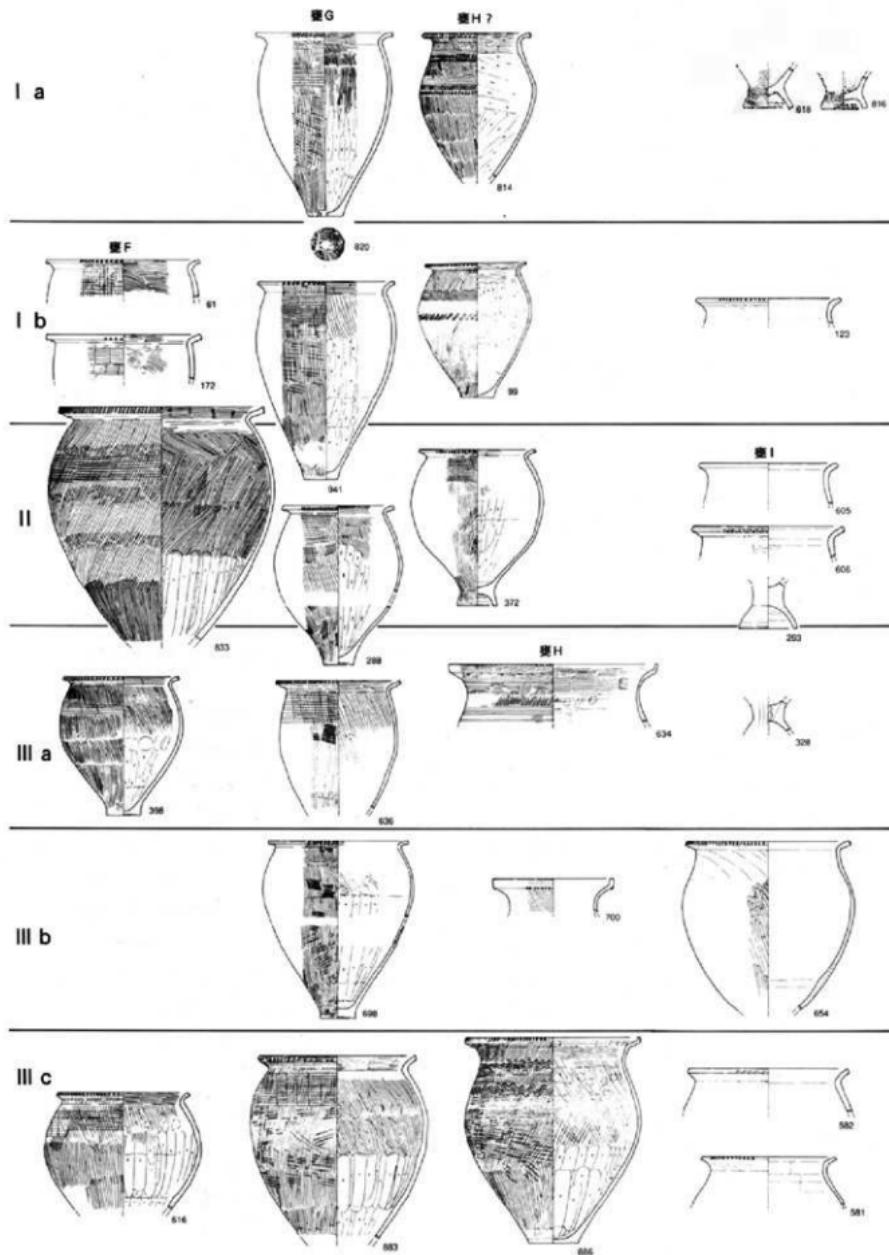
#### 一色青海I式

##### a段階

壺A～C・E～G・(H)が存在する。壺A～C・Eが主体であるが、壺F・壺Gも一定量存在する。口頭部形態では1類・2類のものが主体である。壺底部形態ではa類・b類・d類が多い。壺Cは台付壺になる可能性が高く、b類の脚台が付くもの



第8図 壺の変遷1 (1:8)



第9図 壺の変遷2 (1:8)

が多い。壺Gは平底のものが主体である。壺Hとされているものは口縁部が断面くの字状口縁で体部上半に櫛描直線文・波状文・ナナメ刻みなどを施すもので、内面をケズリ調整しているのが特徴である。I式b段階にも1点ある。

#### b段階

壺A～Iが存在する。a段階から引き続く壺A～C・Eに加えて壺D・Fが多くなる。壺H・Iも少量であるが含まれるようになる。口頭部形態では1類・2類が多いが、4類も一定量存在するようになる。特に壺D～Gでは口頭部形態2類・4類が主体的になり、口頭部形態1類・2類が卓越する壺A～Cとは明らかに異なる傾向が現れる。底部形態では平底のa類が多く、それに加えてb類・d類・e類が一定量存在するのが特徴である。この段階までの壺Fでは内面ケズリ調整を確認できていない。

#### 一色青海II式

壺A～Iまで存在するが、壺H・Iは少量である。壺の組成においてI式に主要な壺であった壺A～Cが少くなり、壺D～Fが主体となる。壺Gも一定量存在する。

口頭部形態では全ての器形において2類・4類が多くなり、体部上半が外に張る形態が定着する。底部形態ではa類が圧倒的に多く、その他の形態がごくわずかになる。底部形態d類の壺G(372)は内面ケズリ調整をするものである。

#### 一色青海III式

III式では壺A～Iまで存在するが、II式に主要な壺Eが少数になり、壺D・F・Gの内面をケズリ調整をする壺が卓越する段階で、同時に壺D・Gのような外面にタタキ調整を残すものが主体となる。壺A～C・Eは少數になるものの確実にIII式を通じて存在する。この傾向はIII式を通じる傾向と思われる。

#### a段階

この段階では少數派になった壺A～C・Eにおいて比較的口頭部形態1類・3類がみられる。壺D・F・GはII式の傾向と変わらない。底部形態のa類が多いようであるが、堅穴住居においては比較的底部形態e類がみられる。

方形周溝壺では平底の壺が中心である。

#### b段階

口頭部形態がほとんど2類か4類になる。底部形態はa段階と同様に遺構の種類により底部形態が異なることが分かる。体部の断面形状が球胴化する傾向にある。壺Iも形態的にみてII式のものに比べて体部上半の張りが強くなる

#### c段階

ほとんど口頭部形態2類と4類になる。底部形態はa類が卓越する。

#### d. その他の器形（第10図～第13図）

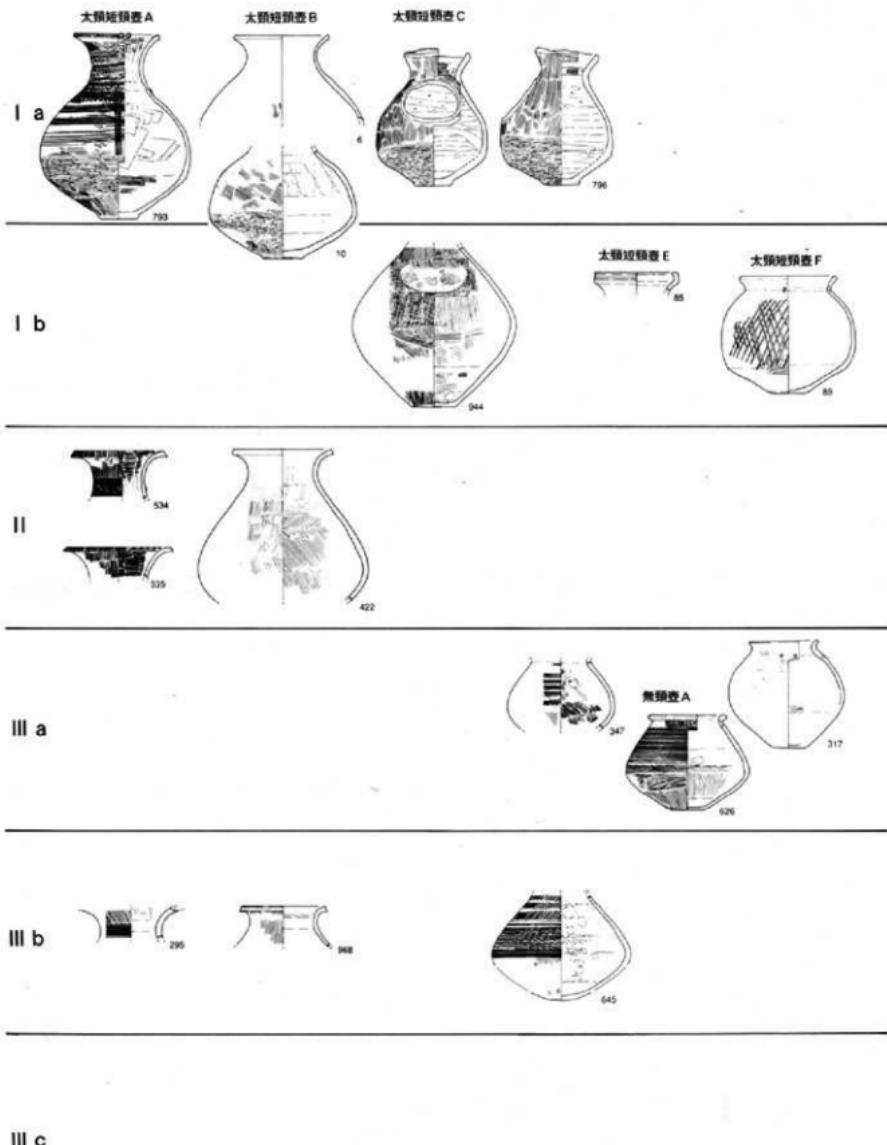
統いて主に細頸壺・太頸壺・壺によって区分された土器群に基づき、それらの各段階に伴うその他の器形について、器形の消長とその形態変化について述べる。

#### 1) 太頸短頸壺（第10図・第12図）

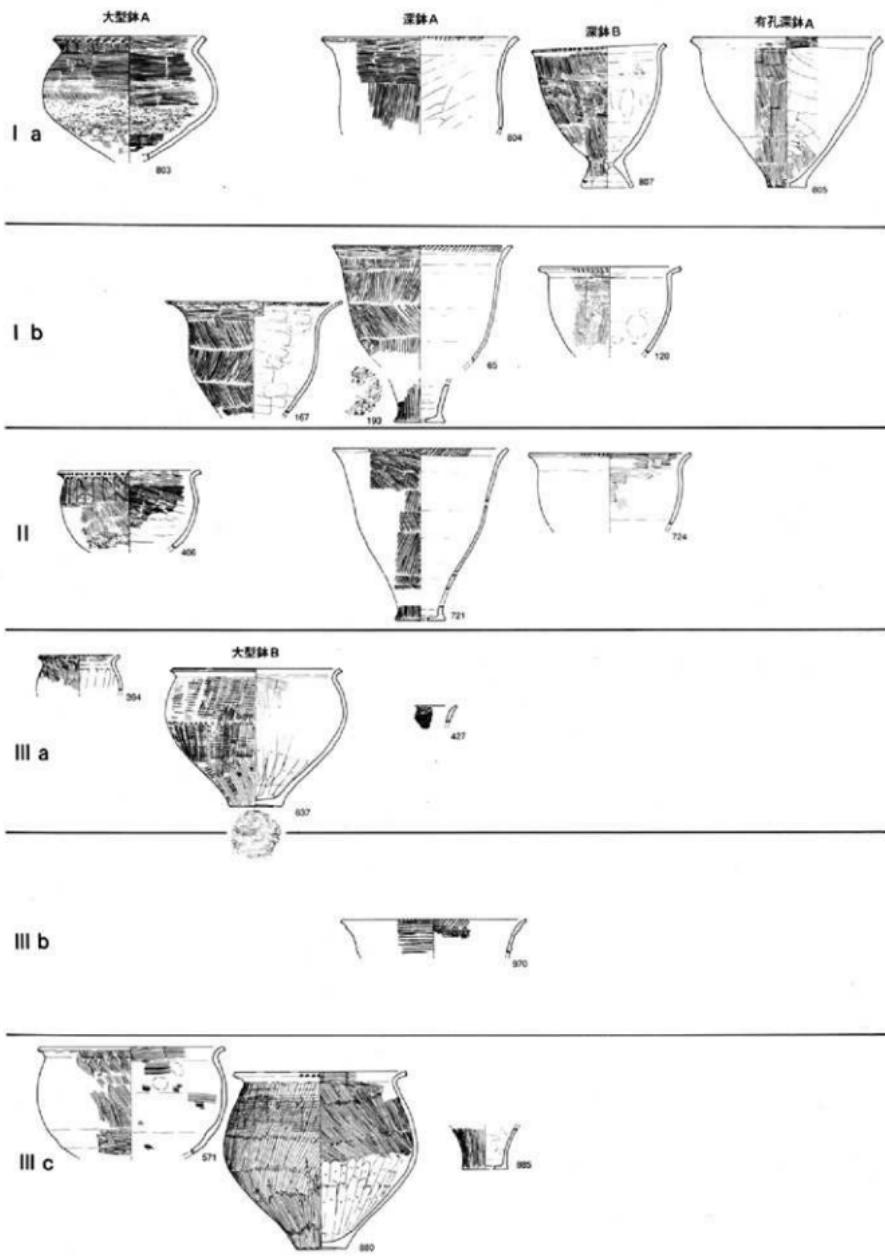
太頸短頸壺はA～Gまで分類され、この内太頸短頸壺Gについては主に三河地域からの輸入品と考えられるので、その影響が伺われる太頸短頸壺Dと同じく後でまとめて述べることにする。

太頸短頸壺A～C・E・Fは、小型の壺と考えられ、一色青海遺跡では太頸短頸壺A～Cは一色青海II式までは比較的見られるようであるが、その後少なくなる傾向があり、全時期を通じた形態変化を追うことはできない。太頸短頸壺Eは口縁部の破片を少數確認しているのみで、全体を復元できるものがよくわからない。

太頸短頸壺Fも出土点数は多くないが、I式b段階のものは断面くの字状口縁で体部が断面下膨れ台形状の形態から、III式a段階には体部最大径が体部中位程の壺高の形態に変化し、口縁部も短

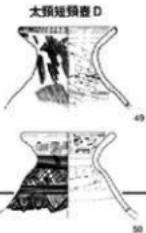
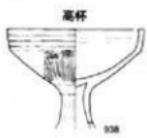


第10図 太頸短頸壺の変遷 (1:8)

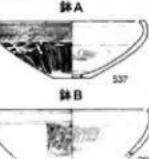
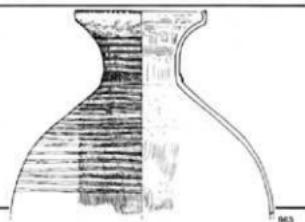


第11図 大型鉢・深鉢の変遷 (1:8)

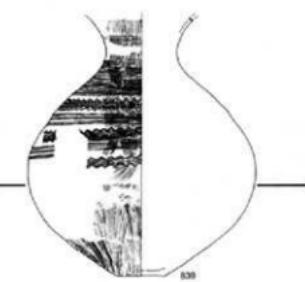
I a



I b



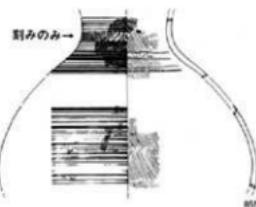
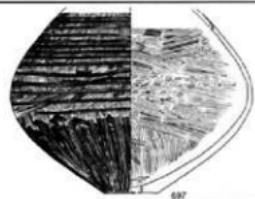
II



III a



III b



III c

第12図 鉢・高杯・太頸短頸壺D等の変遷 (1:8)

く外反する形状となる。89は体部上半に斜格子の暗文を描いている。同段階には無頸壺Aが一点出土しているが、体部は最大径が体部下半にある形状のものである。体部上段に櫛描廉状文を描き、最下段に波状文を描くのが特徴である。底部形態はd類である。

### 2) 大型鉢・深鉢 (第11図)

大型鉢はAとBがあり、精製の土器である大型鉢Aは一色青海I式から存在する。一方大型鉢Bは一色青海III式の指標になる土器である。大型鉢Aの外面体部上半には波状文風のハケ調整が施されている。

深鉢はA・Bとあり、深鉢A・BともI式a段階から存在する。

深鉢Aは搬入品と考えられるものである。形態的に明瞭な変化はないが、I式のものは口縁部が肥厚し、体部が砲弾形のものが主体で、II式以後口縁部の肥厚がなくなりやや細長い形状になる。また底部形態はa類であるが、I式では体部下半の底部際が抉れる形態のものが多いが、II式以後のものはその抉れがやや緩やかになる傾向がある。今回III式と考えられる資料の中には全体を復元できるものはなかったが、口縁部内面に櫛条痕の工具を使った右上がりナメ刻みに波状文を描いたものがみられる(970)。また167の口縁山形になるものは体部中央が張るものである。

深鉢Bとしたものは形態的には有孔深鉢Aと同様な形態であり、本来同一と思われるものがある。有孔深鉢Aは甕などと異なり、外面に煤付着が見られないのが特徴である。深鉢B・有孔深鉢AはともにI式を代表する器形である。

### 3) 鉢 (第12図)

鉢はA～Cがあるが、鉢AがI式a段階から少數ながら存在する。鉢B・Cがやや後出するようであるが、同時期に存在する形態と思われる。III式a段階までは確実に存在するが、III式b段階以

後は存在するのかよく分からなかった。

### 4) 高杯 (第12図)

高杯はA～Cに分けられるが、本製容器を模した高杯は確認できなかった。高杯は存在するようであるが、数点確認したに過ぎない。高杯CはIII式に現れる器形である。

### 5) 太頸壺G・太頸短頸壺G・H (第13図)

いわゆる三河系の太頸壺であるが、考古学的には搬入品と考えられるものである。I式b段階から比較的みられ、II式以後頸著にみられるようになる。口縁部では受口の形態になる太頸壺G・太頸短頸壺Gが多くみられるが、体部破片からは広口壺になる太頸短頸壺Hの方が多く認められるようと思われる。III式b段階には少なくなるように思われる。

一色青海遺跡でみられる三河系の太頸壺では全体を復元できるものが少なく形態変化を追うのが困難であるが、各段階の基準としたのは、次のとおりである。

I式：口縁部に部分圧痕文をもつ太頸短頸壺Hと体部上半が張らないタイプのもの。

II式：太頸壺Gの口縁部の受口形態が比較的整っていて頸部が長いもの、太頸短頸壺Hと思われる体部上半が外面上方に張ってくるタイプのもの。

III式a段階：太頸壺Gの口縁部の受口形態が不明瞭になり頸部が短くなるもの。

III式b段階：体部文様にバッチ状の充填櫛描文の存在と太頸短頸壺Dに分類した650のような文様が沈線によるものに変化し、文様構成が完全に変化したもの。

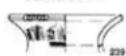
### 6) 太頸短頸壺D (第12図)

太頸短頸壺Dは点数こそ少ないが、口縁部から体部上半にいたる形態や文様などからこれら三河系の影響を受けた在地系の土器と思われる。体部の文様を描く原体は、先述の太頸壺Gや太頸短頸壺G・Hのササラ櫛状の櫛III種ではなく、文様構

I a

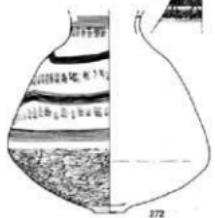
太頸短頸壺 H

I b

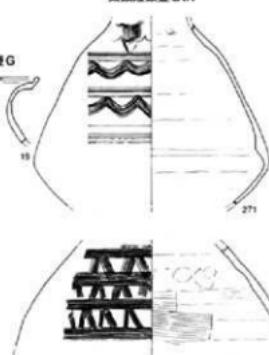


II

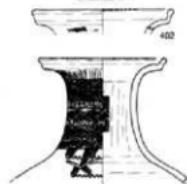
太頸短頸壺 G



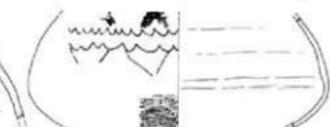
太頸短頸壺 G.H



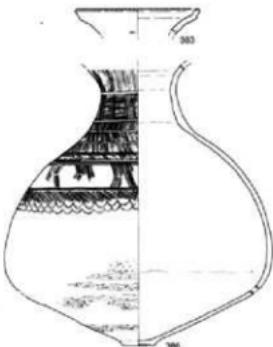
太頸壺 G



965



III a



III b



第13図 太頸壺 G・太頸短頸壺 G・Hの変遷 (1:8)

成も異なっている。

## (5)まとめ

### a.各段階の傾向とその特徴

一色青海遺跡出土土器は、全て從來の尾張地域における高藏式に属するもので、主要な器形における組成は今回分けた時期区分に間らず存在するものと思われる。したがって先述した一色青海遺跡の時期区分は一部の土器の有無や細分した器形ごとの組成変化（出土量や出土頻度の変化）をもって認識している。ここではまず前節の各器形の分析を踏まえて、先述した各土器群から時期的に重複する部分を整理し（第2表）、一色青海遺跡出土弥生土器にみられる傾向とその特徴について述べる。

### 一色青海I式

東堅穴住居群・北調査区の一群の一部における器形組成を主に基準にしている。器形組成と器形ごとの形態的特徴では、細頸壺・太頸壺口頭部形態1類・2類が主体であること、太頸壺内面口縁部文様帶で $\alpha$ 類・ $\beta$ 類が多いこと、壺底部形態 $a$ 類～ $d$ 類がそれぞれ一定量あること、深鉢Bがあること、壺A～Hが多いこと、壺の口頭部形態4類が一定量あるものの1類・2類が多いこと、壺底部形態 $a$ 類が多いものの $b$ 類・ $d$ 類・ $e$ 類が比較的多いこと、などがある。

このうち $a$ 段階の基準資料はN R 06 a・N R 03下層・S B 02出土土器で、S B 02はやや新しい傾向をもつ資料と考えられる。この段階の特徴としてはいわゆる貝田町式とされる土器群を構成する細頸壺A・Bや太頸壺A～C、壺A～Cがやや形態変化しながらも主体的に存在する点で、続く $b$ 段階と異なるのは壺Dがみられないことである。

$b$ 段階はS B 15・S B 26・S K 17をこの段階の基準資料と考える。この段階の特徴としてはI式になってあらわれたいわゆる凹線文系といわれる

土器群（細頸壺C・D、太頸壺D・E、壺D・E・F）が増加し主要な器形になる点で、三河系とされる太頸壺G、太頸短頸壺G・H、壺Iも少量であるが搬入される。

### 一色青海II式

西調査区の一群のI式に存在する特徴をもつ部分の器形組成を基準にしている。この段階の資料としてはN R 081面・S B 66・S B 94をもって設定する。N R 081面の資料はS B 66廃施後の洪水砂が堆積した後もので新旧関係にある。

器形組成と器形ごとの形態的特徴では、細頸壺・太頸壺口頭部形態2類・3類が主体であること、太頸壺内面口縁部文様帶で $\beta$ 類が多いこと、壺底部形態 $a$ 類・ $b$ 類は少なく $c$ 類・ $d$ 類が多いこと、大型鉢Bがあること、深鉢Bがあること、壺A～Gがそれぞれ一定量あること、壺口頭部形態の2類・4類が多いこと、壺底部形態 $a$ 類が主体的で $e$ 類も一定量あること、などがある。

この段階の特徴としては細頸壺など壺の頭部形態で短く外反する2類が主体となることで、短頭化という傾向がみられるようになる。また壺A～C・Eの形態が壺D・F・Gの形態的特徴の影響を受けた口縁部が強く屈曲し、体部上半が外面に張る形態が主体となる。II式は細頸壺における特徴的な形態変化を軸に設定されており、どの段階も同様であるが、その他の器形単独で厳密な段階区分を充てるのは困難である。

### 一色青海III式

東方形周溝墓群の出土土器の器形組成をもって基準としている。器形組成と器形ごとの形態的特徴では、細頸壺・太頸壺口頭部形態3類・4類が主体であること、太頸壺内面口縁部文様帶で $\gamma$ 類が主体であること、壺底部形態 $a$ 類・ $b$ 類は少なく $c$ 類～ $e$ 類が多いこと、大型鉢Bが存在すること、壺D・F・Gが多いこと、壺口頭部形態2類・4類が多いこと、壺底部形態 $a$ 類が多く、 $d$ 類・ $e$ 類

が少ないと、などがある。器形組成はⅢ式を通じてあまり変化しないが、太頭短頸壺はほとんど無くなり、太頭壺では太頭壺A～Cが減少し、太頭壺D・Eが主要な器形となる。壺の底部形態ではa類が多いものの、高脚台付壺（壺Dや壺F・Gにみられる）の存在はⅢ式の重要な要素である。脚台付き壺の存在も同様な特徴である。

Ⅲ式の段階区分は細頭壺C・D・太頭壺Dの形態変化によっており、Ⅱ式においてあらわれた壺の短頭化傾向が一層明瞭にあらわれる。

a段階はSB73・SB82・SZ13・SZ18 SZ20 b底面を基準にしている。Ⅲ式で基準としている窓穴住居と方形周溝墓の調査区は離れており、また壺類や甕類の器形組成が異なっているため、完全な同時性を表現することが困難であった。

b段階はSB68・SZ17・SZ20 b上層出土資料を基準にしている。a段階とb段階はSZ20 bの出土層位による太頭壺Dの型式変化と細頭壺Dの文様構成をもって設定しており、その他の器形についてはほとんど変化がない。

c段階はSZ05・SZ11・SK03・SK11出土資料をもって基準にしている。SZ05とSK11は重複関係にあり、SZ05の溝埋没後SK11が掘削されているが、出土した細頭壺Cは土坑に、細頭壺Dは方形周溝墓に伴っており、遺構の性格を反映している可能性が高い。c段階とした資料は少なく、全ての器形を提示できていないものと思われる。

#### b. 尾張地域における弥生土器区分との関係

尾張地域の高蔵期における土器編年は阿弥陀寺遺跡（石黒1990）・大瀬遺跡（石黒1991）・朝日遺跡（石黒1994）などの遺跡により主に進められてきており、各遺跡ごとに、出土した資料による微妙な時期差などが存在するものと思われるが、ほぼ一貫した原則に基づいて区分されてきたものと思われる。これら3遺跡は比較的近接した地域に

あり、遺跡の地理的背景として現在考えられる水系についても同じ水系に分類できるものである。しかし今回分析した一色青海遺跡はわずか10kmであるが西に位置しており、地理的背景も同一の水系と考えることは出来ない。ここでは一色青海遺跡との関係において阿弥陀寺遺跡・大瀬遺跡・朝日遺跡などと共通する部分と異なる部分があると思われる所以その点についてまとめる。

阿弥陀寺遺跡において、凹線文の出現をもってⅢ期とされた土器群はⅢ1期～Ⅲ3期に細分され、Ⅲ1期を出現期、Ⅲ2期を展開期、Ⅲ3期を盛行期として位置づけられている。一色青海遺跡においてもその傾向は伺われ、Ⅰ式～Ⅱ式における細頭壺・太頭壺・壺などにみられる器形組成や各器形の形態変化などからその変化の特徴を位置づけることが出来る。またⅢ式における主要な器形の組成において変化があまりない点も阿弥陀寺遺跡においてⅢ3期とされた内容に対応しているように思われるし、Ⅲ式にあらわれるとした大型鉢Bや高脚台付壺や脚台付き壺の普及といった点でも同様な傾向にあるものと思われる。

このような器形組成における共通点があるものの、一色青海遺跡の遺構資料の偏りによる影響もあってか台付壺の比率が低い点、平底の壺がⅢ式とした段階まで主体である点、細頭壺A・BがⅢ式まで残る点、高杯が少ない点で阿弥陀寺遺跡などと様相が異なる。

この中で現状として資料化された壺の様相差は時期区分などにおいて、比較的これまで重要視されてきた要素である。大瀬遺跡などではⅡa期とされた一群に低脚の台付壺が比較的共伴する点が一つの段階指標として考えられているが、一色青海遺跡で低脚台付壺が多くみられるのはⅠ式にしたため、大瀬遺跡の段階よりは古い要素として考えている。それと同時に阿弥陀寺遺跡や大瀬遺跡などでは台付壺の比率が高まるようであるが、同

段階と考えている一色青海II式ではほとんど平底壺の段階として考えられる。この傾向は先述したIII式においても同様である。

また阿弥陀寺遺跡におけるIII2期・III3期の区分と一色青海遺跡におけるII式・III式の区分の関係は微妙である。阿弥陀寺遺跡III2期・大潤遺跡2a期・朝日遺跡VI2期とされた部分はやや幅があり、内湾口縁の細頸壺Dの形態などからは一色青海遺跡II式からIII式a段階を含むものと思われ、大潤遺跡2b期は一色青海III式a・b段階に対応するものと思われる。また同様に阿弥陀寺遺跡III3期・朝日遺跡VI3期は一色青海遺跡III式c段階に対応しているものと考えられる。

このような微妙な違いはまず時期区分を行う際の資料の偏りがある程度存在することと、同時に遺跡の形成された背景の相違によるもの（いわゆる地域性か）が反映されているものと考えられる。また調査・分析を担当した人間による微妙な認識レベルの差（一色青海分析者の方がレベルが低いかもしれないが）も多少反映しているものと考えられる。こうした認識レベルの違いを含めて今回あらわれてきた相違などは今後の遺跡研究の上で重要な研究課題として残るものである。今後の調査・研究の進展を待ちたい。

#### 参考文献

- 石黒立人 1990「弥生時代の遺構と遺物」『阿弥陀寺遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第11集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター  
石黒立人 1991「弥生時代土器」・「弥生中期にみる複数の系」その2』『大潤遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第18集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター  
石黒立人 1994「時期区分をめぐって」『朝日遺跡V』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第34集』財団法人愛知県埋蔵文化財センター

第3表 弥生土器觀察表1

件号 番号	遺跡番号	調査区	旧復舊番号	器形分類	寸法 (mm)	底面 形状	底面状況				法面 (cm)				備考	
							a	b	c	d	e	f	高さ (mm)	13径 (mm)	14径 (mm)	15径 (mm)
105	SB15	93Aa	SB104%SK03	縦D	2	1	1	1	1	1	1	24.9	29.2	26.8	7.8	
106	SB15	93Aa	SB104%7	縦D	2	1	1	1	1	1	1	24.9	29.2	26.8	8.4	
107	SB15	93Aa	SB104%SK03	人頭形								24.9	29.2	26.8	9.0	
108	SB15	93Aa	SB104%SK02	人頭形								24.9	29.2	26.8	7.8	
109	SB15	93Aa	SB104%	人頭形								24.9	29.2	26.8	7.8	
110	SB15	93Aa	SB104%7	人頭形								24.9	29.2	26.8	7.8	
111	SB15	93Aa	SB104%SK02	人頭形								24.9	29.2	26.8	7.8	
112	SB15	93Aa	SB104%6.1	人頭形								24.9	29.2	26.8	7.8	
113	SB15	93Aa	SB104%6	人頭形								24.9	29.2	26.8	7.8	
114	SB15	93Aa	SB104%SK03	人頭形								24.9	29.2	26.8	7.8	
115	SB11	93Aa	SB105	縦C	2	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	5.6	
116	SB11	93Aa	SB105	縦D	2	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	5.6	
117	SB11	93Aa	SB105	縦D	2	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	5.6	
118	SB11	93Aa	SB105B	縦D	2	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	5.6	
119	SB11	93Aa	SB105	人頭形								13.3	12.0	10.7	9.4	圓柱に径0.5cmの穿孔2箇
120	SB11	93Aa	SB105	人頭形								13.3	12.0	10.7	9.4	圓柱に径0.5cmの穿孔2箇
121	SB11	93Aa	SB105	人頭形								13.3	12.0	10.7	9.4	圓柱に径0.5cmの穿孔2箇
122	SB11	93Aa	SB105B	人頭形								13.3	12.0	10.7	9.4	圓柱に径0.5cmの穿孔2箇
123	SB11	93Aa	SB105B	人頭形								13.3	12.0	10.7	9.4	圓柱に径0.5cmの穿孔2箇
124	SB11	93Aa	SB105B	人頭形								13.3	12.0	10.7	9.4	圓柱に径0.5cmの穿孔2箇
125	SB11	93Aa	SB105B	人頭形								13.3	12.0	10.7	9.4	圓柱に径0.5cmの穿孔2箇
126	SB11	93Aa	SB105	人頭形								13.3	12.0	10.7	9.4	圓柱に径0.5cmの穿孔2箇
127	SB14	93Aa	SB105A	縦A	4	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.1	
128	SB14	93Aa	SB105	縦B	4	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.1	
129	SB14	93Aa	SB105	縦B	4	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.1	
130	SB14	93Aa	SB105	縦B	4	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.1	
131	SB14	93Aa	SB105	縦B	4	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.1	
132	SB14	93Aa	SB105	縦B	4	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.1	
133	SB14	93Aa	SB105A	縦B	4	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.1	
134	SB14	93Aa	SB105	縦B	4	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.1	
135	SB17	93Ab	SB02	縦C	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
136	SB17	93Ab	SB02	縦C	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
137	SB17	93Ab	SB02	縦C	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
138	SB17	93Ab	SB02	縦C	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
139	SB21	93Ab	SB01	縦D	4	1	1	1	1	1	1	29.2	29.2	23.5	6.5	
140	SB21	93Ab	SB01	縦D	4	1	1	1	1	1	1	29.2	29.2	23.5	6.5	
141	SB21	93Ab	SB01	縦D	4	1	1	1	1	1	1	29.2	29.2	23.5	6.5	
142	SB21	93Ab	SB01	縦D	4	1	1	1	1	1	1	29.2	29.2	23.5	6.5	
143	SB21	93Ab	SB01	縦D	4	1	1	1	1	1	1	29.2	29.2	23.5	6.5	
144	SB21	93Ab	SB01	縦D	4	1	1	1	1	1	1	29.2	29.2	23.5	6.5	
145	SB28	93Bb	SB12	縦C	2	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.2	
146	SB28	93Bb	SB12	縦C	2	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.2	
147	SB28	93Bb	SB12	縦C	2	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.2	
148	SB28	93Bb	SB12	縦C	2	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.2	
149	SB28	93Bb	SB12	縦C	2	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.2	
150	SB28	93Bb	SB12	縦C	2	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.2	
151	SB28	93Bb	SB12	縦C	2	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.2	
152	SB28	93Bb	SB12	縦C	2	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.2	
153	SB28	93Bb	SB12	縦C	2	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.2	
154	SB28	93Bb	SB12	縦C	2	1	1	1	1	1	1	10.0	10.0	8.0	6.2	
155	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
156	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
157	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
158	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
159	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
160	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
161	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
162	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
163	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
164	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
165	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
166	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
167	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
168	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
169	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
170	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
171	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
172	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
173	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
174	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
175	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
176	SB37	93Bb	SB16	縦D	2	1	1	1	1	1	1	9.8	9.8	6.2		
177	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
178	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
179	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
180	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
181	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
182	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
183	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
184	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
185	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
186	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
187	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
188	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
189	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
190	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
191	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
192	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
193	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
194	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
195	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
196	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
197	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
198	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1	1	1	1	5.8	5.8	4.4		
199	SB34	93Bb	SB06SW	縦D	2	1	1	1</								

第5表 弥生土器觀察表3

目録 番号	器種番号	調査区	日遺構番号	器形分類	工具 分類	現存状況					測量 (cm)					指考	
						表面 状態	内部 状態	a	b	c	d	e	f	高さ (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	
307	SB072	95Ca	SB021±23	鋸切A	2	3	3	1	1	4	1	1	1	17.0	16.0	7.0	
308	SB072	95Ca	SB021±22	鋸切A	2	3	3	1	1	4	1	1	1	17.0	16.0	7.0	
309	SB073	95Ca	SB031±26	鋸切A	2	3	3	1	1	4	1	1	1	17.0	16.0	7.0	
310	SB073	95Ca	SB031±27	鋸切C	3	8	8	10	10	10	2.7	25.3	8.4	5.1	19.5	5.6	
311	SB073	95Ca	SB031±25	鋸切C	3	8	8	10	10	10	2.7	25.3	8.4	5.1	19.5	5.6	
312	SB073	95Ca	SB031±26	鋸切C	2	3	3	1	1	4	1	1	1	17.0	16.0	7.0	
313	SB073	95Ca	SB031±27	鋸切C	2	3	3	1	1	4	1	1	1	17.0	16.0	7.0	
314	SB073	95Ca	SB031±28	鋸切D	2	3	3	1	1	4	1	1	1	17.0	16.0	7.0	
315	SB073	95Ca	SB031±25	鋸切D	2	3	3	1	1	4	1	1	1	17.0	16.0	7.0	
316	SB073	95Ca	SB031±27	鋸切D	2	3	3	1	1	4	1	1	1	17.0	16.0	7.0	
317	SB073	95Ca	SB031±28	鋸切D	2	3	3	1	1	4	1	1	1	17.0	16.0	7.0	
318	SB073	95Ca	SB031±29	鋸切E	1	4	1	1	1	1	1	1	1	19.4	17.0	7.0	
319	SB073	95Ca	SB031±29	鋸切F	1	4	1	1	1	1	1	1	1	19.4	17.0	7.0	
320	SB073	95Ca	SB031±26	鋸切G	2	3	3	1	1	4	1	1	1	19.4	17.0	7.0	
321	SB073	95Ca	SB031±24	大型鋸刃	2	3	3	1	1	4	1	1	1	19.4	17.0	7.0	
322	SB073	95Ca	SB031±25	大型鋸刃	2	3	3	1	1	4	1	1	1	19.4	17.0	7.0	
323	SB073	95Ca	SB031±26	大型鋸刃	2	3	3	1	1	4	1	1	1	19.4	17.0	7.0	
324	SB073	95Ca	SB031±25	大型鋸刃	2	3	3	1	1	4	1	1	1	19.4	17.0	7.0	
325	SB073	95Ca	SB031±26	大型鋸刃	2	3	3	1	1	4	1	1	1	19.4	17.0	7.0	
326	SB073	95Ca	SB031±28	大型鋸刃	2	3	3	1	1	4	1	1	1	19.4	17.0	7.0	
327	SB073	95Ca	SB031±29	大型鋸刃	2	3	3	1	1	4	1	1	1	19.4	17.0	7.0	
328	SB073	95Ca	SB031±29	大型鋸刃	2	3	3	1	1	4	1	1	1	19.4	17.0	7.0	
329	SB074	95Ca	SB041±21	鋸切D	1	2	2	6	6	6	1	1	1	4.8	4.1	2.5	
330	SB074	95Ca	SB041±29	鋸切D	2	2	2	4	1	10	1	1	1	6.0	4.2	2.5	
331	SB074	95Ca	SB041±29	鋸切E	2	2	2	4	1	10	1	1	1	6.0	4.0	2.5	
332	SB074	95Ca	SB041±29	鋸切F	2	2	2	4	1	10	1	1	1	6.0	4.0	2.5	
333	SB074	95Ca	SB041±29	鋸切G	2	2	2	4	1	10	1	1	1	6.0	4.0	2.5	
334	SB074	95Ca	SB041±29	鋸切H	2	2	2	4	1	10	1	1	1	6.0	4.0	2.5	
335	SB074	95Ca	SB041±29	鋸切I	2	2	2	4	1	10	1	1	1	6.0	4.0	2.5	
336	SB074	95Ca	SB041±29	鋸切J	2	2	2	4	1	10	1	1	1	6.0	4.0	2.5	
337	SB074	95Ca	SB041±29	鋸切K	2	2	2	4	1	10	1	1	1	6.0	4.0	2.5	
338	SB074	95Ca	SB041±29	鋸切L	2	2	2	4	1	10	1	1	1	6.0	4.0	2.5	
339	SB069	95Ca	SB091±281	鋸切D	1	2	2	3	3	3	1	1	1	10.0	16.0	21.9	
340	SB069	95Ca	SB091±281	鋸切E	1	2	2	3	3	3	1	1	1	10.0	16.0	21.9	
341	SB069	95Ca	SB091±281	鋸切F	1	2	2	3	3	3	1	1	1	10.0	16.0	21.9	
342	SB069	95Ca	SB091±281	鋸切G	1	2	2	3	3	3	1	1	1	10.0	16.0	21.9	
343	SB069	95Ca	SB091±281	鋸切H	1	2	2	3	3	3	1	1	1	10.0	16.0	21.9	
344	SB069	95Ca	SB091±281	鋸切I	1	2	2	3	3	3	1	1	1	10.0	16.0	21.9	
345	SB069	95Ca	SB091±281	鋸切J	1	2	2	3	3	3	1	1	1	10.0	16.0	21.9	
346	SB070	95Ca	SB101±281	鋸切D	3	8	8	10	10	10	2.7	25.3	8.4	5.1	19.5	5.6	
347	SB070	95Ca	SB101±281	鋸切E	3	8	8	10	10	10	2.7	25.3	8.4	5.1	19.5	5.6	
348	SB070	95Ca	SB101±281	鋸切F	3	8	8	10	10	10	2.7	25.3	8.4	5.1	19.5	5.6	
349	SB070	95Ca	SB101±281	鋸切G	3	8	8	10	10	10	2.7	25.3	8.4	5.1	19.5	5.6	
350	SB070	95Ca	SB101±281	鋸切H	3	8	8	10	10	10	2.7	25.3	8.4	5.1	19.5	5.6	
351	SB070	95Ca	SB101±284	鋸切I	4	2	2	3	3	3	1	1	1	17.0	14.2	2.5	
352	SB070	95Ca	SB101±284	鋸切J	4	2	2	3	3	3	1	1	1	17.0	14.2	2.5	
353	SB070	95Ca	SB101±284	鋸切K	4	2	2	3	3	3	1	1	1	17.0	14.2	2.5	
354	SB070	95Ca	SB101±284	鋸切L	4	2	2	3	3	3	1	1	1	17.0	14.2	2.5	
355	SB070	95Ca	SB101±284	鋸切M	4	2	2	3	3	3	1	1	1	17.0	14.2	2.5	
356	SB070	95Ca	SB101±284	鋸切N	4	2	2	3	3	3	1	1	1	17.0	14.2	2.5	
357	SB070	95Ca	SB101±284	鋸切O	4	2	2	3	3	3	1	1	1	17.0	14.2	2.5	
358	SB077	95Cb	SB01±371	鋸切A	3	2	2	3	3	3	1	1	1	17.2	9.3	5.6	
359	SB077	95Cb	SB01±371	鋸切B	4	2	2	3	3	3	1	1	1	19.0	16.8	22.4	
360	SB077	95Cb	SB01±371	鋸切C	4	2	2	3	3	3	1	1	1	19.0	16.8	22.4	
361	SB077	95Cb	SB01±371	鋸切D	4	2	2	3	3	3	1	1	1	19.0	16.8	22.4	
362	SB077	95Cb	SB01±371	鋸切E	4	2	2	3	3	3	1	1	1	19.0	16.8	22.4	
363	SB081	95Cb	SB051±214	鋸切D	3	4	3	3	3	3	1	1	1	9.8	5.0	2.5	
364	SB081	95Cb	SB051±214	鋸切E	4	4	3	4	3	3	1	1	1	10.0	5.0	2.5	
365	SB081	95Cb	SB051±214	鋸切F	4	4	3	4	3	3	1	1	1	10.0	5.0	2.5	
366	SB081	95Cb	SB051±214	鋸切G	4	4	3	4	3	3	1	1	1	10.0	5.0	2.5	
367	SB081	95Cb	SB051±214	鋸切H	4	4	3	4	3	3	1	1	1	10.0	5.0	2.5	
368	SB081	95Cb	SB051±214	鋸切I	4	4	3	4	3	3	1	1	1	10.0	5.0	2.5	
369	SB081	95Cb	SB051±214	鋸切J	4	4	3	4	3	3	1	1	1	10.0	5.0	2.5	
370	SB079	95Cb	SB041±214	鋸切A	2	2	2	3	3	3	1	1	1	4.5	2.5	2.5	
371	SB079	95Cb	SB041±214	鋸切B	2	2	2	3	3	3	1	1	1	4.5	2.5	2.5	
372	SB079	95Cb	SB041±214	鋸切C	2	2	2	3	3	3	1	1	1	4.5	2.5	2.5	
373	SB079	95Cb	SB041±214	鋸切D	2	2	2	3	3	3	1	1	1	4.5	2.5	2.5	
374	SB079	95Cb	SB041±214	鋸切E	2	2	2	3	3	3	1	1	1	4.5	2.5	2.5	
375	SB079	95Cb	SB041±214	鋸切F	2	2	2	3	3	3	1	1	1	4.5	2.5	2.5	
376	SB079	95Cb	SB041±214	鋸切G	2	2	2	3	3	3	1	1	1	4.5	2.5	2.5	
377	SB079	95Cb	SB041±214	鋸切H	2	2	2	3	3	3	1	1	1	4.5	2.5	2.5	
378	SB079	95Cb	SB041±214	鋸切I	2	2	2	3	3	3	1	1	1	4.5	2.5	2.5	
379	SB079	95Cb	SB041±214	鋸切J	2	2	2	3	3	3	1	1	1	4.5	2.5	2.5	
380	SB079	95Cb	SB041±214	鋸切K	2	2	2	3	3	3	1	1	1	4.5	2.5	2.5	
381	SB082	95Cb	SB051±214	鋸切A	3	2	2	3	3	3	1	1	1	7.0	5.0	2.5	
382	SB082	95Cb	SB051±214	鋸切B	3	2	2	3	3	3	1	1	1	7.0	5.0	2.5	
383	SB082	95Cb	SB051±214	鋸切C	3	2	2	3	3	3	1	1	1	7.0	5.0	2.5	
384	SB082	95Cb	SB051±214	鋸切D	3	2	2	3	3	3	1	1	1	7.0	5.0	2.5	
385	SB082	95Cb	SB051±214	鋸切E	3	2	2	3	3	3	1	1	1	7.0	5.0	2.5	
386	SB082	95Cb	SB051±214	鋸切F	3	2	2	3	3	3	1	1	1	7.0	5.0	2.5	
387	SB082	95Cb	SB051±214	鋸切G	3	2	2	3	3	3	1	1	1	7.0	5.0	2.5	
388	SB082	95Cb	SB051±214	鋸切H	3	2	2	3	3	3	1	1	1	7.0	5.0	2.5	
389	SB082	95Cb	SB051±214	鋸切I	3	2	2	3	3	3	1	1	1	7.0	5.0	2.5	
390	SB082	95Cb	SB051±214	鋸切J	3	2	2	3	3	3	1	1	1	7.0	5.0	2.5	
391	SB082	95Cb	SB051±214	鋸切K	3	2	2	3	3	3	1	1	1	7.0	5.0	2.5	
392	SB082	95Cb	SB051±214	鋸切L	3	2	2	3	3	3	1	1	1				

件号 E	进样番号	调查区	田遺構番号	器形分類	口部 形状	残存状況					口径 (mm)	底面 (mm)	底面 形状	底面 厚さ	断面 形状	断面 厚さ	備考		
						a	b	c	d	e									
408	SBR5	95C8	SBR6	壺A	4	1	1	1	1	1	35.2	13.9							
410	SBR5	95C8	SBR6上部I	壺B	4	2	2	3	1	1	38.4	16.3							
411	SBR5	95C8	SBR6	深鉢B	2	2	1	3	1	1	32.4	20.5						底部上半周直壁	
412	SBR5	95C8	SBR6	深鉢B	A													底部脚付	
413	SBR5	95C8	SBR6	深鉢B	A													底部脚付	
414	SBR5	95C8	SBR6	深鉢B	A													底部脚付	
415	SBR5	95C8	SBR6	深鉢B	A													底部脚付	
416	SBR5	95C8	SBR6	深鉢B	A													底部脚付	
417	SBR5	95C8	SBR6	深鉢B	A													底部脚付	
418	SBR5	95C8	SBR6	深鉢B	A													底部脚付	
419	SBR6	95C8	SBR12	壺底C	2	9	8	1	1	1	62.5	5.5							
420	SBR6	95C8	SBR12	壺口	2	7	7	2	3	1	37.0	15.9	18.7						底部上二箇付脚付
421	SBR6	95C8	SBR12	壺口	2	7	7	2	3	1	37.0	15.9	18.7						底部上二箇付脚付
422	SBR6	95C8	SBR15	人型口部直壁	3	6	2	3	1	1	68.4	11.6	27.0						
423	SBR6	95C8	SBR15	人型口部直壁	3	6	2	3	1	1	67.0	14.5							
424	SBR6	95C8	SBR15	人型口部直壁	E	1	1	1	1	1	69.8								
425	SBR6	95C8	SBR15	人型口部直壁	E	1	1	1	1	1	72.2								
426	SBR6	95C8	SBR15	人型口部直壁	D	1	1	1	1	1	68.2	16.1							
427	SBR6	95C8	SBR15E	深鉢A	A													底部脚付	
428	SBR6	95C8	SBR15E	深鉢A	A													底部脚付	
429	SBR6	95C8	SBR15E	深鉢A	A													底部脚付	
430	SBR6	95C8	SBR15E	深鉢A	A													底部脚付	
431	SBR6	95C8	SBR15E	深鉢A	A													底部脚付	
432	SBR6	95C8	SBR11	壺B	D	1	1	1	1	1	22.2	19.4							
433	SBR6	95C8	SBR11	壺B	D	1	1	1	1	1	20.6	17.7							
434	SBR6	95C8	SBR11	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
435	SBR6	95C8	SBR11	壺B	D	1	1	1	1	1	20.0	17.7	23.5						
436	SBR6	95C8	SBR11	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
437	SBR6	95C8	SBR11	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
438	SBR6	95C8	SBR11	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
439	SBR6	95C8	SBR11	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
440	SBR6	95C8	SBR11	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
441	SBR6	95C8	SBR11	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
442	SBR6	95C8	SBR11	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
443	SBR6	95C8	SBR11	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
444	SBR6	95C8	SBR11	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
445	SBR6	95C8	SBR11	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
446	SBR6	95C8	SBR11	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
447	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
448	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
449	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
450	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
451	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
452	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
453	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
454	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
455	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
456	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
457	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
458	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
459	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
460	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
461	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
462	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
463	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
464	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
465	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
466	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
467	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
468	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
469	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
470	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
471	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
472	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
473	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
474	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
475	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
476	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
477	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
478	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
479	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
480	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
481	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
482	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
483	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
484	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
485	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
486	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
487	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
488	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
489	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
490	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
491	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
492	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
493	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
494	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
495	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
496	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
497	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
498	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
499	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
500	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
501	SBR6	95C8	SBR10	壺B	D	1	1	1	1	1	22.0	19.7	23.5						
502	S																		

第8表 弥生土器觀察表6

第9表 弥生土器觀察表7

登録 番号	遺跡番号	調査区	日付	器形分類	口幅 分類	底部 分類	復元状況					目次 (p.)	備考	
							a	b	c	d	e	容量 (L)		
709	SZ15	93E	SZ004/RU	第一	1	1	1	1	1	1	1	16.5	12.8	
710	SZ03	95E	SZ004	大腹器C 大腹器A	3a	1	1	1	1	1	1	16.7		
711	SZ03	95E	SZ004	大腹器A	3a	1	1	1	1	1	1	22.4	24.7	
712	SZ03	95E	SZ004	大腹器A	3a	1	1	1	1	1	1	16.7		
713	SZ01	96E	SZ001	圓筒形具	3	1	1	1	1	1	1	10.0	5.4	
714	SZ01	96E	SZ001No.87	圓筒形具C	2	1	1	1	1	1	1	8.5		
715	SZ01	96E	SZ001No.87	圓筒形具C	2	1	1	1	1	1	1	8.8		
716	SZ01	96E	SZ001	圓筒形具C	2	1	1	1	1	1	1	15.4	15.2	
717	SZ01	96E	SZ001	圓筒形具C	2	1	1	1	1	1	1	30.0	28.5	
718	SZ01	96E	SZ001	圓筒形具C	2	1	1	1	1	1	1	5.3		
719	SZ01	96E	SZ001	圓筒形具B	4	1	1	1	1	1	1	9.2	5.2	
720	SZ04	93E	SZ005	大腹器I	10	10	2	3	3	6.7	27.0	8.8		
721	SZ04	93E	SZ005	深腹器D	a	1	1	1	1	1	1	26.1		
722	SZ04	93E	SZ005	大腹器D	a	1	1	1	1	1	1	27.2		
723	SZ04	93E	SZ005	深腹器D	a	1	1	1	1	1	1	7.0		
724	SZ04	93E	SZ005	深腹器D	a	1	1	1	1	1	1	16.5	15.7	
725	SZ04	93E	SZ005	深腹器D	a	1	1	1	1	1	1	16.9		
726	SZ16	95Ca	SZ002	深腹器	10	10	1	1	1	1	1	17.4	15.2	
727	SZ16	95Ca	SZ002	深腹器	d	1	1	1	1	1	1	5.2		
728	SZ16	95Ca	SZ002	深腹器	a	1	1	1	1	1	1	5.0		
729	SZ16	95Cb	SZ003	大腹器D	10	10	1	1	1	1	1	9.9		
730	SZ18	95Cb	SZ009	深腹器	a	1	1	1	1	1	1	8.0		
731	SZ20	95Cb	SZ005	深腹器	a	1	1	1	1	1	1	8.1		
732	SZ20	95Cb	SZ005	深腹器A	3	2	10	7	10	1	1	7.2		
733	SZ20	95Cb	SZ005	深腹器A	4	2	10	7	10	1	1	34.8	32.4	
734	SZ20	95Cb	SZ005	深腹器A	3	2	10	7	10	1	1	34.8	32.4	
735	SZ12	93Ba	SZ01N	圓筒形具	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
736	SZ15	93E	SZ01N	圓筒形具	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
737	SZ15	93E	SZ01N	圓筒形具	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
738	SZ15	93E	SZ01N	圓筒形具	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
739	SZ15	93E	SZ01N	圓筒形具	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
740	SZ15	93E	SZ01N	圓筒形具	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
741	SZ09	91Aa	SZ01E	大腹器	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
742	SZ09	91Aa	SZ01N	圓筒形具D	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
743	SZ09	91Aa	SZ01N	圓筒形具D	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
744	SZ09	91Aa	SZ01N	圓筒形具D	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
745	SZ20b	95Cb	SZ001	深腹器	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
746	SZ20b	95Cb	SZ001	深腹器	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
747	SZ20b	95Cb	SZ001	深腹器	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
748	SZ03	95E	SZ004	圓筒形具	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
749	SZ06	93E	SZ008	深腹器	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
750	SZ18	93Ba	SZ01N	圓筒形具	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
751	SZ18	93Ba	SZ01N	圓筒形具	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
752	SZ18	93Ba	SZ01N	圓筒形具	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
753	SZ18	93Ba	SZ01N	圓筒形具	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
754	SZ09	93Ba	SZ001	深腹器	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
755	SZ18	93Ba	SZ01N	圓筒形具	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
756	SZ18	93Ba	SZ01N	圓筒形具	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
757	SZ18	93Ba	SZ01N	圓筒形具	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
758	SZ15	93E	SZ002	深腹器	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
759	SZ15	93E	SZ002	深腹器	1	1	1	1	1	1	1	7.2		
760	NK03	96C	NK02B	深腹器	1	1	1	1	1	1	1	6.0		
761	NK03	96C	NK02B	深腹器	1	1	1	1	1	1	1	9.0		
762	NK03	96C	NK02B	深腹器	2	5	1	2	1	5	1	28.0	13.5	
763	NK03	96C	NK02B	深腹器	2	5	1	2	1	5	1	15.8	5.3	
764	NK03	96C	NK02B	深腹器	2	5	1	2	1	5	1	33.0	29.4	
765	NK03	96C	NK02B	深腹器	2	5	1	2	1	5	1	5.8		
766	NK03	96C	NK02B	深腹器	2	5	1	2	1	5	1	7.8	4.4	
767	NK03	96C	NK017	深腹器	3	8	10	8	10	8	10	28.2	8.4	
768	NK03	96C	NK017	深腹器	3	8	10	8	10	8	10	6.0		
769	NK03	96C	NK017	深腹器	3	8	10	8	10	8	10	4.5		
770	NK04	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	8.8		
771	NK04	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	4.5		
772	NK04	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	22.5		
773	NK04	95E	NK017	深腹器	d	1	1	1	1	1	1	1	5.6	
774	NK04	95E	NK017	深腹器	d	1	1	1	1	1	1	1	5.6	
775	NK04	95E	NK017	深腹器	d	1	1	1	1	1	1	1	6.8	
776	NK04	95E	NK017	深腹器	d	1	1	1	1	1	1	1	6.8	
777	NK04	95E	NK017	深腹器	d	1	1	1	1	1	1	1	6.8	
778	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	31.0	22.0	
779	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	11.1		
780	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	18.6		
781	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.7		
782	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
783	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	5.4		
784	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	4.6		
785	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	5.1		
786	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
787	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
788	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
789	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
790	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
791	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
792	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
793	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
794	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
795	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
796	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
797	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
798	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
799	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
800	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
801	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
802	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
803	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
804	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
805	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
806	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
807	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
808	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
809	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
810	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
811	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
812	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
813	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
814	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
815	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
816	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
817	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
818	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
819	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	19.5		
820	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10	21.0		
821	NK05	95E	NK017	深腹器	2	10	10	8	10	8	10</td			

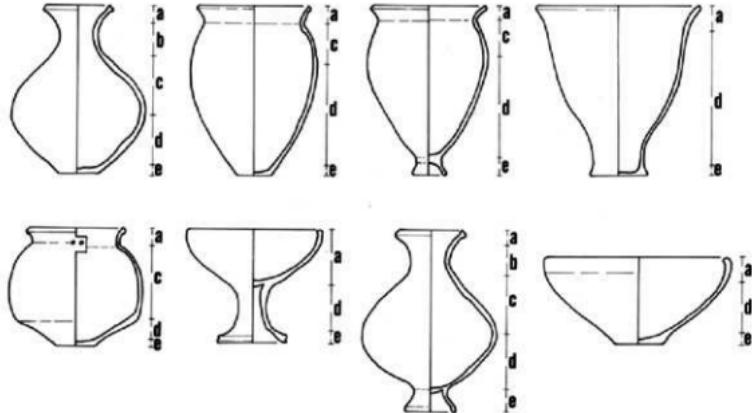
器物 番号	遺傳番号	調査区	日遺傳番号	器物分類	器物 分類	剖面形態	残存状況				測定 (cm)	測定 部位	測定 方法	測定 部位	測定 方法	測定 部位	測定 方法	測定 部位	測定 方法	参考		
							a	b	c	d												
810	NB06	960	NB01No.328	要人	1	a	2	2	10	10	3.5	24.6	17.8	15.6	18.2	6.2				孔部PP、底端複穿孔。		
811	NB06	960	NB01No.345	要人	1	a	2	2	10	10	3.9	21.4	19.5	23.9	6.2							
812	NB06	960	NB01No.224-286	要人C	2	a	3	3	10	10	4.5	19.7	17.6	20.6	6.2							
813	NB06	960	NB01No.341	要人?	2	b?	9	9	9	9	3.3	16.4	13.8	18.3	6.2						底部破成後穿孔	
814	NB06	960	NB01No.363	要人?	2	b?	10	10	9	9	10										底部上平側X穿孔、中側剖面	
815	NB06	960	NB01No.364	要人	2	a	3	3	10	10	4.5	19.7	17.6	20.6	6.2							
816	NB06	960	NB01No.320	要人	2	a	3	3	10	10	4.5	16.4	13.8	18.3	6.2							
817	NB06	960	NB01No.463	要人	2	a	3	3	10	10	4.5	16.4	13.8	18.3	6.2							
818	NB06	960	NB01No.414	要人	2	a	3	3	10	10	4.5	16.4	13.8	18.3	6.2							
819	NB06	960	NB01No.337	要人	2	a	3	3	10	10	4.5	16.4	13.8	18.3	6.2							
820	NB06	960	NB01No.514	要人G	3	a	3	4	10	10	5.6	28.0	21.7	18.2	21.0	5.3						
821	NB06	960	NB01	要人G	3	a	3	4	10	10	5.6	18.5	16.6	18.2	18.5	5.3						
822	NB06	960	NB01No.154	要人A	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
823	NB06	960	NB01No.154-1	要人A	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
824	NB06	960	NB01No.154-2	要人A	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
825	NB06	960	NB01No.154-3	要人A	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
826	NB06	960	NB01No.154-4	要人A	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
827	NB06	960	NB01No.154-5	要人A	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
828	NB06	960	NB01No.154-6	要人	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
829	NB06	960	NB01No.154-7	要人	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
830	NB06	960	NB01No.154-8	要人	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
831	NB06	960	NB01No.154-9	要人	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
832	NB06	960	NB01No.154-10	要人	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
833	NB06	960	NB01No.154-11	要人	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
834	NB06	960	NB01No.154-12	要人	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
835	NB06	960	NB01No.154-13	要人	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
836	NB06	960	NB01No.154-14	要人	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
837	NB06	960	NB01	要人	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
838	NB06	960	NB01No.154-15	要人	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
839	NB06	960	NB01No.154-16	要人	2	a	3	4	10	10	5.6	19.1	17.1	15.5	19.1	5.3						
840	SKE01	950a	SKE01-2	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
841	SKE01	950a	SKE01-2-1	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
842	SKE01	950a	SKE01-2-2	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
843	SKE01	950a	SKE01-2-3	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
844	SKE01	950a	SKE01-2-4	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
845	SKE01	950a	SKE01-2-5	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
846	SKE01	950a	SKE01-2-6	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
847	SKE01	950a	SKE01-2-7	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
848	SKE01	950a	SKE01-2-8	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
849	SKE01	950a	SKE01-2-9	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
850	SKE01	950a	SKE01-2-10	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
851	SKE01	950a	SKE01-2-11	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
852	SKE01	950a	SKE01-2-12	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
853	SKE01	950a	SKE01-2-13	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
854	SKE01	950a	SKE01-2-14	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
855	SKE01	950a	SKE01-2-15	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
856	SKE01	950a	SKE01-2-16	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
857	SKE01	950a	SKE01-2-17	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
858	SKE01	950a	SKE01-2-18	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
859	SKE01	950a	SKE01-2-19	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
860	SKE01	950a	SKE01-2-20	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
861	SKE01	950a	SKE01-2-21	要人	3	d	4	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
862	SKE10	950a	SKE10-1	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
863	SKE10	950a	SKE10-2	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
864	SKE10	950a	SKE10-3	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
865	SKE10	950a	SKE10-4	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
866	SKE10	950a	SKE10-5	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
867	SKE10	950a	SKE10-6	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
868	SKE10	950a	SKE10-7	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
869	SKE10	950a	SKE10-8	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
870	SKE10	950a	SKE10-9	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
871	SKE10	950a	SKE10-10	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
872	SKE10	950a	SKE10-11	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
873	SKE10	950a	SKE10-12	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
874	SKE12	950a	SKE12-1	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
875	SKE12	950a	SKE12-2	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
876	SKE12	950a	SKE12-3	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
877	SKE12	950a	SKE12-4	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
878	SKE12	950a	SKE12-5	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
879	SKE12	950a	SKE12-6	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
880	SKE12	950a	SKE12-7	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
881	SKE12	950a	SKE12-8	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
882	SKE12	950a	SKE12-9	要人	2	a	3	4	10	10	10.5	11.0	36.0	36.0	8.0							
883	SKE12</																					

序号	连接件号	连接件图	连接件番号	基部分组	现有状态					法语 (cm)					备注	
					上部	下部	a	b	c	d	e	f	总高	上径	下径	螺栓孔
911	SK17	SK17	SK17	基部组1	d	d			2						5.0	
912	SK17	SK17	SK17	基部组2	d	d			1	10					5.30	
913	SK17	SK17	SK17	基部组3	d	d			1	10						
914	SK17	SK17	SK17	基部组4	d	d			1	10						
915	SK17	SK17	SK17	基部组5	d	d			1	10						
916	SK17	SK17	SK17	基部组6	d	d			1	10						
917	SK17	SK17	SK17	基部组7	d	d			1	10						
918	SK17	SK17	SK17	基部组8	d	d			1	10						
919	SK17	SK17	SK17	基部组9	d	d			1	10						
920	SK17	SK17	SK17	基部组10	d	d			1	10						
921	SK17	SK17	SK17	基部组11	d	d			1	10						
922	SK17	SK17	SK17	基部组12	d	d			1	10						
923	SK17	SK17	SK17	基部组13	d	d			1	10						
924	SK17	SK17	SK17	基部组14	d	d			1	10						
925	SK17	SK17	SK17	基部组15	d	d			1	10						
926	SK17	SK17	SK17	基部组16	d	d			1	10						
927	SK17	SK17	SK17	基部组17	d	d			1	10						
928	SK17	SK17	SK17	基部组18	d	d			1	10						
929	SK17	SK17	SK17	基部组19	d	d			1	10						
930	SK17	SK17	SK17	基部组20	d	d			1	10						
931	SK17	SK17	SK17	基部组21	d	d			1	10						
932	SK17	SK17	SK17	基部组22	d	d			1	10						
933	SK17	SK17	SK17	基部组23	d	d			1	10						
934	SK17	SK17	SK17	基部组24	d	d			1	10						
935	SK17	SK17	SK17	基部组25	d	d			1	10						
936	SK17	SK17	SK17	基部组26	d	d			1	10						
937	SK17	SK17	SK17	基部组27	d	d			1	10						
938	SK17	SK17	SK17	基部组28	d	d			1	10						
939	SK17	SK17	SK17	基部组29	d	d			1	10						
940	SK17	SK17	SK17	基部组30	d	d			1	10						
941	SK17	SK17	SK17	基部组31	d	d			1	10						
942	SK17	SK17	SK17	基部组32	d	d			1	10						
943	SK17	SK17	SK17	基部组33	d	d			1	10						
944	SK17	SK17	SK17	基部组34	d	d			1	10						
945	SK17	SK17	SK17	基部组35	d	d			1	10						
946	SK17	SK17	SK17	基部组36	d	d			1	10						
947	SK17	SK17	SK17	基部组37	d	d			1	10						
948	SK17	SK17	SK17	基部组38	d	d			1	10						
949	SK17	SK17	SK17	基部组39	d	d			1	10						
950	SK17	SK17	SK17	基部组40	d	d			1	10						
951	SK17	SK17	SK17	基部组41	d	d			1	10						
952	SK17	SK17	SK17	基部组42	d	d			1	10						
953	SK17	SK17	SK17	基部组43	d	d			1	10						
954	SK17	SK17	SK17	基部组44	d	d			1	10						
955	SK17	SK17	SK17	基部组45	d	d			1	10						
956	SK17	SK17	SK17	基部组46	d	d			1	10						
957	SK17	SK17	SK17	基部组47	d	d			1	10						
958	SK17	SK17	SK17	基部组48	d	d			1	10						
959	SK17	SK17	SK17	基部组49	d	d			1	10						
960	SK17	SK17	SK17	基部组50	d	d			1	10						
961	SK17	SK17	SK17	基部组51	d	d			1	10						
962	SK17	SK17	SK17	基部组52	d	d			1	10						
963	SK17	SK17	SK17	基部组53	d	d			1	10						
964	SK17	SK17	SK17	基部组54	d	d			1	10						
965	SK17	SK17	SK17	基部组55	d	d			1	10						
966	SK17	SK17	SK17	基部组56	d	d			1	10						
967	SK17	SK17	SK17	基部组57	d	d			1	10						
968	SK17	SK17	SK17	基部组58	d	d			1	10						
969	SK17	SK17	SK17	基部组59	d	d			1	10						
970	SK17	SK17	SK17	基部组60	d	d			1	10						
971	SK17	SK17	SK17	基部组61	d	d			1	10						
972	SK17	SK17	SK17	基部组62	d	d			1	10						
973	SK17	SK17	SK17	基部组63	d	d			1	10						
974	SK17	SK17	SK17	基部组64	d	d			1	10						
975	SK17	SK17	SK17	基部组65	d	d			1	10						
976	SK17	SK17	SK17	基部组66	d	d			1	10						
977	SK17	SK17	SK17	基部组67	d	d			1	10						
978	SK17	SK17	SK17	基部组68	d	d			1	10						
979	SK17	SK17	SK17	基部组69	d	d			1	10						
980	SK17	SK17	SK17	基部组70	d	d			1	10						
981	SK17	SK17	SK17	基部组71	d	d			1	10						
982	SK17	SK17	SK17	基部组72	d	d			1	10						
983	SK17	SK17	SK17	基部组73	d	d			1	10						
984	SK17	SK17	SK17	基部组74	d	d			1	10						
985	SK17	SK17	SK17	基部组75	d	d			1	10						
986	SK17	SK17	SK17	基部组76	d	d			1	10						
987	SK17	SK17	SK17	基部组77	d	d			1	10						
988	SK17	SK17	SK17	基部组78	d	d			1	10						
989	SK17	SK17	SK17	基部组79	d	d			1	10						
990	SK17	SK17	SK17	基部组80	d	d			1	10						
991	SK17	SK17	SK17	基部组81	d	d			1	10						
992	SK17	SK17	SK17	基部组82	d	d			1	10						
993	SK17	SK17	SK17	基部组83	d	d			1	10						
994	SK17	SK17	SK17	基部组84	d	d			1	10						
995	SK17	SK17	SK17	基部组85	d	d			1	10						
996	SK17	SK17	SK17	基部组86	d	d			1	10						
997	SK17	SK17	SK17	基部组87	d	d			1	10						
998	SK17	SK17	SK17	基部组88	d	d			1	10						
999	SK17	SK17	SK17	基部组89	d	d			1	10						
1000	SK17	SK17	SK17	基部组90	d	d			1	10						
1001	SK17	SK17	SK17	基部组91	d	d			1	10						
1002	SK17	SK17	SK17	基部组92	d	d			1	10						
1003	SK17	SK17	SK17	基部组93	d	d			1	10						
1004	SK17	SK17	SK17	基部组94	d	d			1	10						
1005	SK17	SK17	SK17	基部组95	d	d			1	10						
1006	SK17	SK17	SK17	基部组96	d	d			1	10						
1007	SK17	SK17	SK17	基部组97	d	d			1	10						
1008	SK17	SK17	SK17	基部组98	d	d			1	10						
1009	SK17	SK17	SK17	基部组99	d	d			1	10						
1010	SK17	SK17	SK17	基部组100	d	d			1	10						
1011	SK17	SK17	SK17	基部组101	d	d			1	10						
1012	SK17	SK17	SK17	基部组102	d	d			1	10						
1013	SK17	SK17	SK17	基部组103	d	d			1	10						
1014	SK17	SK17	SK17	基部组104	d	d			1	10						
1015	SK17	SK17	SK17	基部组105	d	d			1	10						
1016	SK17	SK17	SK17	基部组106	d	d			1	10						
1017	SK17	SK17	SK17	基部组107	d	d			1	10						
1018	SK17	SK17	SK17	基部组108	d	d			1	10						
1019	SK17	SK17	SK17	基部组109	d	d			1	10						
1020	SK17	SK17	SK17	基部组110	d	d			1	10						
1021	SK17	SK17	SK17	基部组111	d	d			1	10						
1022	SK17	SK17	SK17	基部组112	d	d			1	10						
1023	SK17	SK17	SK17	基部组113	d	d			1	10						
1024	SK17	SK17	SK17	基部组114	d	d			1	10						
1025	SK17	SK17	SK17	基部组115	d	d			1	10						

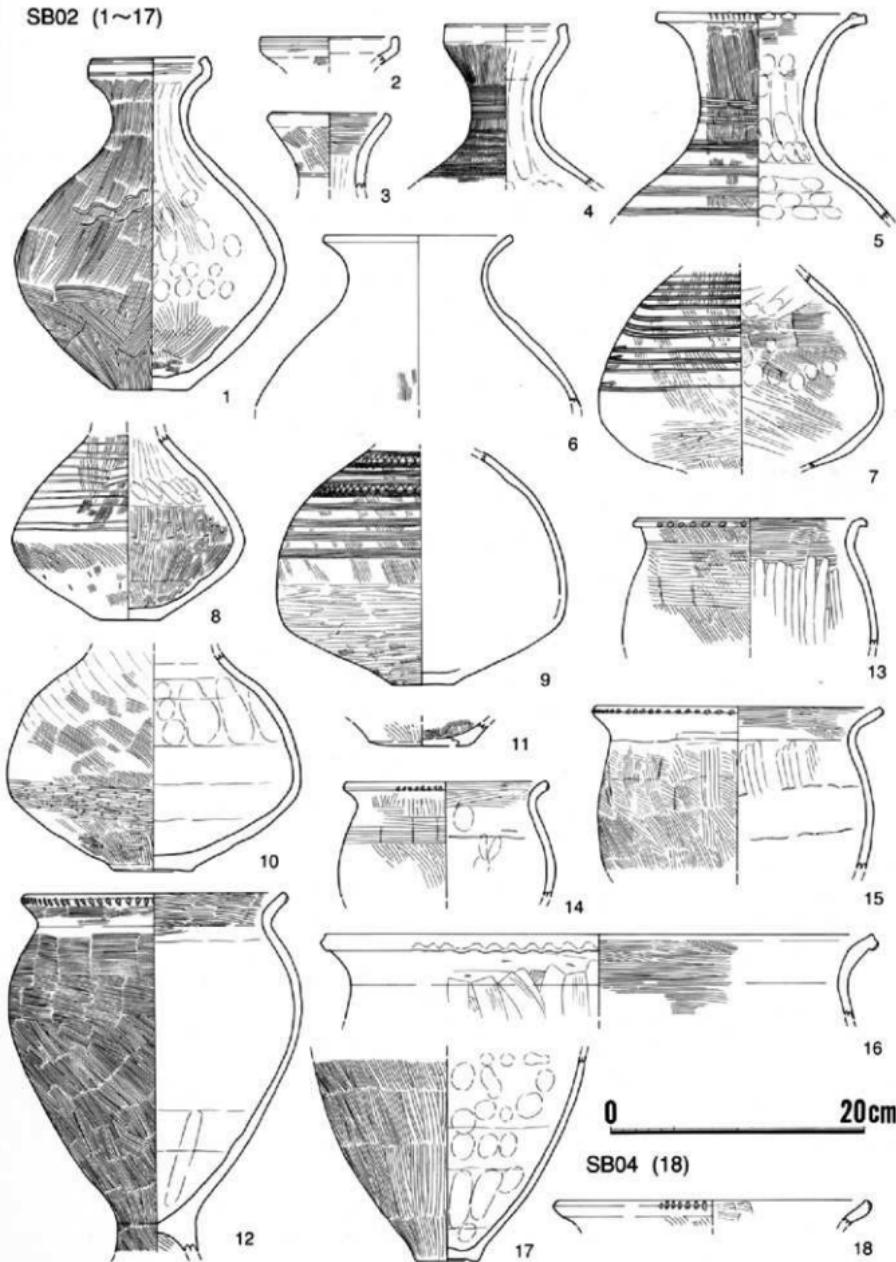
第12表 弥生土器觀察表10

G14 番号 E-	遺物番号	測定区	目遺査番号	器形分類	口部 分類	底部 分類	残存状況					底面 径(cm)	底面 厚さ(cm)	底面 形状	側面 厚さ(cm)	側面 形状	参考
							a	b	c	d	e	容積 (cm <sup>3</sup> )		高さ (cm)	口径 (cm)	底面 形状	
H01	S3H2	95a	NB10	壺 E	2	1	1	1	1	1	1	13.5	1.7	17.9	1.7	17.9	
H013	S3H3	95a	NB105	壺 D	1	1	1	1	1	1	1	10.7	1.7	17.9	1.7	17.9	
H014	S3H6	95a	NB105	壺 D	1	1	1	1	1	1	1	10.7	1.7	17.9	1.7	17.9	
H015	S3H7	95a	NB108	壺 A	4	1	1	1	1	1	1	21.6	19.3	21.6	19.3	21.6	底面外周縫合跡 底面PP
H017	S3H7	95a	NB108	壺 A	4	1	1	1	1	1	1	19.7	19.3	21.6	19.3	21.6	
H018	S3H9	95a	NB108	壺 A	2	1	1	1	1	1	1	16.0	14.9	21.9	14.9	21.9	
H019	S3H9	95a	NB108	壺 A	2	1	1	1	1	1	1	23.9	23.9	23.9	23.9	23.9	
H020	S3H3	95a	NB107	壺 A	2	1	1	1	1	1	1	20.0	18.6	20.0	18.6	20.0	底面内周縫合跡
H021	S3H12	95a	NB107	壺 A	4	1	1	1	1	1	1	23.0	13.3	23.0	13.3	23.0	
H022	S2H2	95a	NB107	壺 A	1	1	1	1	1	1	1	15.0	1.7	17.9	1.7	17.9	底面外周縫合跡 底面PP
H023	S2H2	95a	NB107	壺 A	2	1	1	1	1	1	1	14.0	14.0	20.8	14.0	20.8	
H025	S2H6	95a	NB101	壺 A	2	2	1	1	1	1	1	20.0	18.6	20.0	18.6	20.0	
H026	S2H6	95a	NB101	壺 A	4	2	1	1	1	1	1	18.0	16.2	18.0	16.2	18.0	
H027	S3H1	95a	上部断面	壺 A	6	1	1	1	1	1	1	11.0	1	17.9	1.7	17.9	底面各部変形 底面PP
H028	S3H15	95a	NB104	壺 A	1	1	1	1	1	1	1	19.2	15.3	21.6	15.3	21.6	底面外周縫合跡 底面PP
H029	S3H9	95a	NB101	壺 A	4	1	1	1	1	1	1	21.6	1	21.6	1	21.6	底面A
H030	S3H18	95a	NB101	壺 A	1	1	1	1	1	1	1	22.6	1	22.6	1	22.6	底面外周縫合跡 底面PP
H031	S3H18	95a	NB101	壺 A	2	1	1	1	1	1	1	22.6	1	22.6	1	22.6	底面外周縫合跡 底面PP
H032	NB03	94C	NB028a.45	壺 A	2-3	10	5	2	3	1	1	9.0	5.5	4.0	4.0	4.0	底面各部変形 底面PP
H033	NB03	94C	NB028a.13	壺 A	2	5	1	1	5	1	1	19.6	17.3	6.0	6.0	6.0	
H034	NB03	94C	NB028a.13	壺 A	2	5	1	1	5	1	1	19.6	17.3	7.2	7.2	7.2	底面PP
H035	NB03	94C	NB028a.97	壺 A	2	5	1	1	5	1	1	19.6	17.3	8.0	8.0	8.0	3.5
H037	NB06	94C	NB028a.12b	壺 A	2	1	1	1	1	1	1	16.4	1.6	16.4	1.6	16.4	底面A 底面PP 底面各部変形の跡あり 底面下部に底面変形
H038	S3H13	95a	NB106	壺 A	1	1	1	1	1	1	1	22.0	22.4	22.0	22.4	22.0	底面下部に底面変形
H040	S3H5	95a	NB104	壺 A	1	1	1	1	1	1	1	22.0	22.4	22.0	22.4	22.0	底面PP
H041	S3H5	95a	NB104	壺 A	1	1	1	1	1	1	1	22.0	22.4	22.0	22.4	22.0	底面PP
H042	S2H18	95a	NB101	壺 A	1	1	1	1	1	1	1	22.0	22.4	22.0	22.4	22.0	底面PP
H043	S2H18	95a	NB101	壺 A	2	1	1	1	1	1	1	22.0	22.4	22.0	22.4	22.0	底面PP
H044	S2H18	95a	NB101	壺 A	2	1	1	1	1	1	1	22.0	22.4	22.0	22.4	22.0	底面PP
H045	S2H18	95a	NB101	壺 A	2	1	1	1	1	1	1	22.0	22.4	22.0	22.4	22.0	底面PP
H046	S3H9	95a	NB103	壺 A	2	2	1	1	1	1	1	21.8	20.4	5.8	5.8	5.8	底面PP
H047	S3H9	95a	NB103	壺 A	2	2	1	1	1	1	1	21.8	20.4	5.8	5.8	5.8	
H048	S3H9	95a	NB103	壺 A	2	2	1	1	1	1	1	21.8	20.4	5.8	5.8	5.8	
H049	S3H9	95a	NB103	壺 A	2	2	1	1	1	1	1	21.8	20.4	5.8	5.8	5.8	
H050	S3H9	95a	NB103	壺 A	2	2	1	1	1	1	1	21.8	20.4	5.8	5.8	5.8	
H051	S3H9	95a	NB103	壺 A	2	2	1	1	1	1	1	21.8	20.4	5.8	5.8	5.8	

第13表 弥生土器観察表11

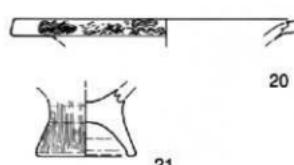
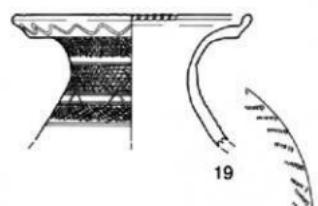
第14図 弥生土器残存状況計測部位  
(計測は1~10の10段階に分けて行った。)

SB02 (1~17)

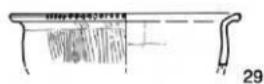


第15図 弥生土器実測図1 (1:4)

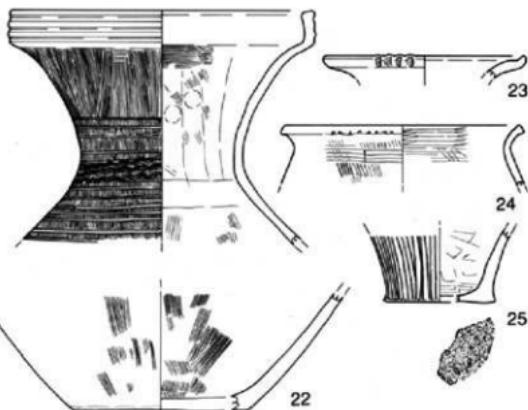
SB08 (19~21)



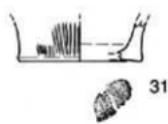
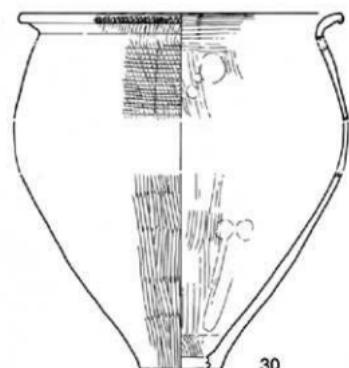
SB07 (28~31)



SB09 (22~27)

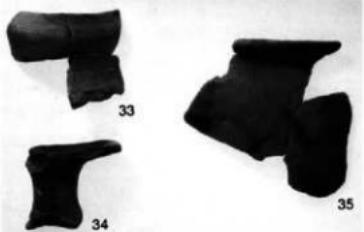


SB13 (32~35)



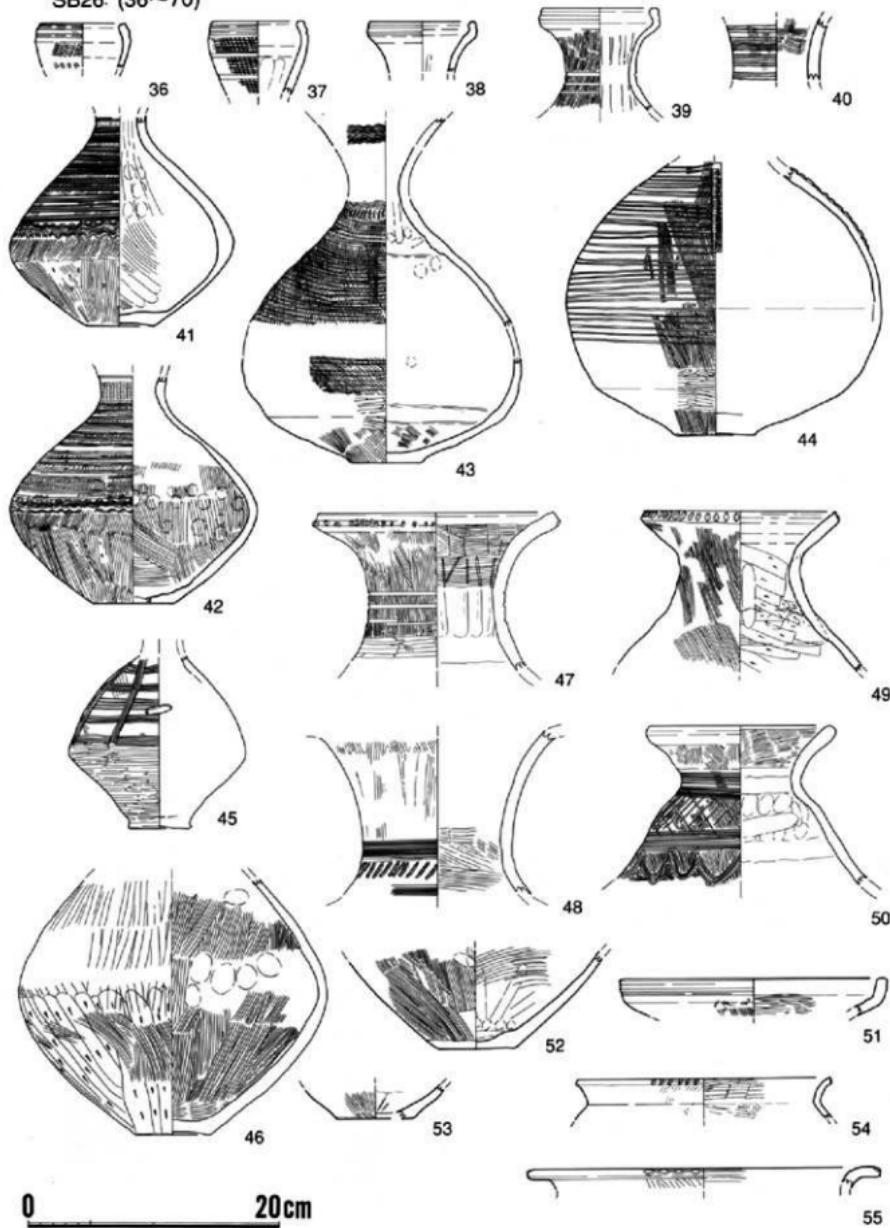
0

20cm

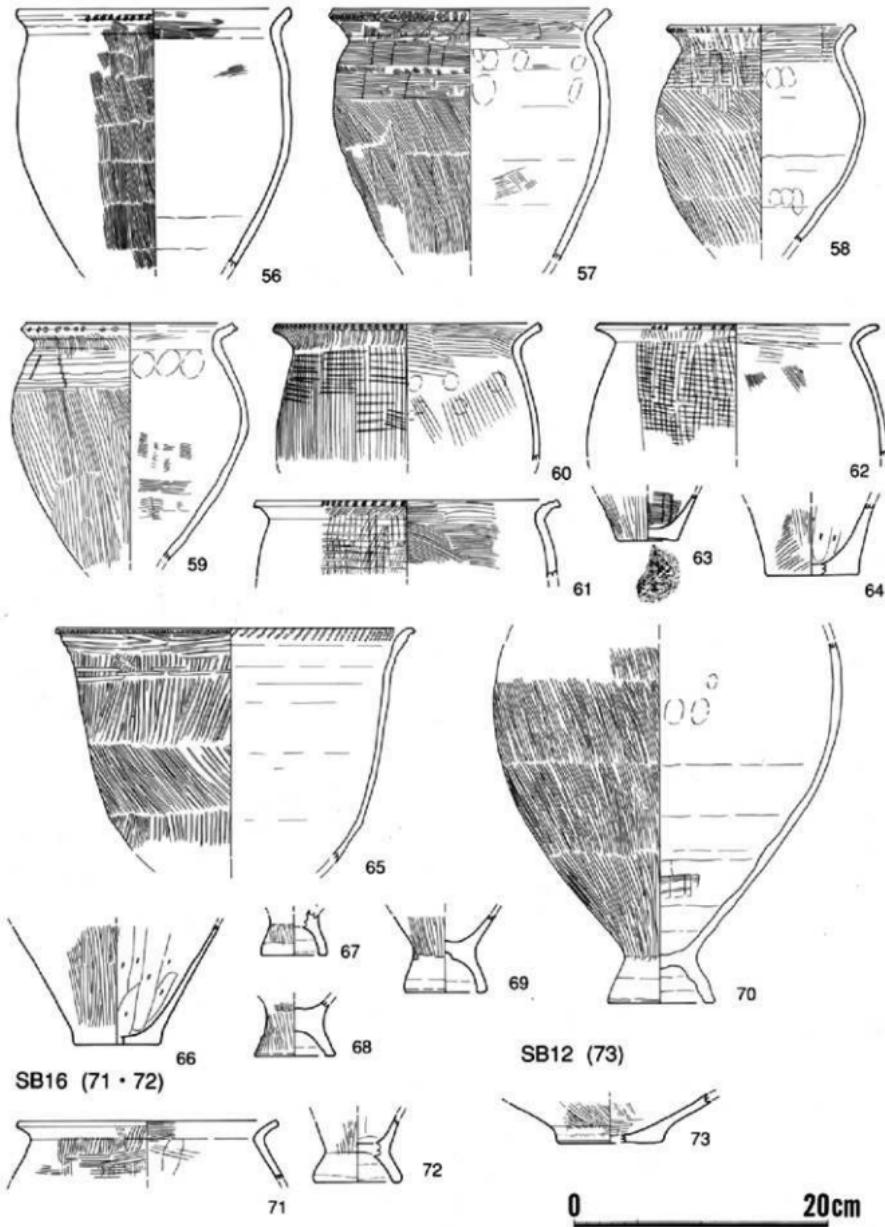


第16図 弥生土器実測図2 (1:4)、写真1・2

SB26. (36~70)

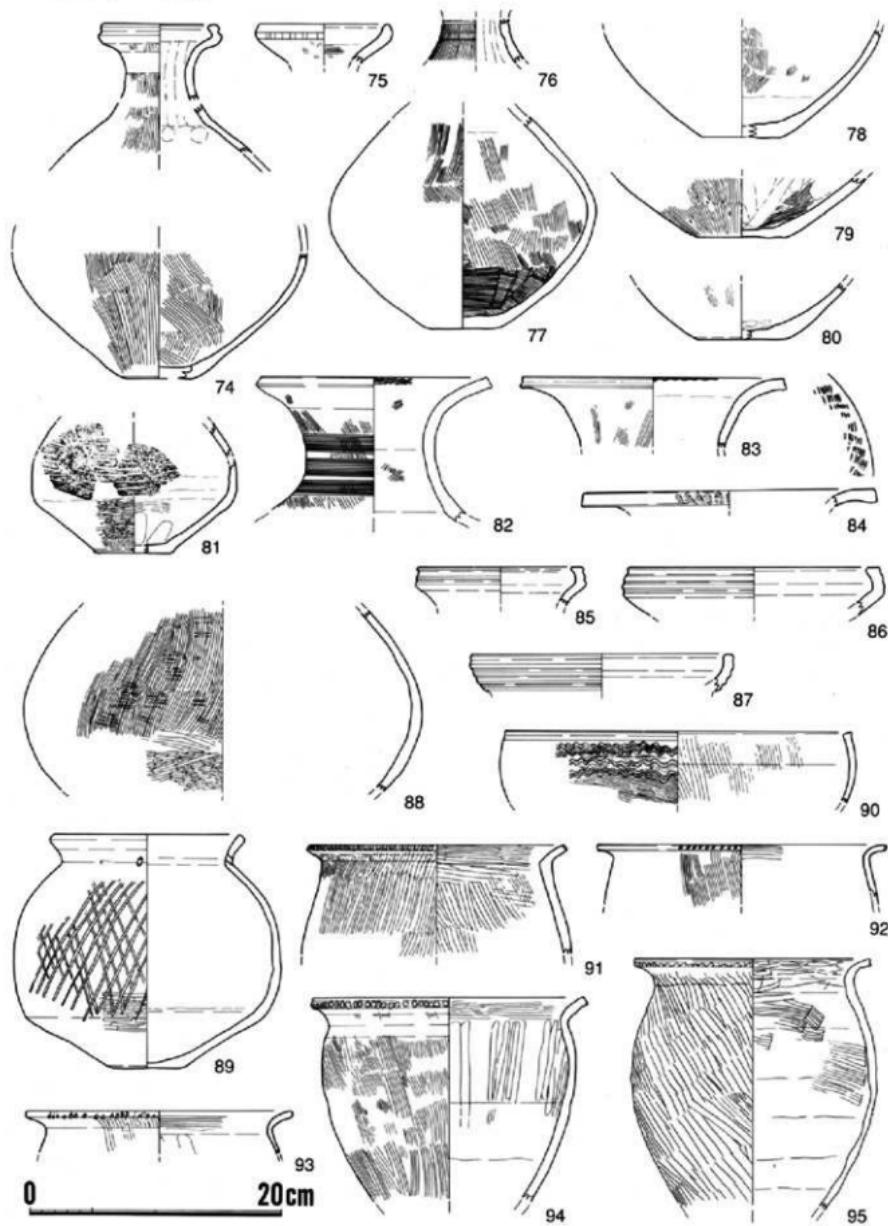


第17図 弥生土器実測図3 (1:4)

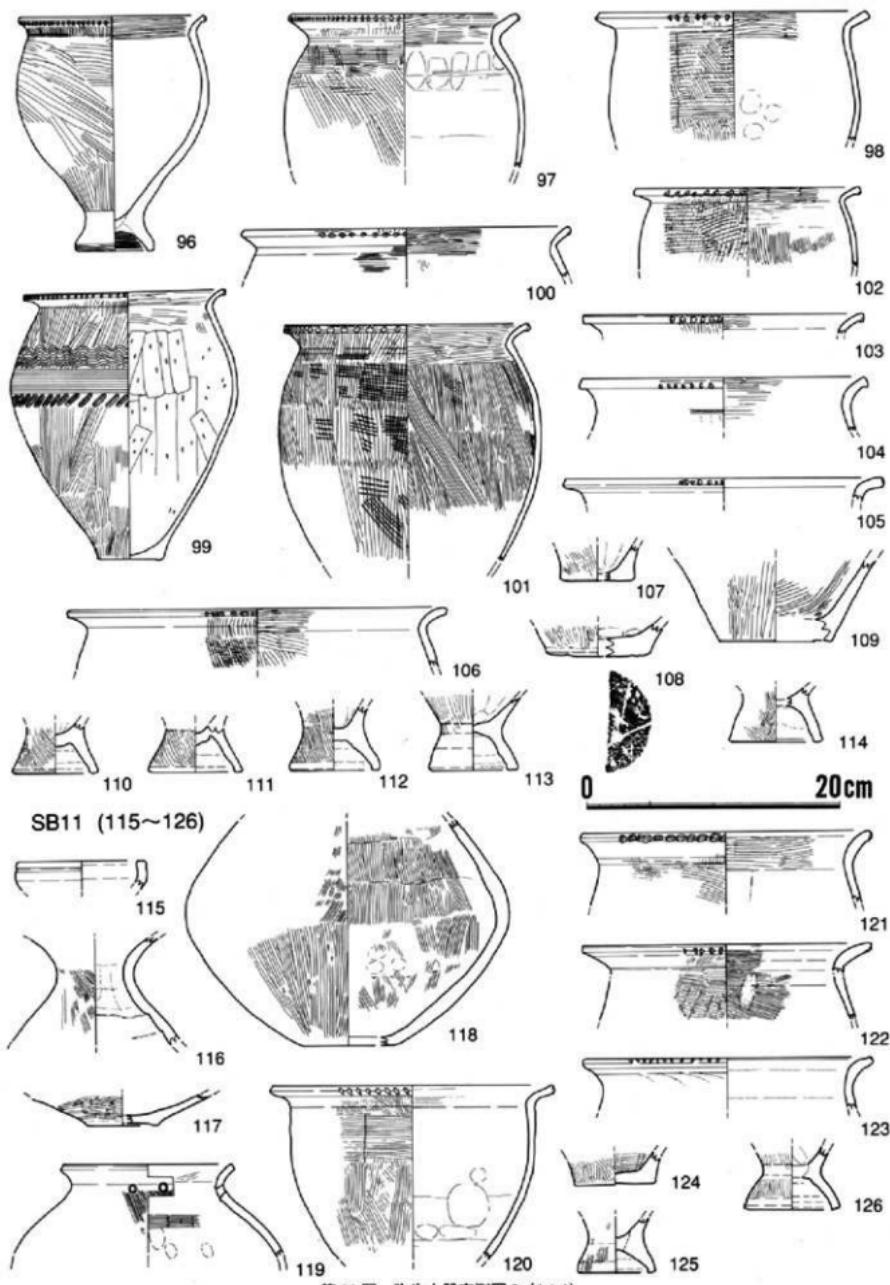


第18図 弥生土器実測図4(12:4)

SB15 (74~114)

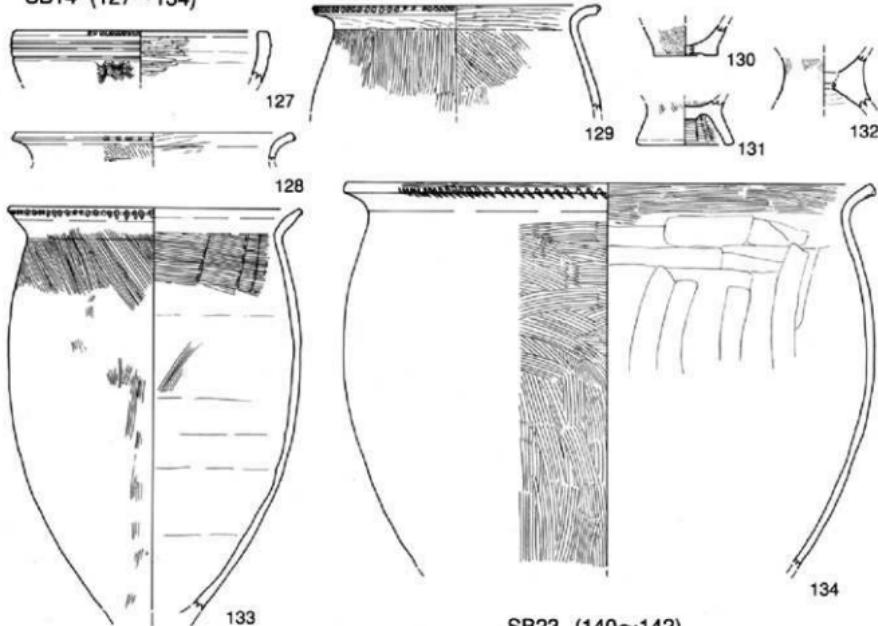


第19図 弥生土器実測図5 (1:4)



第20図 弥生土器実測図6 (1:4)

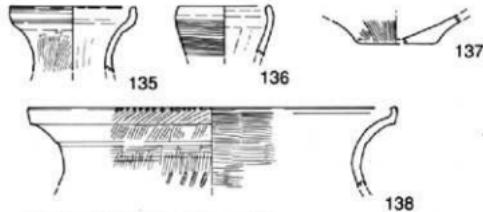
**SB14 (127~134)**



**SB23 (140~142)**



**SB17 (135~139)**



**SB25 (144)**

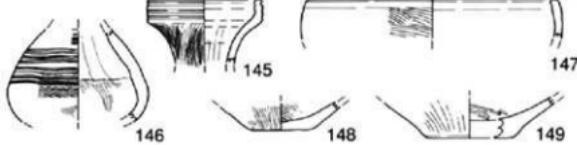


**SB20 (143)**

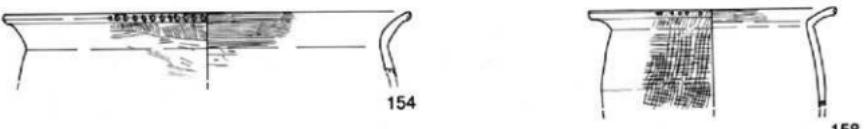
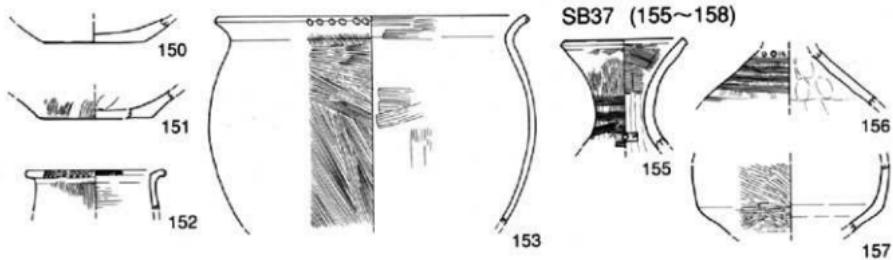


**SB28 (145~154)**

0 20cm

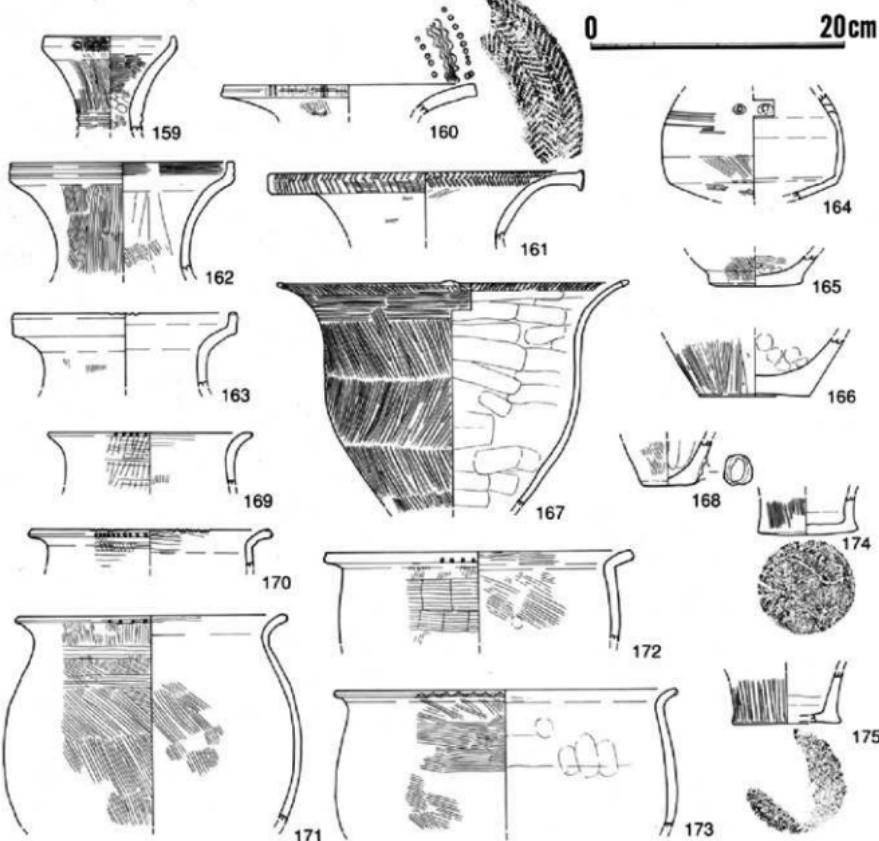


第21図 弥生土器実測図7 (1:4)



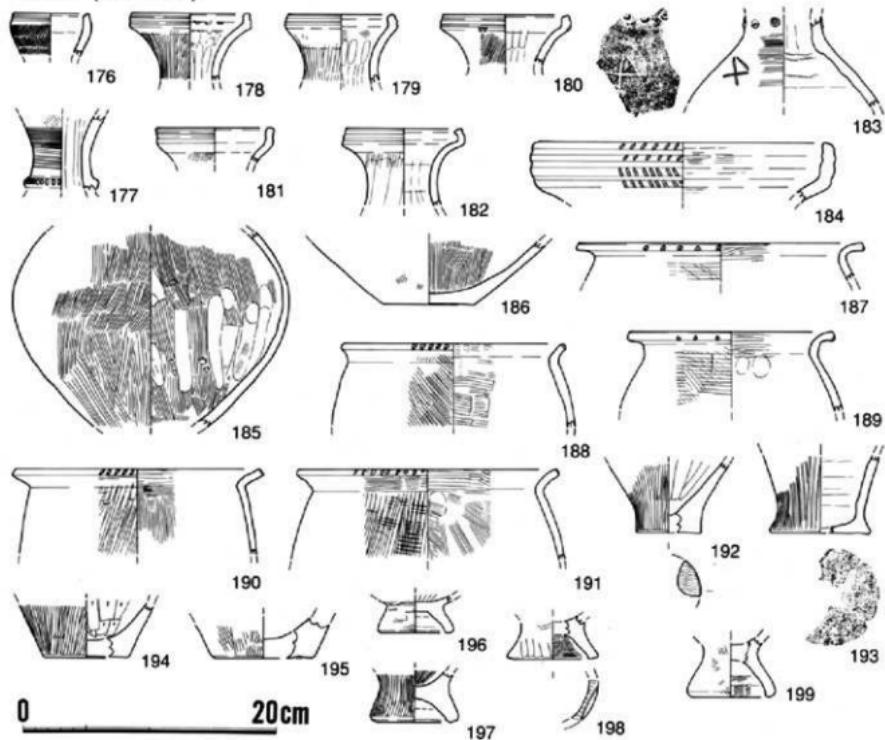
SB38 (159~175)

0 20cm

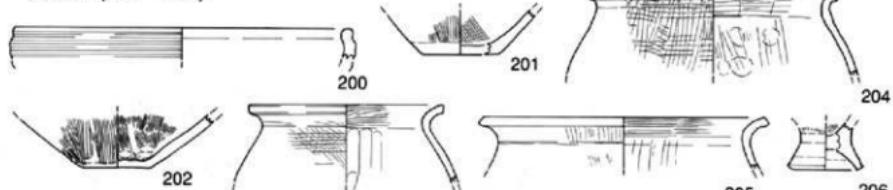


第22図 弥生土器実測図8(1:4)

SB34 (176~199)



SB35 (200~207)



SB44 (208)



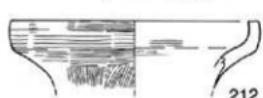
SB45 (209)



SB47 (210・211)

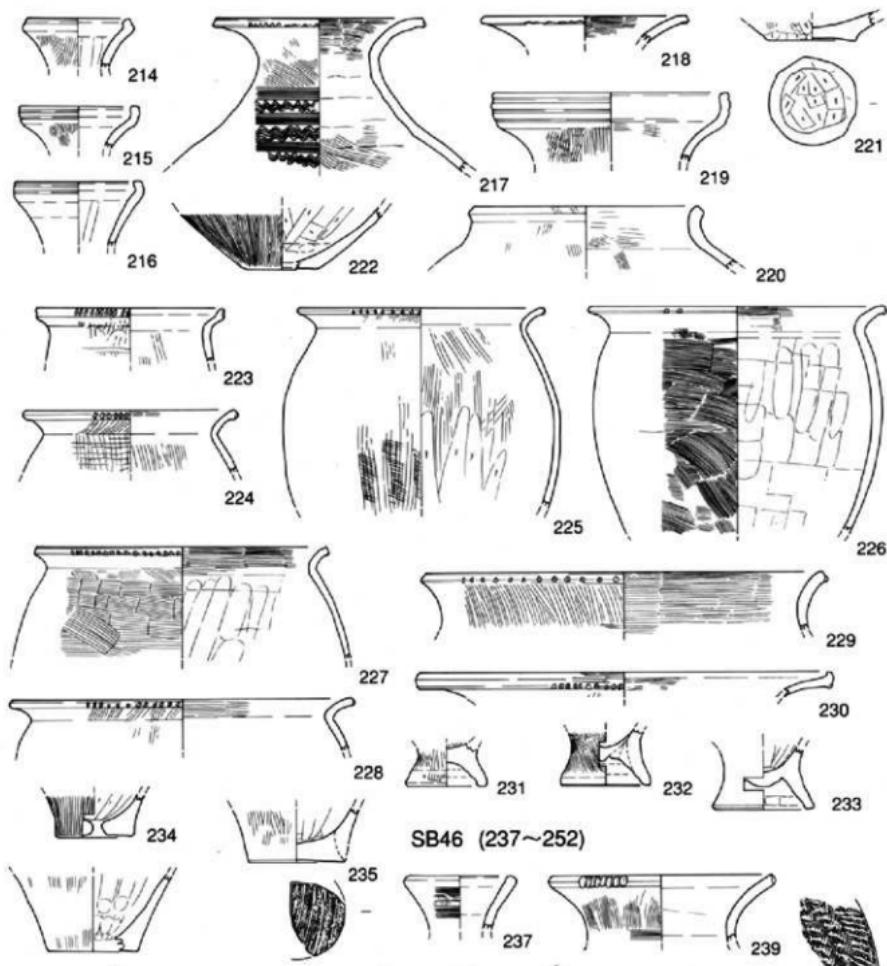


SB43 (212・213)

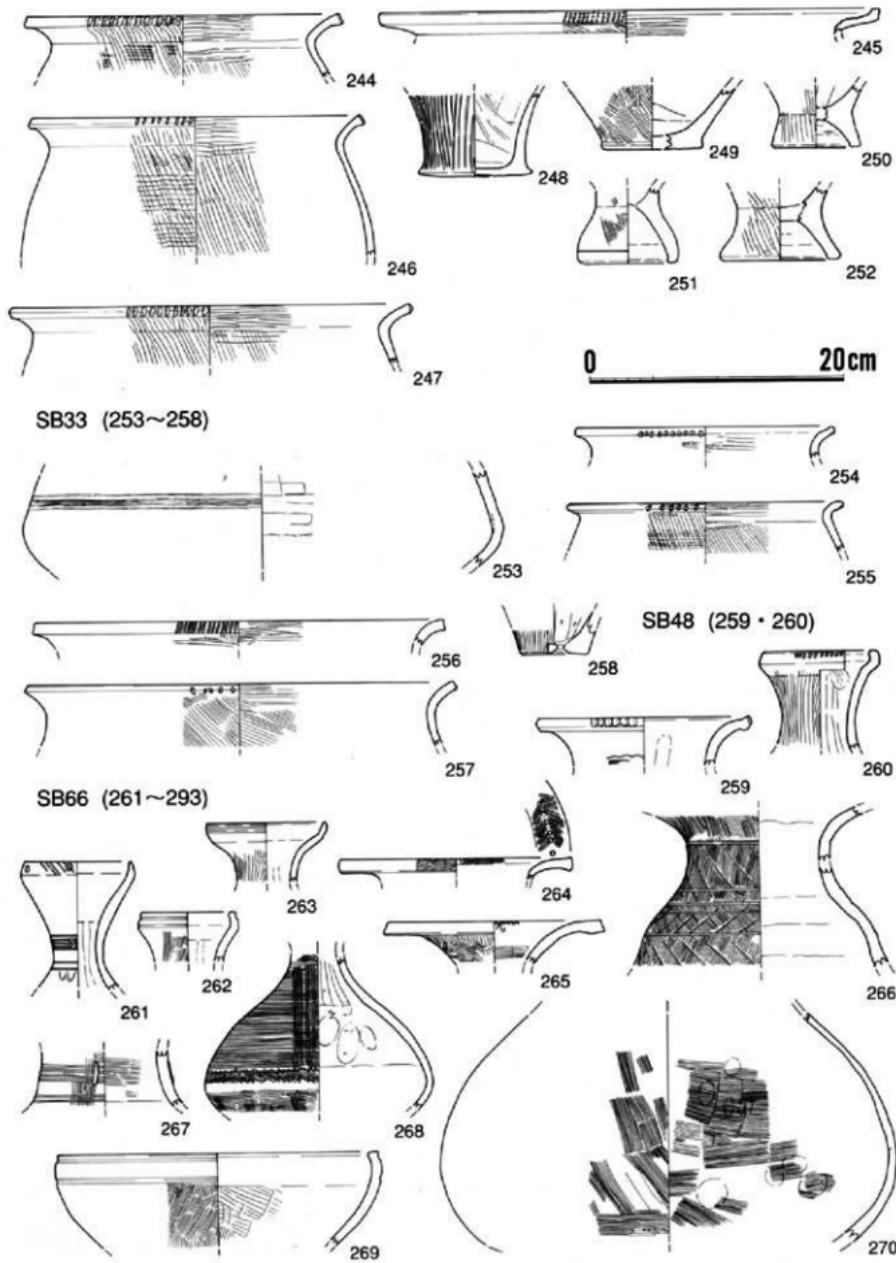


第23図 弥生土器実測図9(1:4)

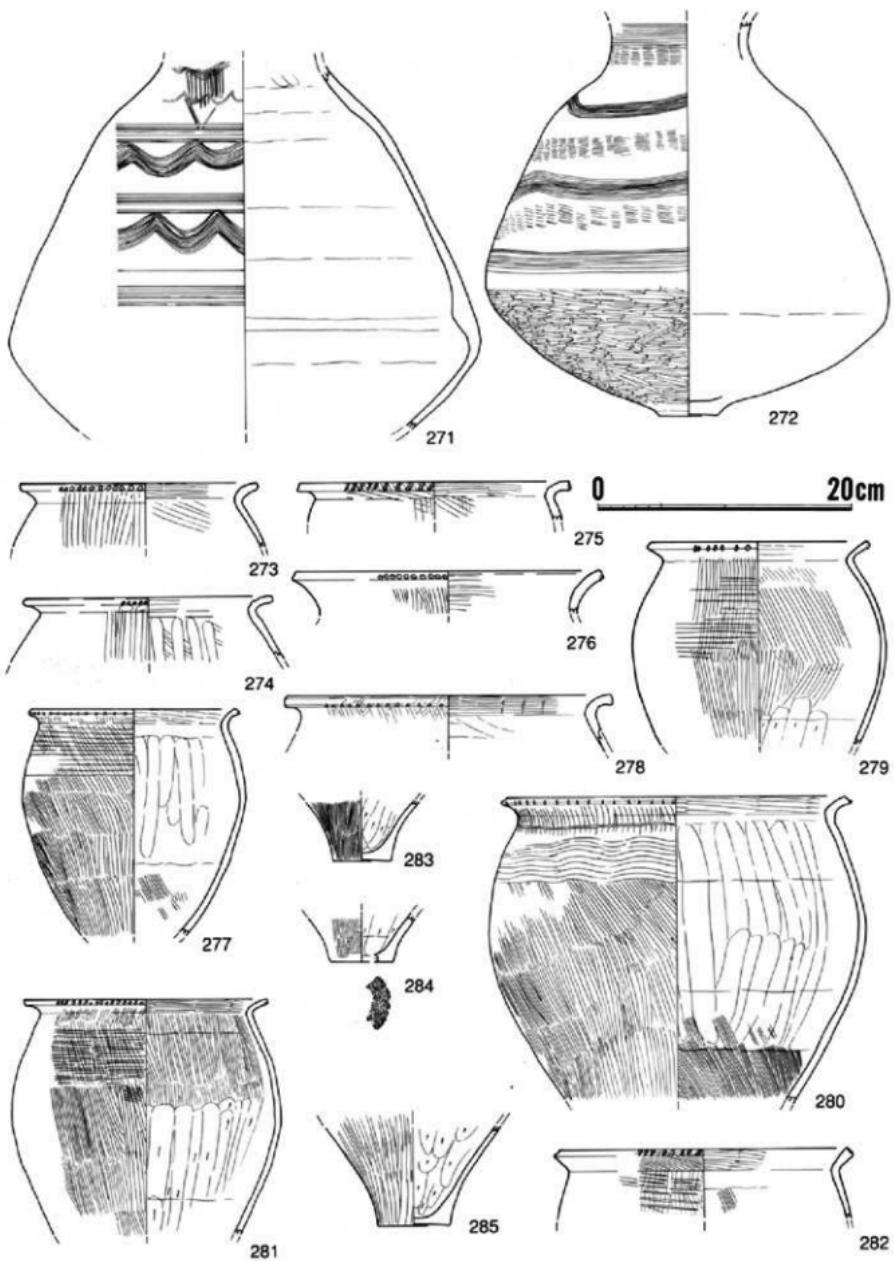
SB41 (214~236)



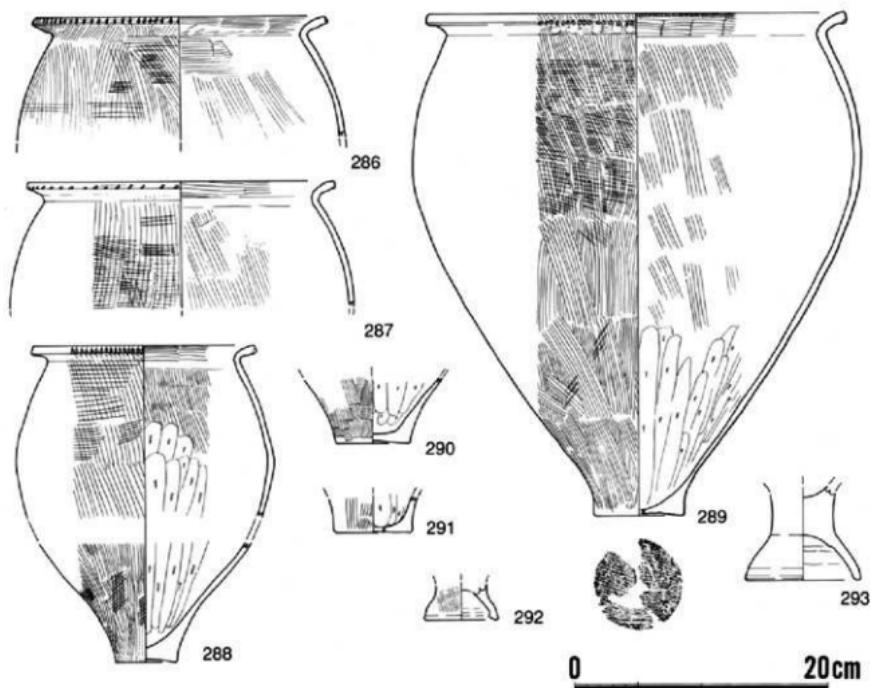
第24図 弥生土器実測図10 (1:4)



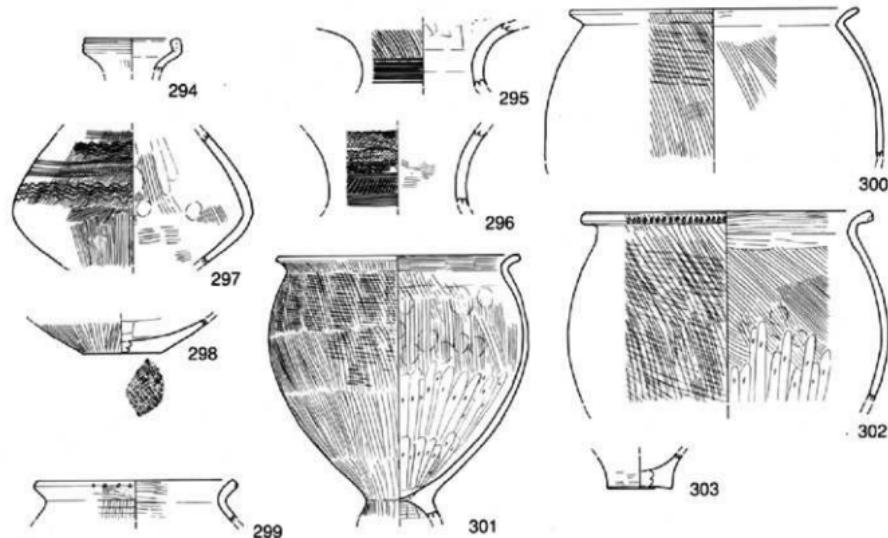
第25図 弥生土器実測図11(1:4)



第26図 弥生土器実測図 12 (1:4)

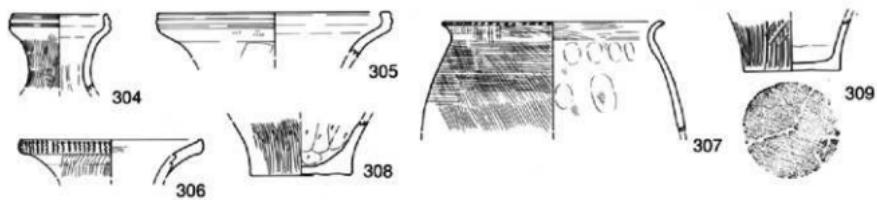


SB68 (294~303)

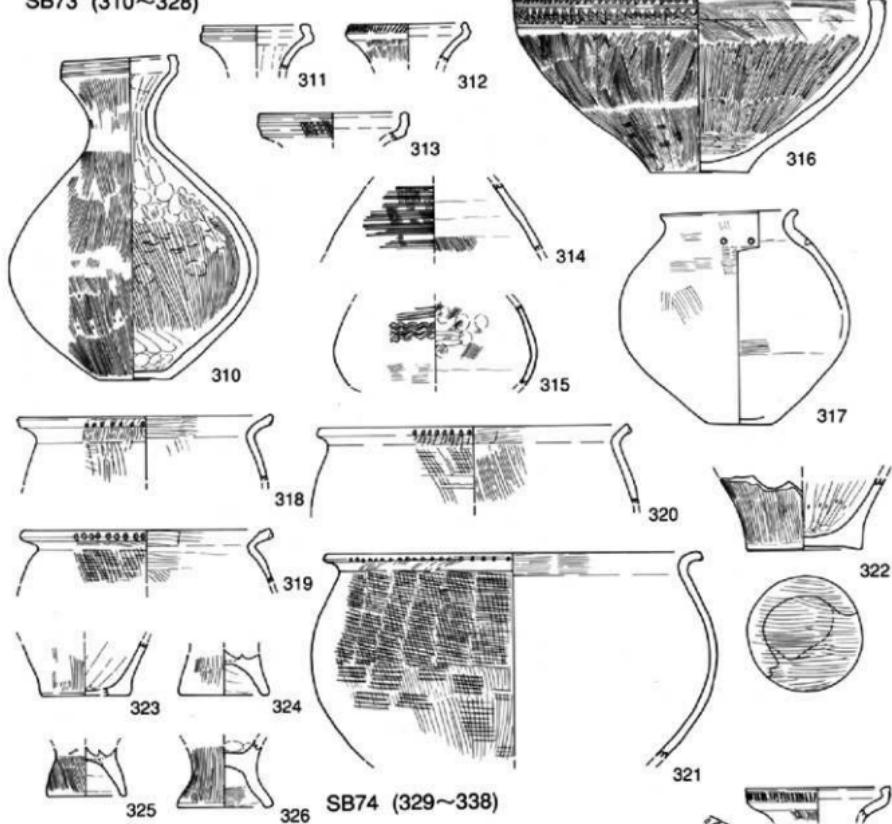


第27図 弥生土器実測図13 (1:4)

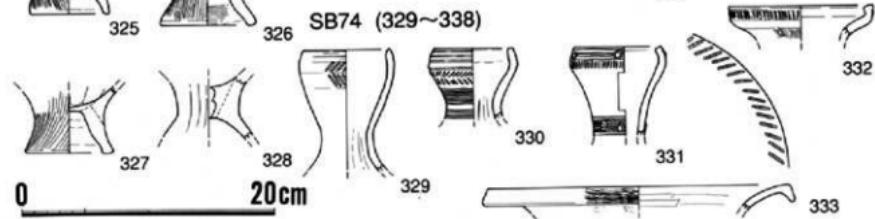
SB72 (304~309)



SB73 (310~328)



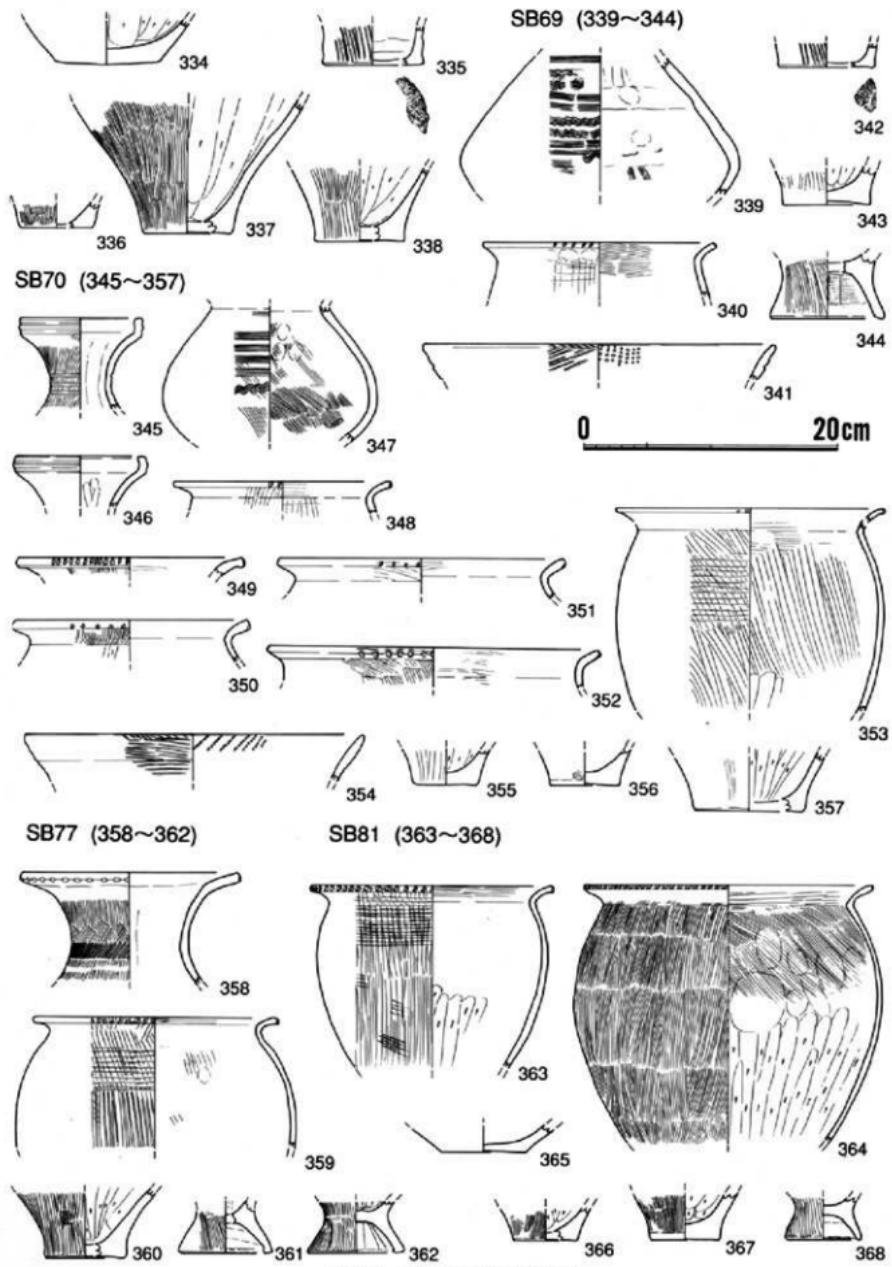
SB74 (329~338)



0

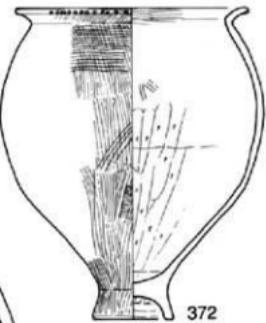
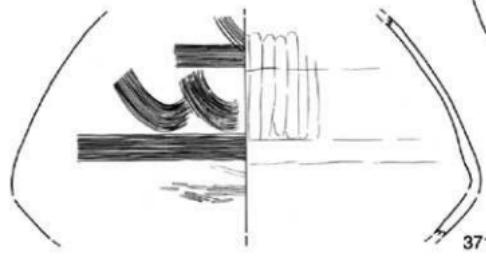
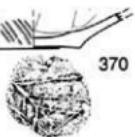
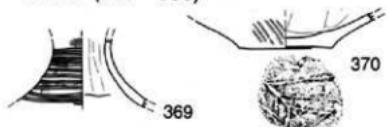
20cm

第28図 弥生土器実測図14 (1:4)

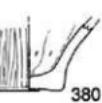


第29図 弥生土器実測図15 (1:4)

SB79 (369~380)

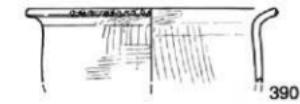
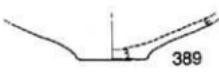
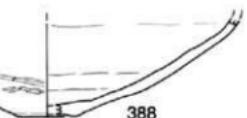
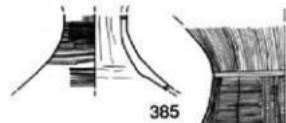
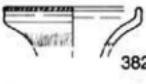
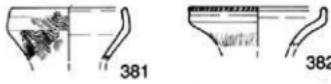


373



SB82 (381~398)

0 20cm



391

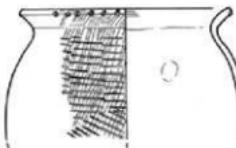


395

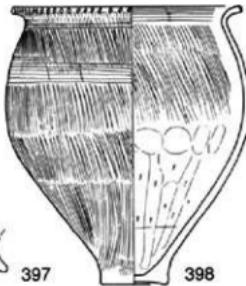
第30図 弥生土器実測図 16 (1:4)



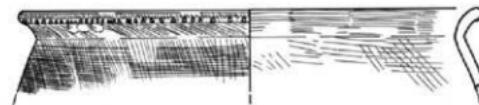
394



395



398



396



397

SB83 (399~417)



399



400



401



407



403



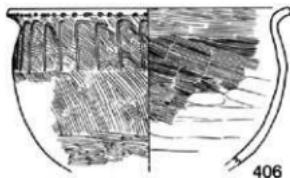
404



402



408



406



409



410



411



412



413



414



415



416



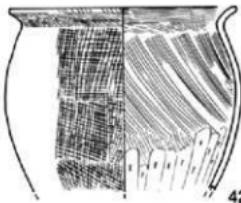
417

SB78 (418)



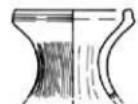
418

SB80 (420)



420

SB84 (419)



419

SB85 (421)



421

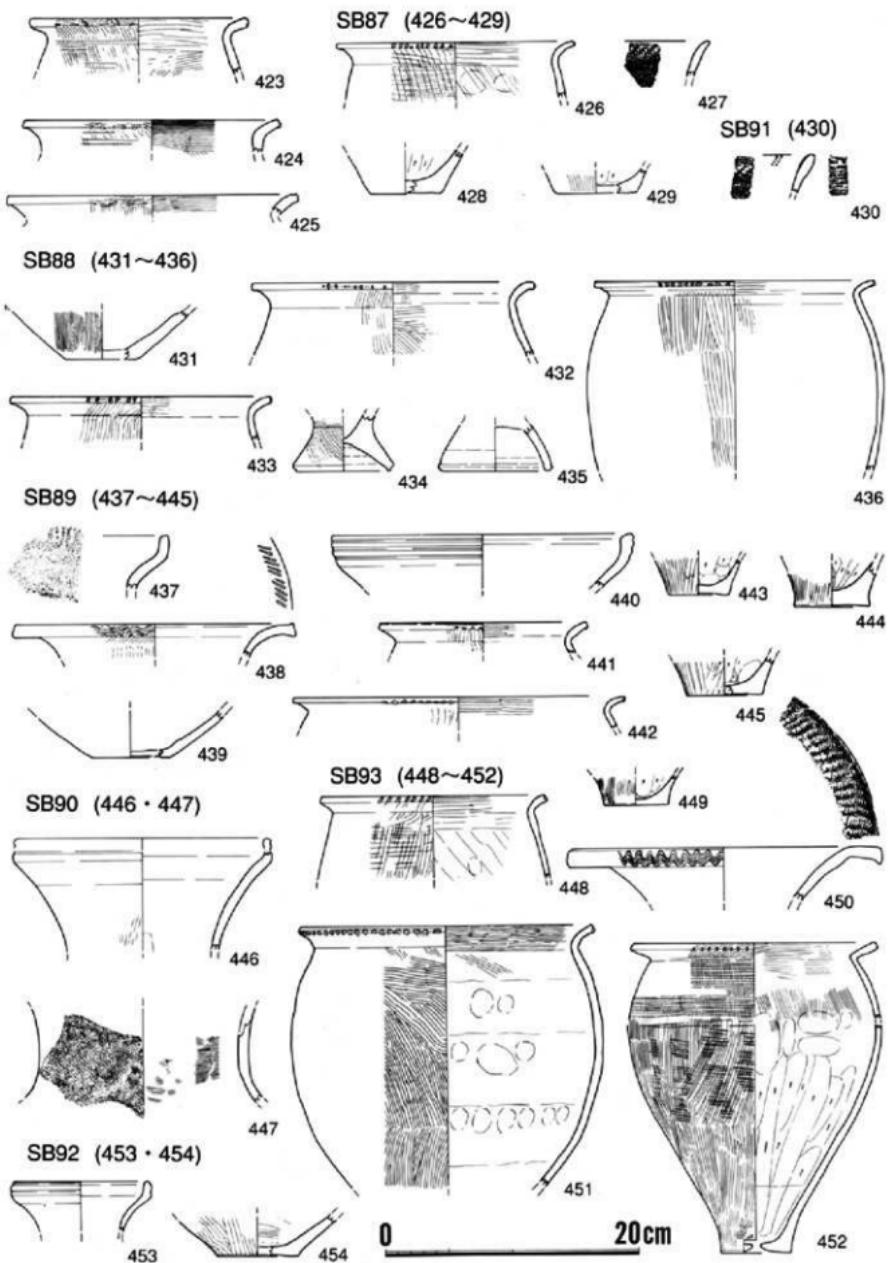
20cm

SB86 (422~425)

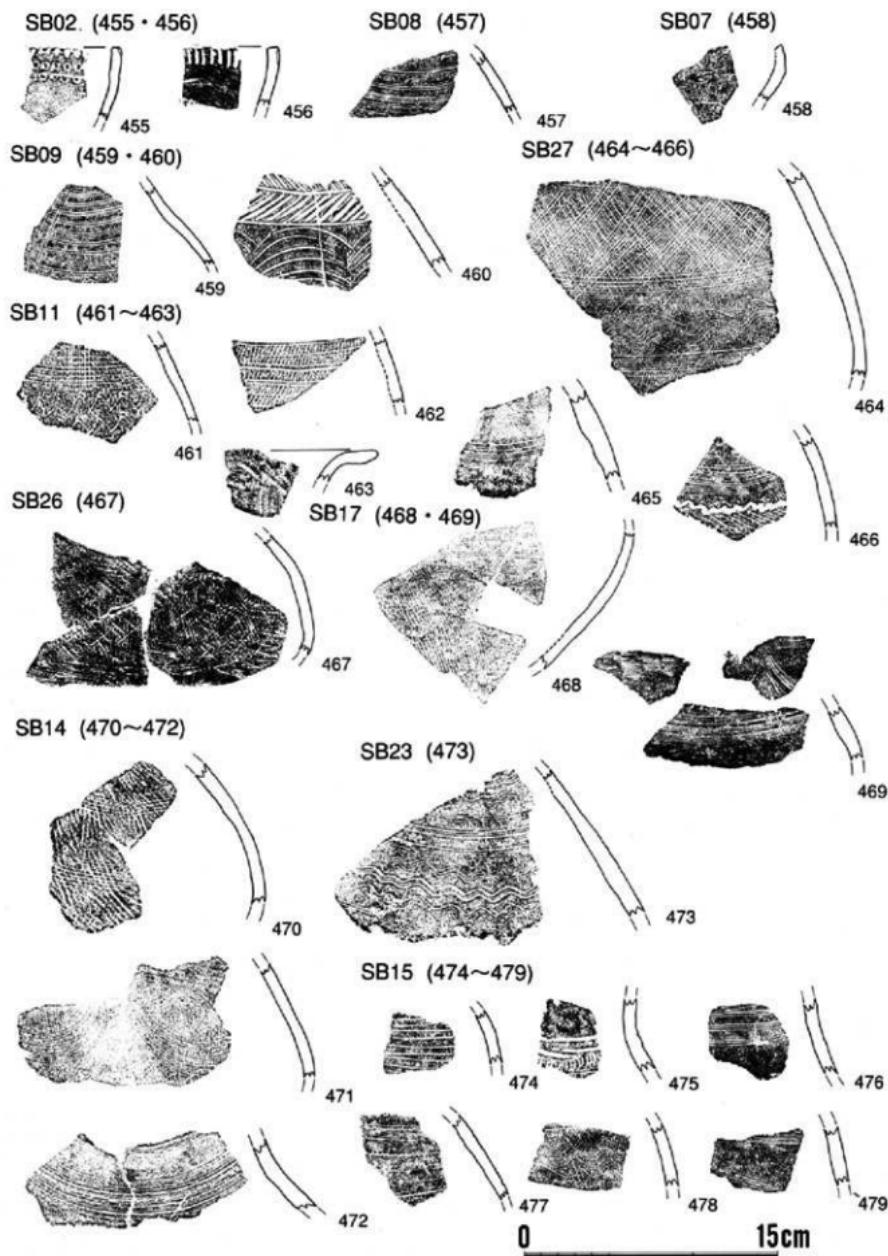


422

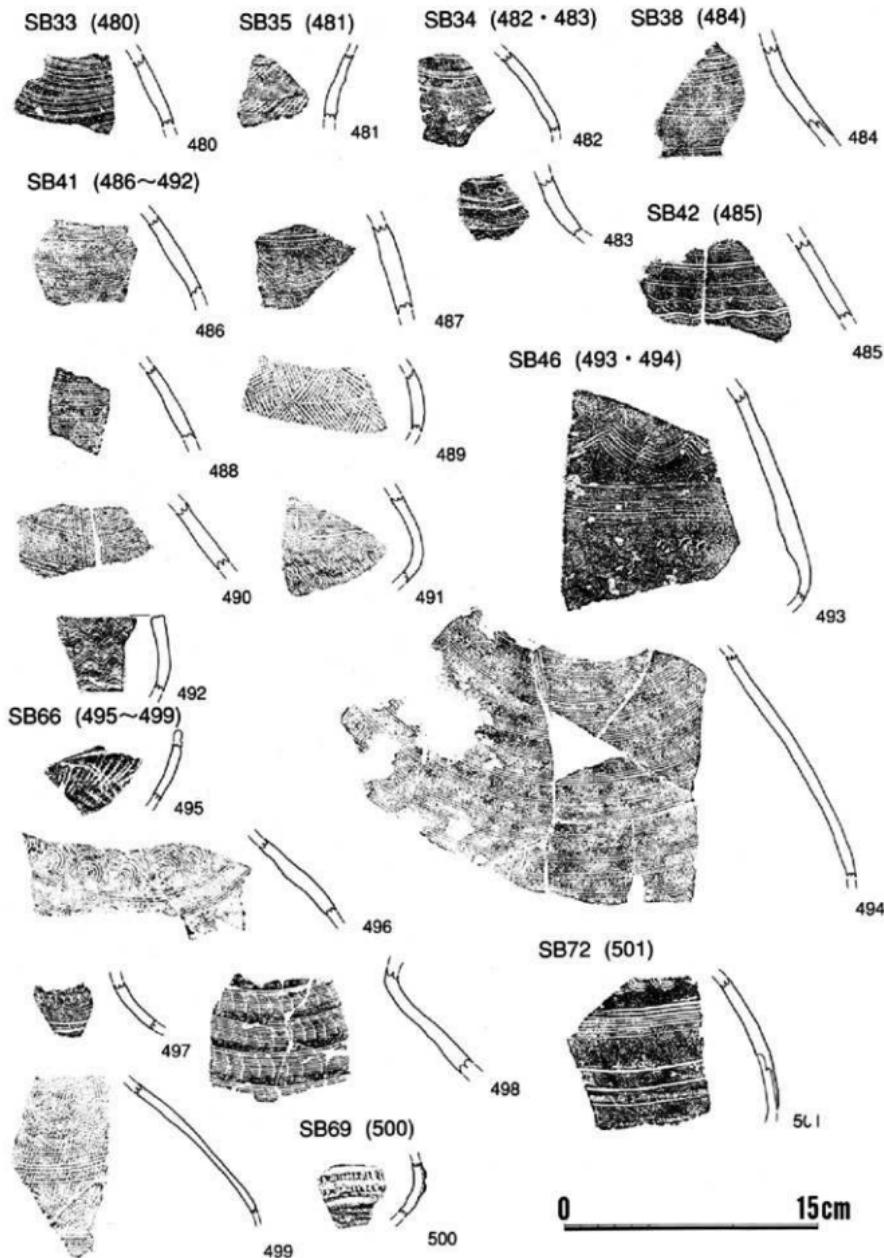
第31図 弥生土器実測図17(1:4)



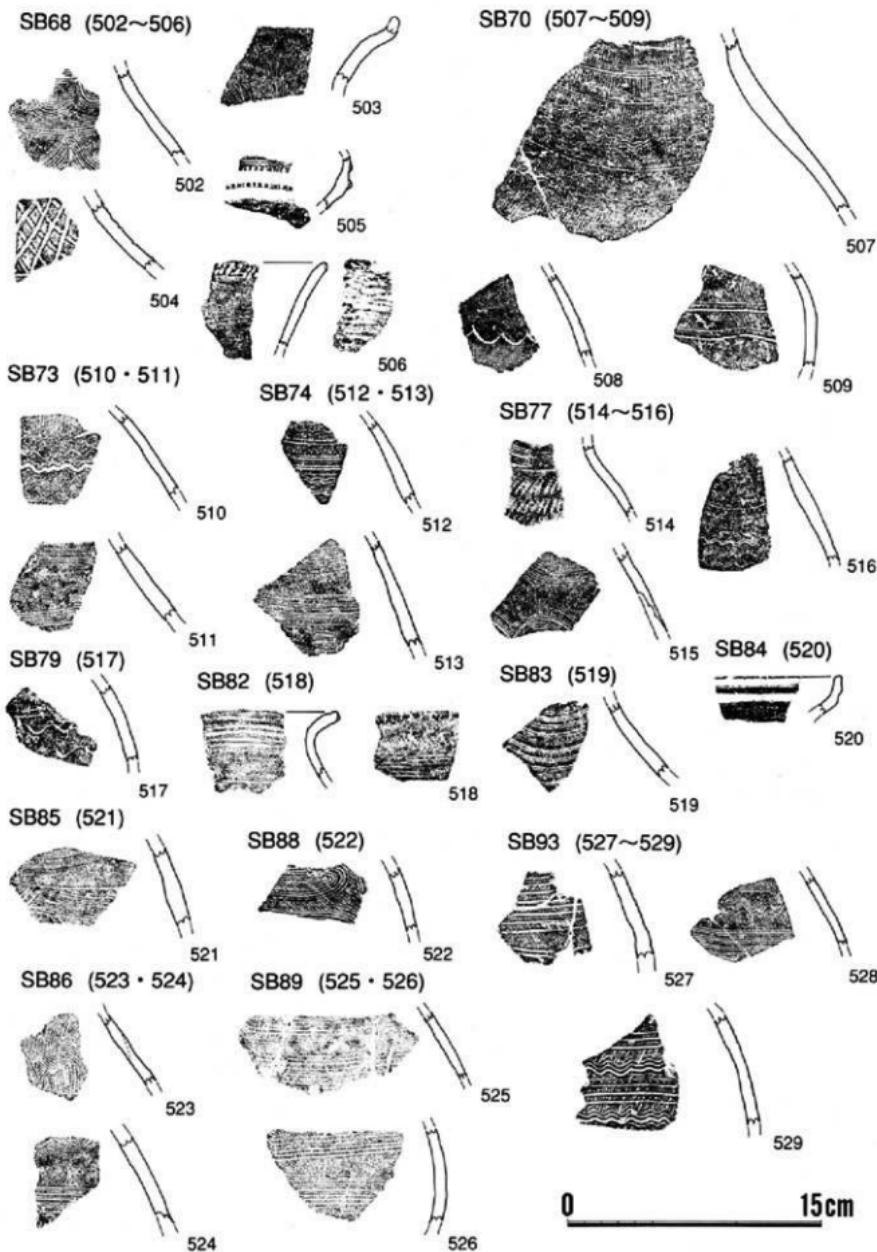
第32図 弥生土器実測図18 (1:4)



第33図 弥生土器実測図19 (1:3)

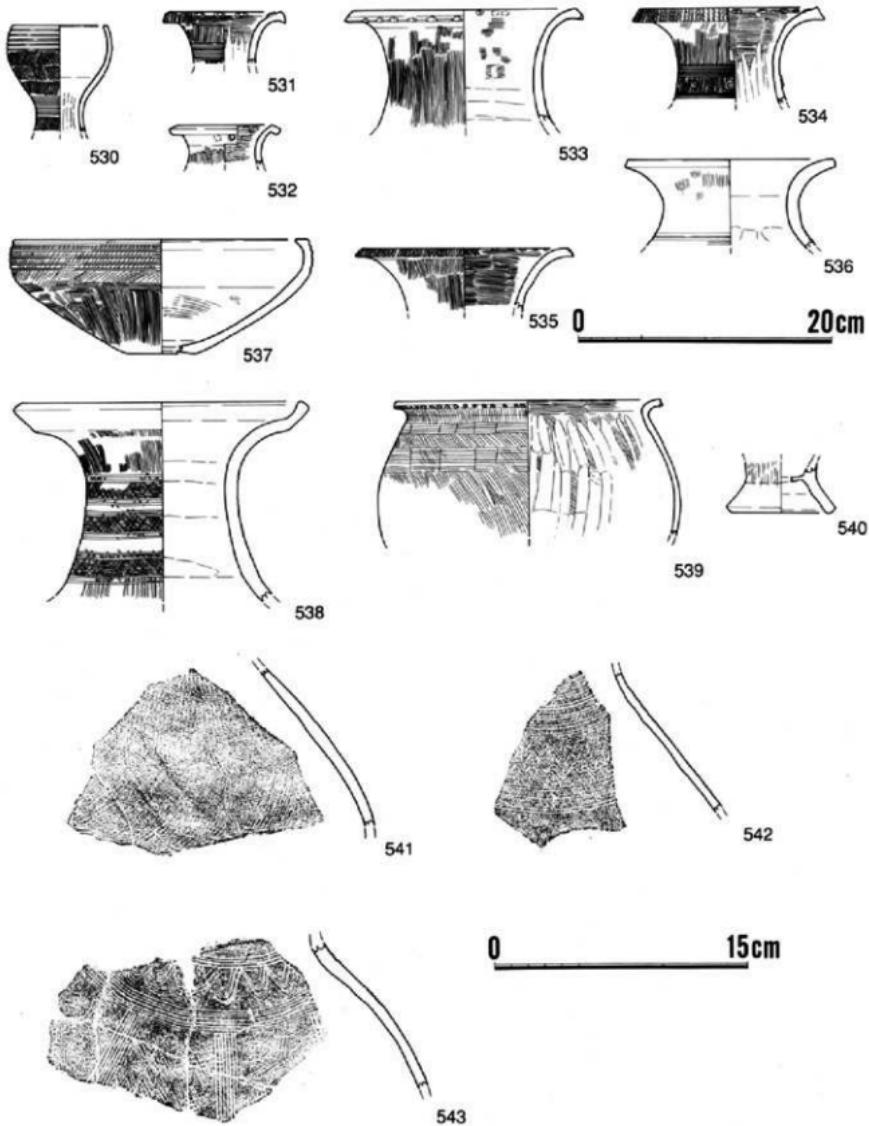


第34図 弥生土器実測図20 (1:3)



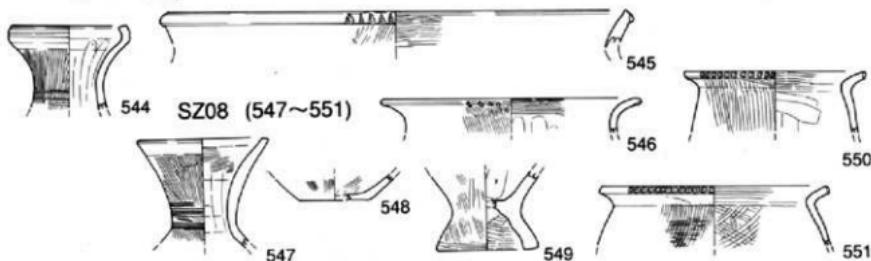
第35図 弥生土器実測図21 (1:3)

SB94 (530~543)

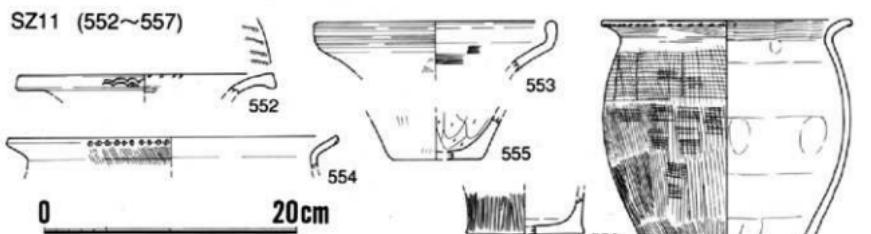


第36図 弥生土器実測図22 (530~540は1:4、541~543は1:3)

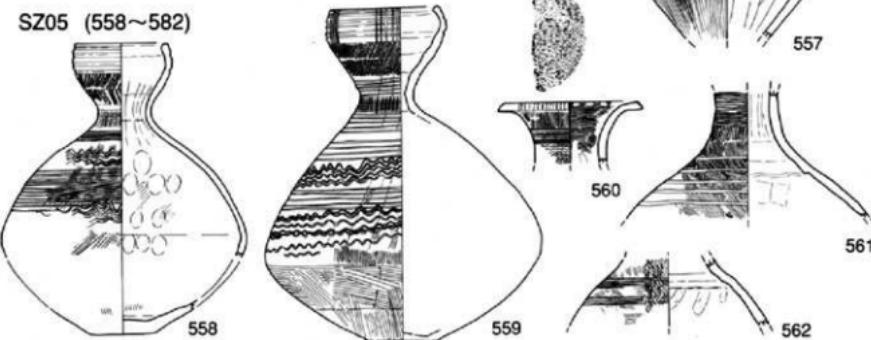
SZ06 (544~546)



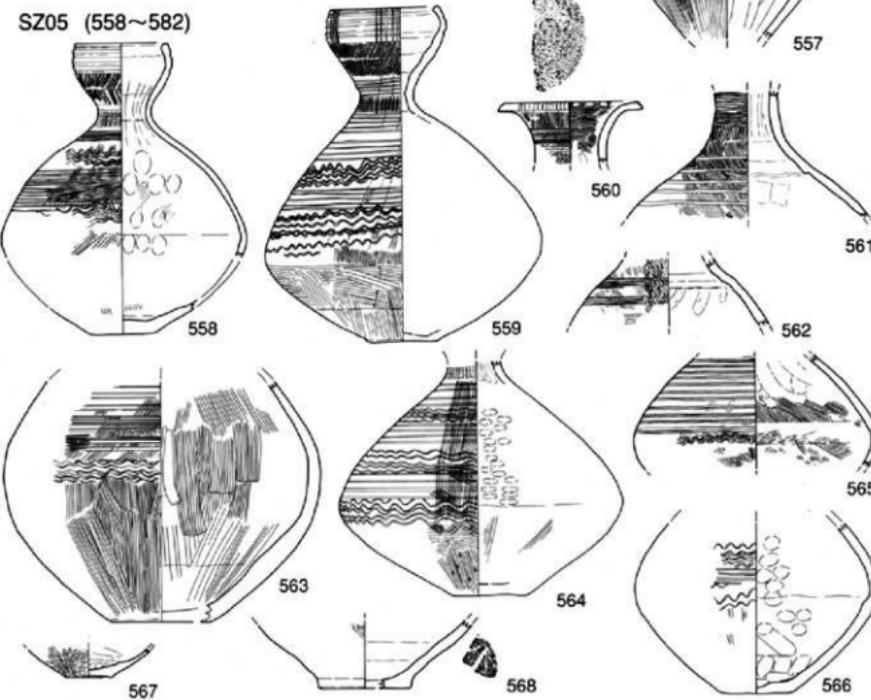
SZ08 (547~551)



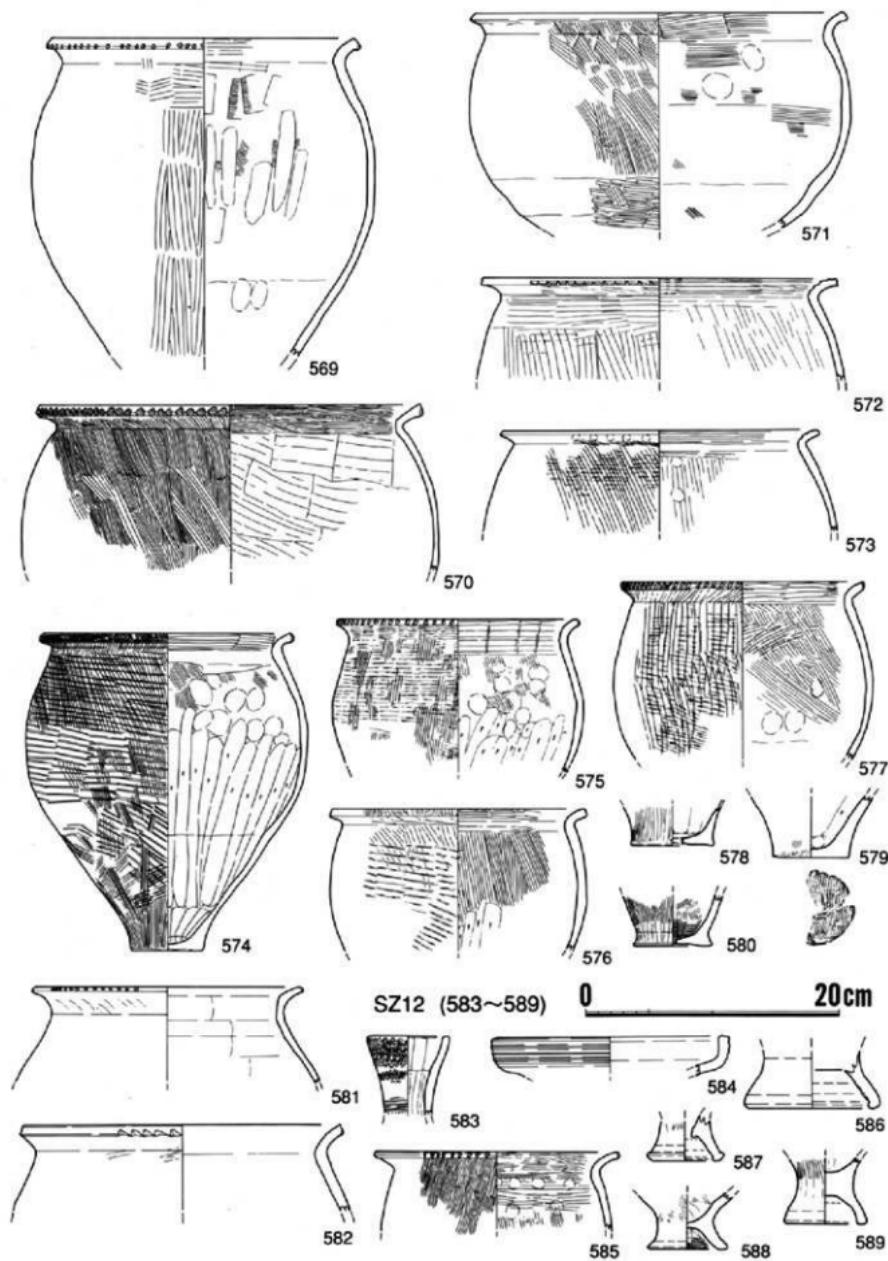
SZ11 (552~557)



SZ05 (558~582)

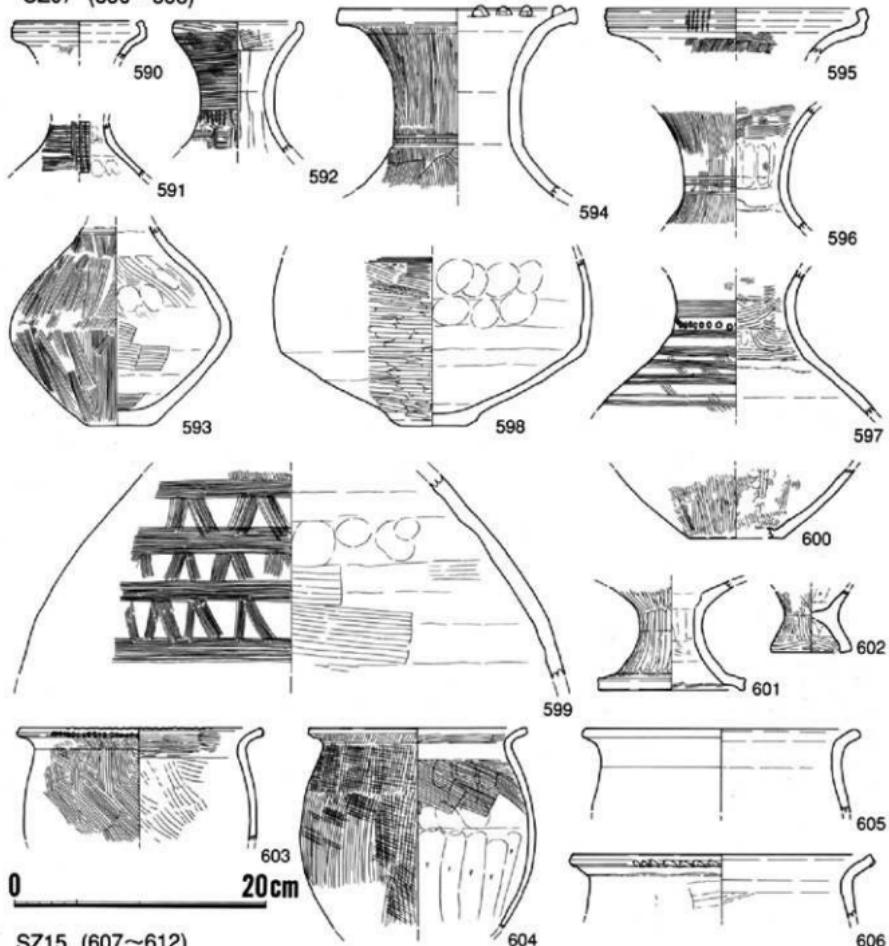


第37図 弥生土器実測図23 (1:4)

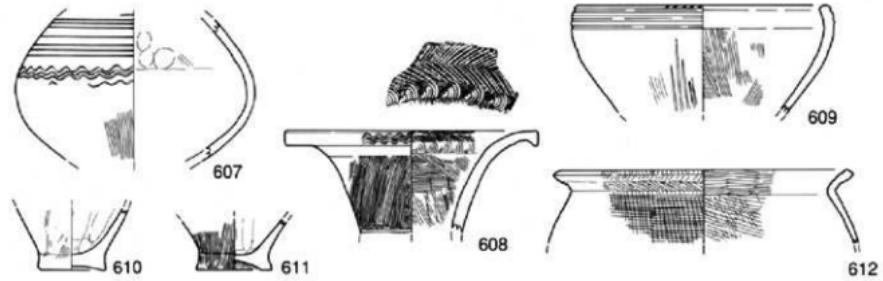


第38図 弥生土器実測図24 (1:4)

SZ07 (590~606)

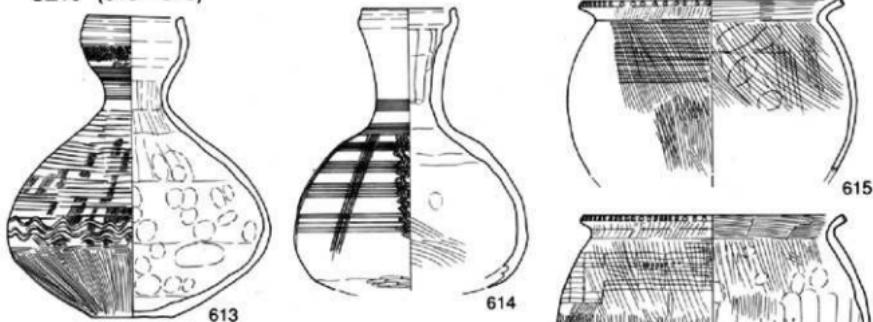


SZ15 (607~612)

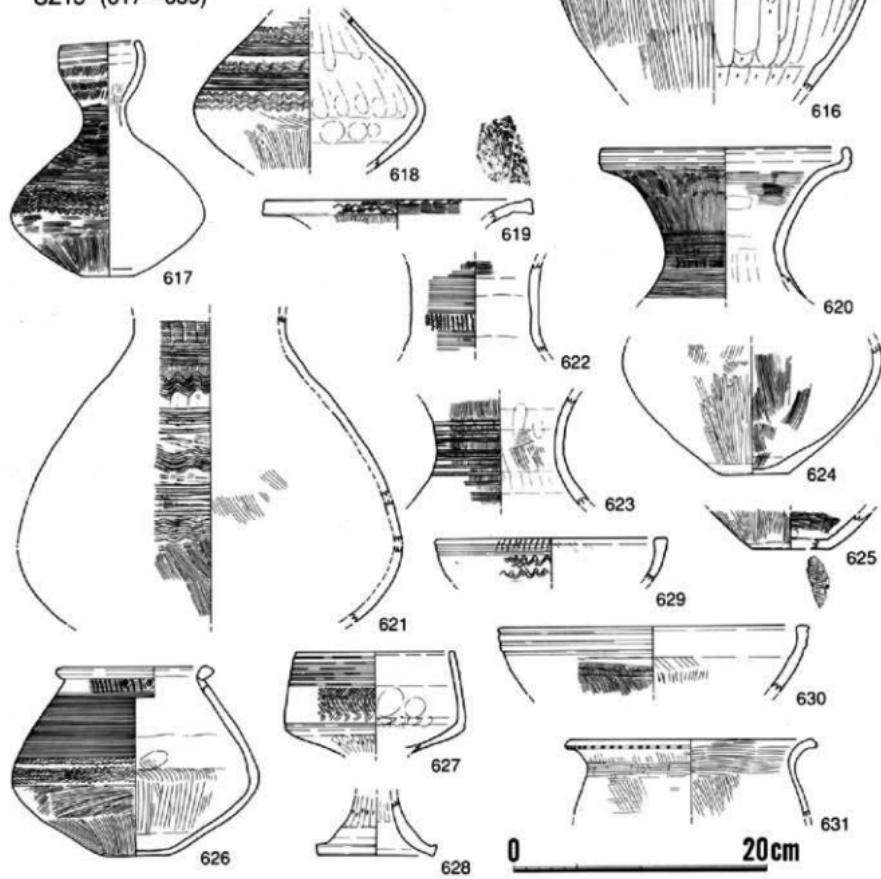


第39図 弥生土器実測図25(1:4)

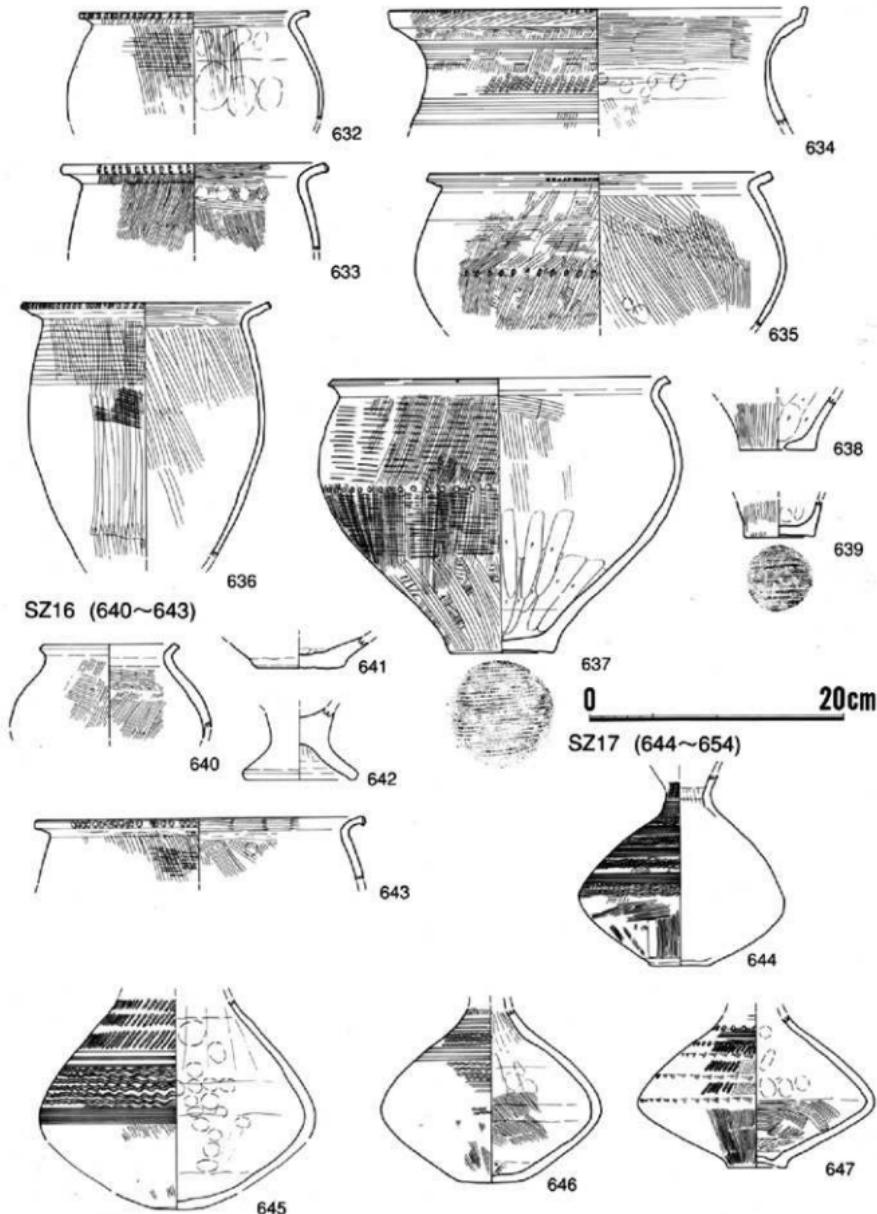
SZ10 (613~616)



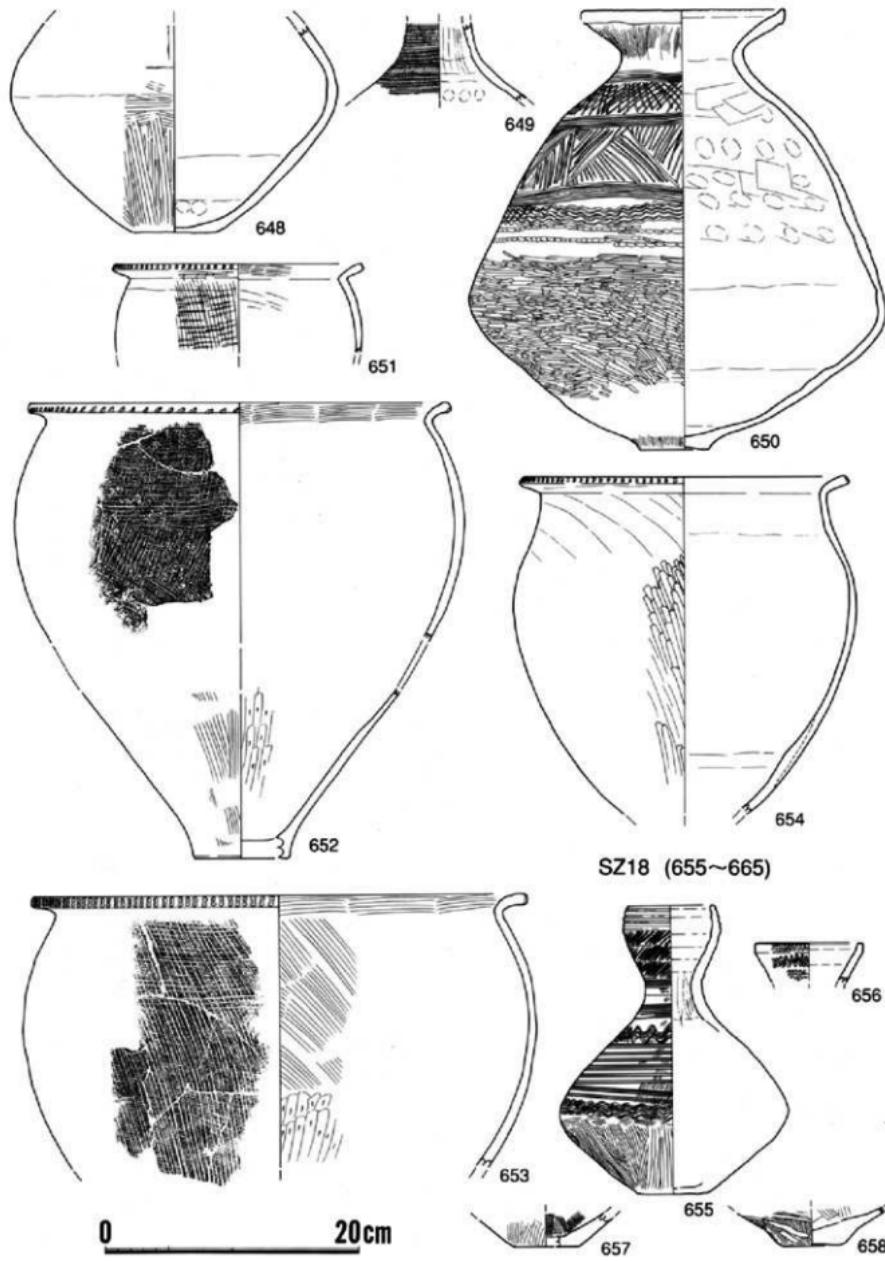
SZ13 (617~639)



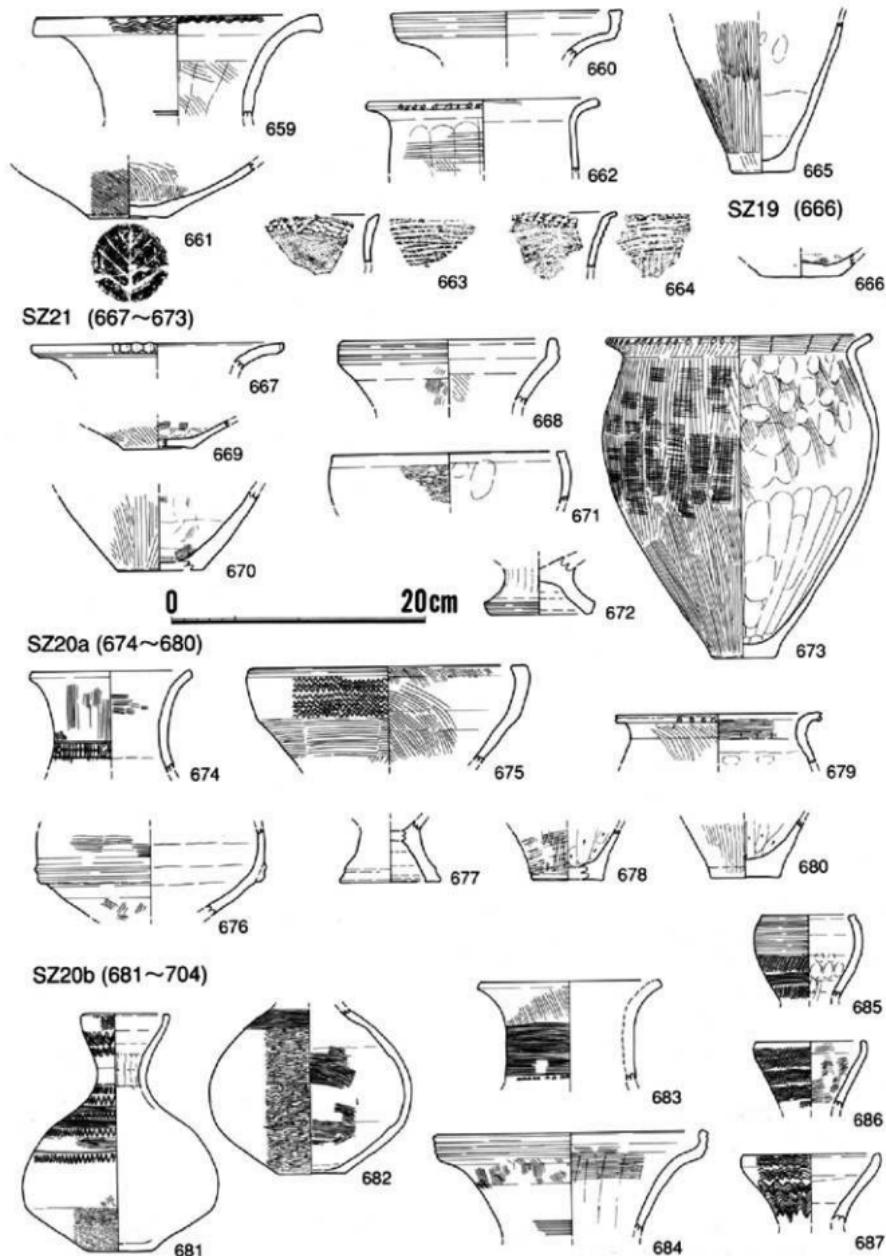
第40図 弥生土器実測図26 (1:4)



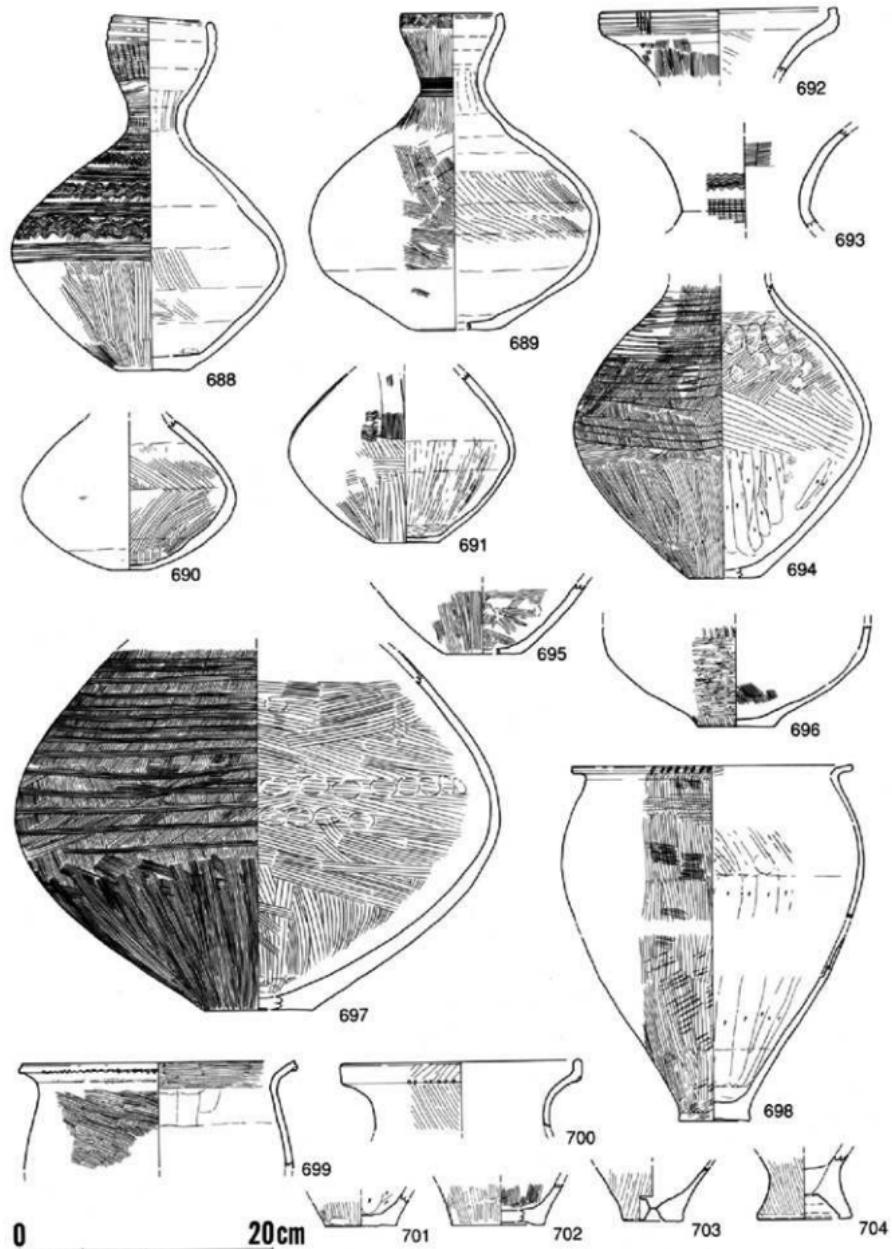
第41図 弥生土器実測図27 (1:4)



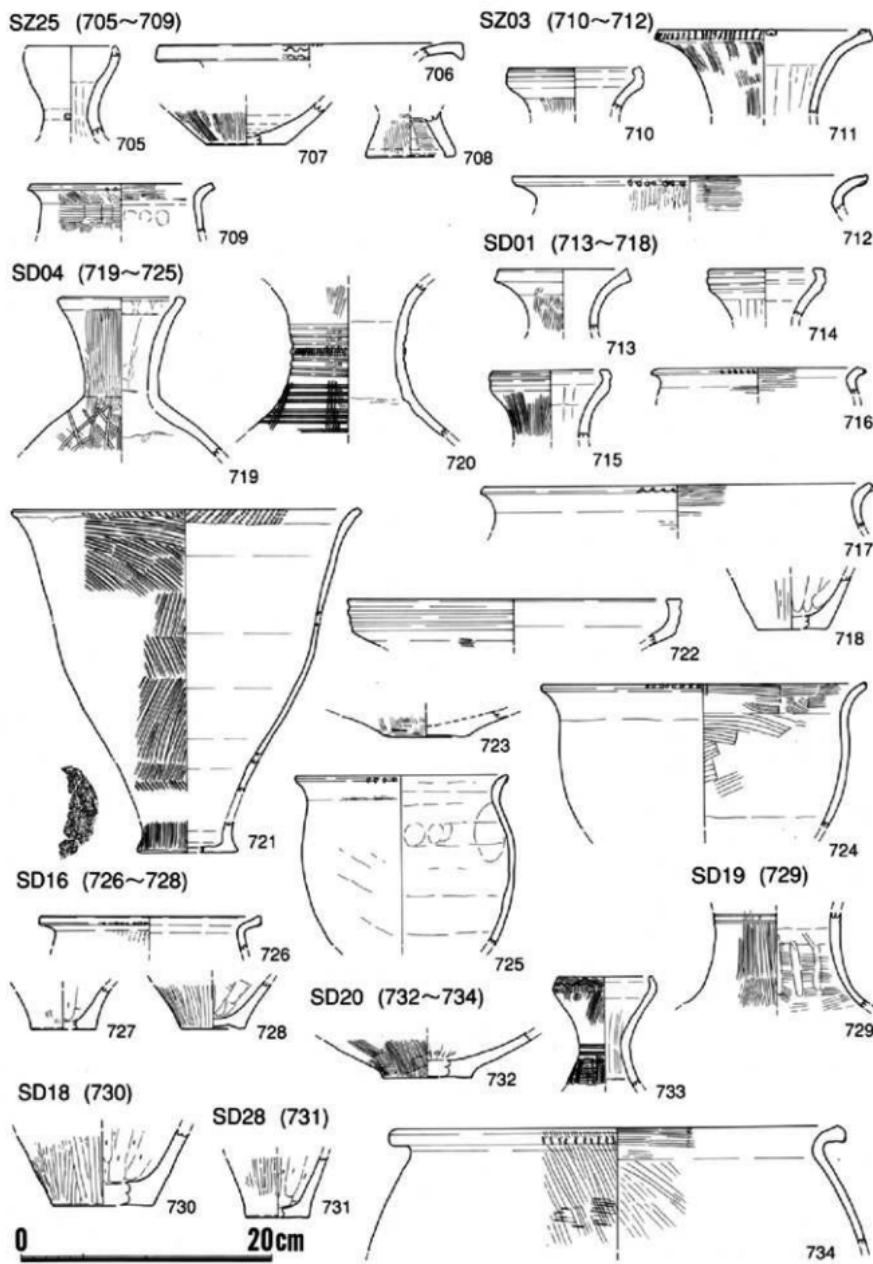
第42図 弥生土器実測図28 (1:4)



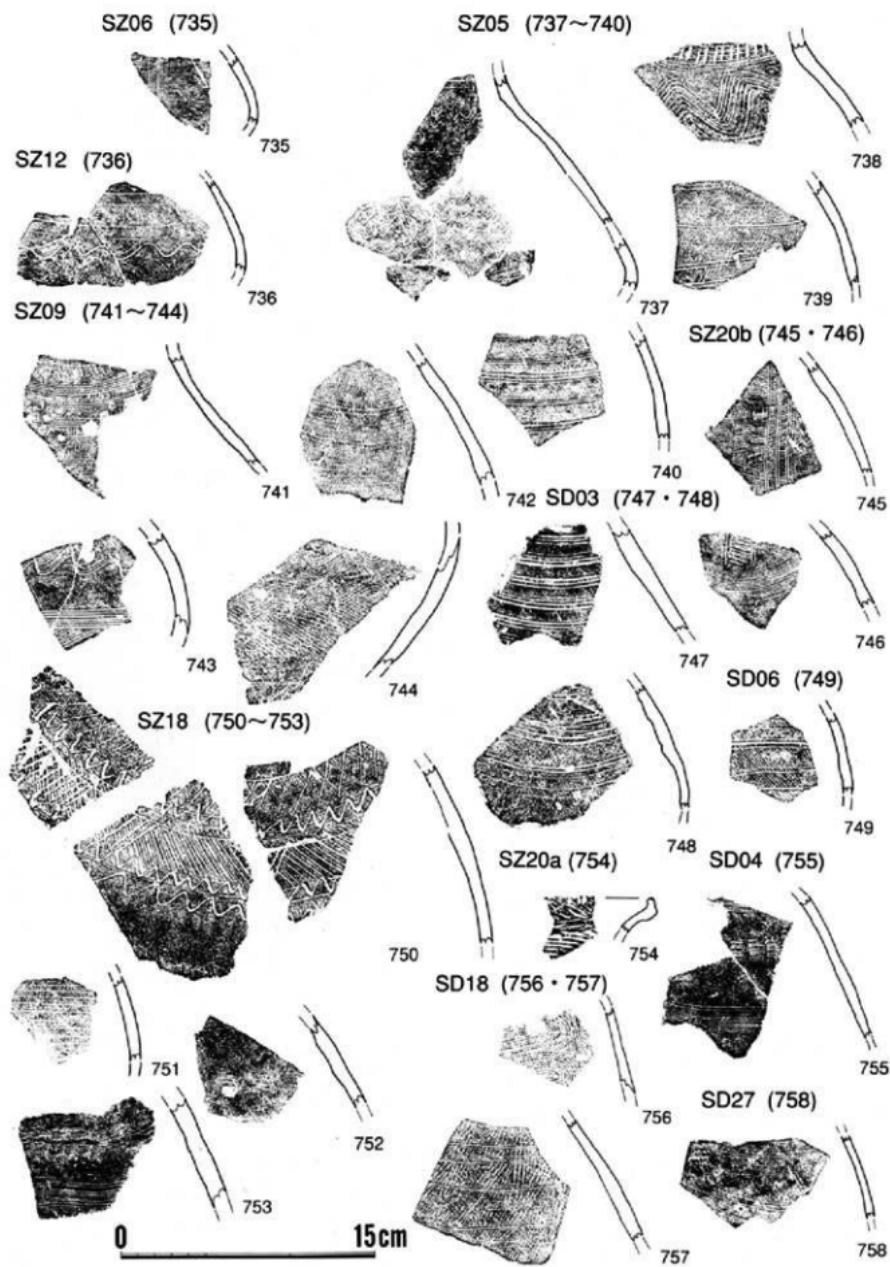
第43図 弥生土器実測図29 (1:4)



第44図 弥生土器実測図30 (1:4)

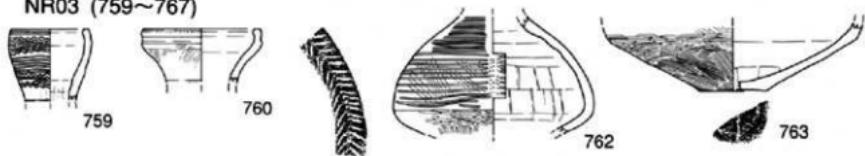


第45図 弥生土器実測図31 (1:4)

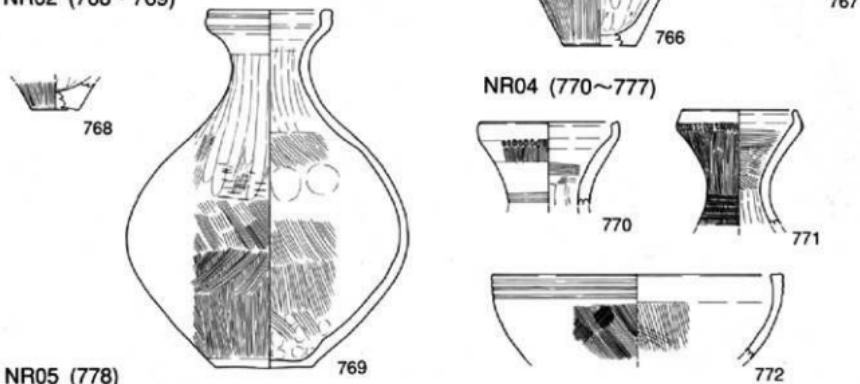


第46図 弥生土器実測図32 (1:3)

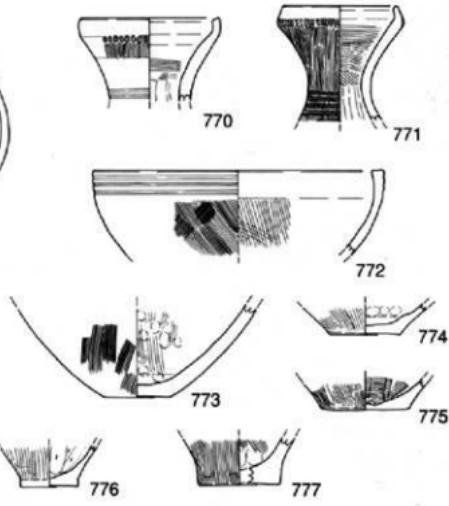
NR03 (759~767)



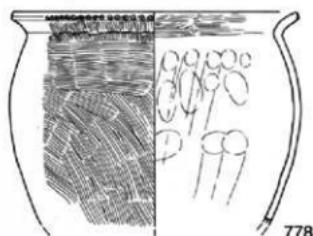
NR02 (768・769)



NR04 (770~777)



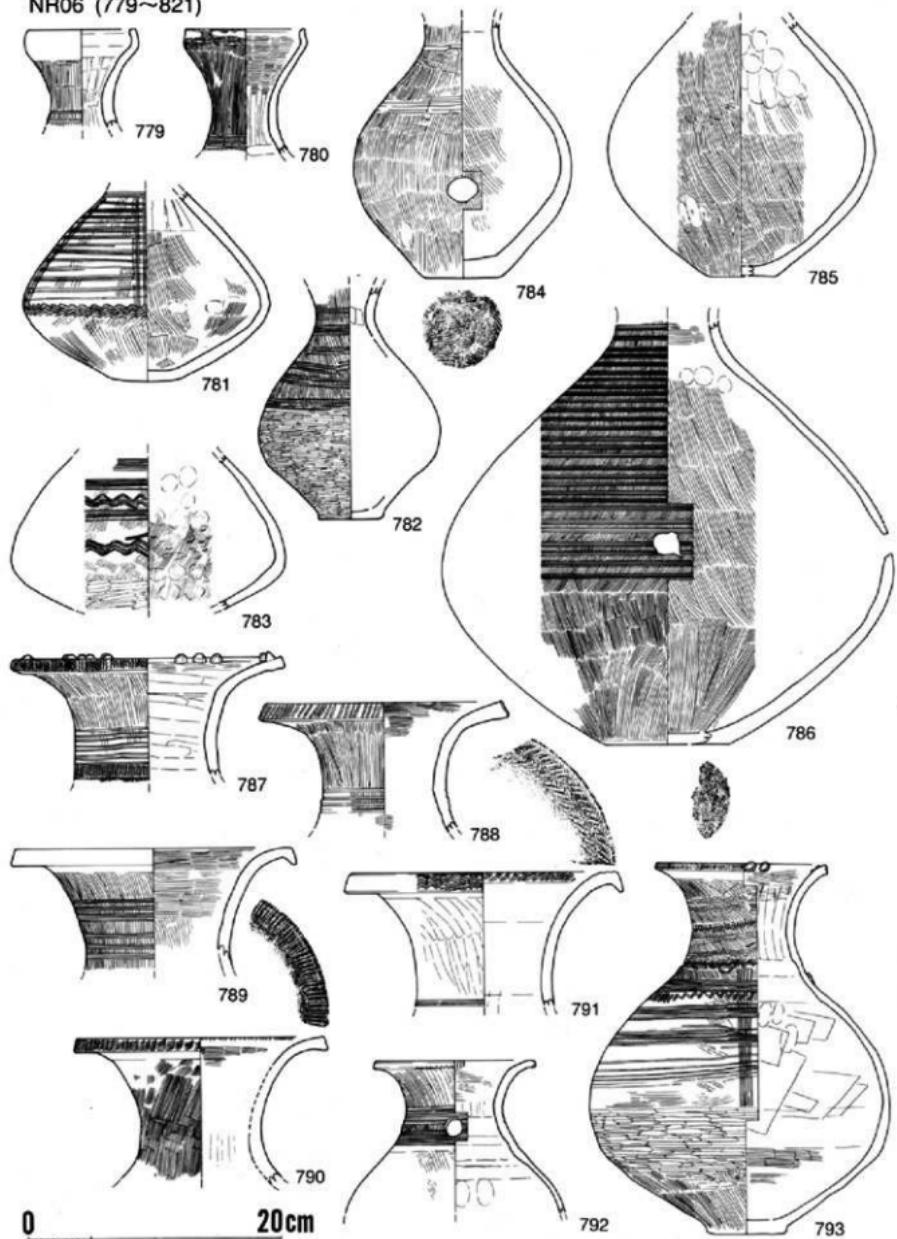
NR05 (778)



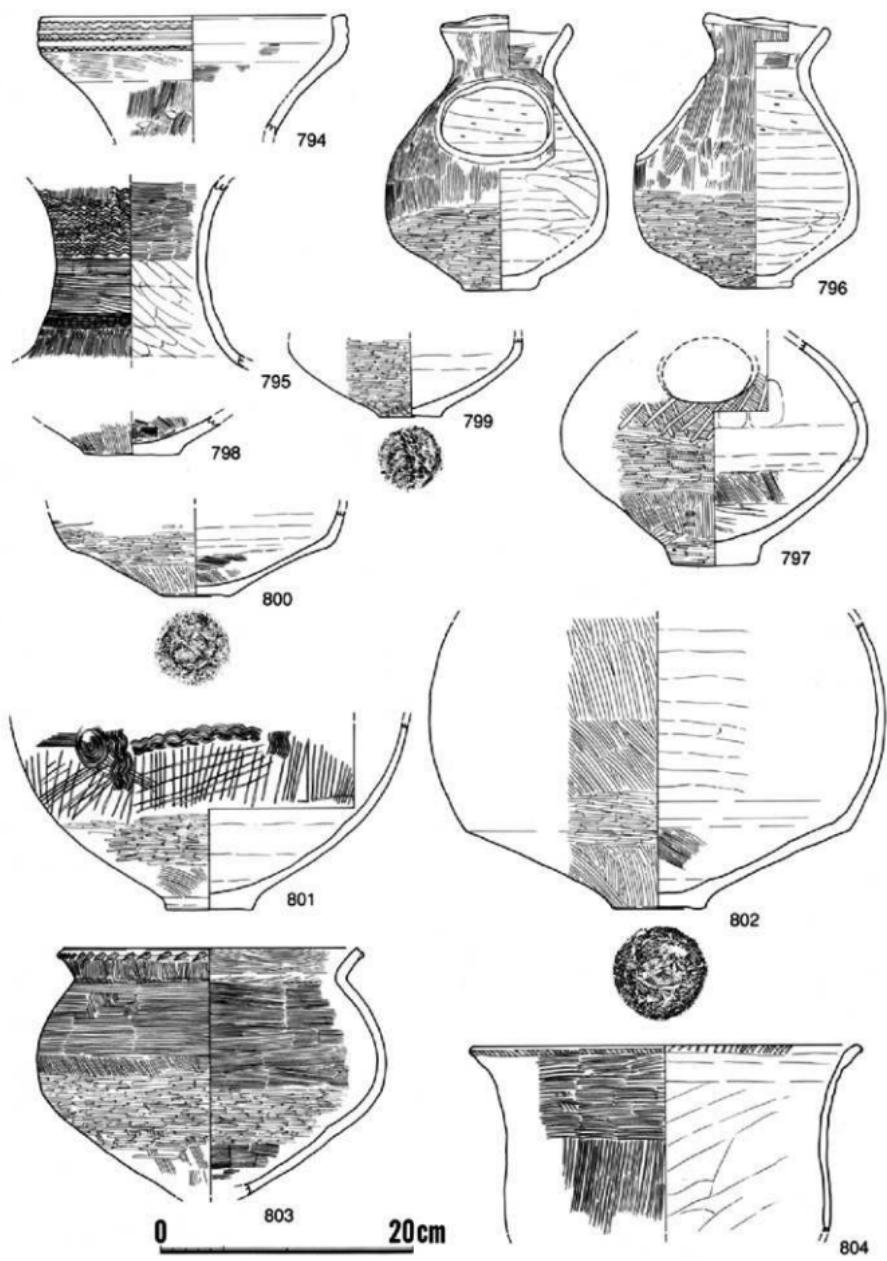
0 20cm

第47図 弥生土器実測図33 (1:4)

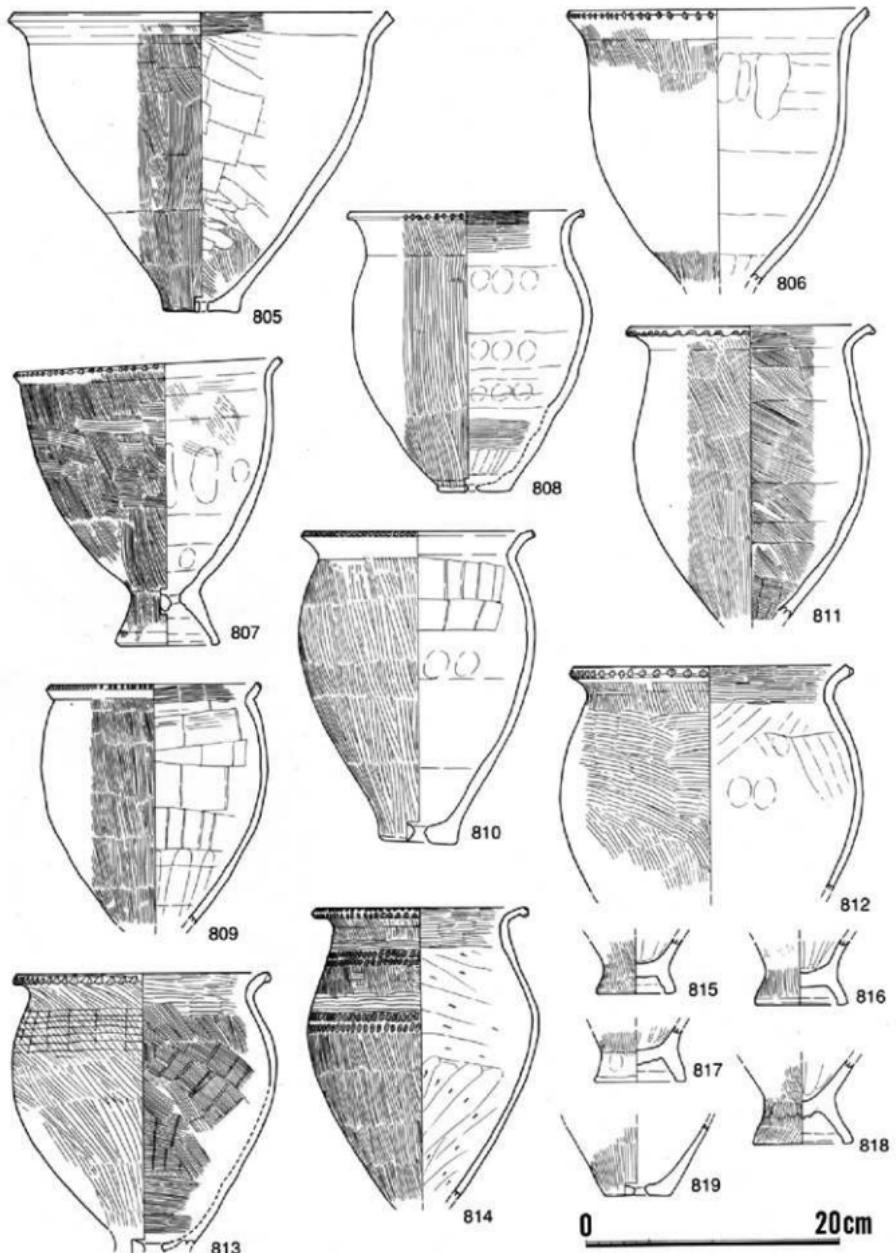
NR06 (779~821)



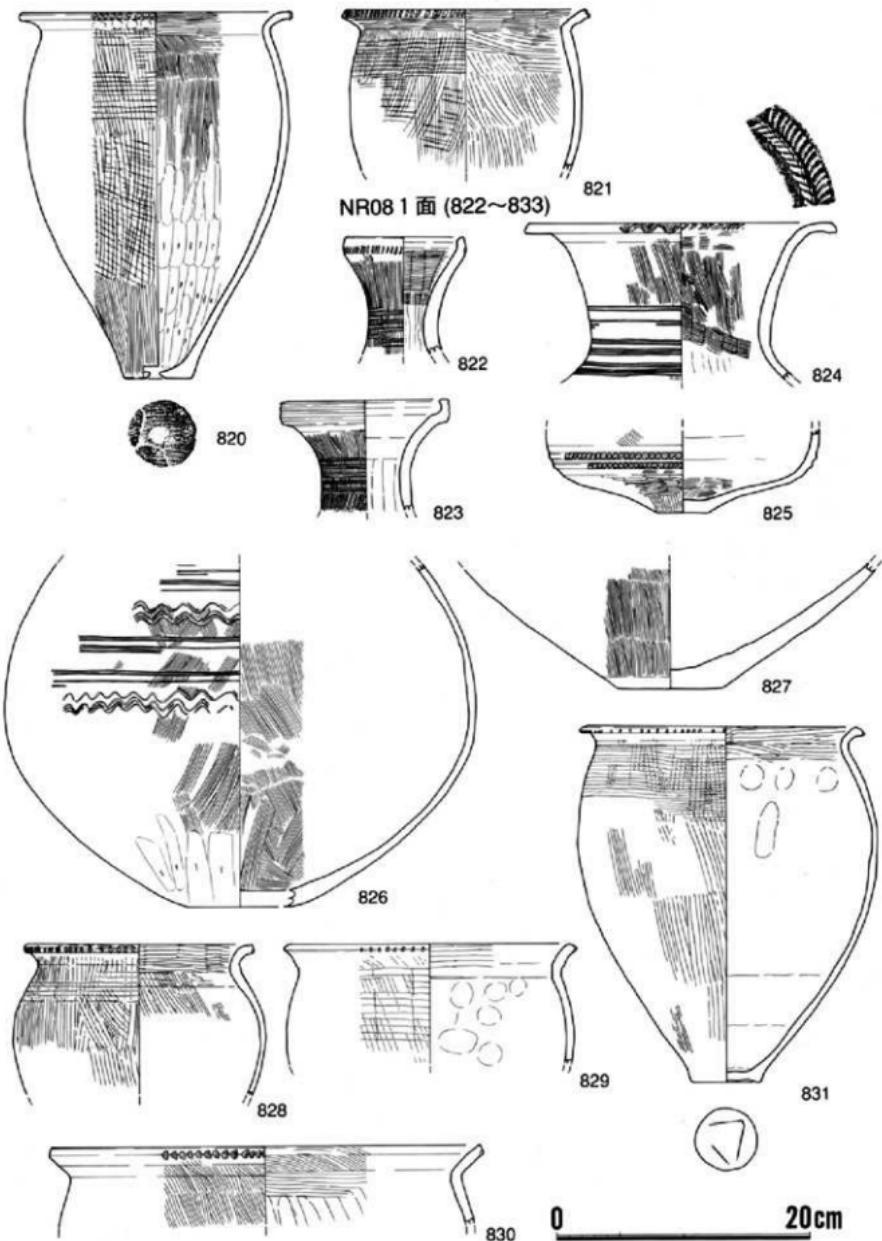
第48図 弥生土器実測図34 (1:4)



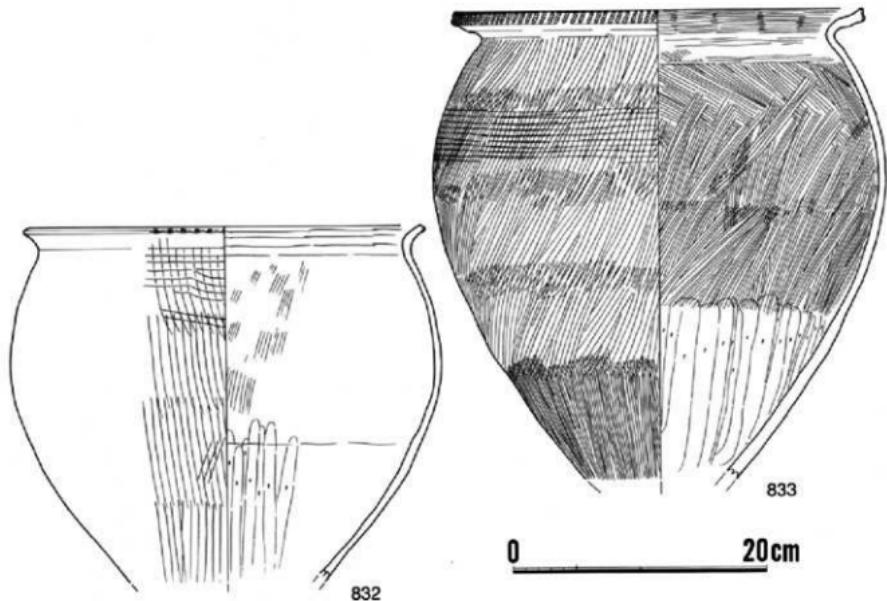
第49図 弥生土器実測図35(1:4)



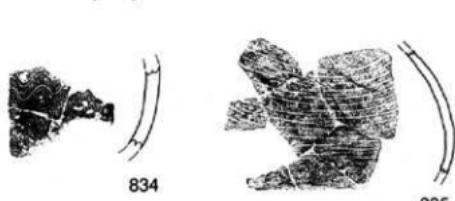
第50図 弥生土器実測図36 (1:4)



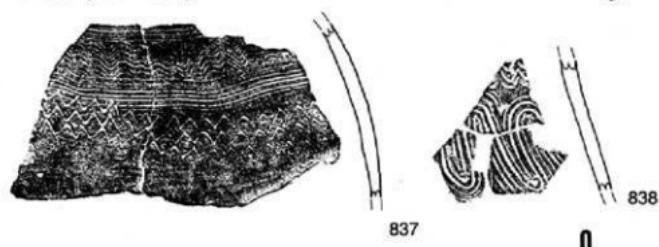
第51図 弥生土器実測図37 (1:4)



NR02 (834)



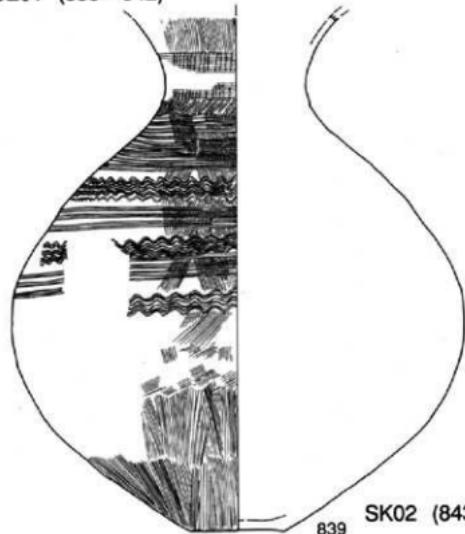
NR06 (837・838)



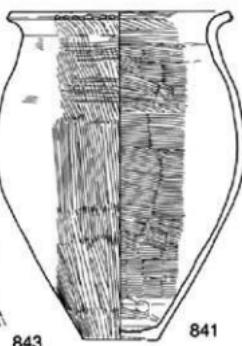
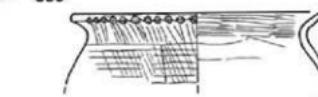
0 15cm

第52図 弥生土器実測図36 (832・833は1:4、834～838は1:3)

SE01 (839~842)

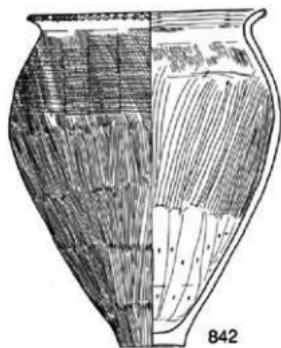


SK02 (843)

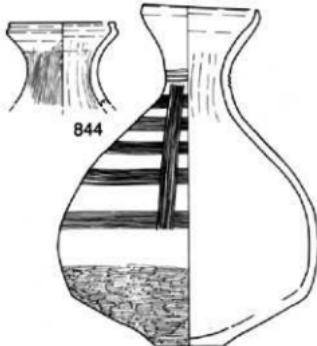


841

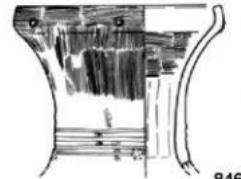
SK03 (844~850)



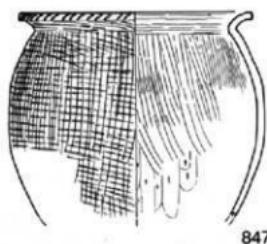
842



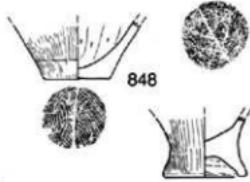
844



846



847

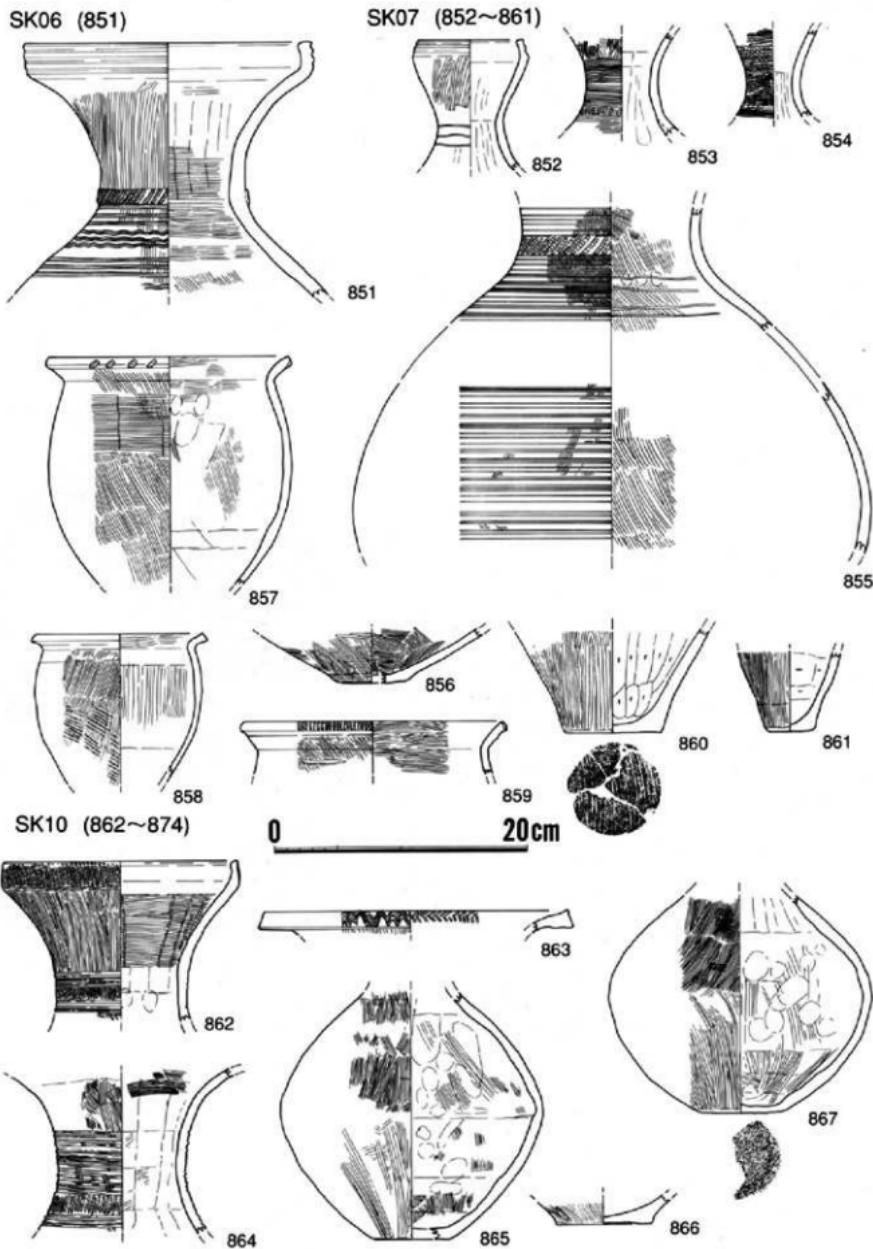


845

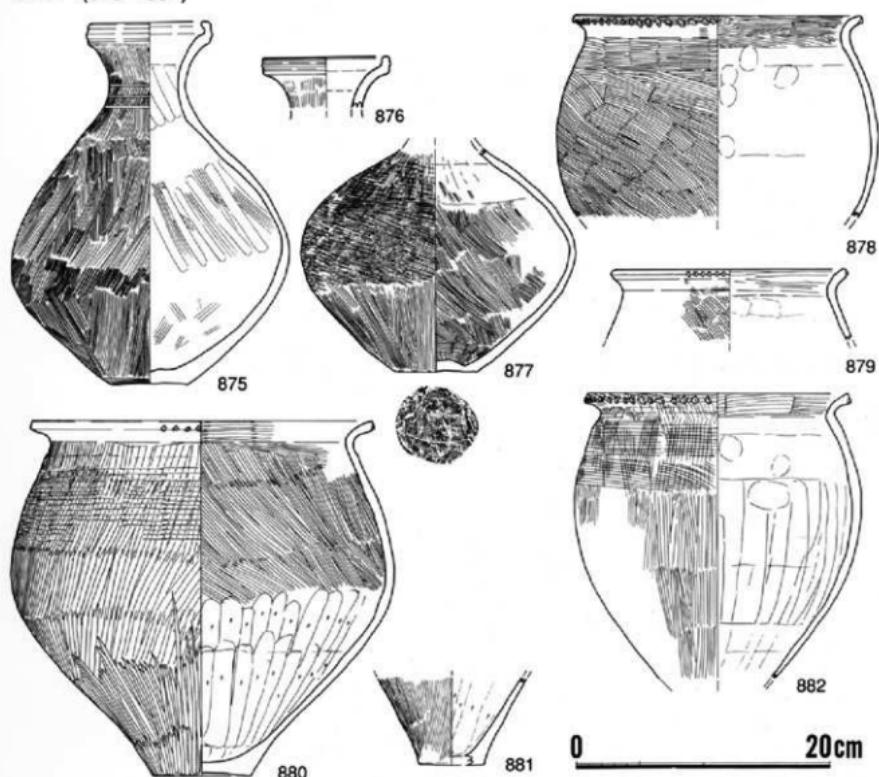
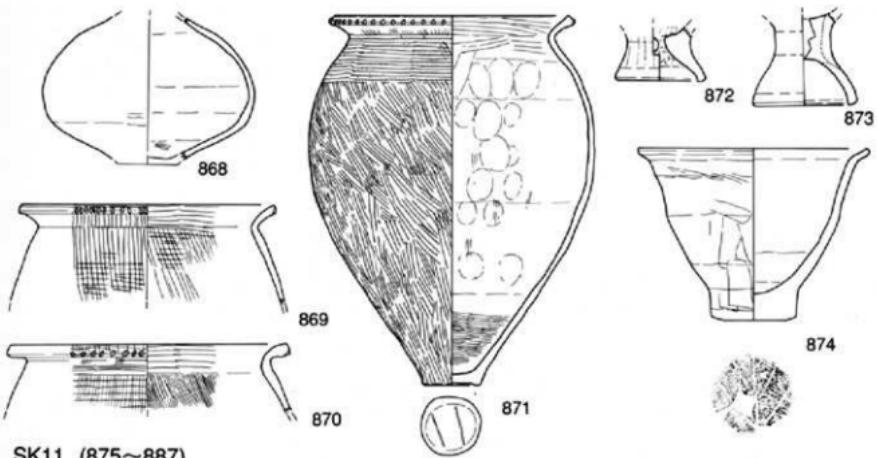
0

20cm

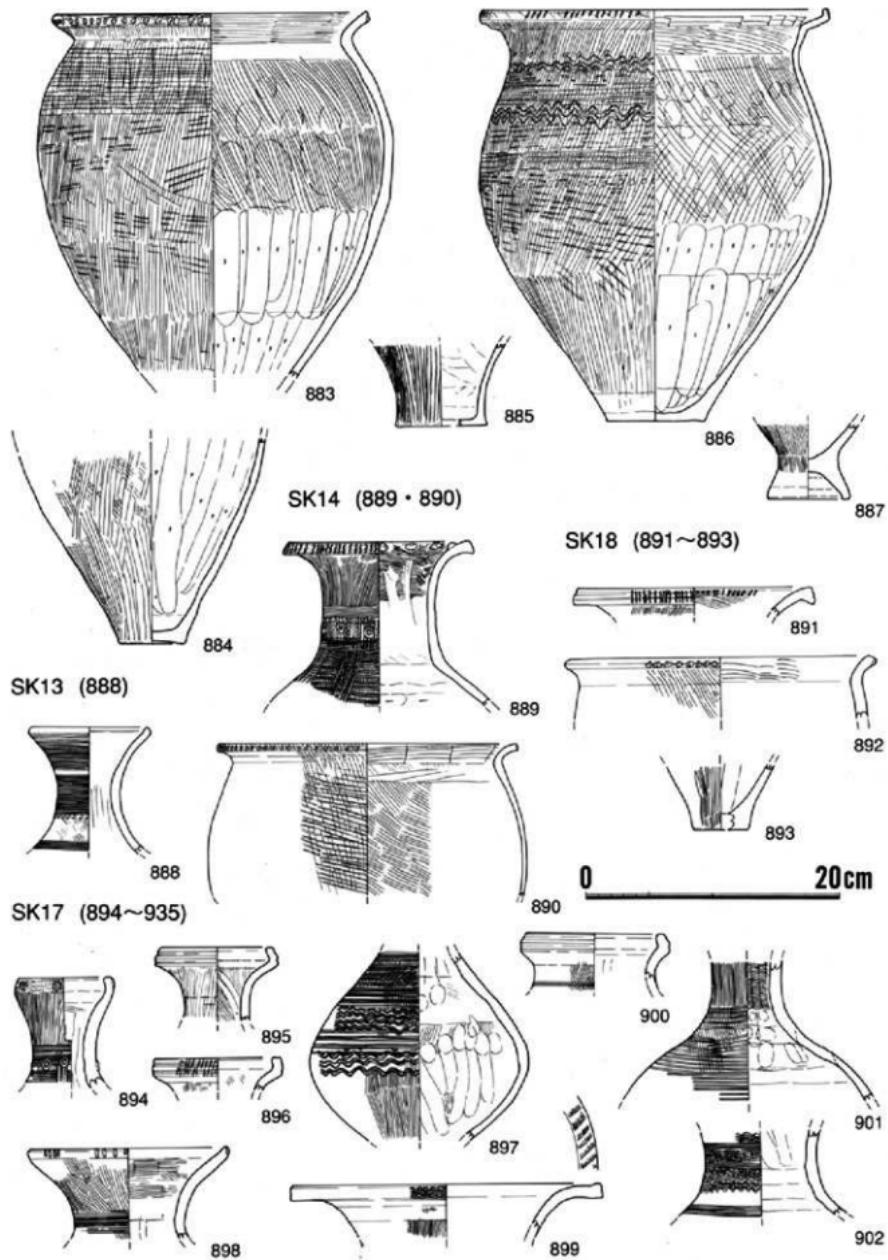
第53図 弥生土器実測図 39 (1 : 4)



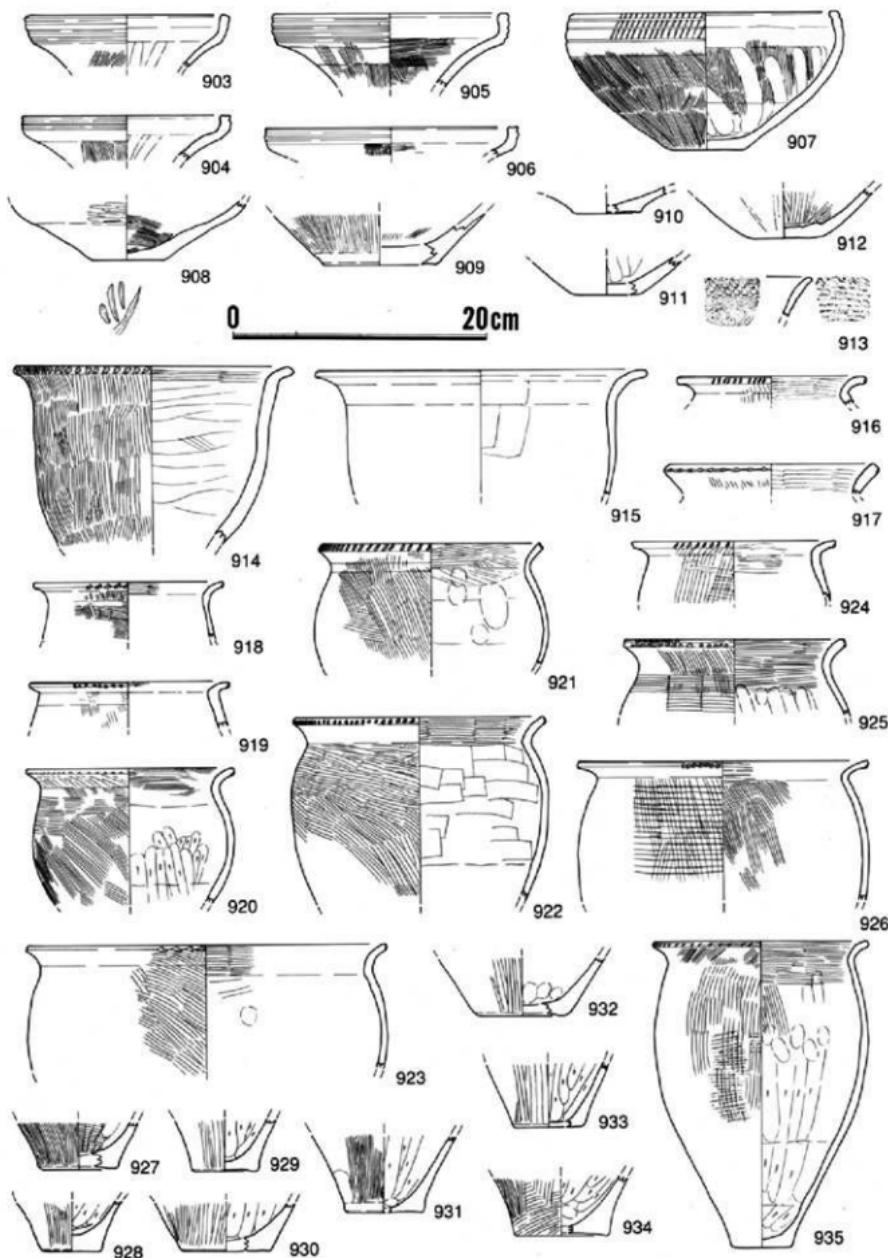
第54図 弥生土器実測図 40 (1:4)



第55図 弥生土器実測図41 (1:4)

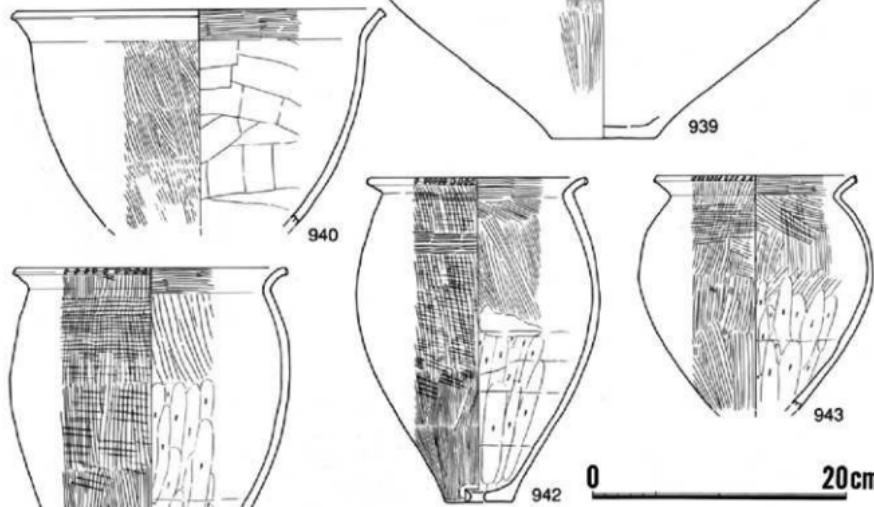
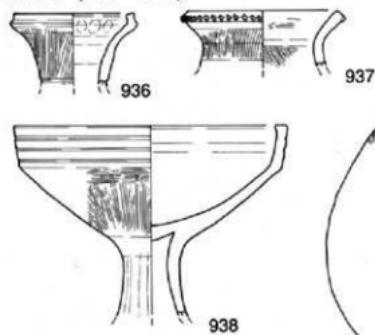


第56図 弥生土器実測図42 (1:4)



第57図 弥生土器実測図43(1:4)

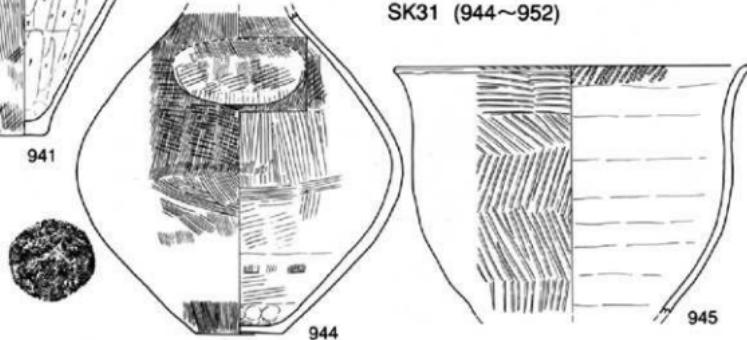
SK30 (936~943)



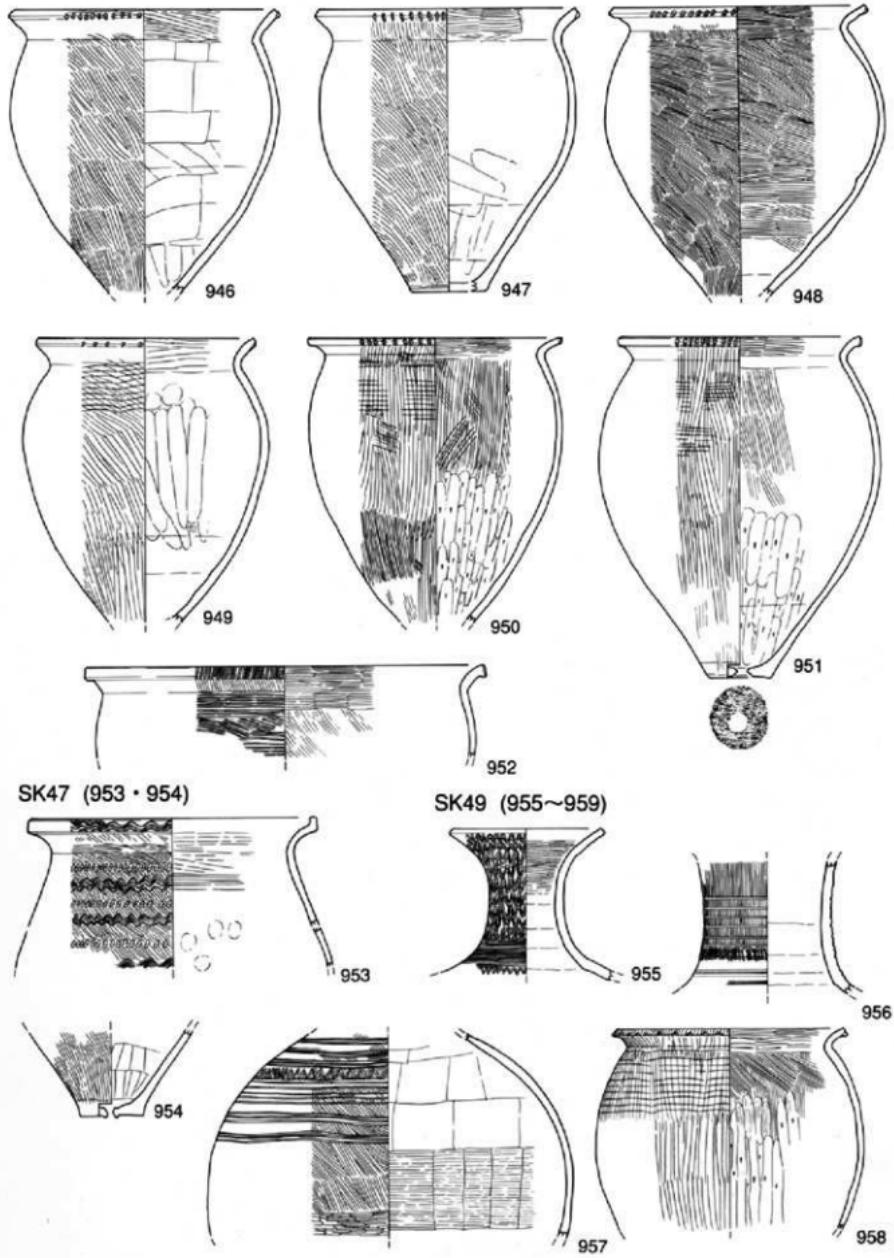
0

20cm

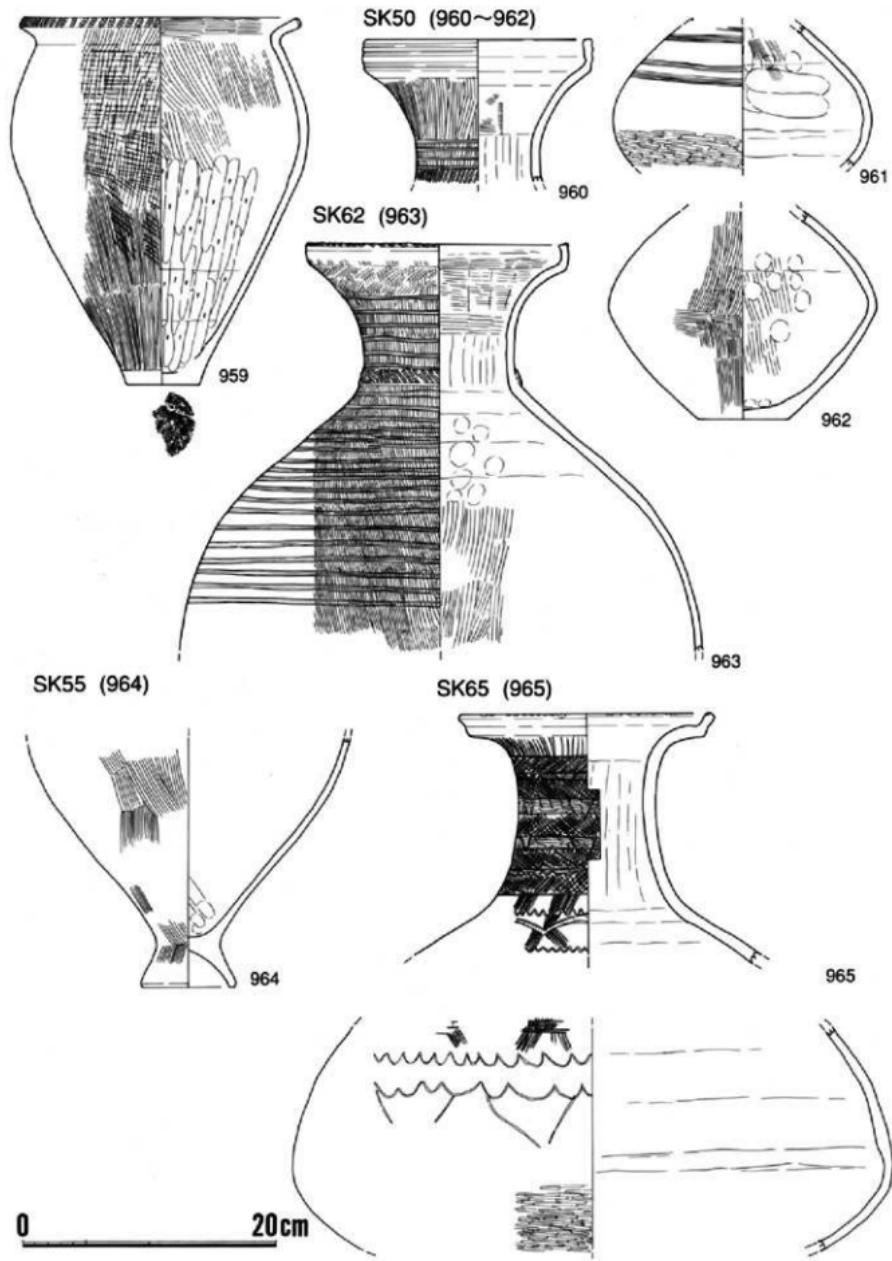
SK31 (944~952)



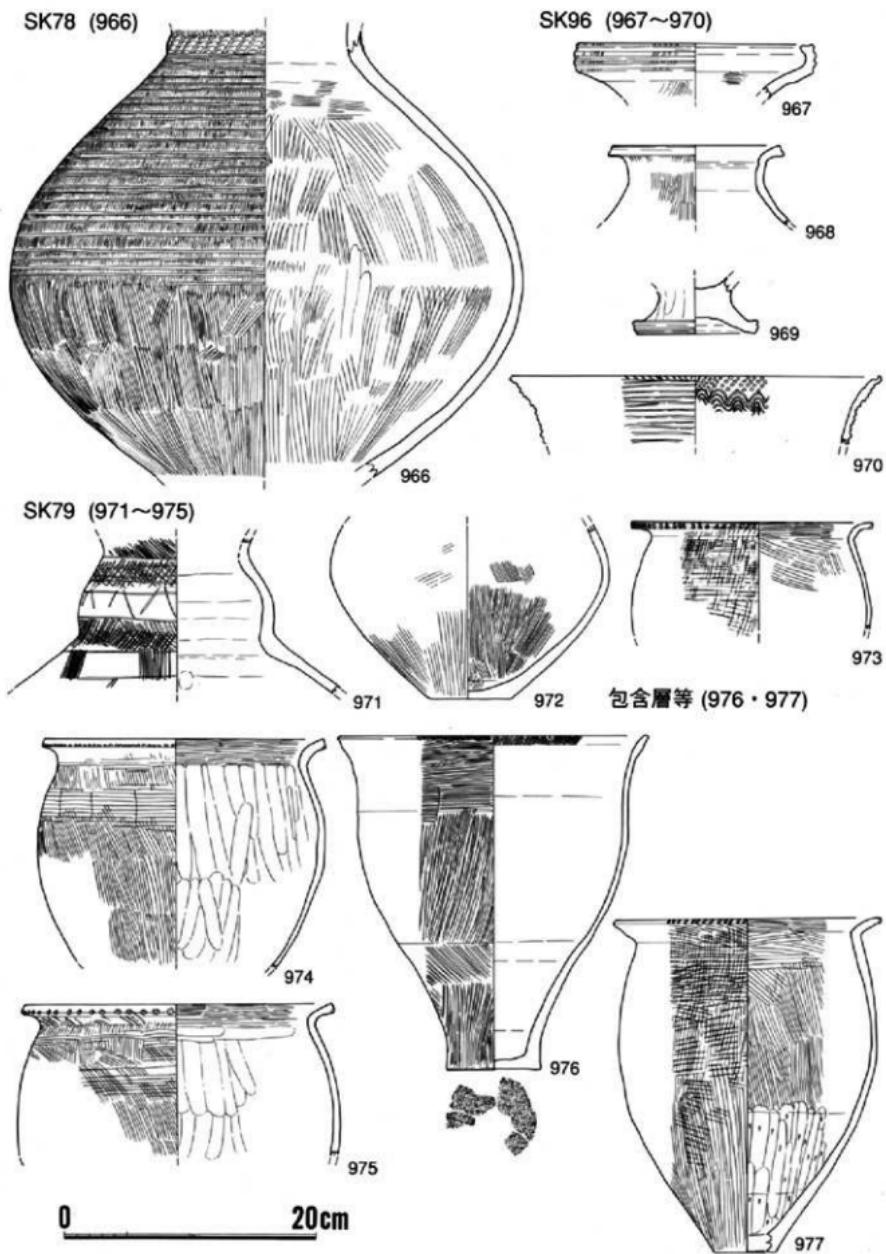
第58図 弥生土器実測図44 (1:4)



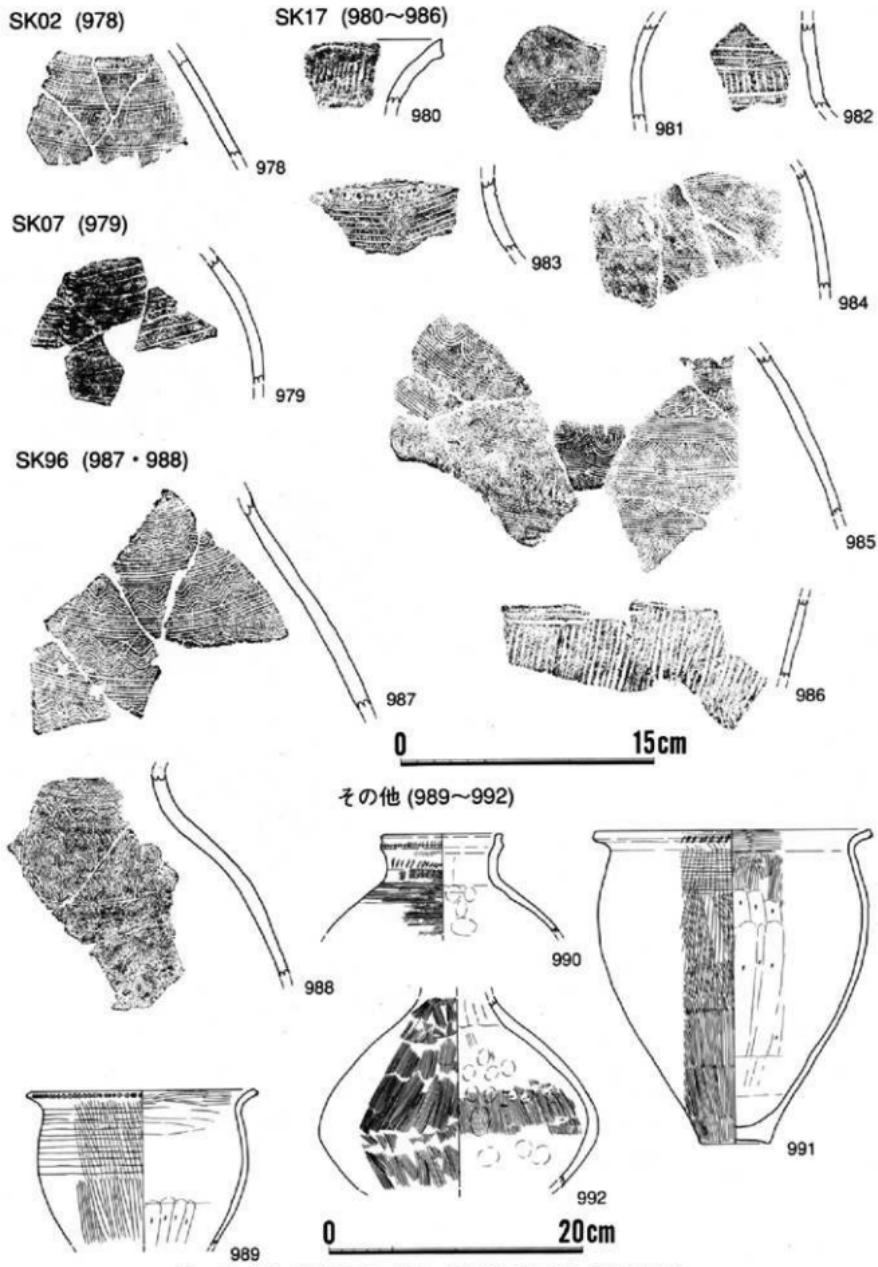
第59図 弥生土器実測図45 (1:4)



第60図 弥生土器実測図 46 (1:4)

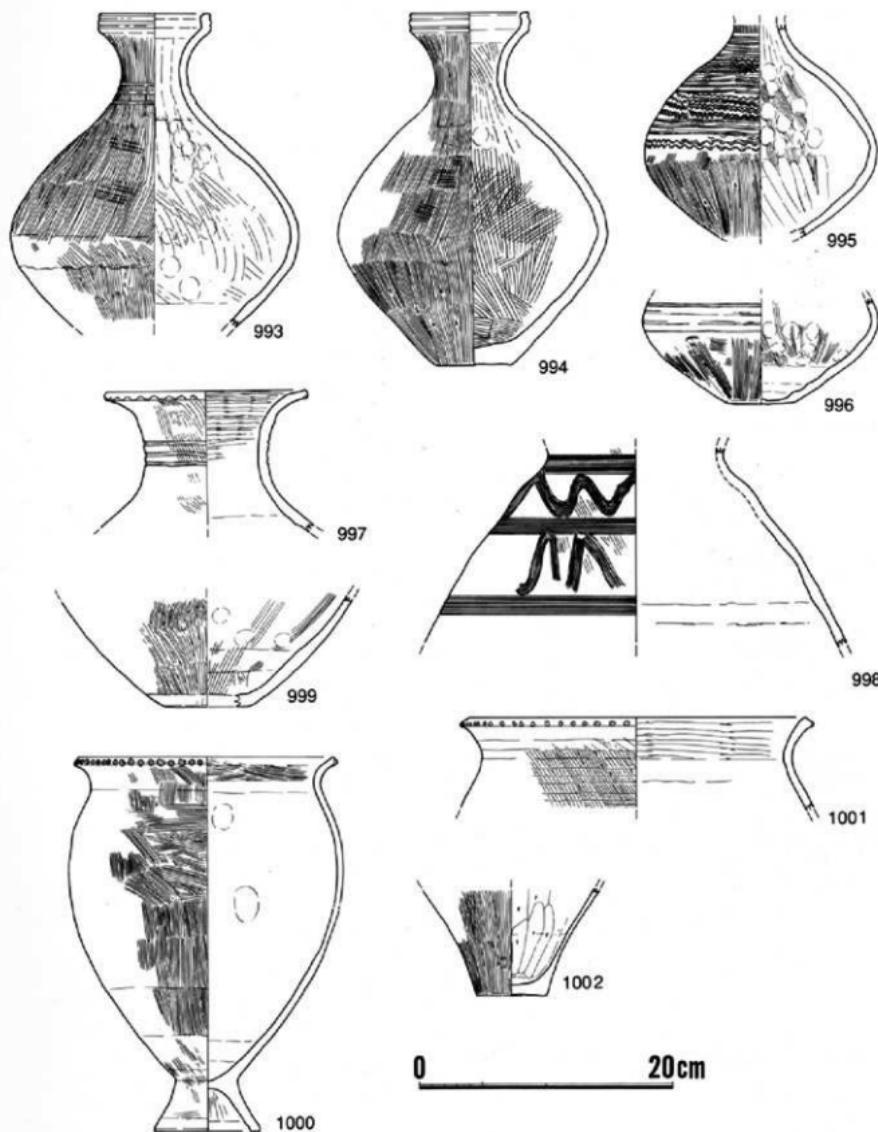


第61図 弥生土器実測図47 (1:4)



第62図 弥生土器実測図48 (978~988は1:3、989~992は1:4)

SU01 (993~1002)



第63図 弥生土器実測図49 (1:4)

## 6. 土製品類・古代の遺物

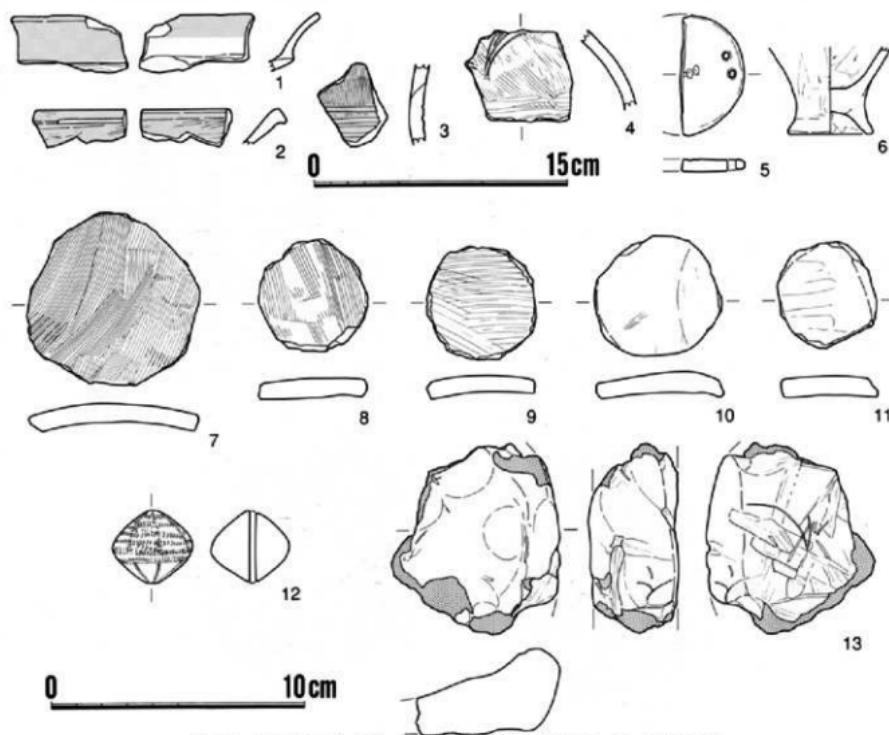
八木佳素実

### (1) その他の弥生土器・土製品 (第1図・第2図)

1~3は赤彩のある土器である。1は高杯の口縁部もしくは二重口縁壺の口縁部か。棱をなして屈曲した後大きく外反し、屈曲部以上に赤彩を施す。内面の赤彩は磨滅のため一部に残るのみで明確な

範囲は不明である。2は器台の口縁部。外面口縁下をナデ押え端部を僅かに突出させる。内外面とも磨きの上、赤彩を施す。3は長頸壺の頸部である。内外面とも赤味を帯びる。

4は線刻の施された壺の胴部である。線刻は2本1組の施文具により、1点を起点として円弧を重



第1図 その他の弥生土器・土製品実測図 (1~3は1:3、7~13は1:2)

ねて描いている。

5は蓋である。扁平な円形で、2個1組の孔がある。孔は本来2箇所にあったものと推定される。上面は平滑であるが、裏面はやや黒っぽく変色し、細かい剥離痕が多い。また裏面端部が孔の周囲以外の部分で若干磨滅している。

6は壺形の土器の脚部である。内外面とも下から上の縦方向の削りを施し、脚部は貼り付け後外側をナデ、内側を削り後ナデ押えし、端部を面取りする。全体に火を受けて黒っぽく変色し、外面脚部より上に煤が付着する。

7~11は加工円盤である。原材は7~9が壺、10、11が蓋で、いずれも体部を利用、端部を打ち欠いて丸く整形している。8、10、11は端部の一部が磨滅する。大きさは7が6.9cm、8~11は4.5cm前後

に集中している。

12は土鍤または土製の玉か。算盤珠形で径2.5mmの孔を通す。貝殻または櫛状工具による刺突文が施される。最大径部分で縦線方向に2条巡らせた後、その上下を経線方向の刻み各7条で区分し、その間を上半分のみ縦線方向の刻み4~5条で埋めている。表面は全体に磨滅している。

13は火を受けた土塊で、鉄物の外型の可能性がある。割れて小片となっているため全体の形状は不明であるが、板状に成形されたものの端部が残る。全体に火を受けて黒くなっている。胎土は粗く、5mm以下の砂礫・砂粒を多く含む。内面は手で押さえつけて凹められ、表面は比較的滑らかである。端部は面をなし、表面は荒れている。外面は平坦であるが、不定方向に線状の凹みが多数付く。

回数	番号	遺構番号	調査区	出土遺構 位置	器形	色調	胎土	焼成	残存率	法量(cc)		社法の特徴	備考	登録番号
										日付	測高 底座			
1	1	93Ba	出土1	壺?	灰黄色	粗良	灰	13種 1/10	28.0	内面ナデ 外側ハナ目・ナデ	未彩	E-2001		
1	2	SK07	96D	壺台	灰黄色	粗良	粗良	13種 1/10	27.5	内面ナデ	未彩	E-2002		
1	3	93As	出土1	壺	黄褐色	粗	灰	13種 1/10	27.5	内面ナデ・ミガキ 外側ハナ目・ナデ	未彩	E-2003		
1	4	NB06	96D	NR01	壺	褐褐色	粗	やや軟	6.7	内面ハナ目・ナデ 外側ハナ目・ミガキ	研削	E-2004		
1	5	93Ba	SK01	蓋	灰黄色	粗	灰	13種 1/10	6.7	0.75	ナデ	E-2005		
1	6	93Ba	SK04	堅壁土器	暗褐色	粗	灰	底座 1/10	5.0	内面ケメリ 外側ケメリ 内面ナデ・ナデ		E-2006		
1	7	SK57	93D	SK04 加工円盤	灰褐色	粗	やや軟	6.9	0.7	内面ナデ・中エ・ハケ目 外側ハナ目	彫	E-2007		
1	8	93Ba	出土1	加工円盤	褐色	粗	灰	4.4	0.75	内面ケメリ 外側ハナ目	彫	E-2008		
1	9	93D	出土1	加工円盤	暗褐色	粗	やや軟	4.6	0.65	内面ナデ	彫	E-2009		
1	10	SK22	94As	SK23 加工円盤	暗灰褐色	粗	灰	5.0	0.85	内面ケメリ・ミガキ 外側ハナ目	彫	E-2010		
1	11	SK53	94Cb	SK15 加工円盤	灰褐色	粗	やや軟	4.2	0.75	内面ミガキ 外側ミガキ	彫	E-2011		
1	12	93As	SK12S	土鍤?	灰黄色	粗良	灰	定形	3.1	2.85	ナデ・齊突紋		E-2012	
1	13	SK67	95Ca	SK05 算盤珠	黑褐色	粗	やや軟			内面ミガキ・ナデ 外側ケメリ?		E-2013		

第1表 その他の弥生土器・土製品観察表

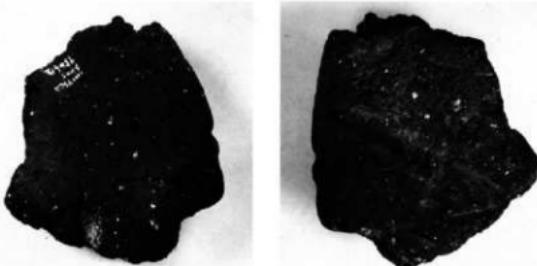


写真1 土製品(13)

凹みには端部が四角で浅いものと端部が丸く深いもの、巾1mm以下の細いものがあり、刺突痕もある。何らかの引き削り痕、または植物の茎のようなものの張り付き痕か。

第2図1はパレススタイル壺の口縁部で93C区SK38より単独で出土した。口縁内面文様帶は強く内溝し、その内側端は一段の浅い段をなす。文様帶には貝殻による4列の羽状刺突と、段頂部に円形刺突文を施す。拡張口縁部には5条の擬凹線文を施し、4本1単位の棒状浮文が4箇所につく。赤彩は棒状浮文を除く口縁拡張部及び内面口頭部、外面頭部段部に施す。時期は遅間I式期後半（註1）。

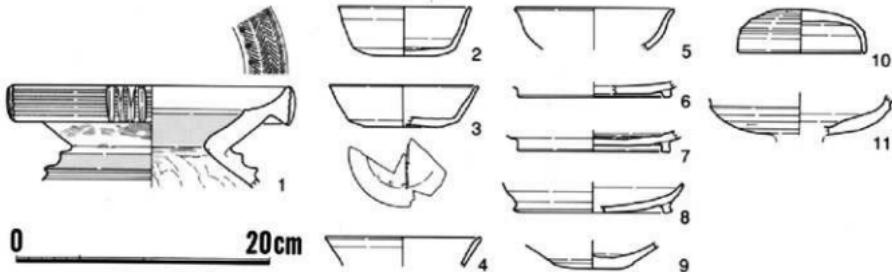
## (2) 古代の遺物（第2図）

96C区の自然流路上層を中心に若干の須恵器片が出土している。いずれも後世の遺構及び包含層からの散発的な出土である。器種は杯身と杯蓋がほとんどで、他に高杯や壺が若干認められる。

2~8は杯身である。2、3は無高台の杯身で、3は外底面にヘラ記号及び4箇所の刺突痕がある。6、7、8は断面台形の高台の付く杯身。9は杯身または瓶か。10は杯蓋、11は高杯。時期は8、10、11が7世紀後半、2、3が8世紀後半（註2）。

註1) 赤坂次郎編 1990 「遅間遺跡」 財團法人愛知県埋蔵文化財センター

註2) 斎藤孝正他編 1995 「須恵器集成図録第三巻」 雄山閣出版



第2図 その他の弥生土器・須恵器実測図(1:4)

回数	番号	遺構番号	調査区	出土遺構	器種	器形	色調	胎土	焼成	既存本	寸法 mm	寸法 mm	寸法 mm	法量 ㎤	柱脚の特徴	参考	登録番号
1	1	SX183	93Ca	SK38	土器部	壺	白黄色	胎良	乾	13.8 910	21.7				内面口縁部羽状突起 内面底面刺突痕付後腹 内面底面刺突痕付後腹	赤坂	E-2014
1	2	NK07	96B	NB02	須恵器	杯身	暗灰色	やや粗	硬	13.8 910	左 10.4	3.9	4.6		外表面クロナデ 底面クロナデ 底面ウツブケズリ ロクロナデ		E-2015
1	3	SX178	93Ca	SK14	須恵器	杯身	暗灰色	密	硬	13.8 910	左 11.6	3.2	5.8		外表面クロナデ 底面ウツブケズリ ロクロナデ	底部へラ記号	E-2016
1	4	NB02	96B	NB01	須恵器	杯身	暗灰色	密	硬	21.0 910	右 12.2				外表面クロナデ		E-2017
1	5	94Aa	検出	須恵器	杯身	暗灰色	やや粗	硬	21.0 910	右 12.4				外表面クロナデ		E-2018	
1	6	NK07	93Bb	NK01	須恵器	杯身	灰	粗	やや軟	底面 910	左			12.1	外表面クロナデ 底面ウツブケズリ 高台點付 ロクロナデ		E-2019
1	7	95Cb	NB03?	須恵器	杯身	暗灰色	密	硬	既存 2/10	右	1.7	11.7	1.7	内面ロクロナデ 底面ロクロナデ ロクロナデ		E-2020	
1	8		94Aa	SK08	須恵器	杯身	暗褐色	やや粗	硬	既存 910	左			12.6	内面ロクロナデ 底面ロクロナデ 高台點付 ロクロナデ		E-2021
1	9	NK07	96B	NB02	須恵器	杯身?	灰	粗	硬	既存 910	右			6.4	内面ロクロナデ 底面ロクロナデ ロクロナデ		E-2022
1	10	NK03	96C	NB02	須恵器	杯身	暗灰色	やや粗	やや軟	13.8 910	左 9.9	3.4		外表面ロクロナデ 内面ロクロナデ 回転 ヘラケズリ		E-2023	
1	11		95Cc	検出	須恵器	高杯	灰	やや粗	やや軟	既存 910	右				内面ロクロナデ 内面ロクロナデ ヘラケズリ		E-2024

第2表 その他の弥生土器・須恵器観察表

## 7. 石製品

石黒立人・原田幹

### (1) 解説 (第1表～第6表)

#### a. 磨製石器 (第2図～第5図)

石鎌 78・79のみが有茎である。73～77は打製石鎌の凸基無茎タイプに近似している。断面形では、68・74・78のように菱形で中央に鏽をつくるものと、平坦なものとに大きく区分できる。前者は石剣断面に類似している。石剣製作に関連するのか、あるいは単に石剣切先片を利用したものなのか。後者とすれば、石剣数が増加することになる。はたしてどちらか。

80～85は未製品である。80・74・85は周縁に面があり、刃部を研ぎ出す前の状態である。

81は研磨面がまったく認められない。周縁を押圧剥離ではなく両極加撃によって成形しており、縁辺はやや潰れている。凹線紋土器期での細分時期が明確でないために、果してこのことが剥離技法の衰退に対応したものかどうかは断定できないが、時期的には無関係とは言えない。今後、磨製石鎌の普及ではなく、その製作技術上の変化に注意する必要がある。

石剣 86は両面とも細かな研磨が加えられて面を作っているために、その分だけ鏽が弱くなっている。刃部研ぎ直しを繰り返した結果、身幅が狭くなったことによるのであろう。87は施溝分割されている。石底丁片かもしれない。88は目釘穴があることから基部片と考えられるものである。右面は研磨面が剥がれていますが、目釘穴の周囲は

摩耗している。若干の整形が施されてそのまま使用されたようだ。

両刃石斧 大中小がある。43は欠損しているが、完全品であれば重量はゆうに1キログラムを超すであろう。刃部両面には線条痕が顕著に認められ、前側面側を欠損している。身部は研磨されておらず、敲打痕を残している。しかし、ぬめりのような摩耗が認められる。装着に伴うものであろう。44は破損品の再生であり、側面觀がややアンバランスである。刃部は身と平行せず、図示した角度で傾斜している。圓化平面が左正面となる。身部上半部は摩耗が顕著である。45は小形品であるが断面形は44に近似している。風化が著しいので、これが本来のサイズであったのかどうかはわからない。敲打痕はほとんど認められないで丁寧に研磨された部類に属するものといえる。46も圓化平面が左正面であり、前側面側に偏った刃部の後退が認められる。47は刃縁がつぶれてわずかに平坦面を形成している。

#### 片刃石斧

偏平片刃 48は刃部の断面形が偏っていることから片刃に含めたが、偏平両刃（複刃）の可能性を否定するものではない。両刃石斧（剥片）からの再生品である。

偏平片刃には大中小がある。概して長方形の比重が高いようだ。そして、成形時の剥離面を研磨で十分に消しきっていないものが多い。57は石底丁からの再生品で、未貫通の穿孔がある。58は両

主面に浅い溝が施され、この部分で加熱して切断されている。このような施溝分割手法は朝日遺跡にも類例がある。60・61は大形品である。断面形は凸レンズ状に近く、身も厚い。整形時の敲打痕が一部に認められる。両刃石斧の破損品から再生されたものである可能性が高い。

柱状片刃 62は平面形は偏平片刃との中间形のようだが、刃部のサイズが柱状片刃に近似している。63は刃部に大きな剥離が認められる。使用時の衝撃によるとすれば、骨角器の製作（たとえば切断）に関連する可能性もある。66の断面形は隅円長方形で整っているが、67は後正面が突出しており安定さに欠ける。

未製品 89～92のように研磨面または敲打面を一部に残し、破損品からの再生が試みられたものと、97～100のように全く破損品の痕跡を残さないものがある。

89は両面に研磨痕、側縁にも面が形成されている。サイズは磨製石錐に近いが、身の厚みから石斧未製品とした。90は両刃石斧刃部付近の破片、91は片刃石斧の破片、92は両刃石斧の破片である。いずれも片刃石斧への再生途中にあったものと思われるが、採取可能な剥片のサイズからみて、それ以外の製作は不可能である。

97は左平面と上端に自然面が残っている。亞角礫から剥ぎ取られた剥片を素材として成形途中に廃棄されたものである。98は正面側の一部剥離上に敲打が加えられている。刃部成形後に破損したものである。破損部の縁には細かな敲打が認められる。敲打具に転用か。99は基部片で基端面は自然面である。右面剥離上に敲打が加えられている。破損部縁に細かな敲打が認められる。これも転用か。100には転用の痕跡は認められない。

敲打具 未製品としての形状が窺えないものを敲打具とした。93は両刃石斧の破損品で、破断面に敲打痕が集中している。94は未製品の破損品を

敲打具に転用したものである。折損部の縁もかなり潰れている。

95・96は通常石斧製作跡で出土することが多い敲打具の典型である。95は平坦面がまだ広く石斧時のぬめっとした摩耗痕を残している。平面図左側面には研磨痕があり、やや偏平な両刃石斧であったことが窺われる。96はかなり使用が進んで多面化しているが、側面図上下に石斧時の平坦面をわずかに残している。

#### b. 打製石器（第1図・第5図・第7図）

石錐 1～4、12、16、23がチャート製、15がサヌカイト製である以外は下呂石製である。基部形態は平基および凸基が主体であり、明確な凹基は認められない。身部の形態は五角形錐の系譜が8・9に窺えるのみである。10は逆刺が側方に突き出るもので、該期の特徴である。ほとんどが先端を欠損している。28のような桶状剥離が対象物との衝突時の衝撃によるものであれば、他のものにも未使用品は無いということになる。

30・31は石錐をドリルに転用したものである。線条痕が観察されることから、土器および土器片の穿孔に用いられたものであろう。

32～36は未製品と考えられるものである。製作途中の破損で廃棄されたのではなく、単に完成に至らなかったものようだ。あるいは、別器種であるかもしれない。

石錐 指つまみ型ではなく、いずれも軸装着型である。使用痕は顕著ではない。40は研磨によって整形されている。

石小刀 41はサヌカイト製で、搬入品であろう。該期での類例としては珍しい。

中形尖頭器 42はチャート製であり、類例は東海市鳥帽子遺跡にある。漁具か。

スクレーパー 101は安山岩製。上部の平坦面は躍面。102は磨製石斧素材（ハイアロクラスターイ

ト) 片を利用。下部のエッジには鈍い摩耗痕が認められる。骨角の切削用か。

**打製石斧** 先端を折損している。残存部分の側縁は中央がくびれ、敲打によって面が形成されている。磨製石斧未製品や石鎌の可能性は低いと考える。

**粗製剥片石器** 円礫から打ち剥がして得られた剥片を未加工あるいは簡単な調整を施しただけの簡易な石器である。剥片の鋭い縁刃を刃部としている。

119は砂岩製で、自然面と剥離面から成る。実測図では、刃部と推定される部位を下辺とし、自然面を左側、剥離面を右側に図示している。刃部と直交する主軸の長さは9.8cm、幅の最大値は9.9cm、厚さは2.2cm、重さ245gを測り、平面形は円形に近い。刃部と反対側の背部に調整加工のための剥離を施している。自然面左側にもわずかに剥離を施しており、小さな抉り状になっている。刃部角は平均で、42度。刃部剥離面側には、不明瞭ながら連続する剥離がみられる。

120は結晶片岩製。自然面側からみて右半部を欠損し、現存する範囲で長さ6.8cm、幅8.0cm以上、厚さ2.1cm、重さ182g以上である。背部は平坦な面になっている。刃部角は34度で、明瞭な調整加工は施されていない。石材の性質上表面が剥落しやすく全体に摩滅しているが、刃縁のわずかな範囲に本来の表面が遺存しておりローを塗ったような光沢が観察される。(原田幹)

#### c. その他(第5図・第6図・第8図)

**石錐** 104は円錐に敲打による浅い溝がめぐっている。

**剥片・石核等** ほとんどが下呂石である。そのほかの石材はきわめてわずかであるとともに、石器製作工程を構成しないことから、有意味なのは下呂石のみである。105~109は同一堅穴出土であ

る。107~109には対応する縁刃に剥離や潰れが集中しており、両極打撃が加えられたことを示している。110~112も両極打撃の認められる資料である。

114・115は石核である。114は左面は打点がほぼ1ヶ所に集中しているが、右面では乱雑に転移している。とても良好な剥片が採れるところではないだろう。115も同様である。

**叩き石** 棒状の河原砾を利用していている。116・117は上下両端に敲打痕が集中している。118は、上端には他と同様の敲打痕が認められるが、側面後縁には溝の並列する敲打痕、平坦面にはあばた状の敲打痕が認められる。溝の並列する敲打痕は108~113など両極加撃が認められる剥片に間連するものであろう。またあばた状の敲打痕は凹石の初期段階の特徴であり、剥片剥離に伴うものであろうか。

**砾石** 121~124は研ぎ面に断面丸底の溝のある有溝砾石で、121はほとんどの面が溝になるもの、122~124は溝が部分的にあるものである。122の溝には幅1mm前後の細溝と幅5mm~10mmの太溝がある。132~134は研ぎ面のみの無溝砾石である。122・132は凝灰岩製、121・123・124・133・134は凝灰質砂岩製。他には砂岩製のものがある。砂岩製のものには、無溝砾石が12個(17個中)、有溝砾石が5個(29個中)ある。

**炉石・炉縁石** 129は偏平円形の河原砾を利用してした炉石で、濃飛流紋岩製。被熱痕があり、上面となるA面中央には径6.5cmの加熱痕跡の抜けた部分があり、吹きこぼれ痕が残る。下面のB面には、灰が付着している。130は炉縁石で、被熱による痕跡から上面と下面が分かる。濃飛流紋岩製。

**管玉** 131は管玉で、重さ0.1gである。溶結凝灰岩製。

## (2) 二、三のコメント

### a.はじめに

一色青海遺跡にかぎらず尾張平野南西地区に位置するほとんどの遺跡において石器素材の定住地近辺での入手は不可能である。たかが叩き石1点といえどもある。つまり、石器の使用はその当初において基本的に制約されているといわなければならない。まして石器生産にいたればなおさらである。自家生産による自給は、当地域にあってはまったくの非現実的適応なのである。したがって、石器に関しては外部依存が基本であったと考えなければならない。

### b.生産と消費

ここで「生産」というのは、素材の入手に始まり一定の工程に基づいて生産されている石器に関する概念である。砥石のように、生産されるというより、石材が選択され使用されることによって「砥石」という形状になるもの、また叩石なども除外する。

一色青海遺跡で生産されている石器の品目には、  
a) 打製石錐、b) 磨製石錐、c) 磨製石斧がある。それぞれ、a: 石核・剥片・未製品および叩石、b: 未製品、c: 未製品・敲打具・調整剥片、が出土しており、一貫した作業が定住地内部で行われたことを示している。そして、個別の生産工房の所在が果たして分布状況に反映されているのかどうかは判断の分かれどころであろうが、基本的には特定の竪穴建物(群)がそうした場として認定される余地はある。以下でもう少し詳しく検討してみよう。

a) 打製石錐は、下呂石・チャート・サスカイトなどに石材が分かれものの、直接の素材は下呂

石である。チャート・サスカイトは石核・剥片が不十分にしか出土しておらず、自家生産されていと強く言することは難しい。とすれば、なぜ下呂石製以外の石錐が存在するのかということになるが、一部は戦闘行為に関係した可能性を考慮しておきたい。

b) 磨製石錐は錐の有無によって2群に分かれること。磨製石剣の再利用に関係すると考えることもできるが、そうすると石剣数が著しく増えてしまう。ほとんどが先端を欠損しており使用されたものと考えられること、未製品が出土していること、大洞遺跡でも認められることなどを考え合わせれば、一方が搬入された(打ち込まれた)ものというより、製作手法上の差異としたほうが妥当性が高いと考える。

c) 磨製石斧は、ハイアロクラスタイル一辺倒の石材選択である。そして、素材には亜角礫(一次素材; 円礫は含まれていないようだ)と磨製石斧破損品(二次素材; ほとんどが両刃石斧片)の2種類が用いられて両刃石斧・片刃石斧が製作されている。前者は外部から持ち込まれたことは確実だが、後者が集落内部に限定される素材であるのかどうかは微妙である。朝日遺跡では一次素材が極めて少なかったと対照的に中小サイズの両刃および片刃石斧における再生品の存在が目立つことから二次素材を中心とするリミットサイクル的な生産過程を考えた。当遺跡でも同様に、典型的な敲打具が出土している以上、石斧製作が行われていたことは確実である。この点を認めた上で一色青海遺跡に關する問題は、二次素材が内部のサイクルによるのではなく外部から持ち込まれた可能性の有無、一次素材・二次素材の未製品が片刃石斧に集中する点の2つである。

まず第一の点について。なぜこの様に考えるのかというと、同時期の大洞遺跡では調整剥片が認められないにもかかわらず未製品が出土している

からである。破損品の出土は使用されていれば当然のことだが、調整剥片の有無が一貫した製作工程の存在と切り離せない以上、大渕遺跡における磨製石斧製作は未製品からの生産を想定するほかない。そして、これを一色青海遺跡に重ね合せでいうならば、一次素材を供給するどこかの遺跡（三重県大安町宮山遺跡は有力な候補地）、二次素材を供給する側として大渕遺跡、二次（および一次）素材を受給して成形・整形し未製品を供給する側として一色青海遺跡、未製品を受給する側として大渕遺跡という関係が成立するのである。もちろん、この関係が直接に認められるということではない。モデルとして組み立てられるということである。

次に第二点。片刃石斧への集中は、両刃石斧、とりわけ1kgを超す大サイズ両刃石斧の希薄化と対になる。大サイズが常時必要ならば隨時補給されると思われるが、どうもそういう事態は生じていない。遺跡資料によるかぎりは、大サイズは消滅傾向にある。すなわち、大サイズ石斧の伐採斧としての機能が中サイズ両刃石斧と鉄斧へ移行しつつあったということになる。この点は、状況証拠的にみれば、朝日遺跡の弥生Ⅲ期後葉に比定される逆茂木・櫛材の切断痕が鉄斧の使用を匂わせているように、特定の遺跡ではかなり進行していた可能性が高い。

このように考えると、かつてわたしがIV期には石器生産が孤立分散的になる（石器の生産・消費をめぐるネットワークが分解する）がゆえに磨製石斧生産が衰えたと推定したこと、すでに述べているように、けっして段階的に進行したのではなく、IV期後葉に、まさに急激に進行したということを改めて確認する必要がある。

### c. 石製工具の終末

弥生時代の工具として基本的なものには、打製

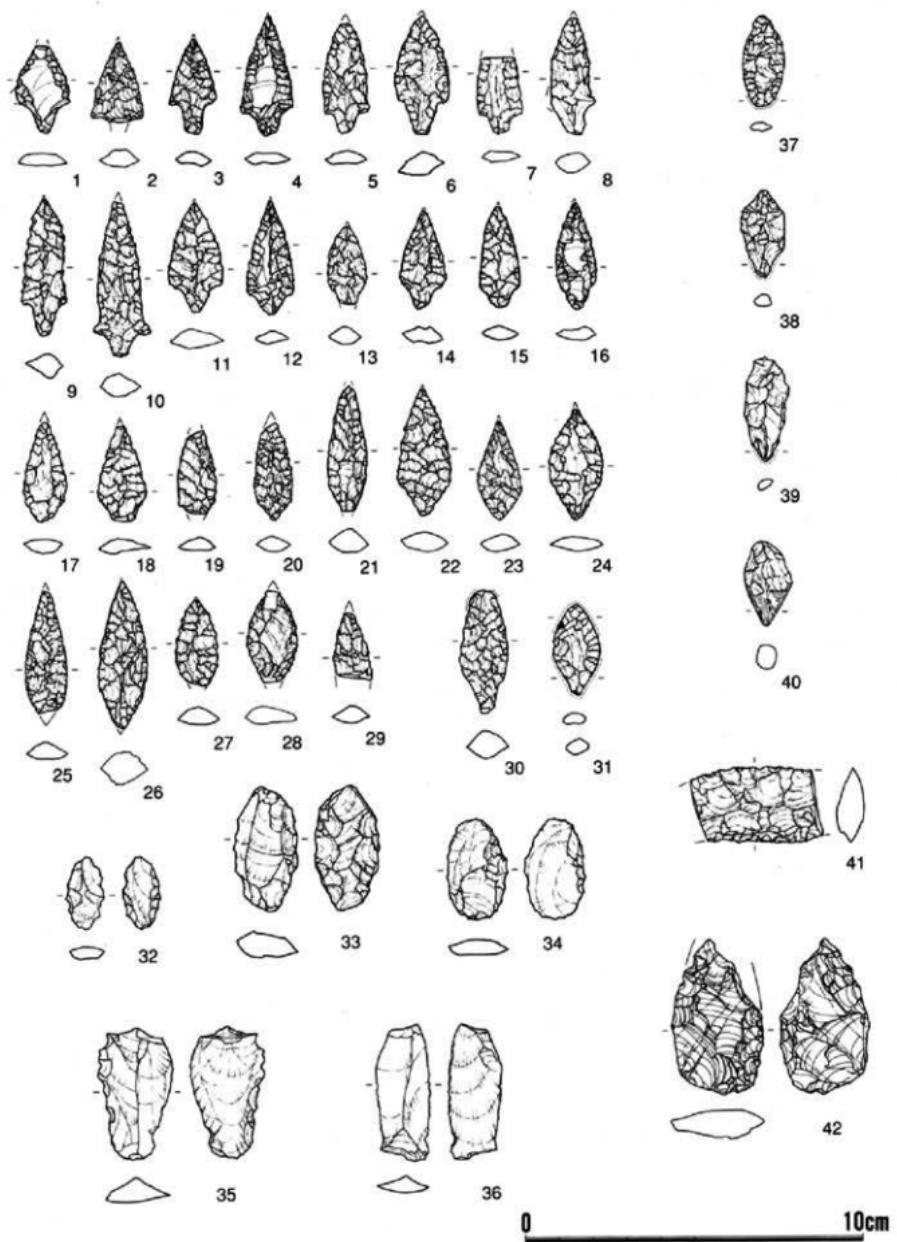
石器にスクレーパー・剥片があり、磨製石器に各種磨製石斧がある。前者は弥生時代以前からの長きにわたって連續として用いられてきたものである。いっぽう、後者の磨製石斧のうち片刃石斧類は弥生時代になってあらたに工具品目に加わったものである。しかし、それは弥生時代の工具が機能的に優れていたからではなく、木製農具の生産と切り離せないものとして、つまり物産複合体（文化）として移入されたがゆえに水田稲作の普及にともない広がったのである。

さて、弥生IV期にはスクレーパー・剥片類がほとんどの遺跡で消滅する。一色青海遺跡のスクレーパーの存在は意外なほどである。もうひとつ意外なものに打製石斧があるが、このような品目は大山扇状地および美濃地方の内陸部で散見されるものであり、そうした地域からもたらされたものである可能性は十分に考えられる。つまり、尾張平野部においてはこれらはIV期のはやいうちに消滅するのである。その消滅はおそらく鉄製ナイフの普及に関連するのであろう。そして遅れて鉄斧の普及（導入ではない）となる。その時期は、典型的には名古屋台地の開拓が急速に進むIV期後葉をあてることができるのである。IV期後葉には名古屋市瑞穂遺跡・見晴台遺跡をはじめ、三重県津市周辺の丘陵地帯から松坂市にかけての丘陵地帯、三河地方の一部丘陵部など、それまで人々が入り込まなかつた環境への広範な進出が、石鎚を除く主要な石器を欠くなかで進行るのである。この背景としては、ひとつには低地部定住地の環境が不安定化したこと、ふたつめに鉄斧の大幅な普及があつたからだと考えられる。

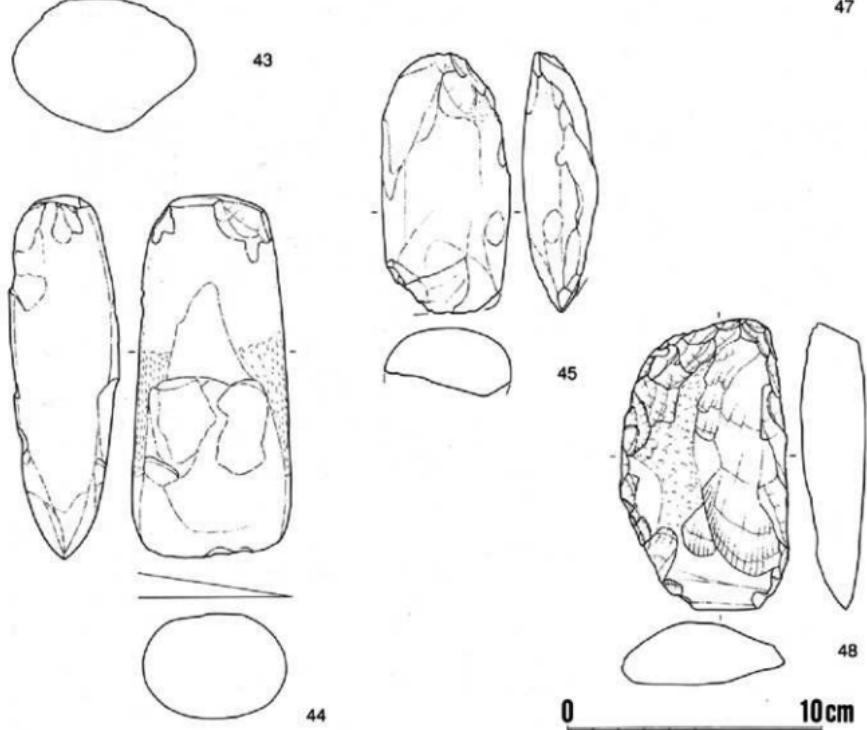
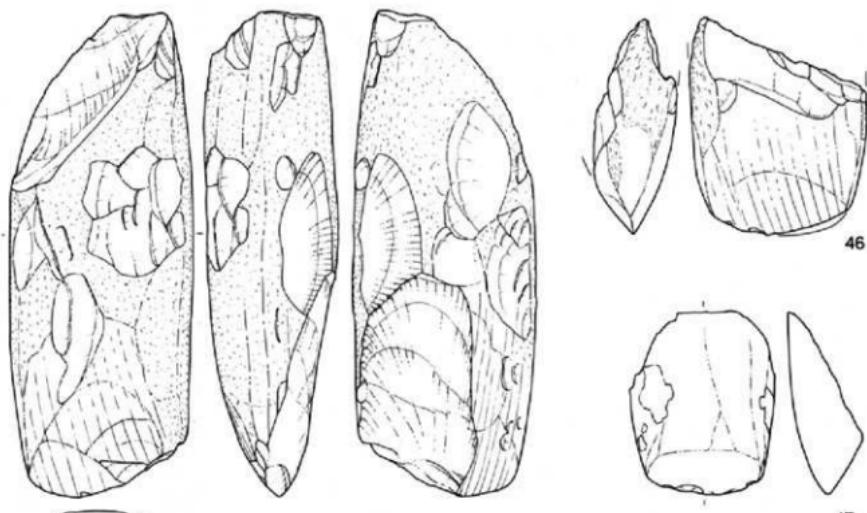
とはいって、鉄斧などの鉄製利器の生産および分配を掌握していたのがどこであろうが、石斧と同様に生産基盤を構成する品目としての社会性からみてそれが局限化される可能性は、政治との関係を抜きにしては考えられないであろう。

石器流通システムを中心とする交換システムの崩壊が既存の分業システムを不安定化させたことが鉄器依存を促進しかつ新しい交換システムの構築を結果したとしても、鉄器流通システムが石器流通システムを駆逐するというような排他性をそこに認めることはできない。当初両者は重合して二重システムになっていたわけであるから、鉄器は徐々に、そして急激に普及したのである。ただ、後戻りできない方向に当地域を踏み出させたそのことが、その変化を固定し強調したのである。

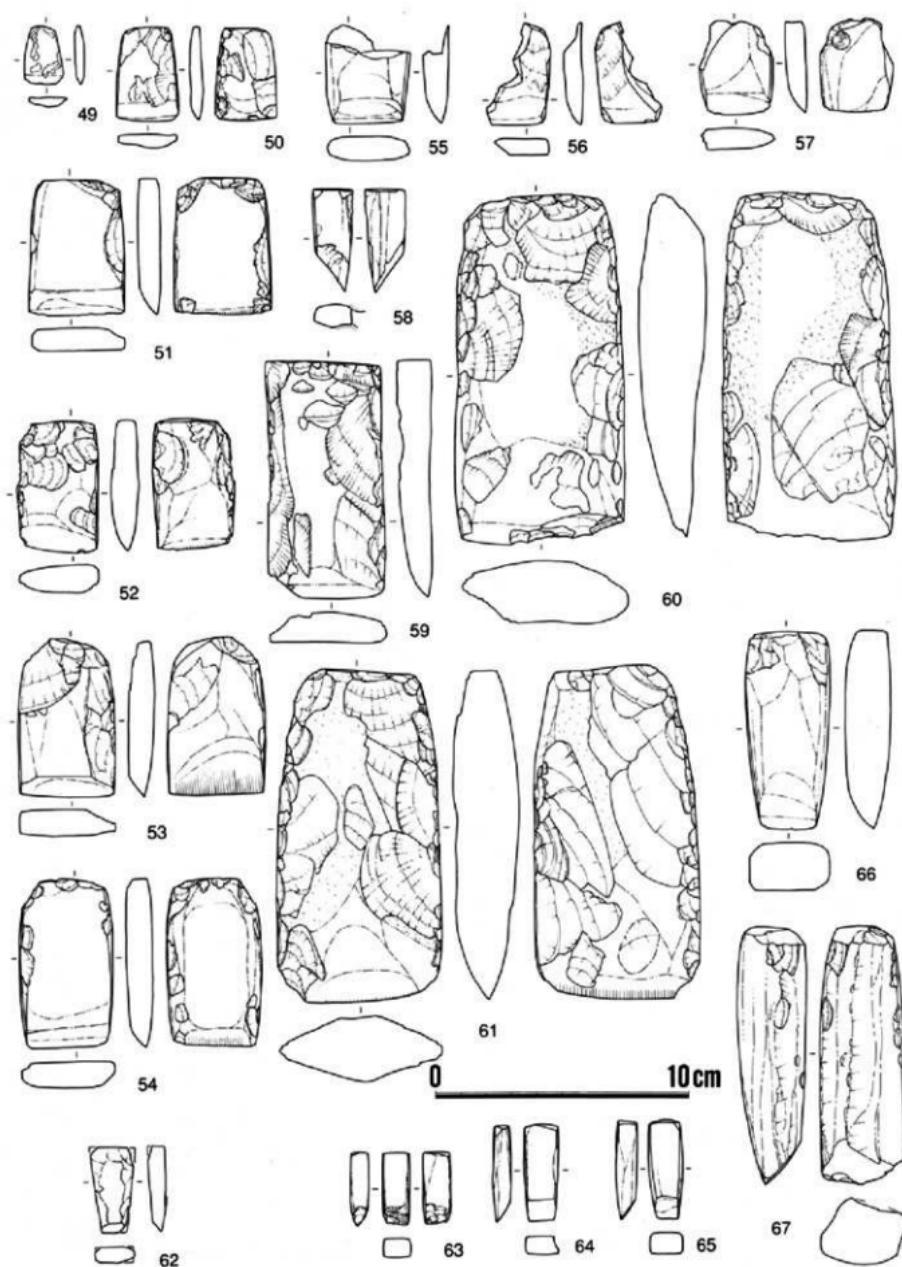
鉄器が社会を変えた直接的かつ重大な要因なのではなく、鉄器もその要素である全体的な環境変化が社会の構造的変化をもたらすほど重大であったということなのであろう。



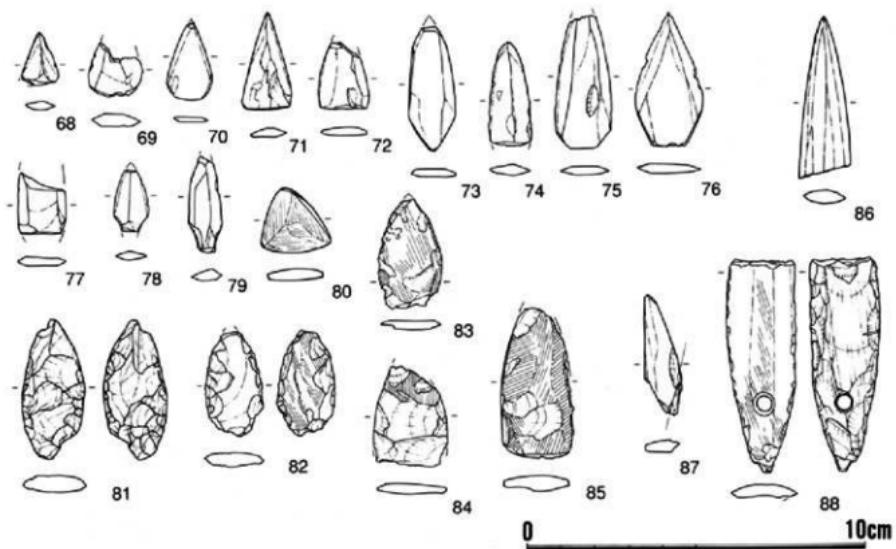
第1図 打製石鎌・打製石錐等実測図 (2:3)



第2図 磨製石斧実測図1(1:2)

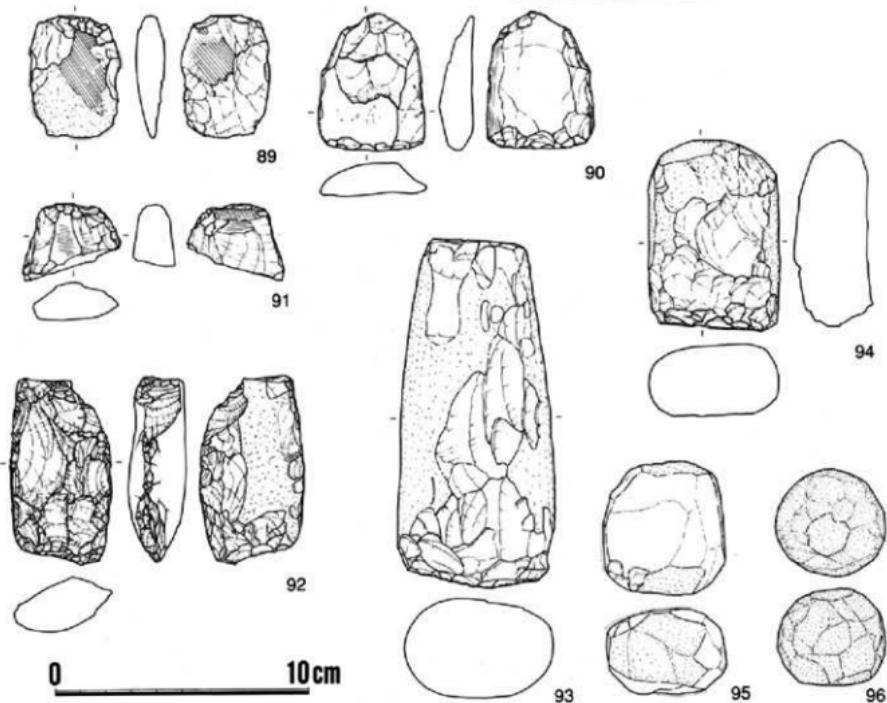


第3図 磨製石斧実測図2 (1:2)



0

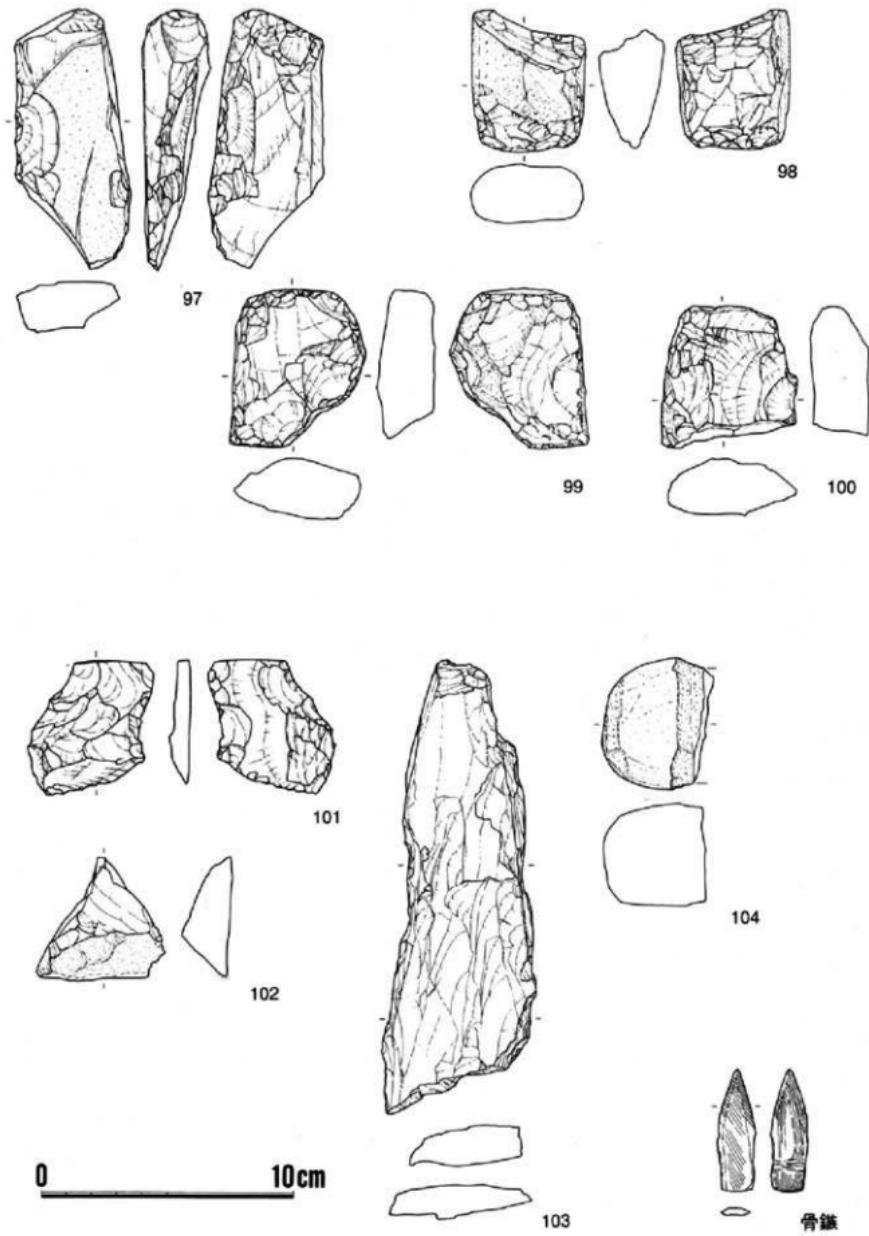
10cm



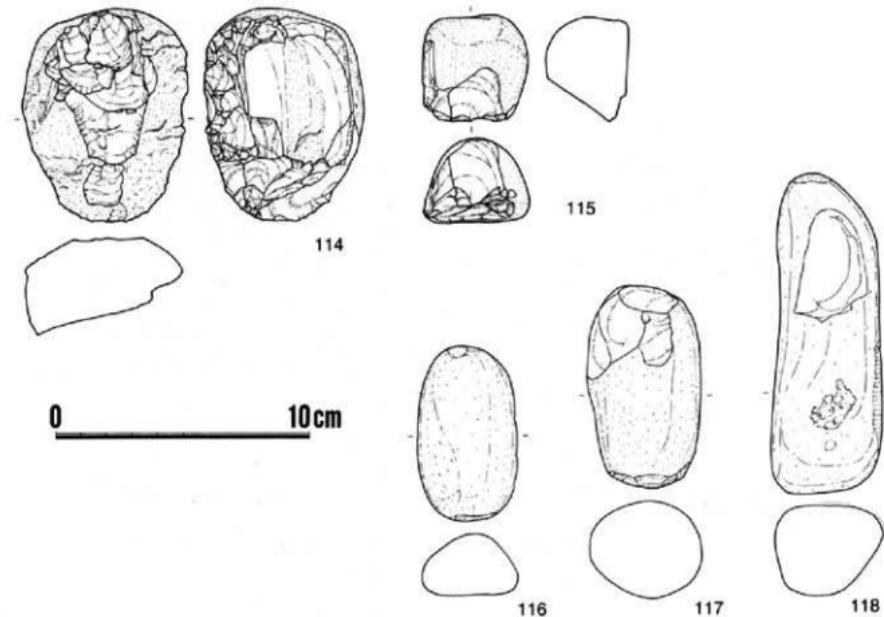
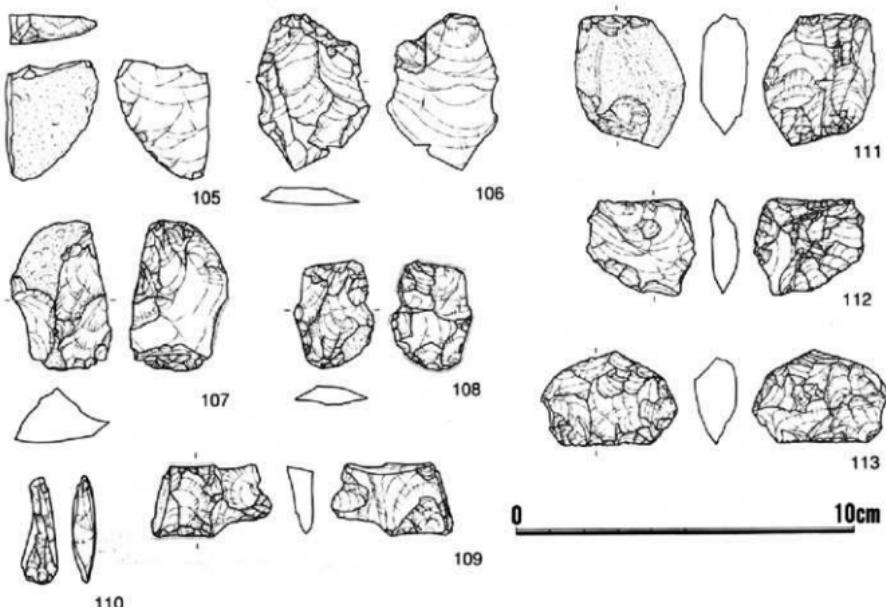
0

10cm

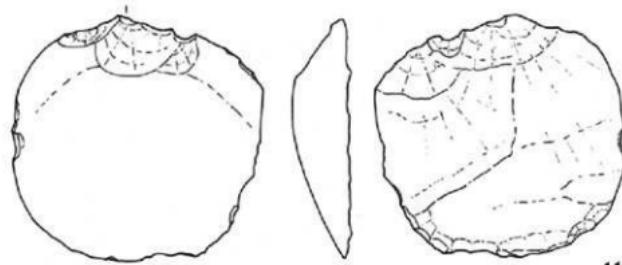
第4図 磨製石器・未製品等実測図 (68~85は2:3、86~96は1:2)



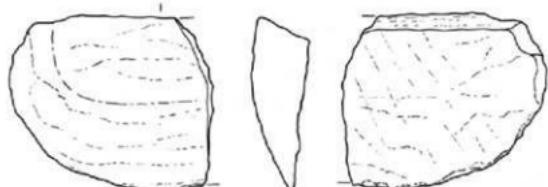
第5図 未製品類・骨鑿実測図 (97~100・103・104は1:2、101・102・骨鑿は2:3)



第6図 刃片・石核・叩き石等実測図 (105~115は2:3、116~118は1:2)



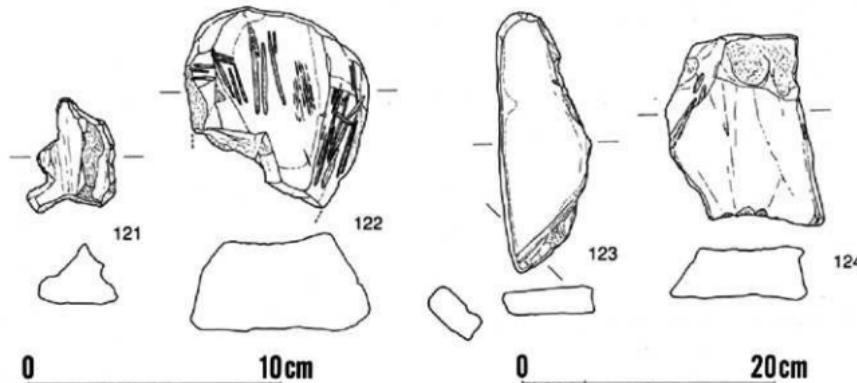
119



120

10cm

第7図 粗製剥片石器実測図 (1:2)



121

122

123

124

0

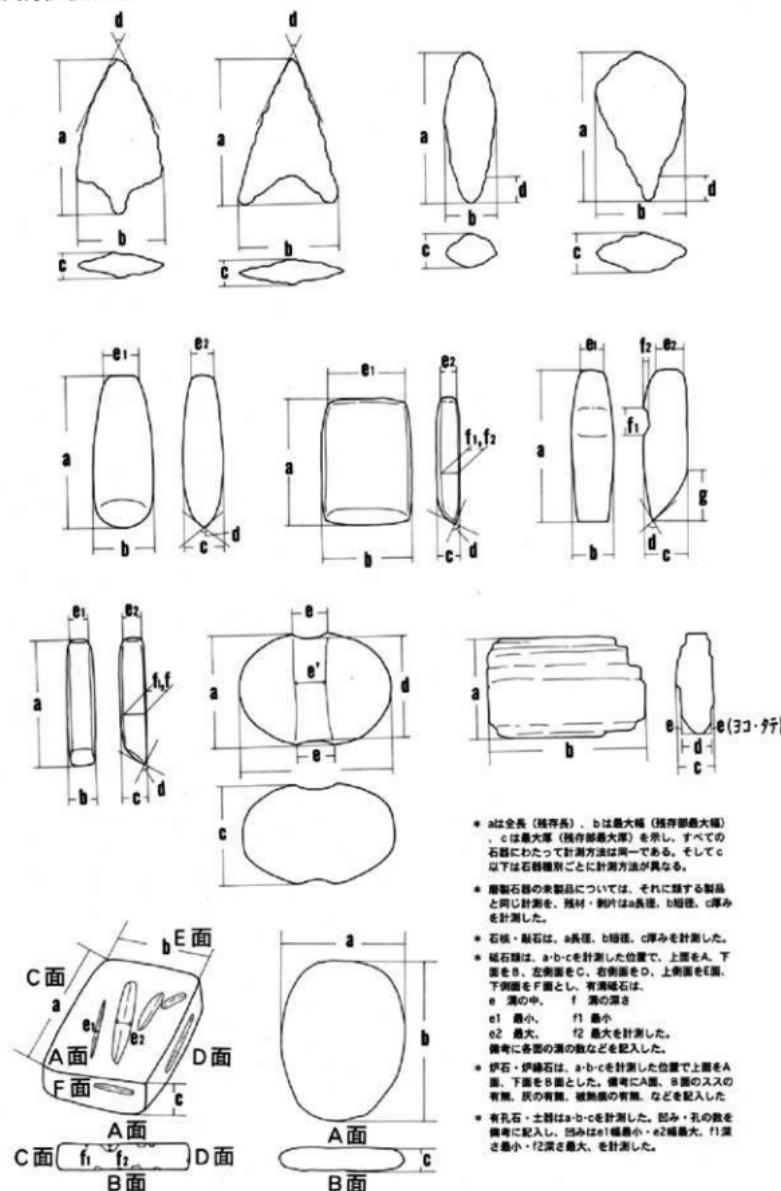
10cm

0

20cm

第8図 有溝砥石実測図 (121は1:2、122~124は1:4)

計測方法模式図



第9図 石製品計測部位図

第1表 石製品觀察表

第2表 石製品觀察表2

第3表 石製品觀察表 3

第4表 石製品觀察表4

第5表 石製品觀察表 5

第6表 石製品觀察表 6

## 8. 木製品

### 樋上 昇

木製品は弥生中期と中世の遺構からそれぞれ出土している。分類と名称については奈良国立文化財研究所から刊行されている『木器集成図録』近畿原始篇・近畿古代篇（奈良国立文化財研究所 1993・1985）にそれぞれ従っている。

#### （1）弥生中期

（第1図～第7図、第1表）

農具（1～5・8・21） 1は直柄狭鋤。隆起部が高く、明確に作り出されている。頭部の両側面にえぐり込みを入れる。2はその柄にあたり、途中に段をもつ。3・5・8は柄穴広鋤の未製品。3は頭部の両端を斜めに削り落としている。柄穴周辺の隆起部は不明瞭。5・8は平面が長方形を呈する。8は柄穴を開ける部分の周囲の隆起部がまだ作り出されておらず、全体に厚めで、全長も5に比べて長い。5は8の段階から隆起部を除いて全体に薄く削り込んでいる。21は8のさらに前段階にあたるミカン割りの板材である。全長118cmで、3や5の広鋤が3枚取れる長さである。4は片面が頭部に突起が作り出されており、一旦薄くなつてまた徐々に厚くなる。もう片面はほぼ平らで、下が欠けている。曲柄狭鋤の軸部である可能性が高い。

工具（11） 11は櫛斧の直柄の未製品。石斧を装着する部分は片側のみ段をもつ。奈良国立文化財研究所の分類によるⅢ類にあたる。

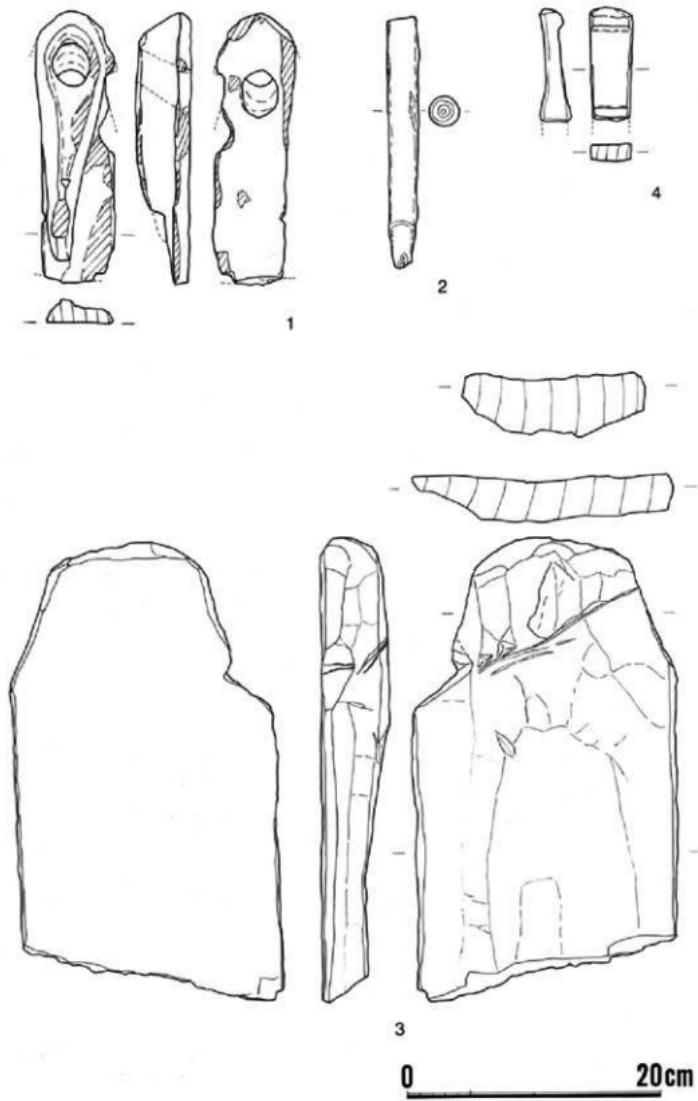
漁労具（15・16・20） 15はアカ取りあるいはモ

ミスクイと呼ばれるもので、一方（図では上方）には立ち上がりがなく、その反対方向には把手が付く。16・20は一本式の櫂で、16は水かき部分の先端、20は柄の上端が欠けている。

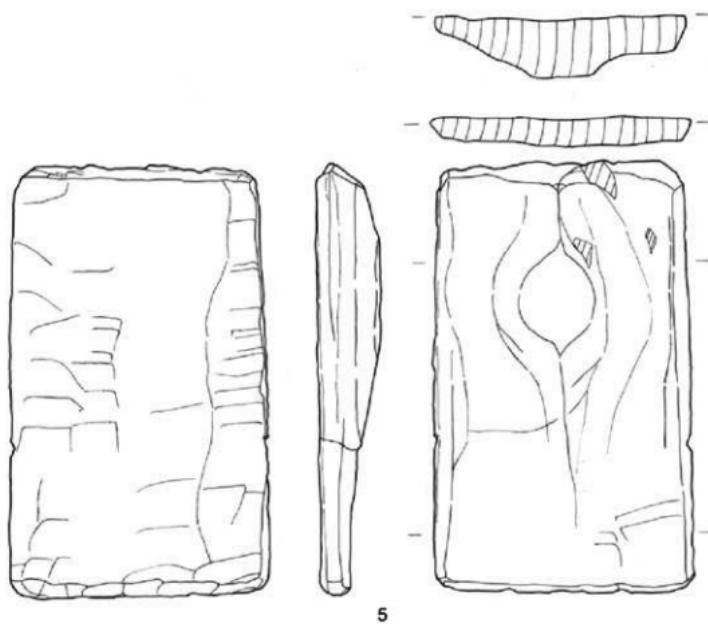
容器（14） 14は把手付の槽で、把手の側面には方形孔を穿つ。

建築部材（6） 6は梯子の破片で足掛けが一段のみ遺存している。

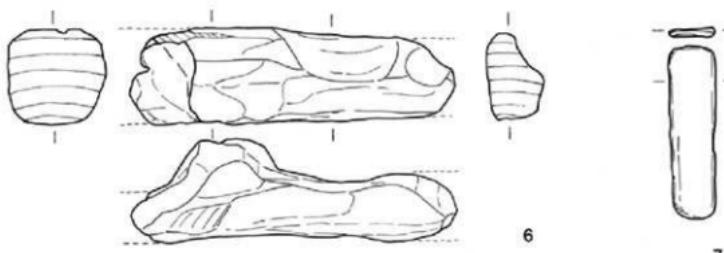
用途不明品（7・9・10・12・13・17～18） 7は用途不明の板材。木取りは板目である。9は何か別の部材に取り付く把手である。コの字状をなし、両端部付近に方形の小孔を穿つ。片側の小孔には木栓が遺存している。10は紡錘形の木の一端を棒状に加工している。杓子の未製品である可能性が高い。12は棒で一方の端は平らに加工されており、もう一方は欠損している。鋤の柄である可能性が高い。13は両端を丸く加工した厚めの板の上面に浅い溝を切り、下面は台形状に作り出す。建築部材の可能性がある。17・19は細長い棒状の製品で一端を欠損する。遺存する一端は17が削って尖らせているのに対し、19は先端に突起を作り出している。19はさらに途中に段を設けている。いずれも網枠・弓・輪カンジキ型田下駄の輪のいずれかである可能性をもつ。18はやや湾曲する板材に一ヵ所小孔を穿っている。両端は欠損しており、用途は不明である。



第1図 木製品実測図1 弥生 (1:4)



5

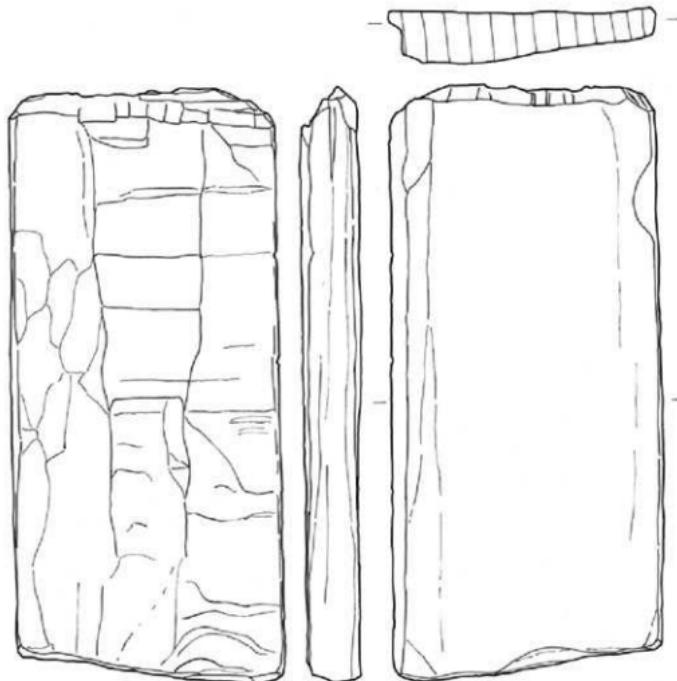


6

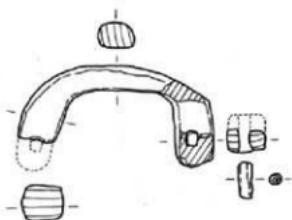
7

0  20cm

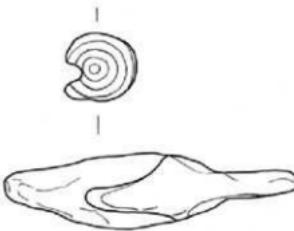
第2図 木製品実測図2 幼生 (1:4)



8



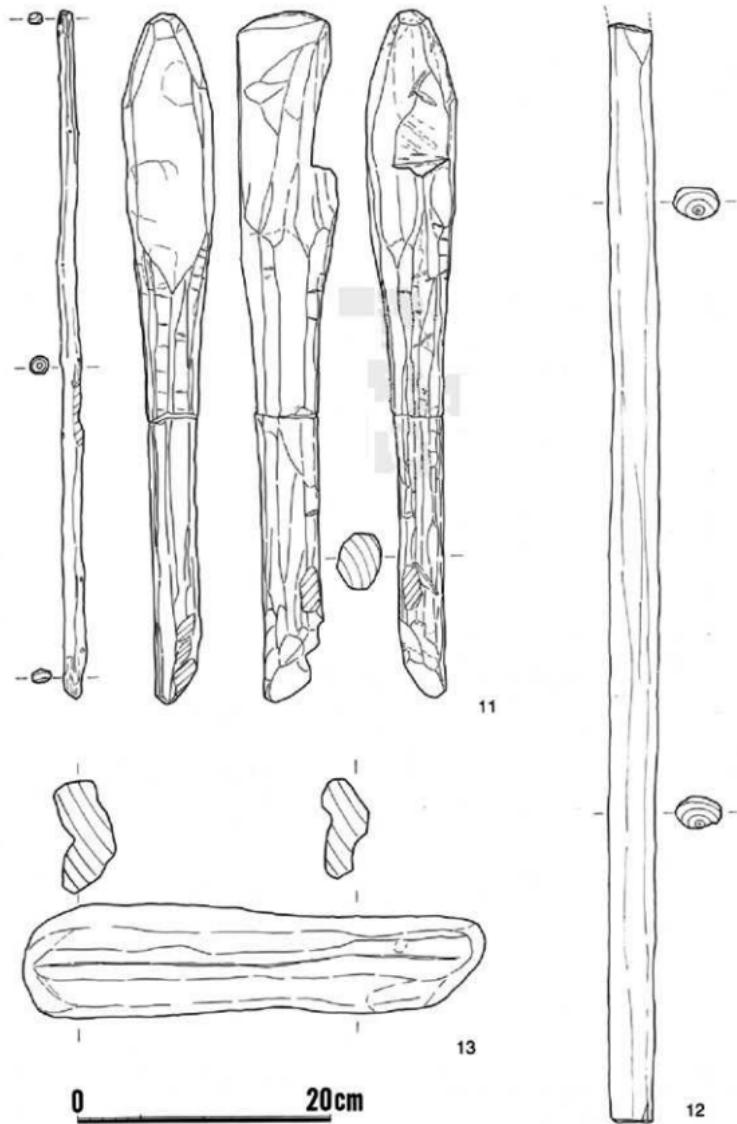
9



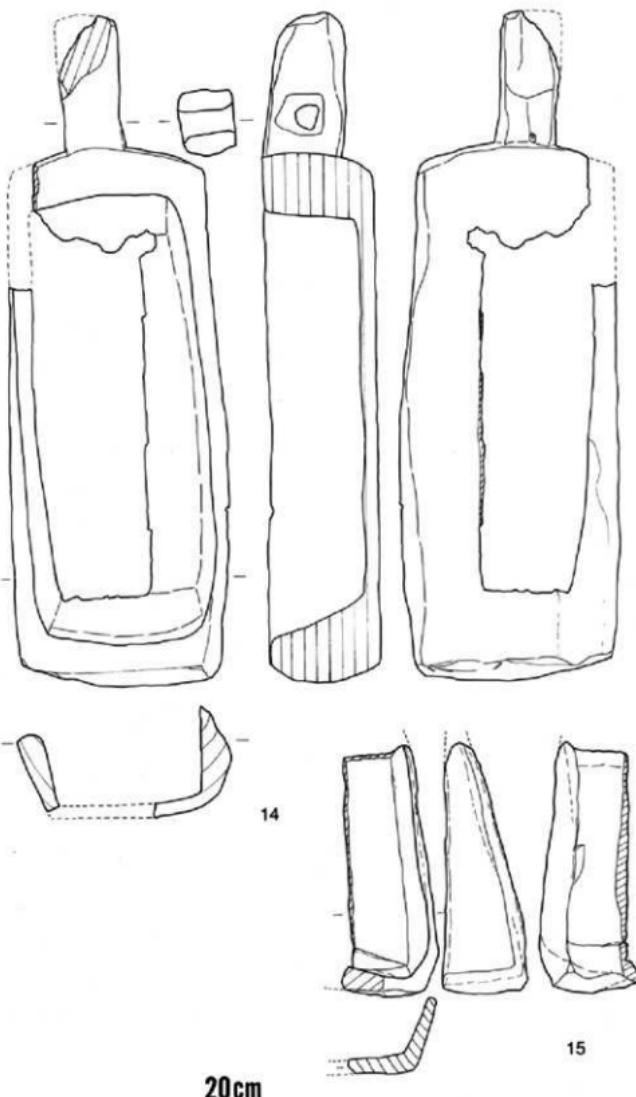
10

0 20cm

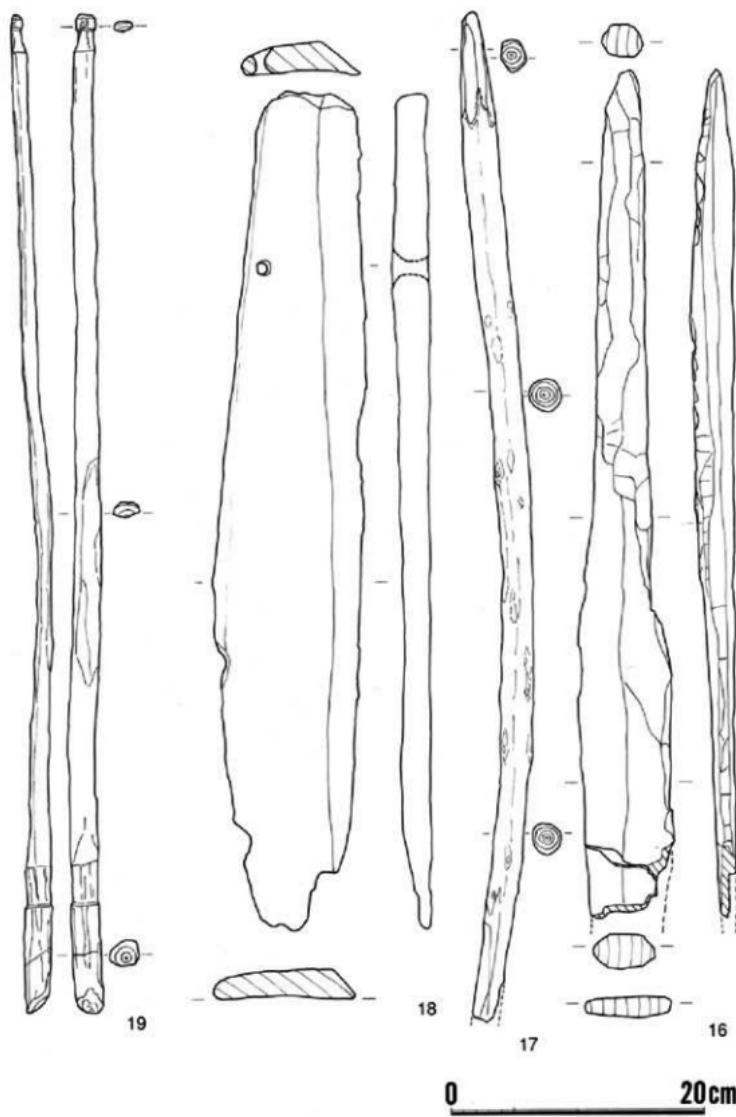
第3図 木製品実測図3 弥生 (1:4)



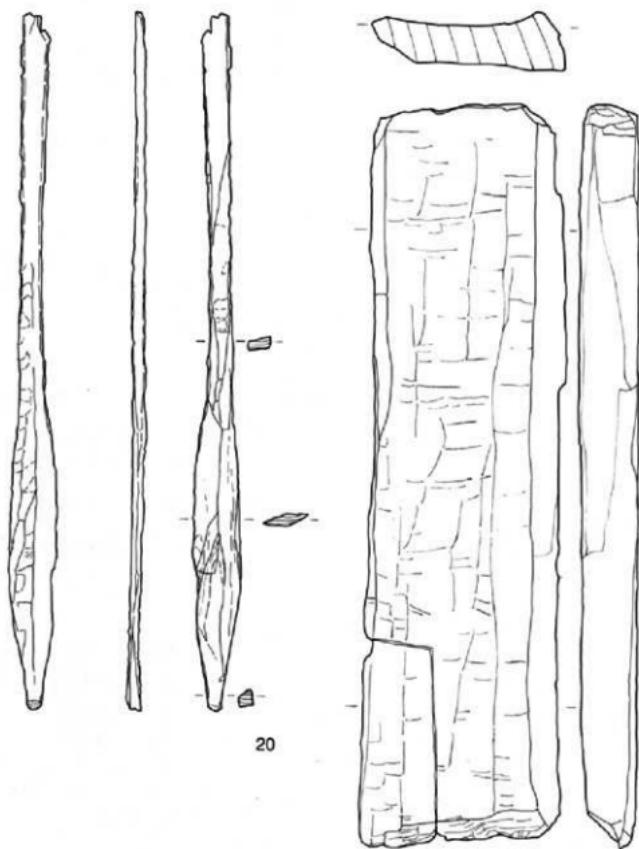
第4図 木製品実測図4 幼生 (1:4)



第5図 木製品実測図5 弥生 (1:4)



第6図 木製品実測図6 幼生 (1:4)



0 40cm

21

第7図 木製品実測図7 弥生 (1:8)

(2) 中世 (第8図、第1表)

服飾具 (22) 22は台と歯を一本で作る連歯下駄である。左側約半分を欠損しているため、全形は不明だが、前歯は前歯のはば中央に位置すると思われ、後歯は後歯より後方に開けられている。容器 (23~26) 23は曲物の側板で桿縫じが残る。24は曲物の蓋とおもわれる円形の板である。25も円形の板だが、直径が3.6cmときわめて小さく、薄いため、用途は不明。26は漆椀の破片で外面に朱色の紋様を描く。

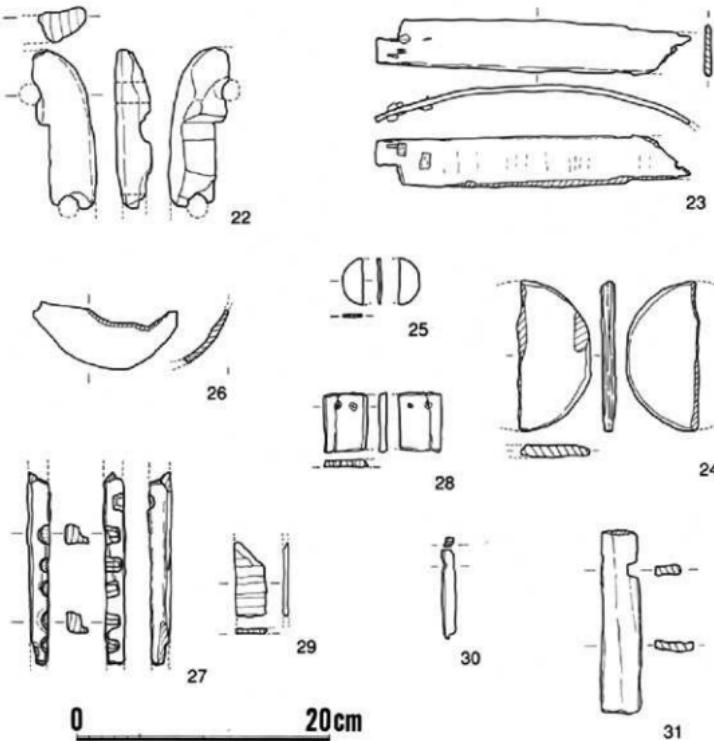
雄具 (27) 27は火きり臼である。角柱状の棒の

2面に6ヶ所の火きり穴が残る。

用途不明品 (28~31) 28は一方の端が欠損する長方形の板で、2ヶ所に目釘の痕がある。29~31は継長の板で、30・31は切り欠きがある。

参考文献

奈良国立文化財研究所 1993『木器集成図録』近畿原始篇  
奈良国立文化財研究所 1985『木器集成図録』近畿古代篇



第8図 木製品実測図8 中世 (1:4)

番号	製品名	図版番号	調査区	遺構番号	旧遺構番号	登録番号	時代	樹種
1	直柄狹鋸	1	96C	NR03	NR02	W-1	弥生	アカガシ亜属
2	鍔直柄	1	96C	NR03	NR02	W-2	弥生	
3	広紙未製品	1	96D	NR06	NR01	W-3	弥生	アカガシ亜属
4	曲柄狹鋸	1	96D	NR06	NR01	W-4	弥生	
5	広鋸未製品	2	96D	NR06	NR01	W-5	弥生	アカガシ亜属
6	梯子	2	96D	NR06	NR01	W-6	弥生	ヒノキ
7	用途不明品	2	96D	NR06	NR01	W-7	弥生	ヒノキ属
8	広鋸未製品	3	96D	NR06	NR01	W-8	弥生	アカガシ亜属
9	把手	3	96C	NR03	NR02	W-9	弥生	アカガシ亜属
10	杓子未製品?	3	96C	NR03	NR02	W-10	弥生	ヒノキ
11	縫斧柄未製品	4	96D	NR06	NR01	W-11	弥生	ヤブツバキ
12	椿	4	96B	NR02	NR01	W-12	弥生	サワラ
13	用途不明品	4	96C	NR03	NR02	W-13	弥生	サワラ
14	把手付椿	5	96D	NR06	NR01	W-14	弥生	コナラ節
15	アカ取り	5	96C	NR03	NR02	W-15	弥生	エノキ属
16	櫛	6	96B	NR01	NR02	W-16	弥生	ヒノキ属
17	椿	6	96D	NR06	NR01	W-17	弥生	イヌガヤ
18	加工板	6	96C	NR03	NR02	W-18	弥生	スギ
19	椿	6	96D	NR06	NR01	W-19	弥生	イヌガヤ
20	櫛	7	94Aa	SD02	SD06	W-20	弥生	ヒノキ属
21	板材	7	96D	NR03	NR02	W-21	弥生	アカガシ亜属
22	下駄	8	93Ca	SX183	SK38	W-22	中世	ヒノキ属
23	曲物削板	8	96C	SX16	SK10	W-23	中世	ヒノキ
24	曲物蓋	8	96C	NR03	NR02	W-24	中世	スギ
25	円形小板	8	93Ab	SX87	SK02	W-25	中世	ヒノキ
26	漆椀	8	95E	SX124	SK13	W-26	中世	トネリコ属?
27	火きり臼	8	93Bb	SK101	SK54	W-27	中世	ヒノキ
28	加工板	8	93Ab	SX87	SK02	W-28	中世	ヒノキ
29	加工板	8	93Bb	SK101	SK54	W-29	中世	ヒノキ
30	加工板	8	93Aa	SX67	SK01	W-30	中世	ヒノキ
31	加工板	8	93Bb	SK101	SK54	W-31	中世	ヒノキ

第1表 木製品観察表

## 9. 中世以後の遺構

池本正明

今回検出された当該期の遺構は、ほぼ調査区全体に展開する。内容は一部の土壤を除き、基本的には方形土壙（S X）のみで構成されている。

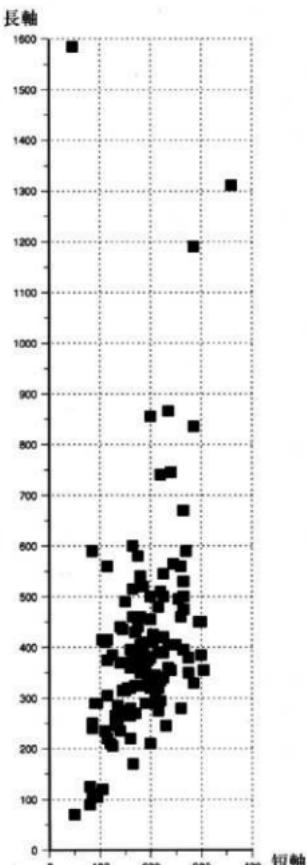
以下、具体的に報告していく。

### (1) 土坑

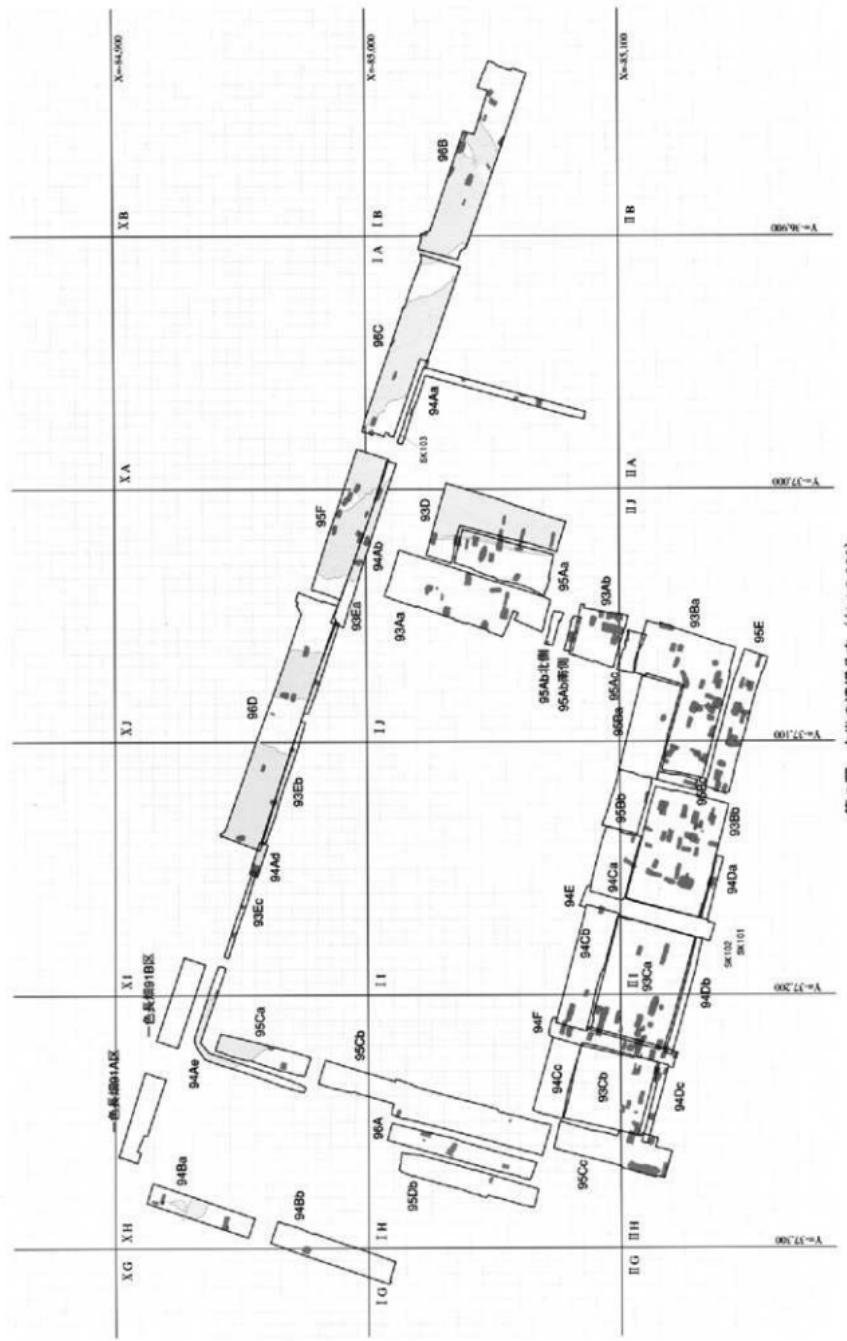
当該期の土坑は数十基程度ある。しかしそのほとんどは出土遺物も乏しく性格が不明なもので占められる。このためここでは比較的特徴的な SK 101～103 を報告するにとどめる。SK 101 は 93Bb 区で検出された土坑で、平面形は、長辺 6.35m、短辺 5.00m、検出面からの深さは 0.60m をはかる。出土遺物は、土師器羽釜（第 10 章第 1 図 - 1・2）、灰釉系陶器壺（第 10 章第 1 図 - 3）、鉄滓（第 11 章第 1 図 - 7）がある。SK 102 も 93Bb 区で検出された土壤である。形状は方形土壙に類似するが、埋土が單一となる。平面形は、長辺 3.85 m、短辺 1.70 m、検出面からの深さは 0.72 m をはかる。出土遺物には、施釉陶器天目碗（第 10 章第 1 図 - 4）、灰釉系陶器小皿（第 10 章第 1 図 - 5）がある。SK 103 は 94A 区 a で検出された。出土遺物には釘（第 11 章第 1 図 - 4）がある。

### (2) 方形土壙

方形土壙は 238 基ある。これらはほぼ調査区全域で確認できる。分布状況は、南側で密、北側では粗となる。年代は、出土遺物や部分的に確認できる遺構の重複以外判断材料がない。



第 1 図 方形土壙の長軸・短軸分布 (cm)



今日方形土壙は6点の特徴に集約して理解されている(赤塚1997)。まず1つ目は特徴的な埋め戻しを伴うこと、2つ目は群集すること、3つ目は主軸の方向性が類似すること、4つ目は平面形が方形で規格を持つこと、5つ目は構造物を伴わず、無遺物を原則とすること、6つ目は崖地、低地などの利用度の低いエリアを主要分布域とすることである。

次に本遺跡例をこれと比較する。まず、1つ目とされたものは、埋土が斑土となることに特徴となる。これは、方形土壙最大の特徴ともいえ、この種の土壙が掘削から埋め戻しまで比較的短時間で実施された可能性を示唆する。なお、本遺跡では方形土壙の判定基準をこの特徴の有無によっている。

次に、2つ目の群集は、93Aa区以南～95C区以東に集中傾向が強い。全体の分布状況から二基を最少単位とする可能性もうかがえる。分布状況は単に集中区と点在区に区分できるだけでなく、集中区中ではさらに数基～十数基のまとまりを抽出することができる。これらは具体的には93Bb区、93Bc区、95E区と、93Ca区、93Cb区で確認されている。なお、第3図、第4図に見るようにそれぞれの集中区では、方形土壙による一定空間の区画(ほぼ $20 \times 10$ m程度と一定)と、一部には土壙の重複が確認できる。なお、遺構の重複は、最大で3～4基。分布状況から予測した2基を1単位として考えると、2回の重複と考えられる。

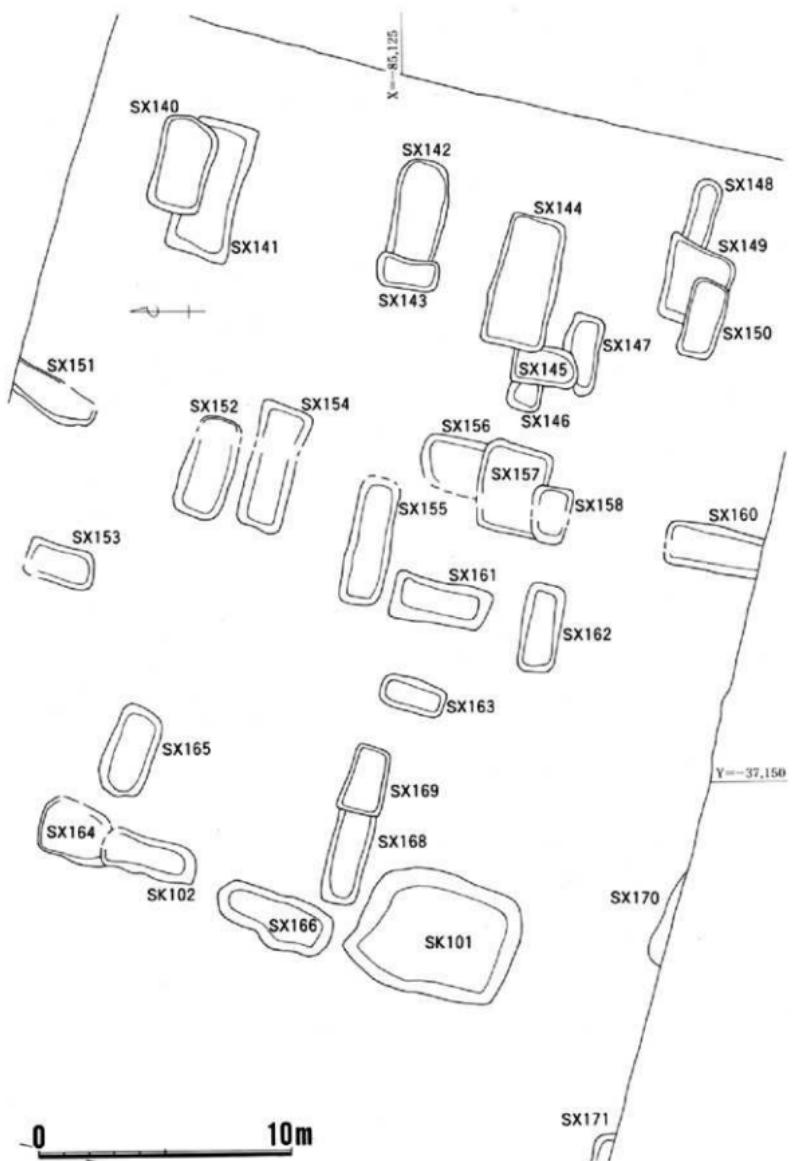
3つ目の主軸の類似と4つ目の規格性は、遺構計測一覧を参照とする。これによると、前者の主軸方位についてはN-16°-Eとこれにほぼ直交するN-72°-Wに集中している。また、後者は長辺と短辺の比率が1:1～3:1の範囲で全体の87.7パーセントを占める。

次に、5つ目の構造物と出土遺物は、前者が皆無であること、後者については図示に耐える資料

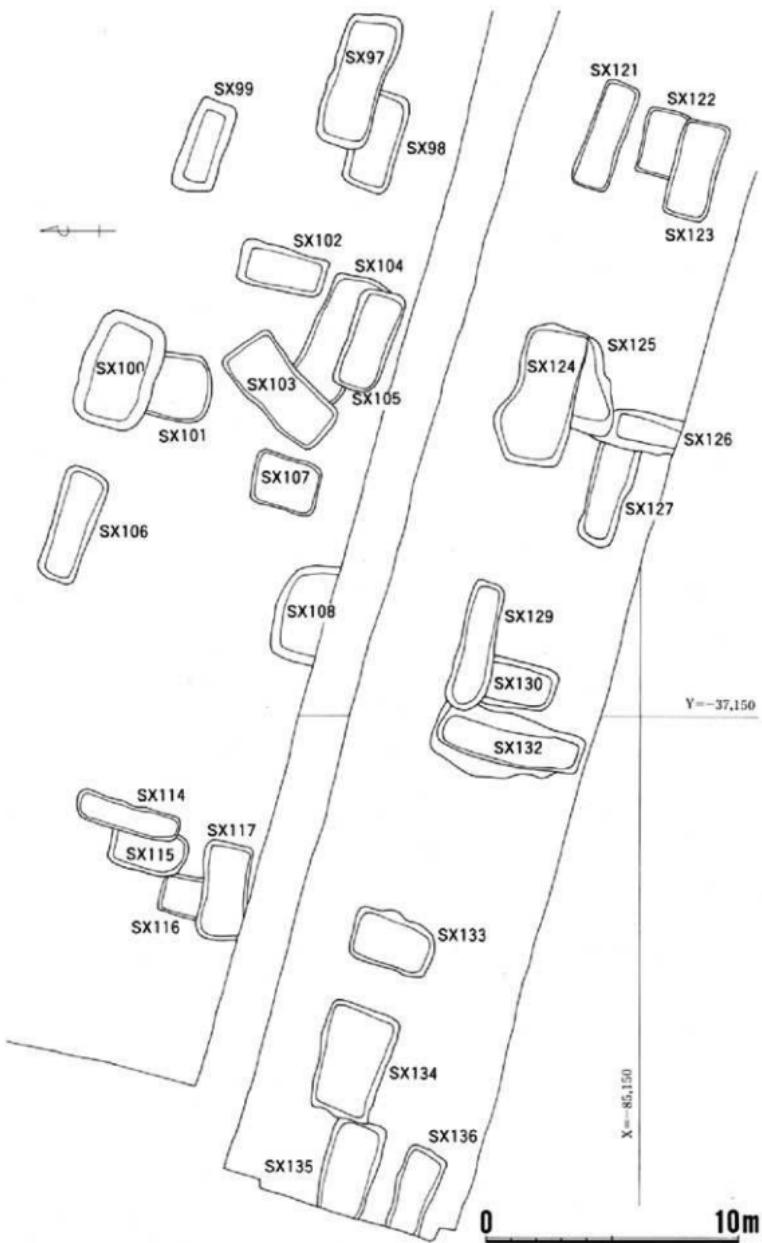
を出土した遺構数が、総検出数の0.08パーセントにすぎない。最後の6つ目は、本書に第3章に先述されている通りである。

以上、本遺跡の方形土壙の状況を他遺跡での知見と比較した。その結果、これらはよく類似した様相を示した。なお、本遺跡の方形土壙の掘削時期は、出土遺物が得られた土壙以外はほとんど情報がない。ただし、方形土壙の持つ法量、方位、埋土などの規格性と、特定空間に群集する特徴などを考えると、ほぼ類似した時期に掘削されたことを予想することができる。そして、出土遺物から、これを13世紀後半～14世紀頃を中心に考えることができる。

なお、前述したSK 102は方形土壙による一定空間の区画中に存在するもので、埋土の状況を除けば方形土壙の特色と酷似する。この区画の南西部に主軸を描いて存在するSK 101も同様である。ここでこれらの土坑の存在を過大評価するのであれば、本遺跡での方形土壙の概念が消滅する時期を、ほぼ当該期に求めることができる。



第3図 方形土壤集中区1 (1:200)



第4図 方形土壤集中区2 (1:200)

第1表 土坑・方形土壙一覧表

番号	年度	年度	月別	平面形態	断面形態	斜径 (m)	幅員 (m)	高さ (m)	長軸方向 度数	番号	年度	月別	月別	平面形態	断面形態	斜径 (m)	幅員 (m)	高さ (m)	長軸方向 度数
SX115	92	C9	SK-23	長方形	平底	7.45	2.40	0.54	N-78-W	SX206	93	C9	SK-01	長方形	平底	3.55	2.40	0.73	S-64-W
SX116	92	E	SK-15	長方形	平底	5.40	1.80	0.45	N-74-W	SX207	93	D8	SK-05	長方形	平底	2.90	0.15	0.38	S-60-W
SX117	93	C9	SK-11	長方形	平底	4.05	1.80	0.51	N-73-W	SX208	93	C9	SK-05	長方形	平底	3.70	1.45	0.59	S-62-W
SX118	93	C9	SK-14	長方形	平底	8.55	2.00	0.61	N-73-W	SX209	93	C9	SK-05	長方形	平底	4.00	0.60	0.54	S-61-W
SX119	93	C9	SK-25	長方形	平底	11.90	2.85	0.53	N-75-W	SX210	93	C9	SK-05	長方形	平底	4.55	1.45	0.58	S-63-W
SX120	94	E	SK-15	長方形	平底	11.90	2.85	0.53	N-75-W	SX211	93	C9	SK-02	長方形	平底	3.75	1.80	0.54	S-24-E
SX121	93	C9	SK-27	長方形	平底	5.10	2.20	0.45	N-75-W	SX212	93	C9	SK-01	長方形	平底	2.55	1.65	0.36	S-60-W
SX122	93	C9	SK-42	長方形	平底	8.15	2.45	0.31	N-77-W	SX213	93	C9	SK-01	長方形	平底	3.40	1.95	0.76	S-20-W
SX123	93	C9	SK-42	長方形	平底	8.15	2.45	0.31	N-77-W	SX214	93	D8	SK-05	長方形	平底	2.85	0.40	0.93	S-72-W
SX124	93	C9	SK-36	長方形	平底	2.20	1.60	0.21	N-83-W	SX215	94	D8	SK-01	長方形	平底	12.90	2.40	0.67	S-19-E
SX125	93	C9	SK-39	長方形	平底	5.65	2.45	0.51	N-84-W	SX216	93	C9	SK-01	長方形	平底	5.00	2.65	0.88	S-73-W
SX126	93	C9	SK-37	長方形	平底	7.45	1.30	0.51	N-77-W	SX217	95	C9	SK-01	長方形	平底	3.70	2.10	1.06	S-67-W
SX127	93	C9	SK-35	長方形	平底	7.10	2.00	0.44	N-11-E	SX218	95	C9	SK-01	長方形	平底	11.10	3.60	1.09	S-11-E
SX128	93	C9	SK-35	長方形	平底	7.10	2.00	0.44	N-11-E	SX219	95	C9	SK-04	長方形	平底	15.90	1.75	0.83	S-64-W
SX129	93	C9	SK-34	長方形	平底	3.55	3.05	0.55	N-15-E	SX220	95	C9	SK-01	長方形	平底	11.00	2.00	0.50	S-64-W
SX130	93	C9	SK-35	長方形	平底	(1.80)	(1.85)	0.50	N-77-W	SX221	94	A8	SK-18	長方形	平底	11.90	0.60	0.60	S-65-W?
SX131	93	C9	SK-33	長方形	平底	2.20	1.15	0.38	N-79-W	SX222	94	A8	SK-01	長方形	平底	2.75	0.24	0.42	S-15-E?
SX132	93	E	SK-35	長方形	平底	4.20	2.25	0.60	N-78-W	SX223	95	A8	SK-01	長方形	平底	0.70	0.50	0.18	S-60-W
SX133	94	E	SK-19	長方形	平底	1.90	2.25	0.55	N-73-W	SX224	95	A8	SK-01	長方形	平底	1.10	0.50	0.18	S-60-W
SX134	94	E	SK-16	長方形	平底	1.45	1.95	0.11	N-73-W	SX225	96	A	SK-15	長方形	平底	4.00	0.60	0.34	S-17-E?
SX135	94	E	SK-16	長方形	平底	3.70	1.60	0.31	N-73-W	SX226	96	A	SK-16	長方形	平底	1.10	0.35	0.11	S-16-E
SX136	94	E	SK-17	長方形	平底	1.45	1.95	0.11	N-73-W	SX227	96	A	SK-13	長方形	平底	0.05	1.25	0.30	S-16-E
SX137	94	E	SK-17	長方形	平底	1.45	1.95	0.11	N-73-W	SX228	96	A	SK-13	長方形	平底	0.05	1.25	0.30	S-16-E
SX138	94	E	SK-17	長方形	平底	1.45	1.95	0.11	N-73-W	SX229	96	A	SK-13	長方形	平底	2.80	1.05	0.34	S-24-E
SX139	94	E	SK-17	長方形	平底	2.20	1.95	0.45	N-73-W	SX230	96	A	SK-19	長方形	平底	2.90	0.95	0.27	S-24-E
SX140	94	E	SK-19	長方形	平底	(1.50)	0.70	0.20	N-73-W	SX231	95	C9	SK-01	長方形	平底	1.60	0.60	0.50	S-71-W
SX141	94	E	SK-19	長方形	平底	(1.50)	0.70	0.20	N-73-W	SX232	95	C9	SK-01	長方形	平底	1.60	0.60	0.50	S-71-W
SX142	94	E	SK-01	長方形	平底	1.70	1.85	0.25	N-65-W	SX233	95	D8	SK-24	長方形	平底	2.85	1.45	0.24	S-66-W?
SX143	94	E	SK-02	長方形	平底	(1.00)	(1.65)	0.60	N-73-W	SX234	94	B8	SK-01	長方形	平底	2.60	1.00	0.40	S-12-E
SX144	94	E	SK-02	長方形	平底	(1.00)	(1.65)	0.60	N-73-W	SX235	94	B8	SK-01	長方形	平底	2.15	0.65	0.33	S-25-E
SX145	94	E	SK-02	長方形	平底	(1.00)	(1.65)	0.60	N-73-W	SX236	94	B8	SK-01	長方形	平底	2.15	0.65	0.33	S-25-E
SX146	94	E	SK-02	長方形	平底	(1.00)	(1.65)	0.60	N-73-W	SX237	94	B8	SK-08	長方形	平底	1.85	1.55	0.41	S-73-W
SX147	94	E	SK-10	長方形	平底	(1.00)	1.20	0.60	N-65-W	SX238	94	B8	SK-08	長方形	平底	2.95	3.05	0.24	S-63-W

第2表 土坑・方形土壤一覧2

## 10. 中世以後の陶器類

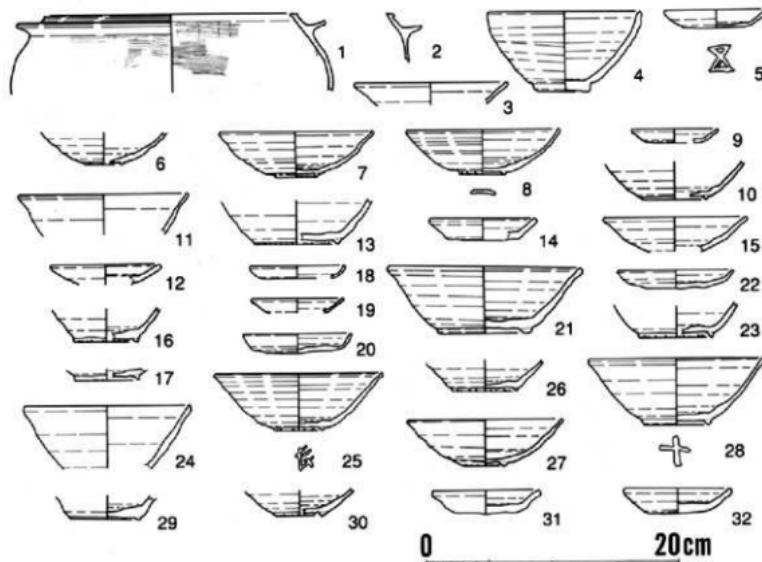
池本正明

### (1) 中世以後の土器・陶器

(第1図1～32)

中世以後の土器・陶器は量的に乏しい。種類としては灰釉系陶器・施釉陶器・土師器、器種には碗、小皿、天目碗等がある。出土位置は土坑(1～5)、方形土壙の埋土(6～27)または包含層(28～32)となる。

1～3はSK 101出土。1、2は土師器羽釜。いずれも体部の最大径が口部径より大きいタイプ。外面はハケメ調整。14世紀後半。3は灰釉系陶器碗。北部系の口縁部片。14世紀後葉～15世紀前葉。4、5はSK 102出土。4は施釉陶器天目碗。高台付近に黒色の付着物が確認できる。塗か。15世紀後半。5は灰釉系陶器小皿。外底部に墨書きが認め



第1図 中世以降の土器・陶器実測図(1:4)

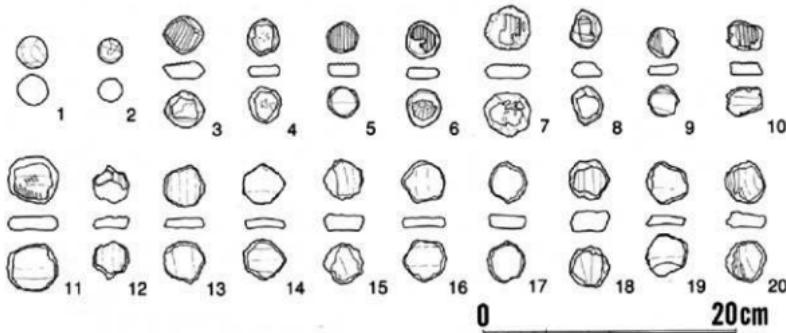
られるが意味不明。14世紀中葉。

6はSX04出土。灰釉系陶器碗。北部系の底部小片。器壁は薄く、浅い。14世紀後葉～15世紀前葉。7はSX27出土。灰釉系陶器碗。完形。器壁は薄く、浅い。外面と内面の一部に黒色の付着物が確認できる。14世紀後葉～15世紀前葉。8はSX32出土。灰釉系陶器碗。完形。器壁は薄く、浅い。外底部に墨書「一」が観察できる。14世紀後葉～15世紀前葉。9はSX33出土。灰釉系陶器小皿。小片で、器壁は薄い。13世紀中葉～14世紀前葉。10はSX38出土。灰釉系陶器碗。北部系の底部小片。器壁は薄い。13世紀後葉～14世紀後葉。11、12はSX85出土。いずれも灰釉系陶器。11は碗。北部系の口縁部小片で、器壁は薄い。13世紀後葉～14世紀後葉。12は北部系の小皿。底部を欠く。器高は高い。13世紀前葉13はSX55出土。灰釉系陶器碗。北部系の底部片。13世紀中葉。14はSX97出土。灰釉系陶器小皿。南部系の小片。13世紀中葉。15はSX99出土。灰釉系陶器碗。北部系の口縁部片。14世紀後葉～15世紀前葉。16～19はSX131出土。いずれも灰釉系陶器。16、17は碗。いずれも北部系の底部片。17は小片。前者は13世紀中葉、後者は13世紀後葉～14世紀後葉。18、19は小皿。いずれも北部系の小片。時期はやや下がるのか。20はSX

166出土。灰釉系陶器小皿。北部系。完形でやや歪む。判読はできないが体部外面と内定部に墨書が施されるのかもしれない。内底部は摩滅する。14世紀中葉。21はSX176出土。灰釉系陶器碗。南部系ではほぼ完形。内底部は摩滅する。13世紀中葉。22はSX183出土。灰釉系陶器小皿。器壁は薄く器高は低い。14世紀後葉～15世紀前葉か。23はSX195出土。灰釉系陶器碗。北部系の底部小片。13世紀後葉～14世紀後葉。24はSX196出土。灰釉系陶器碗。南部系で底部を欠く。13世紀後葉～14世紀前葉。25はSX206出土。灰釉系陶器碗。外底部に墨書が認められるが意味不明。14世紀中葉。26はSX208出土。灰釉系陶器碗。北部系の底部小片。13世紀後葉～14世紀後葉。27はSX218出土。灰釉系陶器碗。北部系14世紀後葉～15世紀前葉。28～32は包含層資料。いずれも灰釉系陶器。28～30が碗。28は北部系。外底部に墨書「十」が観察できる。29、30は底部片。前者が北部系で後者が南部系。31、32が小皿で南部系。

## (2) 陶丸 (第2図1・2)

2点出土している。いずれも方形土壙資料で、1がSX68、2がSX112出土。表面は摩滅する。重量は前者が14.2 g、後者が6.5 g。



第2図 陶丸・加工円盤実測図 (1:4)

### (3) 加工円盤（第2図3～20）

18点出土している。土器片の破面を打ち欠き、方形（7、8、10）ないし円形（3～6、9、11～20）に加工したものを呼称する。破面は原則的には打ち欠いたままだが、これに研磨を加える資料（3～7）も含まれる。出土位置の分布上の特徴はうかがうことができない。ほとんどが表土あ

るいは包含層中の出土となるが、20はSX 186出土。素材となる土器片は20が灰釉系陶器の碗であることを除けば、すべて近世陶器。器種は指鉢（3～11）が多いが、（12～18）は壺類、（19）は椀か。使用部位は、すべて体部片。重量は3から順に、12.3g、8.1g、7.9g、8.6g、13.6g、9.0g、5.4g、7.9g、19.5g、6.7g、11.8g、9.7g、11.2g、12.1g、11.2g、15.4g、8.5g、13.7g。

図版	番号	遺構番号	調査区	旧遺構番号	種類	器種	口径(m)	底径(m)	器高(m)	備考	登録番号
1	SK101	93Bb	SK54	土師器	羽釜	19.0	—	—	—	E-3001	
2	SK101	93Bb	SK54	土師器	羽釜	—	—	—	—	E-3002	
3	SK101	93Bb	SK54	灰釉系陶器	碗	12.0	—	—	—	E-3003	
4	SK102	93Bb	SK58	灰釉系陶器	天日碗	12.0	4.5	6.3	—	E-3004	
5	SK102	93Bb	SK58	灰釉系陶器	小皿	8.9	4.9	1.5	墨書き	E-3005	
6	SX04	96B	SK16	灰釉系陶器	碗	—	2.9	—	—	E-3006	
7	SK103	94Ab	SK27	灰釉系陶器	碗	12.1	3.3	3.7	—	E-3007	
8	SX32	95F	SK09	灰釉系陶器	碗	11.9	3.5	3.6	墨書き	E-3008	
9	SX33	95F	SK08	灰釉系陶器	小皿	6.8	3.6	1.1	—	E-3009	
10	SX38	94Ab	SK23	灰釉系陶器	碗	—	5.0	—	—	E-3010	
11	SX85	93Ab	SK05	灰釉系陶器	碗	13.3	—	—	—	E-3011	
12	SX85	93Ab	SK05	灰釉系陶器	小皿	8.6	—	—	—	E-3012	
13	SX55	93D	SK02	灰釉系陶器	碗	—	6.6	—	—	E-3013	
14	SX97	93Ba	SK19	灰釉系陶器	小皿	8.2	5.5	1.7	—	E-3014	
15	SX99	93Ba	SK22	灰釉系陶器	碗	11.0	—	—	—	E-3015	
16	SX131	95E	SK10	灰釉系陶器	碗	—	—	—	—	E-3016	
17	SX131	95E	SK10	灰釉系陶器	碗	—	—	—	—	E-3017	
18	SX131	95E	SK10	灰釉系陶器	小皿	7.4	6.0	1.0	—	E-3018	
19	SX131	95E	SK10	灰釉系陶器	小皿	7.2	—	—	—	E-3019	
20	SX166	93Bb	SK37	灰釉系陶器	小皿	8.5	5.3	2.0	—	E-3020	
21	SX176	94F	SK18	灰釉系陶器	碗	15.0	6.6	5.3	—	E-3021	
22	SX183	94Ca	SK38	灰釉系陶器	小皿	9.0	4.7	1.4	—	E-3022	
23	SX195	94F	SK10	灰釉系陶器	碗	—	5.6	—	—	E-3023	
24	SX196	94F	SK196	灰釉系陶器	碗	13.0	—	—	—	E-3024	
25	SX306	93Cb	SK08	灰釉系陶器	碗	13.4	3.8	4.5	墨書き	E-3025	
26	SX208	93Cb	SK05	灰釉系陶器	碗	—	5.0	—	—	E-3026	
27	SX218	93Cb	SK03	灰釉系陶器	碗	12.1	3.1	3.7	—	E-3027	
28	—	91Ab	埋瓦	灰釉系陶器	碗	13.7	5.0	5.2	墨書き	E-3028	
29	—	95F	表上は8	灰釉系陶器	碗	—	5.5	—	—	E-3029	
30	—	95Ac	被出し	灰釉系陶器	碗	—	3.7	—	—	E-3030	
31	—	95Cb	S97?	灰釉系陶器	小皿	8.4	4.8	1.9	—	E-3031	
32	—	94Ba	SK13	灰釉系陶器	小皿	8.2	4.5	2.0	—	E-3032	

第1表 中世以降の土器・陶器一覧

図版	番号	遺構番号	調査区	旧遺構番号	種類	重量(g)	登録番号	
2	33	SX68	93Aa	SK08	陶丸	14.2	E-3033	
2	34	SK112	93Ba	SK66	陶丸	6.5	E-3034	
2	35	—	95Cb	被出し	加工円盤	12.3	E-3035	
2	36	—	94Ba	被出し	加工円盤	8.1	E-3036	
2	37	—	94Bb	被出し	加工円盤	7.9	E-3037	
2	38	—	94Bb	SD01	加工円盤	8.6	E-3038	
2	39	—	94Bb	被出し	加工円盤	13.6	E-3039	
2	40	—	94Bb	被出し	加工円盤	9.6	E-3040	
2	41	—	93D	14.7	加工円盤	5.4	E-3041	
2	42	—	SK201	94F	SK02	加工円盤	7.9	E-3042
2	43	—	94Bb	SD01	加工円盤	19.5	E-3043	
2	44	—	94Ac	被出し	加工円盤	6.7	E-3044	
2	45	—	93D	被出し	加工円盤	11.8	E-3045	
2	46	—	95Cb	被出し	加工円盤	9.2	E-3046	
2	47	—	95Bb	南朝新灰土上	加工円盤	11.4	E-3047	
2	48	—	94Ba	被出し	加工円盤	12.1	E-3048	
2	49	—	96A	被出し	加工円盤	11.4	E-3049	
2	50	—	94Bb	14.7	加工円盤	15.4	E-3050	
2	51	—	94Ba	被出し	加工円盤	8.5	E-3051	
2	52	SX189	93Ca	SK34	加工円盤	13.7	E-3052	

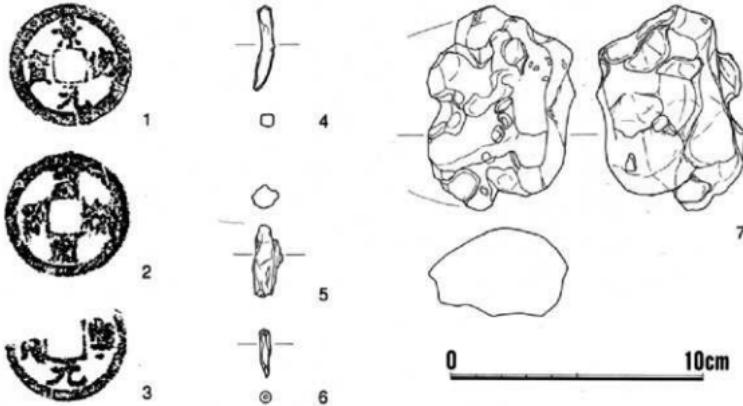
第2表 陶丸・加工円盤一覧

## 11. 金屬製品

鈴木正貴

金属製品およびその関連資料には銅製品、鉄製品、鉄滓など22点があり（第1図1～7）、中世以降に属すると思われる。ここでは主要な遺物のみ報告し、他は別稿（鈴木・藤山1997）に準拠した一覧表（第1表）に掲載するに止めた。

銅製品は錢貨（北宋錢、1～3）が3枚出土した。鉄製品には、鉄釘、針金状鉄製品、板状鉄製品



第1図 金属製品実測図 (1~3は1:1、4~7は1:2)

第1表 金屬製品觀察表

## 12. 弥生時代の遺構分布とその変遷

藤山誠一

5. 弥生土器における弥生土器の時期区分と遺構の重複による前後関係や遺構の位置における相対的前後関係に基づき、弥生時代における一色青海遺跡を大きく6期に分けた（第1図～第6図、第1表）。ここでは各調査区における遺構の変遷について述べ、併せて遺構の分布について触ることにする。

### 1期（第1図）

弥生土器区分のI式a段階に想定されるもので、北調査区におけるN R 01～N R 03・N R 05・N R 06 aの旧河道が流れている段階で、S B 02の存在から95F区の微高地で居住域が存在していた可能性が高い。N R 05は微高地を削るクレバススプレイと思われ、S B 02はそれにより堆積した後に掘り込まれたもので、1期の中で大きな洪水に見舞われた痕跡である。N R 06 aでまとまって出土している土器や木製品などが旧河道東岸から流れ込む形で出土していることもこれら洪水による遺構の削平による可能性がある。95 A a区の遺構検出面になる基盤層の下からほぼ同時期の土器片が出土することからもこの時期に大きな洪水が頻繁に起こったことを示しており、東調査区における居住域の大部分は削平されて存在していないものと思われる。

この時期の居住域からは外れるものと考えられるが、東調査区南部の95 E区では直角近くに屈曲して流れる溝が重複して検出されており、すべて竪穴住居より先行しているものを1期と考えた。

これらの溝の間にも重複する部分があり、少なくとも2～3段階の変遷がある。

その他の調査区ではこの時期の明瞭な遺構が確認出来ておらず、1期の広がりは北調査区より北側の地域から東調査区の部分に存在する可能性が高い。

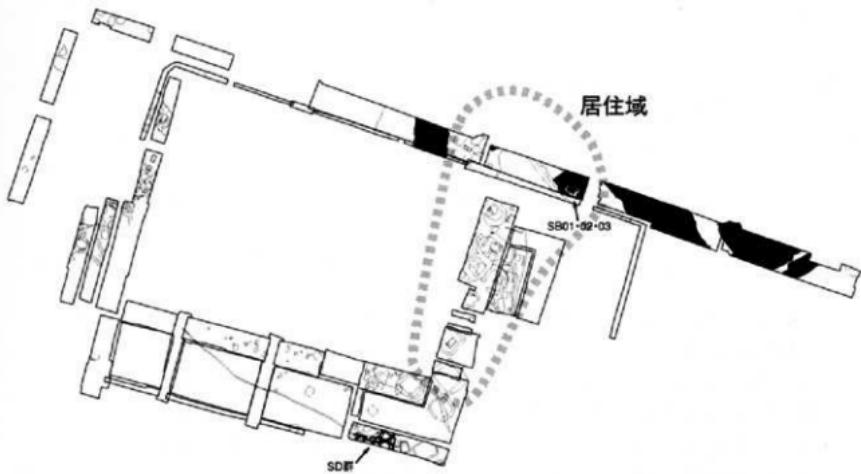
### 2a期（第2図）

弥生土器区分のI式b段階に想定されるもので、東調査区では竪穴住居群からなる居住域が93A a区から95 E区まで広く展開し、95 A a区のS B 17のように洪水によって住居が削平されたものが存在し、竪穴住居の間にも前後関係が存在する。95 B a区では竪穴住居が5棟重複している部分がある。竪穴住居では重複関係で古い平面形態方形の竪穴住居をこの時期のものとした。井戸S E 01も営まれる。

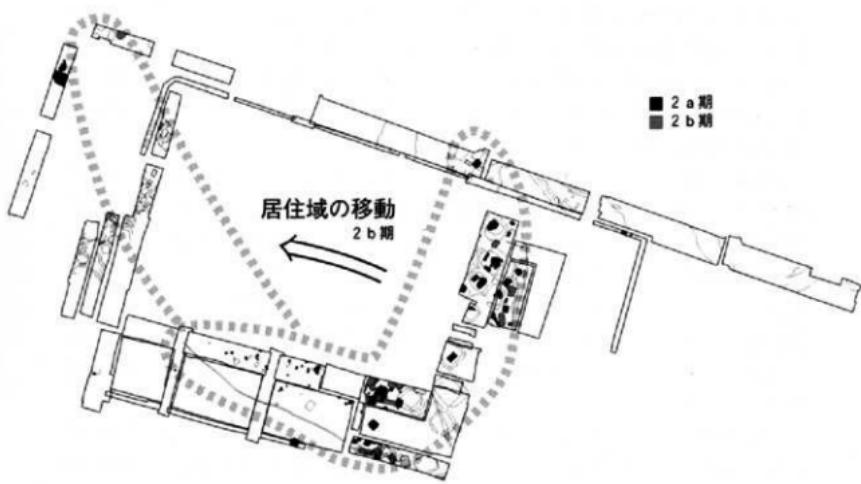
南調査区ではまとまった竪穴住居群などは検出されていないが、まとまった土器が出土する土坑などが散在し、この時期にも遺構が存在していたことが伺える。

西1調査区・西2調査区では95 C a区・95 C b区などで遺構の前後関係で一色青海II式の遺構に先行するものが若干存在するが明確な当時期の遺構は確認できていない。

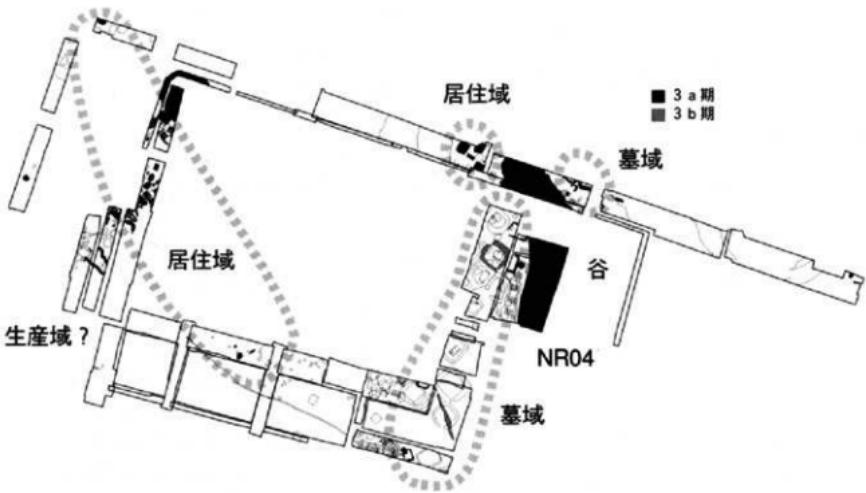
またこの段階では1期から流れている旧河道が徐々に埋まり集落の南側が乾燥化し、95 E区・93 B b区・93 C a区の遺構分布から、集落の南側に居住域がやや拡大する時期と考えられる。



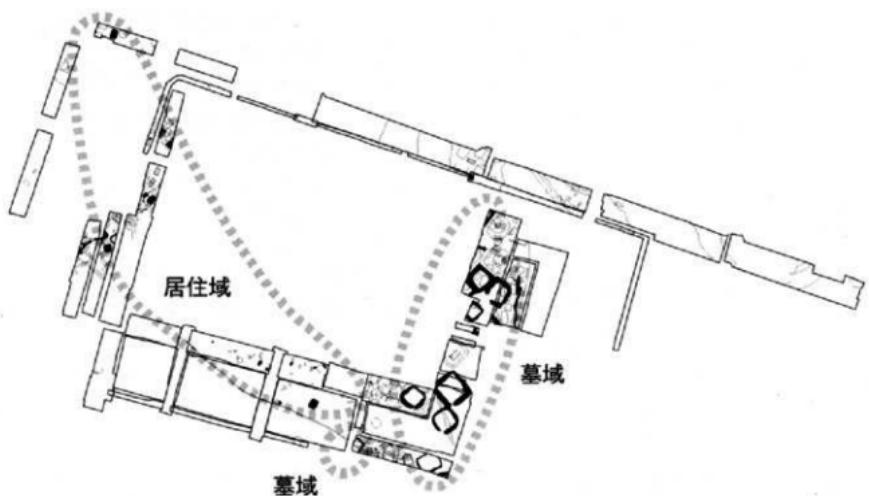
第1図 1期（一色青海Ⅰ式a段階）



第2図 2a期・2b期（一色青海Ⅰ式b段階）



第3図 3a期・3b期（一色青海II式）



第4図 4期（一色青海III式a段階）

## 2 b 期（第2図）

弥生土器区分では2a期と同じI式b段階に想定されるもので、堅穴住居の平面形態長方形のものをこの時期のものとした。土器区分からはこの段階を設定することは困難であったため、堅穴住居以外の遺構では区別できなかった。2a期の土坑などの遺構からこの時期に下がるものも含まれる。この時期の堅穴住居の分布からは東調査区の93Aa区から95E区までと西1調査区の95Ca区や95Cb区、一色長畠遺跡91A区などにみられ、集落の西側に居住域が展開する過渡期と思われる。

## 3 a 期（第3図）

土器区分のII式にあたる時期で、居住域が南調査区の西側から西1・2調査区のある遺跡の西側に墓塚が東調査区のある遺跡の東側に推移・定着する段階である。

北調査区ではI式に流れていた流路が埋まり、NR04が流れ、東調査区の東側にある大きな谷を刻むようになる。96D区の東側微高地において堅穴住居が営まれる。

一方北調査区の95F区東側や96C区、東調査区の93Aa区、95Ba区・95E区において溝の比較的細く平面長台形でN-75°-Wに主軸をもつ方形周溝墓群が2b期まで居住域であった部分に広がり、墓域が形成される。

南調査区では2期と同様な状況で、まとまった土器が出土する土坑が点在している。南調査区の北側になる94Ca区・94Cb区において多数検出されている小柱穴群は1期から3期を通じて居住域が営まれた痕跡と思われる。同時期における遺構の重複はない。

西1調査区では95Ca区・95Cb区を中心にして遺構が多数営まれるようになる。95Ca区北側でNR08が流れ、堅穴住居SB66とNR08の1面で検出した遺構面とでは洪水砂を挟んで前後関係が

あり、洪水砂の上から掘り込まれる遺構にはIII式に属するものがある。95Cb区において堅穴住居や土坑の重複がみられII式における多くの生活痕跡がみられる。95Cb区南側・95Db区・96A区においては堅穴住居などは希薄になり、まとまった土器の出土する土坑がなくなるが、1期の95E区でみられる様なやや不整方向ではあるが直角近くに屈曲したり枝分かれして流れるSD17～SD23が繰り返し営まれ、このような状況は3b期・4期に継続するものと思われる。また95Cb区北側において堅穴住居や土坑が希薄になる部分があり、掘立柱建物が3棟確認されており、居住域の中ににおける掘立柱建物のあり方を何うことが出来る。

西2調査区ではSB94があり、居住域が確実に西に広がることを物語っている。遺構はあまり検出されていないが、西1調査区と同様な状況にあったものと思われる。

## 3 b 期（第3図）

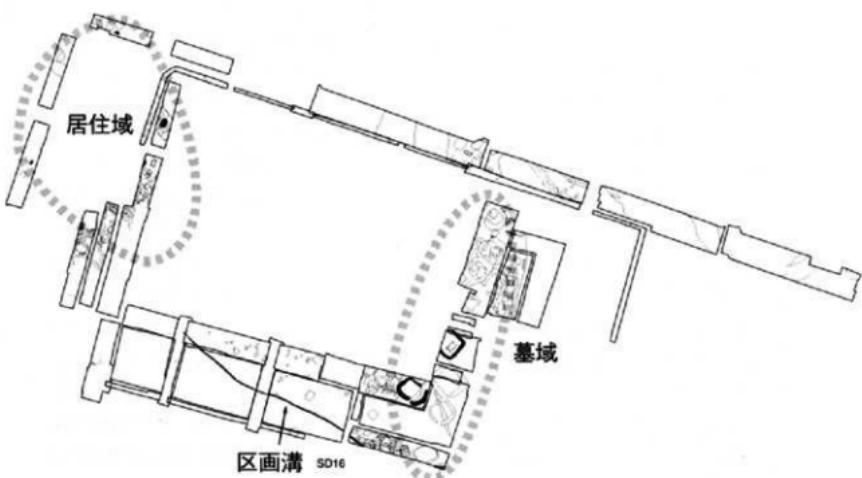
この時期は3a期と同じ土器区分のII式に含まれるもので、東調査区における方形周溝墓SZ11を壊して主軸方位、溝の形態とも3a期の方形周溝墓とは異なるSZ09が築かれるのを1つの画期と考えている。墓域において新しい原則に基づく方形周溝墓が築かれるようになる時期である。4期のSZ18に壊されるSD04をこの段階にしている。SD04は方位からはどのように巡るのか不明だが、集落を囲う溝になる可能性がある。井戸SE01はこの時期のうちに埋没する。

居住域は3a期と同様な傾向にあるものと思われるが、土器区分において区分できおらず、南調査区、西1・2調査区における3a期の遺構がこの段階に含まれる。

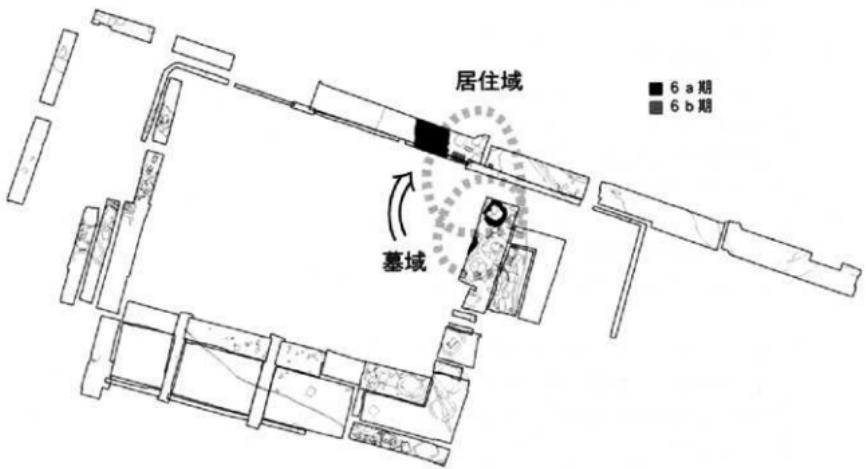
## 4 期（第4図）

土器区分のIII式a段階にあたる。一色青海遺跡が最も安定した構成を見せる時期である。

北調査区では旧河道は埋没が進行した段階であ



第5図 5期（一色青海Ⅲ式b段階）



第6図 6a期・6b期（一色青海Ⅲ式c段階）

る。

東調査区では方形周溝墓が広がるが、3b期に營まれたS Z 09とほぼ方位を合わせる形で連続と造られていくようである。その中でS Z 20 aの東溝とS Z 18南溝、S D 04において出土した鉢(680)は遺構間において土器が接合し近い時期に溝が埋没していったことが推定できる。S Z 20 aの後S Z 20 bが同位置で拡張して造られ、方形周溝墓の築造過程を復元することが可能である。

南調査区ではこの時期に伴う遺構は少なくなる傾向があり、同時期の遺構の重複もない。遺構の状況は3期と同様である。

西1調査区では3期に引き続き堅穴住居を主体とする居住域が營まれる。先述した95 C a区の洪水砂の上から掘り込まれたS B 69・S B 70などのほかS B 73・S B 68など焼失した住居が多く検出されている。遺構の状況は3期と同様である。

西2調査区ではS K 96がある。遺構が少ないがこの時期も同様に居住域が西に広がっていくようと思われる。

### 5期（第5図）

土器区分のⅢ式b段階にあたる。土器区分の問題もあるが、この段階として確認した遺構は少なく、4期の終末期を捉えているだけかも知れない。4期から引き続き東調査区では方形周溝墓が營まれ、西調査区では堅穴住居が認められるが、南調査区においては遺構が不明瞭になり、居住域がより西に移動したのか、縮小傾向にあるように思われる。

遺構配置に関しては95 A b区のS Z 17において、墳丘の東溝に沿った位置に棟方向があつた掘立柱建物S B 102があり、方形周溝墓に伴う施設となる可能性がある。

### 6a期（第6図）

土器区分ではⅢ式c段階にあたる。5期とは明確に分けられる時期ではあるが、東調査区で2基

の方形周溝墓がある。北調査区では、N R 06 bが流れるようである。居住域は不明で、西調査区などではこの時期の遺構は後世の削平などによる影響で消滅している可能性が高い。

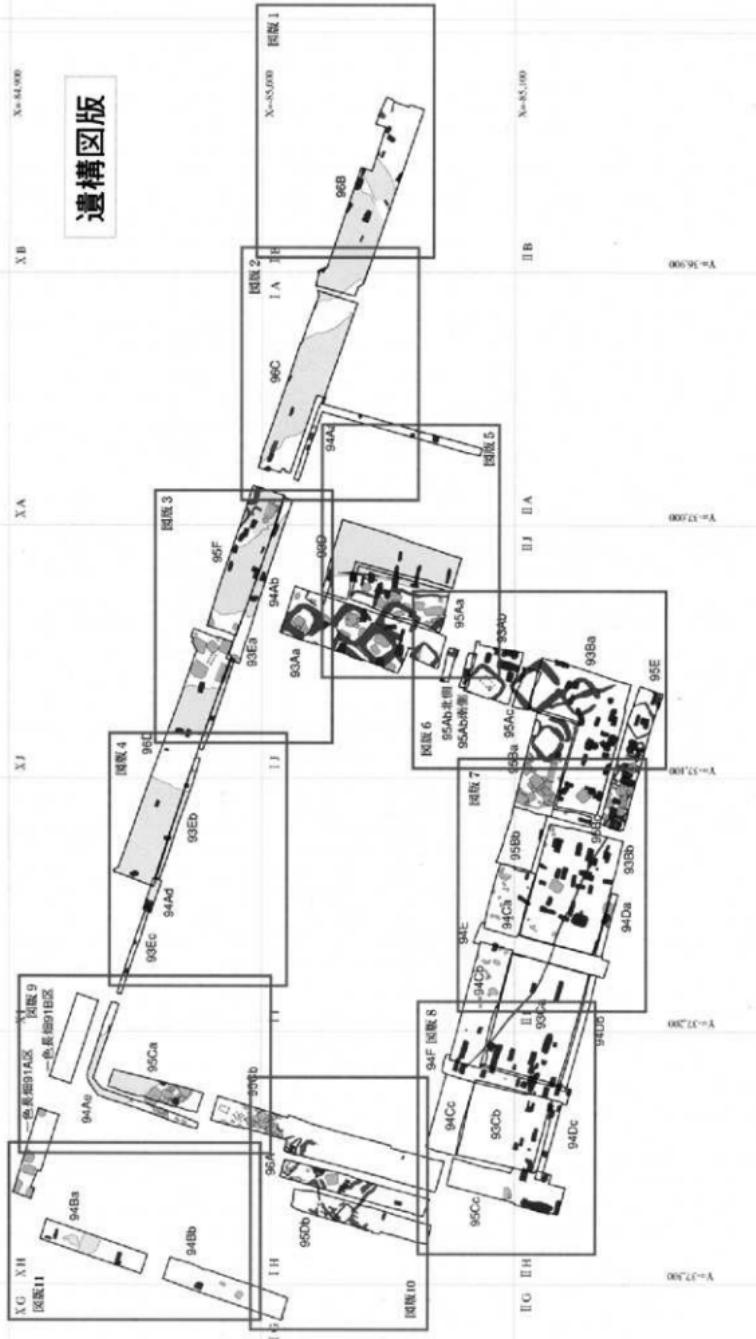
### 6b期（第6図）

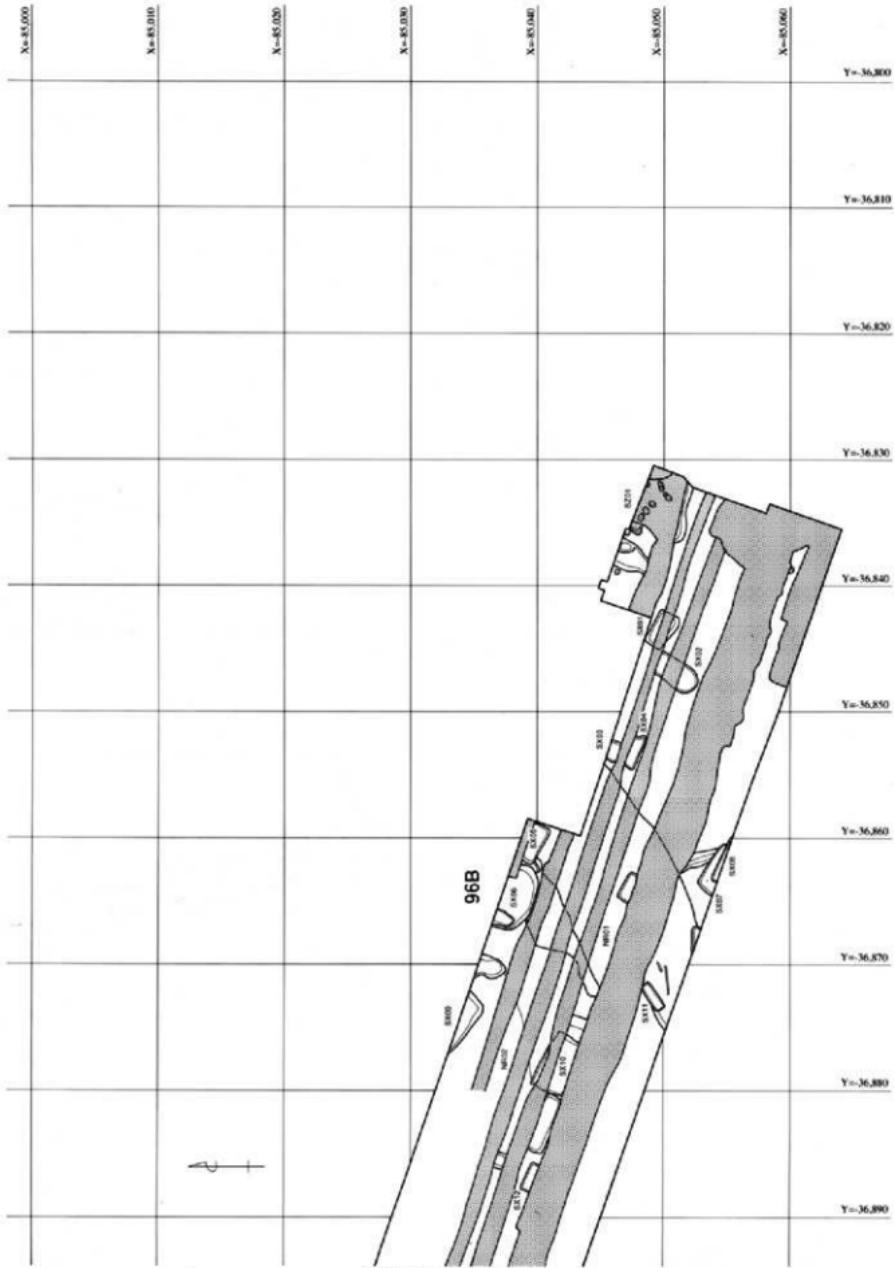
土器区分では6a期のⅢ式c段階と同じである。北調査区の95 F区から96 D区の微高地にはS K 03・S K 11がある。S K 11は方形周溝墓S Z 05の西溝が埋没後掘り込まれた土坑で、方形周溝墓に伴う土器組成と異なるため、別の段階として考えた。これらの土坑は未調査の方形周溝墓などに伴う可能性もあるが、93 A a区・95 F区・96 D区の微高地を中心に再び居住域に戻った痕跡と考えておきたい。6a期と同様他の調査区では遺構・遺物とも不明である。

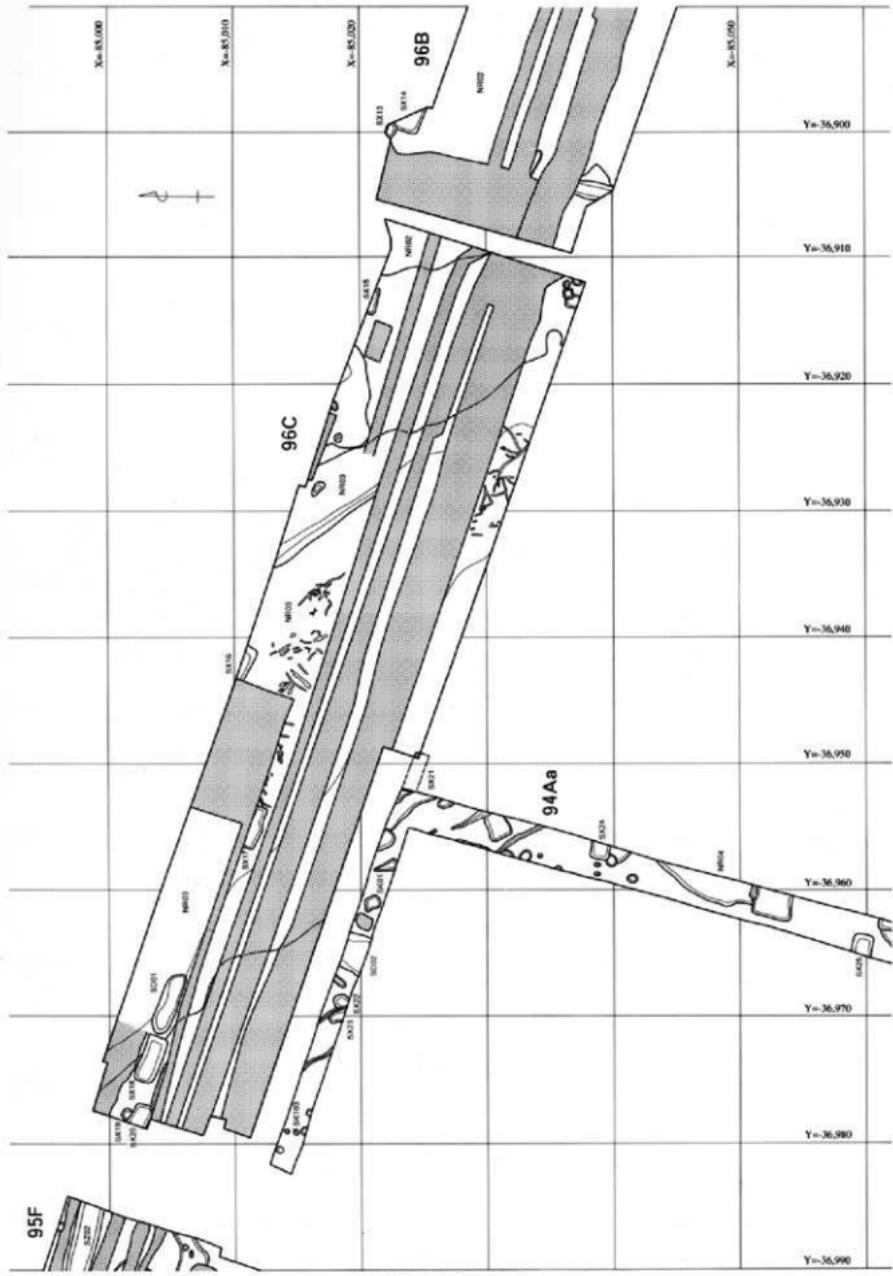
一色青海Ⅰ段階		一色青海Ⅱ段階		一色青海Ⅲ段階		一色青海Ⅳ段階		一色青海Ⅴ段階	
Ⅰ期	Ⅱa期	Ⅱb期	Ⅲ期	Ⅳ期	Ⅴ期	Ⅵa期	Ⅵb期	Ⅶa期	Ⅶb期
北漢谷区									
96B			S99						
96C	N981								
	N987			→SD61					
	N983								
94Aa		SB01-SB02							
95F	N987→SB01→SB02			→SB04 SB05					
	SB03			SB02/S03-S04					
	SB05→SB04			SB05					
96D-93Ea	N986a							→NR050	
		SB07							
				SB06					
				→SB101					
				SB08-SB09					
				SB10					
				SB04-SK05-SK06		SK06			→SK07
北漢谷区									
93Aa-93Ab	SB09	(SB13)							
95Aa-95Ab	SB12→SB11	(SB13)							
	SB16-SK17-SK20	SB13	SZ11	→SB09					
	SB10-SK12		SB06						
	SB10-SK15								
	SB14-SK13-SK14	SK15							
	SB16-SB18 SB17→(北漢谷)	SB19-SB20							
	SB26								
	SB18-SK19-SB21								
	SB25-SK24→SK22	SB23							
	SB22								
	SB01	SB01	SB01						
	SB27-SK22								
	SB20								
	SB23-SB102								
95Ac-93Ba									
				SD04	SB18				
95Ba-95Bc				SZ19	→SB21				
	SB24 (SB32)				→SB20a				
	SB31	→SB30-SB29-SB28			SZ22				
	SB32-SB38	SB33							
	SB36-SB35→SB34								
	→SB37-SB38→SB26								
	→SB47-SB48								
	SB25-SK28	SB46→SK29							
	SB42-SB40	→SB43-SB44-SB40			SK27				
	SB39-SB45								
	SB49-SB50								
95E	SB05			SZ24→SB02		SZ25			
	SB02→SD10	SB51				SB25			
	SB03		SB56→SB60→SB09			→SD16			
	SD01→SD09-SK02	SB57							
	→SD10→SD09		SB53		SD05	→SD06			
	SB55→SB54-SB56								
	SB61-SB62								
南漢谷区									
95Bb-94Ca	SB63								
94Da	SB30-SK31								
	SB32-SK34 SK36-SK37-SK38-SK39-SK40								
	SK41-SK43-SK44-SK45-SK46-SK48								
	SK49								
94Cb-93Cs	SB57								
	SK62								
	SK51-SK52-SK53-SK54-SK59	SK55-SK60							
	SK61	SK65							
	SK66	SK65							
	SB65								
南1河谷区									
94Ac-95Cs		SB67		→SB66→(北漢谷) →SB06 (1番)					
			(SB67)						
			SB70		→SB69→SK68				
			SB71		→SB70→SK68				
			SB72→SB71→SB73		SB71	→SB73			
			SB73→SK73-SK74						
			SK71-SK75-SK77		SK75				
95Cd-95Dn				SB77→SB81-SB85-SB83		SB82-SK83			
-96A				SB80→SB89→SB86					
		SB81				SB82			
		SB103-SB104-B105							
	SK78	SB84→SB85							
	SB78	SB82-SK85-SK86							
	SB36	→SB27→SB38							
			SB88→SK87-SK88→SD01						
			SD10→SD11-SD12						
			SD03→SK89						
			SK92→SK91						
			SD11-SK12-SK13						
			SB01-SB02-SB106						
			SK03-SK05-SK104-SK05						
南1河谷区									
94Dg		SB09							
94Dh		SB09							

第1表 一色青海遺跡の遺構変遷

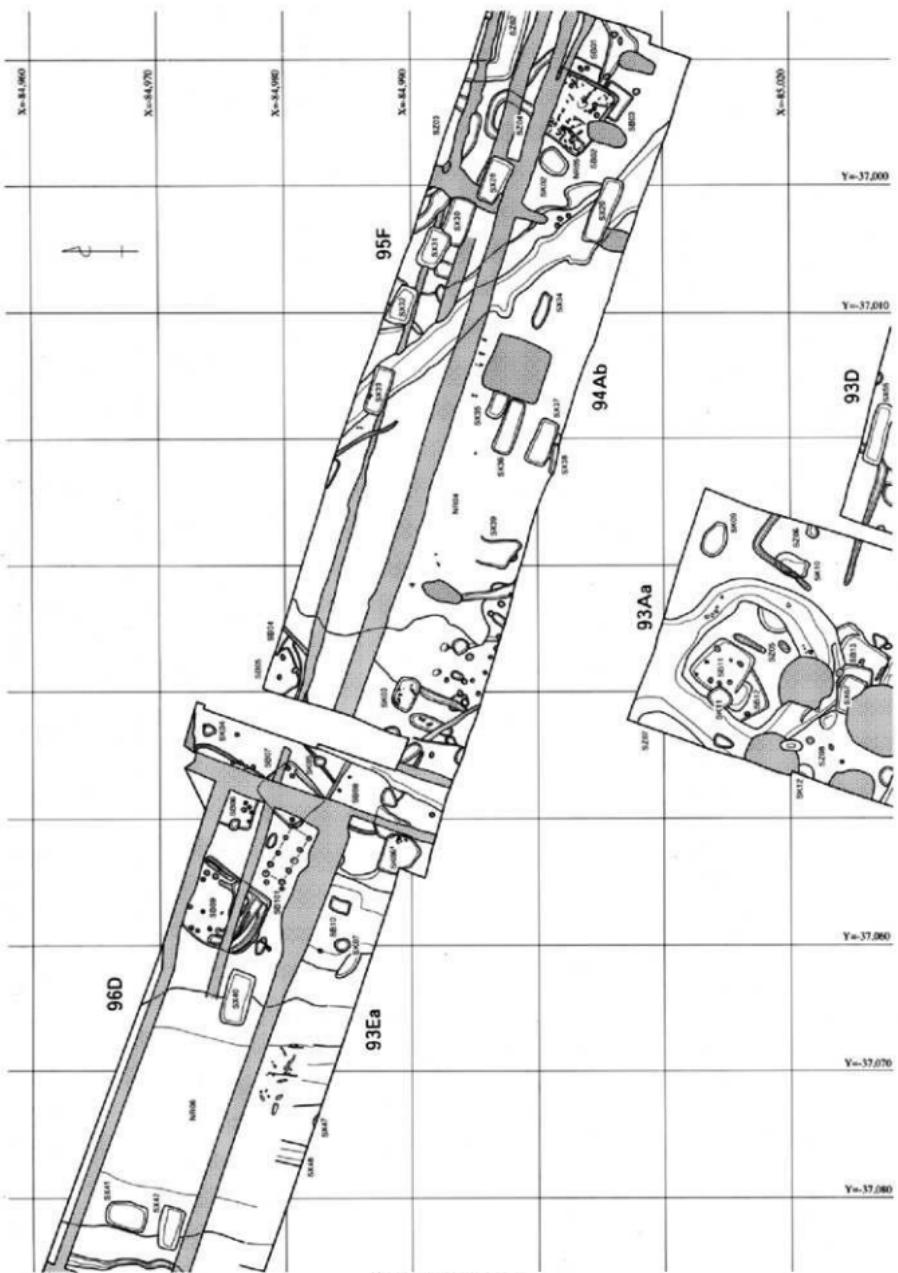
遺構圖版



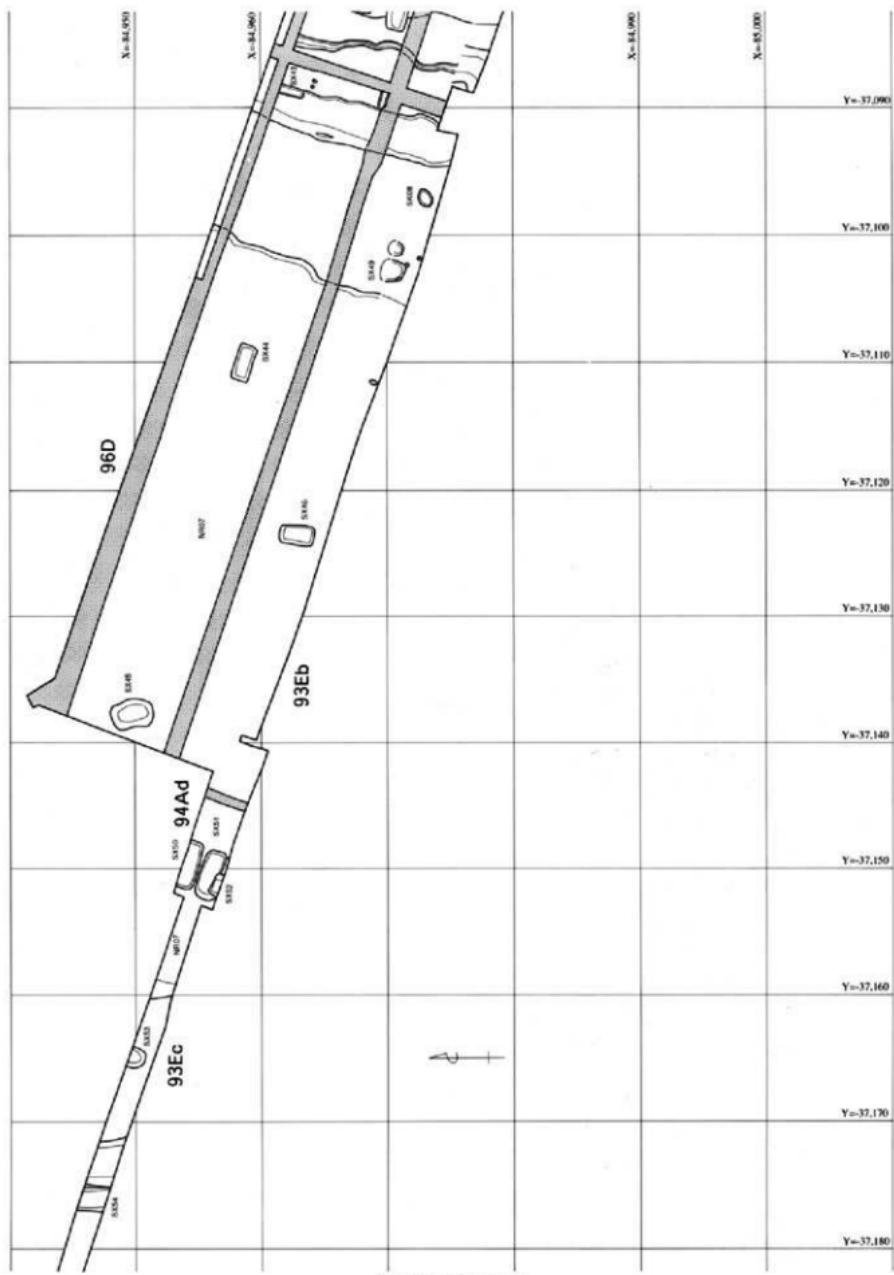




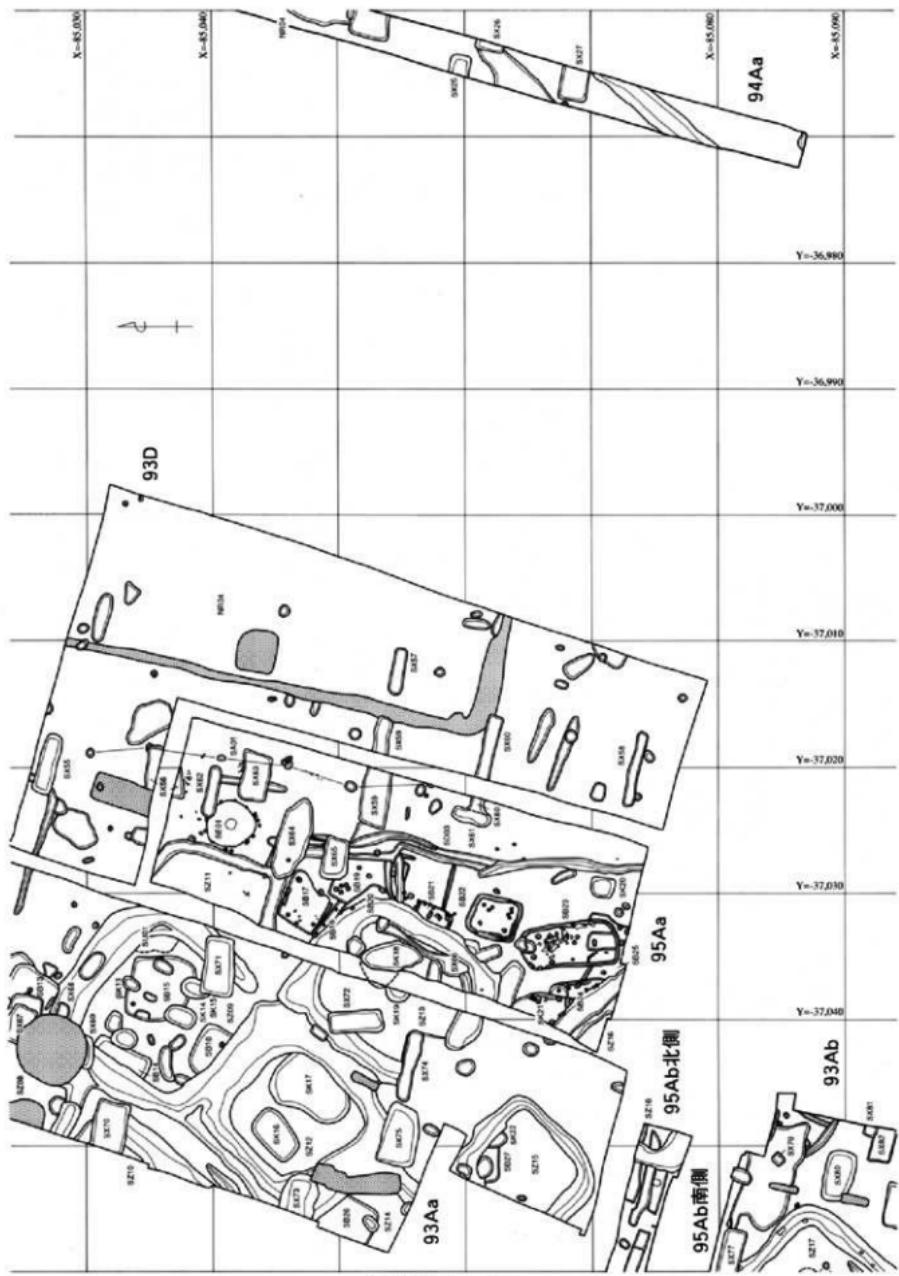
造構図版2 (1:400)



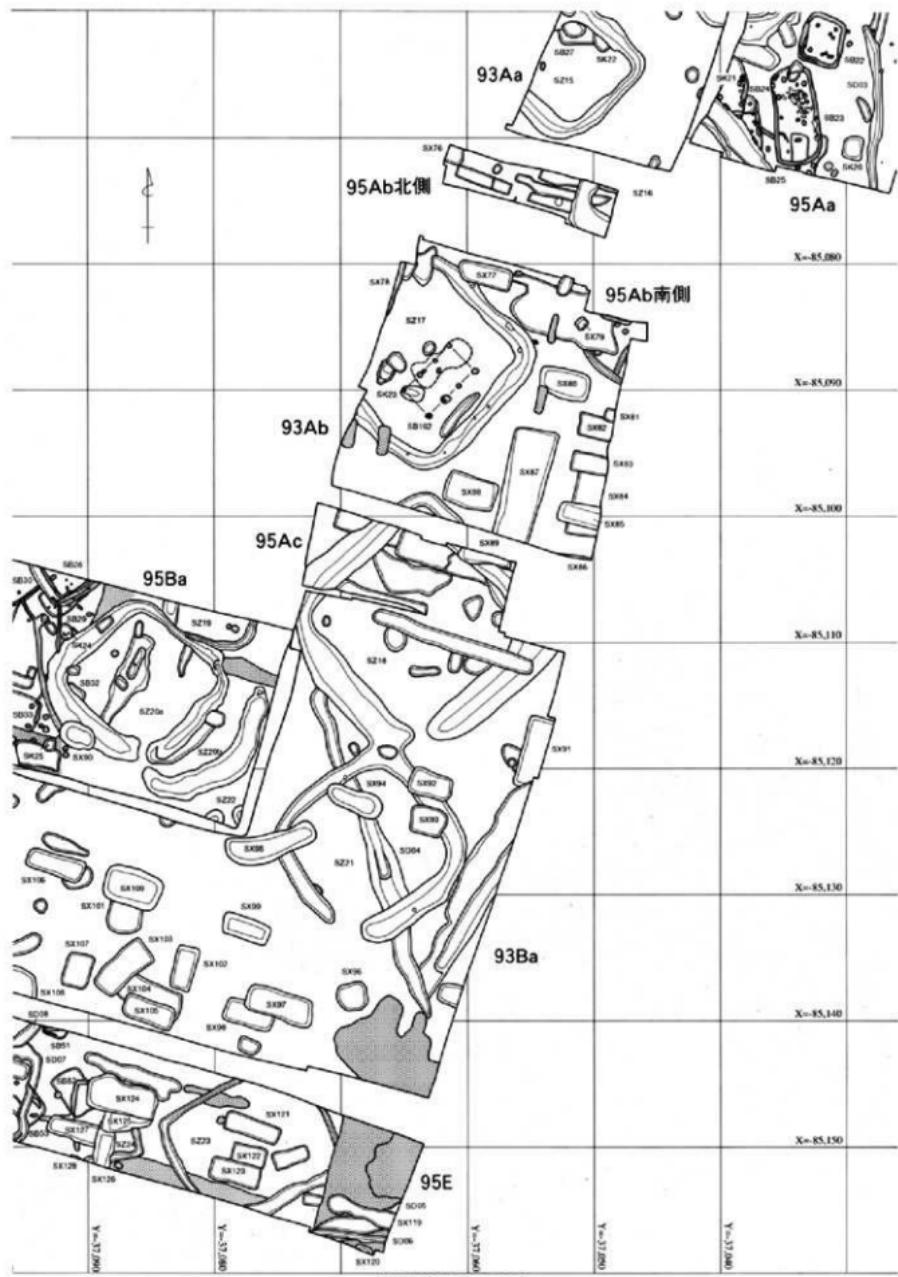
造構図版3 (1:400)



遺構図版4 (1:400)



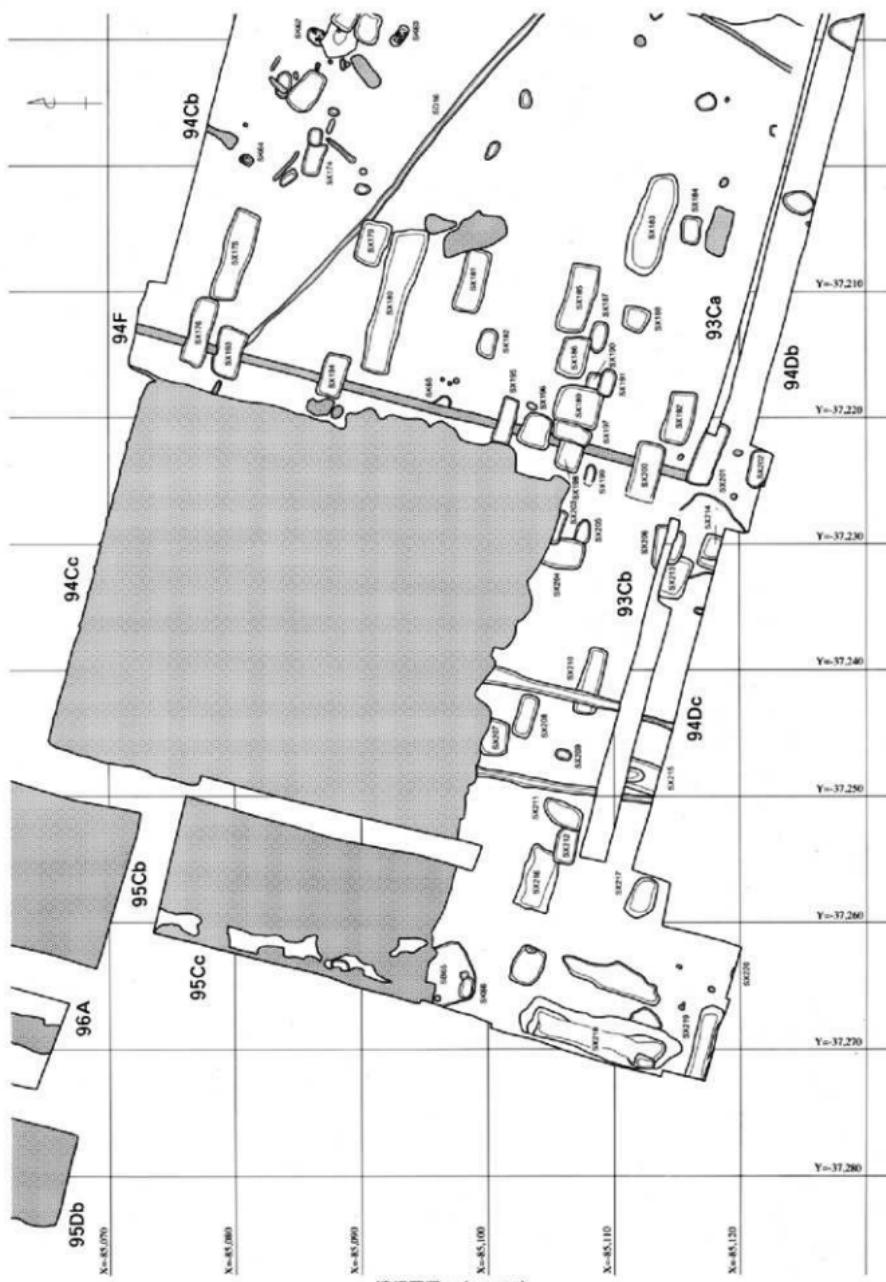
遺構図版5(1:400)



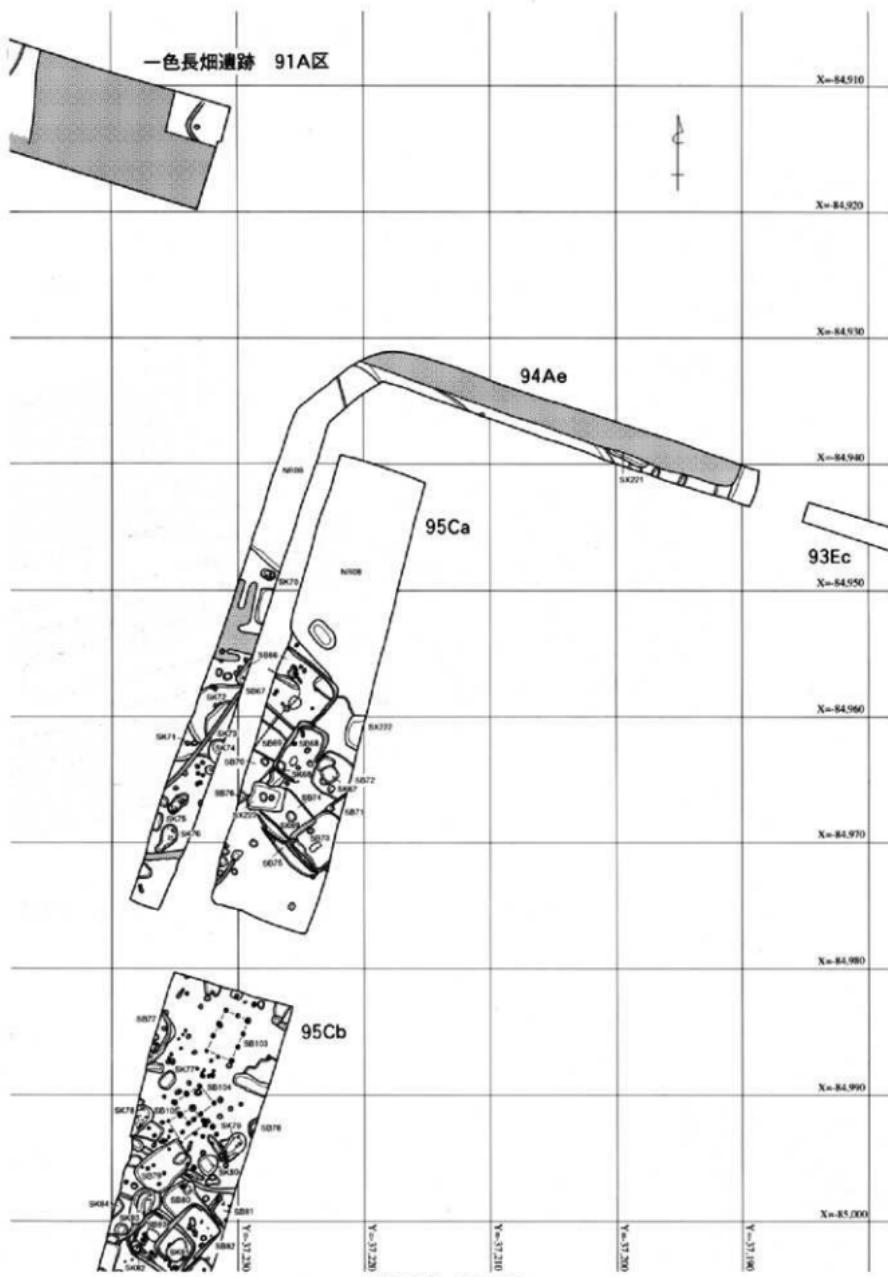
遺構図版6(1:400)



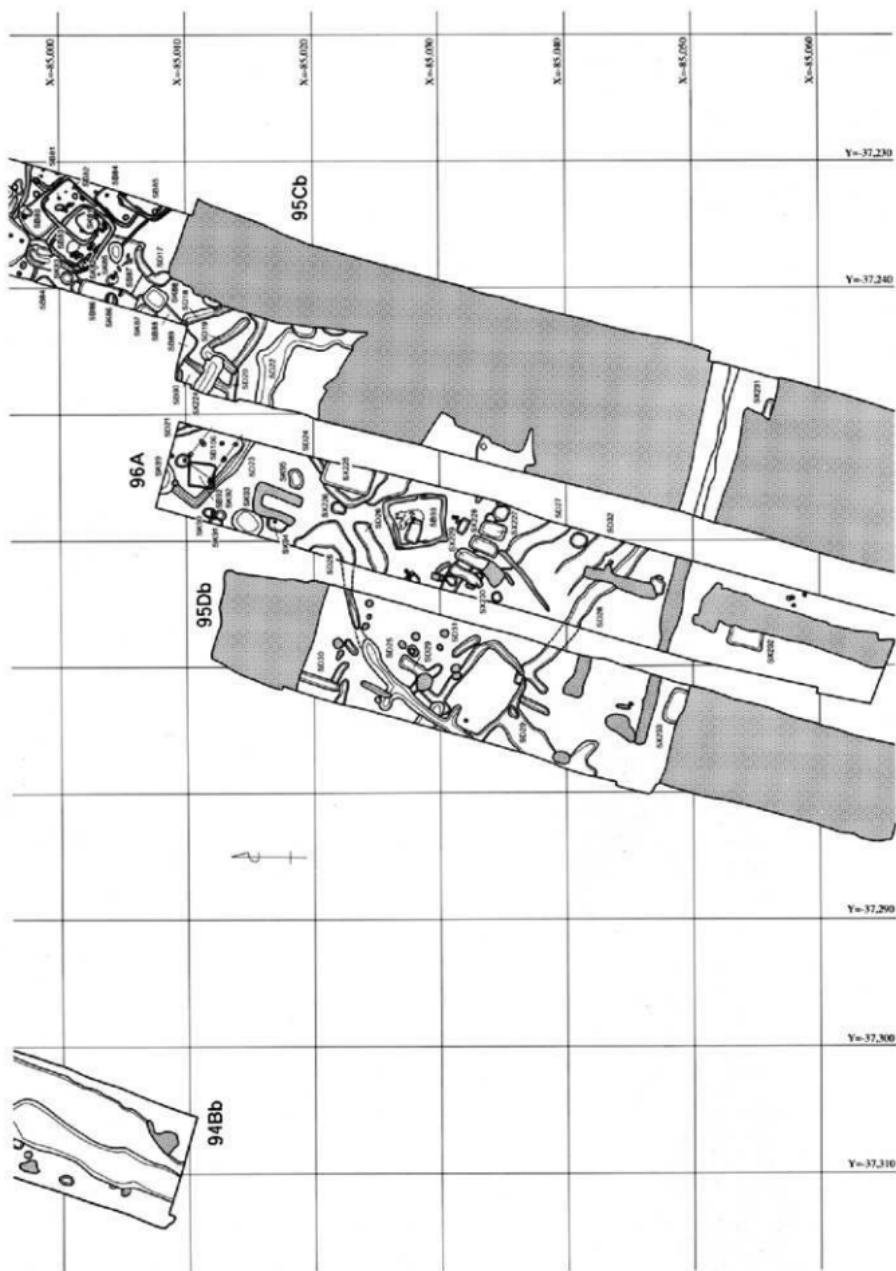
遺構図版 7 (1 : 400)



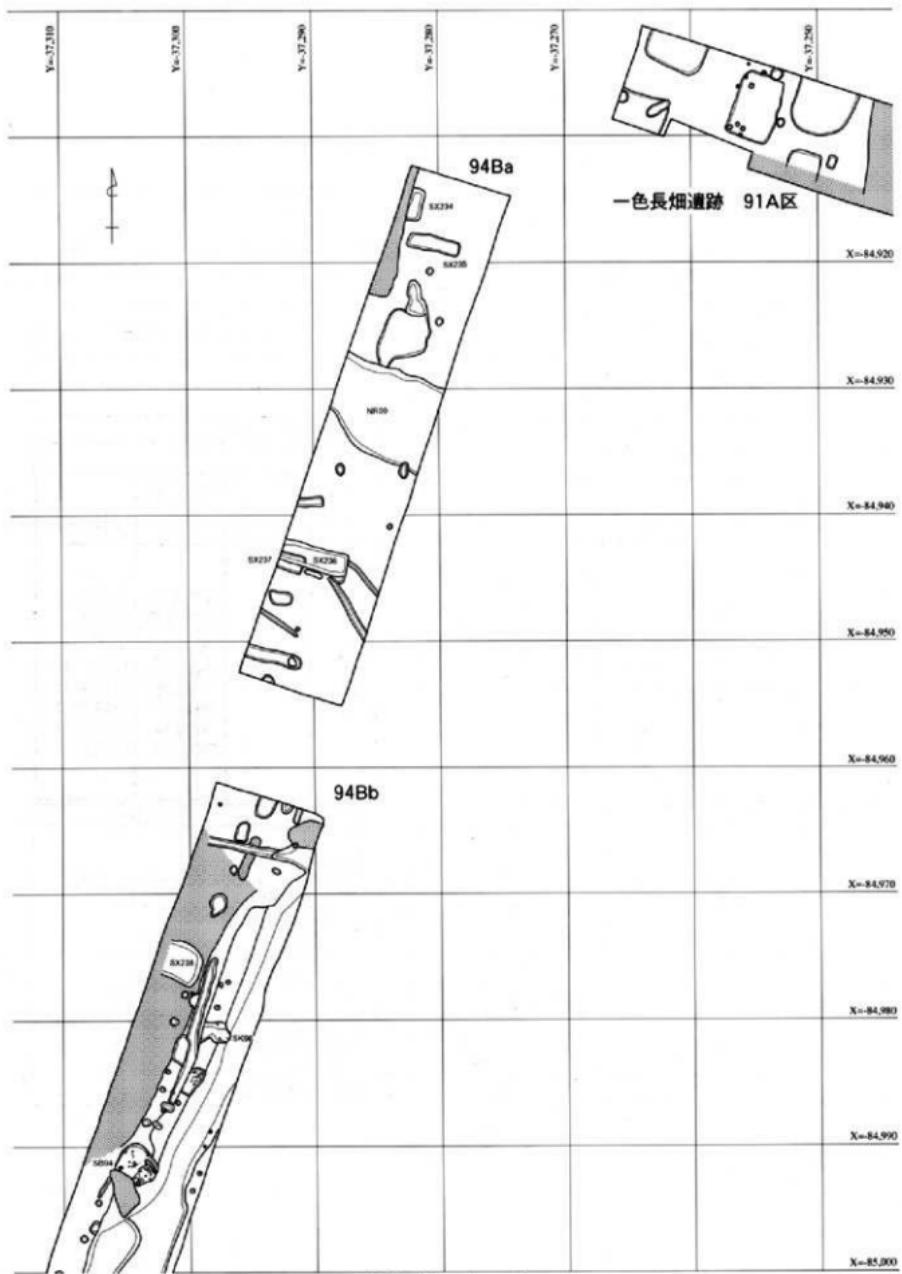
遺構図版 8 (1:400)



遺構図版9 (1:400)



地図版 10 (1 : 400)



遺構図版 11 (1:400)

# 報告書抄録

ふりがな	いっしきあおかいいせき							
書名	一色青海遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第79集							
編集者名	藤山誠一・鬼頭剛・堀木真美子							
編集機関	財団法人愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24							
発行年月日	西暦 1998年8月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コー 市町村	下 遺跡番 号	北緯 。 。 。 。 。 。	東経 。 。 。 。 。 。	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
いっしきあおかいい 一色青海遺跡	あいらけん 愛知県 いなざわし 稲沢市 ぎちょうちょう 儀長町・ なかしまぐん 中島郡 へいわちょう 平和町 すがたに 須ヶ谷	稲沢 4-10	O9168	35° 14'00"	136° 45'30"	1993.4 ~ 1997.3	23500m <sup>2</sup> (93年度 8800m <sup>2</sup> ・ 94年度 3900m <sup>2</sup> ・ 95年度 5800m <sup>2</sup> ・ 96年度 5000m <sup>2</sup> )	日光川上 流流域下 水道淨化 センター 建設・県道馬飼井 堀線建設 に伴う事 前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
一色青海遺跡	集落	弥生時代 中期後葉	堅穴住居94棟・ 掘立柱建物6棟・ 方形周溝墓25基・ 溝32条・土坑 96基・旧河道9条	弥生土器・加工円 盤・鑄型?・石器 ・木器・黒化種子 ・魚骨類他	居住域と墓域と 生産域?			
		古墳時代 ~ 平安時代	土坑1基・柵1基	古式土師器・須恵 器	後背湿地			
		鎌倉時代 ~ 戦国時代	方形土坑238基・ 土坑3基	灰釉系陶器・美濃 瀬戸産陶器・加工 円盤他	後背湿地			
		江戸時代		加工円盤他				

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第79集

一色青海遺跡  
(考古編)

1998年8月31日

編集・発行 財團法人愛知県埋蔵文化財センター

印刷 株式会社名古屋大氣堂